

【愛知大学卒業生アンケート調査報告特集 (2)

「愛知大学創設期における（夜間）短期大学部二部、（夜間）法経学部二部、
女子短期大学卒業生の在学状況とその後の軌跡】

1. 愛知大学創設期における（夜間）短期大学部二部、 （夜間）法経学部二部、女子短大の設置経緯と展開

愛知大学名誉教授（地理学）、愛知大学東亜同文書院大学記念センター元センター長 藤田 佳久

第1章 はじめに

愛知大学東亜同文書院大学記念センターでは、2020年3月から愛知大学卒業生についてのアンケート調査を開始した。とりあえずの目標としては昭和年代の卒業生までを対象としている。この2020年3月に実施したアンケートでは、愛知大学の1946年の創設時の旧制大学法経学部、1949年からの新制となった法経学部、この申請時に新設された文学部、それに加えられた夜間部、二部、女子短期大学それぞれの昭和34年の卒業生までを対象とした。卒業生の数は多かったが、創設期の卒業生はすでに高齢となり、かなりの方がなくなられ、住所の変更もあり、また高齢化による記憶の不明瞭化や身体上の問題も生じ、回答いただけた方々は限られた感があった。アンケートの実施が10年遅かったことを痛感した。それでも丁寧に回答いただけた方々は多く、旧制では大陸から引き揚げてきた書院生なども含め、それなりの貴重なご回答をいただいた。当年報の前号では、そのような旧制の卒業生に加え、新制の昭和34年までの卒業生のアンケート調査の報告を掲載した。その際時間的制約もあり、（夜間）短大二部、（夜間）学部二部の卒業生は掲載できず、その分を

本号に掲載することになった。さらに夜間短大である法経学部二部については、設置（昭和25年）から廃止（昭和54年）までの卒業生の調査報告を、昭和34年に設置された女子短大においては、設置から昭和54年卒業生までの調査報告を（夜間）短大二部に揃えるかたちで本号にまとめて示すことにした。

第2章 愛知大学創設期における夜間、二部、女子短期大学の設置、展開

1. その誕生

愛知大学は、1946年11月15日、「旧制大学令」による天皇の裁可によって「旧制愛知大学」として認可され、開学した。その大学設置の内定は早く、同年文部省内で8月のことであったとされる。その背景には、終戦直後、外地で閉学された東亜同文書院大学（ただし、東亜同文書院呉羽分校は1945年12月まで存続した）をはじめ幾多の高等教育機関の学生たちの帰国時の日本国内での受け入れ教育機関への対応が大きな課題となっていた。当初、文部省はどの旧制大学でも受け入れる対応を取り、旧帝大などが一斉に開放されたが、次々に帰国する学生をさばききれず、この旧制大学開放受け入れ

政策は1年で終了した。

そのような中で、上海から帰国した東亜同文書院大学の最後の学長本間喜一は、戦時中の意に反して学徒出陣や学徒動員の要請により、学業半ばで戦地や学外へ書院生を送り出した責任を痛感し、彼らの帰国受け入れ大学の設立を模索し、愛知県豊橋市で戦災を免れた旧陸軍予備士官学校の施設と土地5万坪を利用して、戦後世界を見据え、「世界の平和」を掲げる設立趣意書を掲げ、「知を愛する」という意味での「愛知大学(旧制)」を前述のように開学した。当然、東亜同文書院大学からの編入学生が最も多かったが、外地にあった他の学校だけでなく、東京など空爆で大学を失った明治大学や日本大学ほかなど国内学生や、GHQによって廃止された神宮皇学館大学の学生も含め、80校あまりの学校からの編入学生が集まった。外地からの編入学生が目立ったので、開学誕生した愛知大学は「総合引揚げ大学」とも称され、「国際文化大学」とも別称された。その構想の中心は本間喜一前東亜同文書院大学学長で、引揚げ学生ばかりでなく教員の方も東亜同文書院大学はもちろん、京城帝大や台北帝大、ハルビン学院、建国大学、北京経専などの教授たちから旧制大学のレベルにふさわしい人材を登用した。

引き上げ時には荷物が制限され、文字通り「無一文の引きあげ」からの出発となった。そんな中で、引揚げ時に本間喜一学長の機転により、東亜同文書院及び同大学の学籍簿と成績簿を持ち帰ることができたのは、東亜同文書院大学の戦後の継承を支える上でも特筆されることであった。

2. 「旧制愛知大学」の開学

こうして、1946年11月15日に「旧制愛知大学」が認可されると、大学開設の準備が本格化し、年末から新年当初にかけて学生募集と入試、さらには授業の準備が始まった。しかし、戦争終結直後のことであり、この開学ニュースを広げるのが大変で、東亜同文書院大学から愛知大学の教員に選考され移行した教員たちは、東亜同文書院大学を卒業できずに帰国したと思われる書院生たちに個別に手紙を書き、このことを知らせ、それによって豊橋へ馳せ参じ編入学した書院生たちもかなりいたほどであった。

第1年目はあわただしく終わり、1947年4月から2年目が始まり、学内にも落ち着きが見られるようになった。この年の予科(3年間)の1年生は、初めての新入学生志願者1093人の内、合格者234人で、厳しい入試を合格した。この1年生には編入学生志願者28人のうち23人が合格、あと2年生以上の予科2、3年、学部1、2、3年はいずれも編入生で、2年目からは、予科3年、学部3年の計6学年の各学年が揃い、一斉に6学年で授業が始まった。450人ほどの教員と学生のほとんどは引揚げ者であった。こうして開学したばかりの大学でいきなり全学年がそろそろケースは珍しく、そこに本間喜一前東亜同文書院大学学長の采配が効いたし、開学した愛知大学の特徴がそこにあったのである。また初めて女子学生も数人入学した。

3. 「夜間講座」から夜間部、そして2部の開設

こうしていよいよ「(旧制)愛知大学」がスタートすると、教員も学生も大学設立の

趣意書の中のひとつ「地域文化への貢献」の実践に取り組むようになった。最初は1947年6月に、生まれたばかりの学生自治会が、豊橋市民との「文化交歓祭」の開催で、空爆を免れた豊橋市公会堂と愛知大学グランドを使って実施し、講演会、演劇、弁論会、運動会、仮装行列、音楽会などを繰り広げ、戦後の自由な空気が回復した中で、多くの市民が初めて見た大学生たちの演出を楽しみ味わった。音楽会には、昨年NHKの朝ドラ「エール」の主役であった古閑裕而も歌手の伊藤久雄とコロンビアレコードの楽団を引き連れて演奏し、市民を楽しませている。

そして大学側も積極的に地域の文化活動にかかわった。開学と同時に「夏季外国語講座」を開き、独語、英語、のちには中国語や露語が、また「夏季教養講座」は広く文化にかかわる講座も開かれ、「政経講座」も始まった。これらは「夜間講座」として継続され、やがて市民からの要望も強くなり、それらが1948年5月から政経科（のちに法経科）と高等科を設置することになり、それが愛知大学の夜間短大や夜間学部の開設への原点になった。そして全教員もこれらの講座に積極的に参加し、やがて語学だけでなく法経学講座、文学講座へも拡大した。こうして愛知大学の講座は、その場所も、豊橋の他、名古屋、浜松、磐田、さらに伊豆まで広がった。特に浜松ではNHK浜松放送局から毎週1回放送する文化講座を各教授が担当するなど、各地での公開講座は多岐にわたり、愛知大学自体も1954年から豊橋市公民館で毎週土曜日午後7時から9時まで市民向け講座を展開し、1956年までには120回以上、受講者1万人を記録した。

一方、名古屋においても、豊橋に遅れて1

年半後に法経や文学の「愛大夏季大学」が開催され、多くの市民を集め、豊橋に遅れて1年半後に「夜間講座」がスタートし、制度化されて政経科と高等科の講座がそろった。そして1950年に行われた講座修了式には300名に修了証書が、100名に聴講証書が授与された。名古屋においても戦時中の学業を奪われた学徒、青年たちの間にまだ戦災復興も不十分な中で、勉学の機会に接しようという熱いエネルギーが満ちていたことを示し、唯一愛知大学によるこの「夜間講座」のみがそれにこたえたのであった。

このようにこの時期の愛知大学はまさに全学を挙げて「地域文化への貢献」を目指し、東海地域への啓蒙的教養文化の唯一の供給源としての先駆的な役割を果たすに至っていた。

また、あわせて名古屋の勤労青年たちにも勉学の機会を与えることが必要だという思いを早くからあり、本間、小岩井両学長はじめ愛知大学の首脳人達にも地元からの熱意とその思いがもろに伝わってきた。そこで本間たちは「夜間講座」開催の水面下で、その後継としての「夜間短大」の開設計画も立案した。

ところで、このような名古屋での「夜間講座」開設計画の実施契機は、それより前、愛大本間喜一学長の根回しで、本間喜一および小岩井浄の両教授が愛知県知事の桑原幹根、名鉄社長土田元夫、中部日本新聞論説委員長清水武夫の有力三者とともに会談を行い、愛大名古屋事務室の設置と「夜間講座」のスタートという構想が打ち出されたことにあった。そして1949年に法文系大学がない名古屋にも「夜間講座」がスタートした。

講座は法経科と高等科が設けられ、予想

以上の参加者があり、市民の期待が大きいことがわかった。高等科は旧制中学から新制大学への進学に際し、不足する1年を補修するというすでに豊橋でも行われていた制度であった。これによって両校舎とも「夜間講座」を解消し、「夜間短大」への移行という方向になり、1949年には文部省へその設置を申請している。それに合わせて、学舎も東邦高校の間借り教室から、この後中京女子短大跡地を確保でき、その車道校舎へ移転した。

こうして愛知大学は名古屋地区へスムーズに進出でき、法経系社会科学と教養文科系の、まさに「知」を「愛する」ゆえの「愛知大学」の存在感とその知名度を高めた。当時の愛知県の旧制大学は、名古屋大学の工学系のみで、人文・社会学系は愛知大学だけしかなかったため、名古屋地区でも愛知大学の果たした役割はきわめて大きかったといえる。

そして、そのような愛知大学の役割を十分ふまえた上で、前述の桑原幹根愛知県知事は愛知大学により一層の発展のために自らが会長になり、愛知県下の企業や事務所、そして市民を対象に、愛知大学への寄付金募集を実現する体制をつくった。名古屋、豊橋をはじめ、都市の多くは戦時中の空襲で焼野原になり、何とか復興に着手したばかりの時期で大変であったと思われるが、各地で展開していた愛知大学の新たな文化教養講座の普及の中で、愛知大学への期待感が高まっており、愛知県下一円での寄付金事業は「愛知大学」を「愛知県の大学」として広く認知されることにもなった。「愛知大学」は愛知県民からも支持されたのである。

1949年は大学制度が改革され、新制大学

制度へ転換した。愛知大学はそれまでの旧制大学から文部省認可の新制大学へ移行し、文学部を新設した。あわせて学内で教養部の設置も決定した。名古屋地区での法文系大学はそれまで愛知大学の独壇場であったが、国立では名古屋大学が法文学部を設置し、あわせてほかの国公とともに新たに私立大学も、それまでの各種の専門学校も新制大学として大学、短大への昇格を目指し、文部省に認可された。その数が急増して各地に誕生したため、それら新制大学は駅弁大学と揶揄された時代が続くことになった。

以上のような経過の中で、「旧制愛知大学」として出発した愛知大学は、前述したように敗戦後の国内でその学部教育と並んで一般市民向けに開催した「夜間講座」の実績をベースにして、そこでの学習意欲の高い青年たちに制度的にこたえようと、学部とは別にまずは「夜間短大」（法経学科、豊橋校舎には文学科一のち文科も）を誕生させた。そこでは多くの勤労青年や復員青年たちが戦時中の空白を埋めるべく、また戦後の学制改革による新制高等学校卒業後のさらなる学びの場の需要を愛知大学が「夜間短大」として豊橋と名古屋の両校舎で提供した。そこで戦後の経済社会を支える有能な人材を育成したのである。特に「夜間短大」の入学生はそのほとんどがすでに就職していた勤労青年たちで、厳しい戦後の経済環境の中で就業を目指す強い志を持った学生であった。その点では実践的な就業と学業を結びつけることができ、それぞれが卒業後も経済界や行政界、そして社会で大きく活躍しており、何人もの司法試験の合格者も輩出している。昼間部の4年制の卒業生たちにも負けない頑張りを見せた。その点では

旧制新制の4年制の卒業生とならび、「夜間短大」、続く「夜間学部」は愛知大学の大きな発展の基礎を地域経済や社会に築いたといえ、あらたな評価がなされるべきものと思われる。今回のその卒業生たちへのアンケート調査の結果は、そのような勤労学徒たちの学業とその後の人生の生きざまを垣間見ることができよう。

なお、夜間短大は、その後の日本の経済の発展とともに勤労学徒も減少し、名古屋校舎では1956年に廃止され、4年制夜間学部である二部へ吸収、移行され、豊橋校舎でも1979年に廃止された。こうして夜間部は2年制から4年制へと移行した。

4. 女子短期大学の設置

また、女子短大は1959年、豊橋校舎に女子短期大学部として付設開学された。当初は文科のみ、2年後の1961年に生活科が増設された。これも本間喜一学長ら大学指導部によって、とりわけ東海地方における女子教育の向上を目指し、地域の発展を目指したものであった。当初は女子教育への戸惑いが大学にも地域にもあったとされるが、女子短期大学部としての組織であるため、授業は学部の教授たちが多くをカバーし、図書館も学部共通の利用ができ、質の高い教育を提供したため、ミニ大学の様相を示し、就職先はほとんど一流企業で埋まり、次第に東海地方の女子教育の拠点とみなされるに至った。女子短大独自のオリエンテーションキャンプや北海道旅行、さらにハワイ研修旅行などが4年制学部とは一味違った楽しみの時間を作り、またクラブ活動も活発で、合唱部の定期演奏会などは市民のなかに多くのファンをつくった。それは、二

期会にも所属し、愛大学生歌、女子短大の丸山教授作詞の「梢の歌」を作曲した山田昌弘先生が、伊藤京子、芦野宏、三宅春江、ポニージャックス、大竹正則、真理ヨシ子、それに中田喜直、大中恩ほか著名な音楽家たちを東京から次々と招待し、盛大に盛り上がったためでもあった。また、学園祭も学部と同時開催であり盛り上がった。今回のアンケート調査では女子短大については、開設がほかの組織よりも遅かったため、対象年代を繰り下げ、第一回卒業生の1961年（昭和36年）から1979年（昭和54年まで）までの回答をまとめた。アンケートの結果から卒業生たちのそのような一端をうかがい知っていただけたら幸いである。

少々長くなったが、愛知大学の夜間短大、夜間学部、さらには豊橋校舎で開設された女子教育の向上を目指した女子短大にまでつながる経緯を示した。ここに愛知大学が旧制、新制の学部教育だけでなく、試行錯誤しながらも夜間短大および夜間学部、そして女子短大へと幅広く大学教育にかかわり、多くの有能な人材を世に送り出してきたことを多くの人に知っていただけたら幸いである。なお夜間短大と夜間学部も男女共学であったことも付記しておく。

以下、「夜間短大（短大二部）」、「夜間学部（二部）」、「女子短大」のそれぞれについて、対象期間の入学生の動向、およびアンケート調査の方法と調査票を示したあと、「夜間短大（豊橋—法経科、文科）、（名古屋—法経科）」、「夜間学部（名古屋—法学科、経済学科）」、「（豊橋—法学科、経済学科）」、最後に「女子短大（豊橋—文科、生活科）」のアンケート結果について紹介する。

愛知大学の沿革

年	設 置 ・ 認 可	備 考
昭和21年	11月15日 旧大学令により愛知大学を創立	豊橋市の南部旧豊橋陸軍第一予備士官学校跡に元東亜同文書院大学、元京城帝国大学、元台北帝国大学等の教授を中心スタッフとして創立
昭和22年	1月 予科開設 4月 法経学部開設 法経学部……法政科・経済科	
昭和24年	4月 学制改革により新制大学に移行 法経学部……法学科・経済学科 文学部……社会学科	
昭和25年	4月 文学部に文学科を増設 文学科(国文学、中国文学、英文学、独文学、一般文学) 4月 短期大学部を設置 法経科第2部(豊橋・名古屋) 文科第2部(豊橋)	4月 法経科第2部の名古屋校舎は、東区赤秋町東邦学園高等学校の1棟6教室を借用して開講
昭和26年	3月 私立学校法の施行に伴い、学校法人愛知大学に組織変更	5月 名古屋市東区往還町の元中京女子短期大学の校地及び校舎を購入し、現在の名古屋校舎(車道)の基礎を築く
昭和28年	4月 文学部文学科の一般文学専攻を仏文学専攻に改組 4月 大学院(修士課程)設置 法学研究科 公法学専攻 経済学研究科 経済学専攻	
昭和30年		4月 学部の教養課程を開講 名古屋校舎(車道)1号館(鉄筋3階建)建築
昭和31年	4月 文学部に史学科を増設 4月 文学専攻科国文学専攻を設置 4月 法経学部第2部設置(名古屋) 法経学部第2部……法学科、経済学科 名古屋校舎(車道)における短期大学部法経科第2部を廃止	
昭和32年	4月 大学院に法学研究科私法学専攻修士課程を増設	6月 名古屋市緑区大高町に土地購入(71,618m ²)
昭和33年	4月 文学部に哲学科を増設	
昭和34年	4月 短期大学部文科(女子)設置 豊橋校舎における短期大学部文科第2部を廃止	
昭和36年	4月 短期大学部に生活科(女子)を増設	4月 短大1号館(鉄筋2階建)を建築 10月 名古屋校舎(車道)2号館(鉄筋4階建)を建築、法経学部専門課程を開講
昭和38年	4月 法経学部に経営学科増設及び経済学科を定員増 4月 大学院に法学研究科私法学専攻博士課程を増設	3月 豊橋校舎4号館(鉄筋2階建)を建築 10月 豊橋本部敷地の払下げ受ける(157,590m ²)
昭和39年		8月 豊橋校舎3号館(鉄筋3階建)を建築
昭和40年		8月 名古屋校舎(車道)3号館(鉄筋4階建・地下1階)を建築
昭和41年	4月 法経学部第2部法学科及び経済学科を定員増	10月 豊橋本部敷地内に研究館(鉄筋4階建)及び図書館(同2階建)を建築
昭和44年		8月 名古屋校舎(車道)学生会館(鉄筋4階建)を建築
昭和46年		11月 豊橋校舎学生会館(鉄筋4階建)を建築
昭和48年		12月 豊橋校舎1号館・2号館(鉄筋4階建)を建築
昭和49年	4月 短期大学部文科(女子)を定員増	
昭和50年		5月 名古屋校舎(車道)図書館名古屋分館(鉄筋3階建)を建築
昭和51年		3月 豊橋校舎図書館第1書庫(鉄筋6階建)及び短大3号館(鉄筋4階建)を建築
昭和52年	4月 大学院に経営学研究科経営学専攻修士課程を増設	2月 豊橋校舎研究館を増築
昭和53年	4月 大学院に経済学研究科経済学専攻博士課程を増設	11月 豊橋校舎に創立30周年記念会館(鉄筋3階建)を建築
昭和54年	4月 大学院に経営学研究科経営学専攻博士課程を増設 短期大学部文科、生活科を定員増 6月 短期大学部法経科第2部を廃止	6月 西加茂郡三好町に約20万m ² の校地を確保
昭和56年		6月 名古屋(三好)校地造成着工
昭和58年		4月 名古屋(三好)校地運動施設竣工 8月 豊橋校舎に第2サークル棟(鉄筋5階建)及び合宿所(鉄骨2階建)を建築 12月 豊橋校舎体育館(鉄筋陸屋根2階建)を建築
昭和62年	4月 法経学部第1部、文学部を期間を付した定員増(420名)	2月 名古屋校舎(三好)建築着工 4月 校舎別新呼称決まる 豊橋校舎(そのまま) 名古屋校舎→車道校舎 三好校舎(仮称)→名古屋校舎
昭和63年	4月 短期大学部別科設置 留学生別科 別科英語専修 別科生活環境専修	2月 名古屋校舎新キャンパス(三好)竣工 4月 名古屋校舎新キャンパス開校 車道校舎法経学部第1部全学生新キャンパスに一括移転
平成元年	4月 法経学部を改組し、5学部を設置 経済学部1部(豊橋校舎) 経済学部2部(同) 法学部1部(名古屋校舎) 法学部2部(車道校舎) 経営学部(名古屋校舎)	8月 名古屋校舎厚生会館増築
平成2年	4月 短期大学部文科、生活科で期間を付した定員増(100名)	

【愛知大学卒業生アンケート調査報告特集 (2)

「愛知大学創設期における（夜間）短期大学部二部、（夜間）法経学部二部、
女子短期大学卒業生の在学状況とその後の軌跡】

2. 愛知大学創設期における（夜間）短期大学部二部、（夜間）法経学部二部、女子短大の入学生の動向とアンケート調査の方法

愛知大学名誉教授（地理学）、愛知大学東亜同文書院大学記念センター元センター長 藤田 佳久
愛知大学東亜同文書院大学記念センター事務室 佐原 陽子

第1章 はじめに

繰り返すことになるが、1946年に誕生した愛知大学は、創設期においては「旧制大学」からスタートし、法経学部の法学、経済学の2学科が誕生した。主に東亜同文書院大学在学学生を中心とした海外からの引揚げ学生たちの編入先の受け皿としての大きな役割もあった。次いで学制改革による「新制大学」化の中では、法経学部と新たに誕生した文学部、さらに夜間短大や夜間学部が付加増設され、のちには女子短大も増設された。

これらの増設分については、戦災直後の戦後、豊橋や名古屋、浜松、その他の東海地方の諸都市で、創設されたばかりの愛知大学側からの市民や勤労青年向けに提供開設された「夜間講座」が、その契機であった。すなわち、同講座が、学びの機会を失っていた勤労青年や市民、そして経済界からも大きな反響を受けたため、その強い要望の発展形として「夜間短大」、「夜間学部」など、制度化された大学が豊橋、名古屋のキャンパスに開設されることになった。

そのような経過の中で、大学開設から75年が過ぎたが、その当時の学びの状況や、卒

業生としての軌跡などは明らかになっていない。年月の経過とともに卒業生は高齢化し、亡くなられた方々も多く、さらに転居して住所不明の状況も進み、このままでは、歴史のかつ奇跡的に誕生した愛知大学の歴史的存在となった卒業生たちの姿が見えなくなってしまいかねないということで急遽、2020年3月に当愛知大学東亜同文書院大学記念センターが第1回目として、昭和34年（1959）までの卒業生を対象としてアンケート調査を行った。やはり卒業生の高齢化は否めず、アンケート実施の時期が10年遅かったと反省したが、回答していただいた卒業生の内容は新鮮で、十分期待に応えることがわかり、このアンケート実施の送付と整理、そしてそれらへの記述に要した膨大な時間と労力を費やしただけの価値はあったと納得した。

そして、その結果について、2020年度の当記念報 vol.29 に掲載したが、時間とスペースの関係で前述の対象の内、旧制大学と、新制大学4年制昼間学部についての掲載を先行することとなった。そして、本年度の本号 vol.30 では前号で対象にできなかった夜間短大、夜間学部、女子短大を中心に掲載す

ることになった。いずれも前号の昭和 34 年までのアンケートが基準である。さらに今回は、2021 年 3 月に実施した第 2 回目のアンケート調査を夜間短大と女子短大に特化し、昭和 54 年 (1979) までアンケート調査を行うことができた。故に、豊橋の夜間短大は前回の昭和 34 年までのアンケートに加え、夜間短大が廃止される昭和 54 年まで結果報告をすることにした。なお、昭和 36 年 (1961) 設置の女子短大はこの後も継続していくが、今回は夜間短大と同様に昭和 54 年まで結果報告することとした。

第 2 章 学科と卒業生数の動き

ここでは、まず参考のために、大学全体の卒業生の年次別在籍状況について在籍したコード別表示を掲げる。それが表 1-1 である。全体としてみると、詳細は繰り返さないが、かなり学科が多様化して展開してきたことは、前述したとおりである。同表の内、網目状の部分は、現時点でアンケートを実施した部分であり、昼間学部では、昭和 40 年代前半の学園紛争期まで終了している。また、同表のうち太枠で囲んだ部分が、今回の本号の対象分で、夜間学部は昭和 31 年の設置から昭和 41 年までとし、夜間短大と女子短大は昭和 54 年までを対象としている。

では、以下個別にその動きを見てみる。図 1-1 は、市民への「夜間講座」からスタートし、大学へ制度化した豊橋校舎の短大法経科二部は昭和 27 年から同 54 年までの卒業生の推移と昼間学部や夜間学部への学内での進学者や編入者の推移を示したものである。

開設当時から夜間短大、夜間学部、女子短大の卒業生は多いといえるが、とくに昭和

30 年代後半から同 40 年代中期の頃がピーク状を示す。学内進学者もほぼ同様な動きを示すが、昭和 40 年代後半からは、卒業生も編入学生も減少に転じている。これは、日本経済の経済成長がこの地域へも浸透し、大学は 4 年制指向が強まり、学内進学者も結果的に伝播したといえる。一方、名古屋校舎の短大法経科二部は文部省の意向もあって昭和 32 年の卒業生を最終とし、豊橋校舎のようなダイナミックな変化は見られないが、昭和 30 年代に入ると学内進学者は増えている (図 1-2)。同じく、豊橋校舎の同じく短大文科二部 (男女共学、男子が多かった) も昭和 34 年の卒業生を最終とした。この時期には卒業生も進学者も減少していた (図 1-3)。これについては豊橋校舎の文学部に文学科が新設されたことによる。

そして大きくはそれらを受けるように、前述の法経科を発展させて誕生した豊橋、名古屋両校舎の法経学部 2 部の法学科、経済学科の卒業生の動きを示したのが図 1-4 である。最初の卒業生の出た昭和 33 年から同 41 年までの動きを示した。名古屋校舎に比べ、豊橋校舎はスタートが 3 年遅れ、名古屋校舎は夜間短大の短大法経科 2 部が直前の昭和 31 年に廃止されたために、そこからのこの夜間学部である法経学部 2 部への入学者が急増した。それに対して豊橋校舎は夜間短大が継続したため、夜間学部への入学、卒業者数は大きな変化を示さなかったが、昭和 40 年代に入ると増加傾向が認められる。この図示の時期には、昭和 30 年代後半から法経科 2 部名古屋校舎の卒業生の増大傾向が著しい。2 部とはいえ、経済の成を背景にして 4 年制での学びが増大したことを示している。

最後に、女子短大の卒業生の動きを見てみる。図 1-5 は最初に設置された文科の卒業生の動きである。生活科の設置よりも 2 年早い昭和 38 年に設置されたが、最初こそ生活科に卒業生数は水をあげられていたものの、経済事情の向上にともない、教養、文化学、語学への指向性も高まり、昭和 40 年代に入ると生活科と拮抗する勢いとなった。文科は生活科とともに、新しい女性教育文化の拠点が愛大に誕生した。

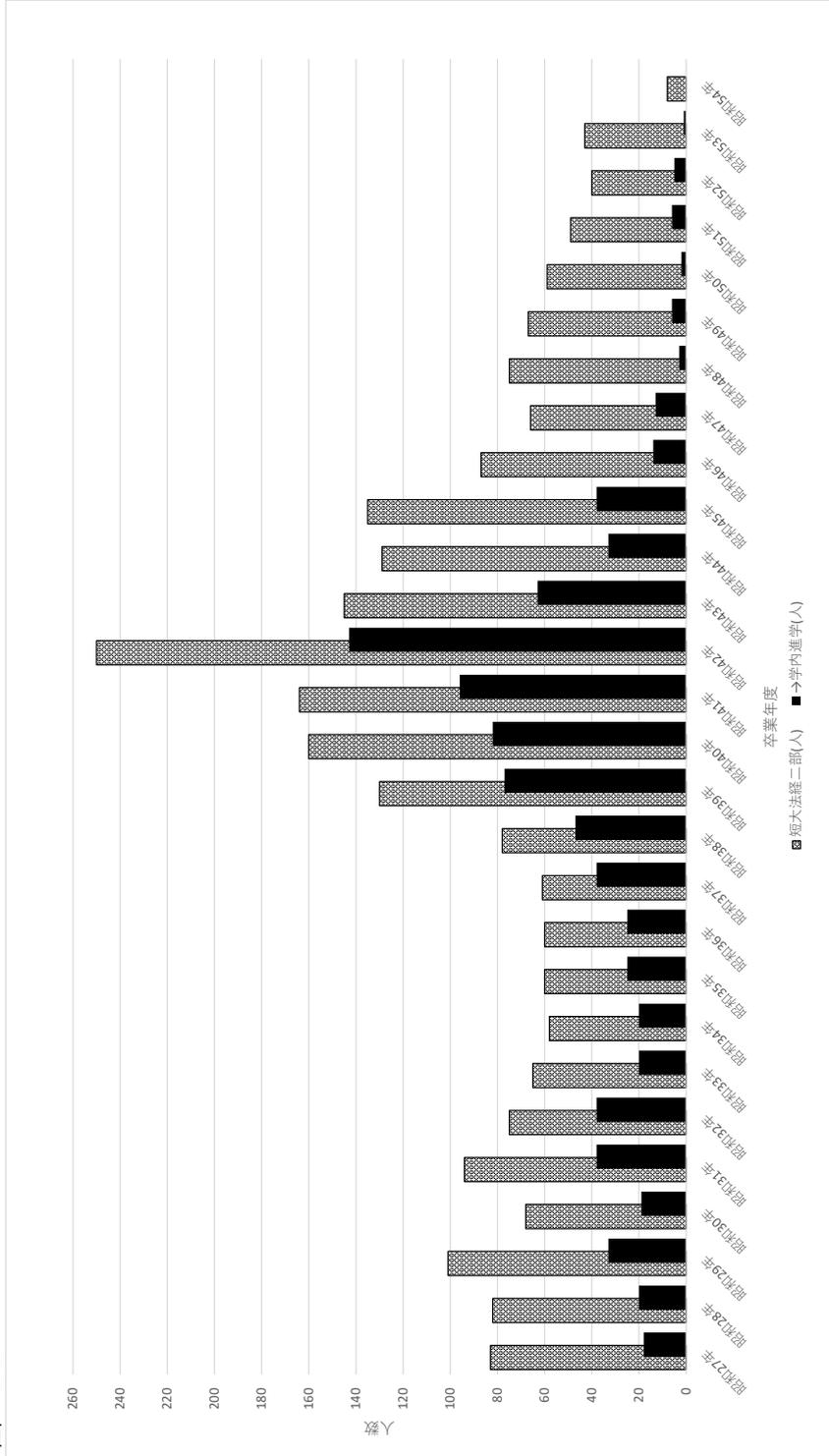
次いで設置された「生活科」は、当初は男子学生の世界へ接近するというような女性特有の感覚もあって低迷したが、3 年目には定員 100 名をオーバーし、以降、定員を上回る卒業生が高止まりしている。文部省との設置交渉の際、文部省側の「家政科」を当然とする感覚の提案を、牧野学部長は近代

的な女性の育成を目指し、カリキュラムも高領域に拡大したいと主旨を説明強調して、他大学にはない「生活科」という名称を確保したことも女子学生には魅力だったのであろう。新短大校舎には実習室や調理室も整備し、次第に「愛短」の地位を高めた。

以上のように、時代の動きと大学の対応を背景にして、卒業生の動きも見るができる。アンケートの実施区分は、原則的には以上のような時代区分にも対応させた。回答者の回答の中に、そのような時代性も含まれていることも見ながらご覧いただければ幸いである。

以下、参考までに夜間短大、夜間学部、女子短大について、それぞれの時期別の特性も考慮したアンケート調査票を添付しておく。

1-1

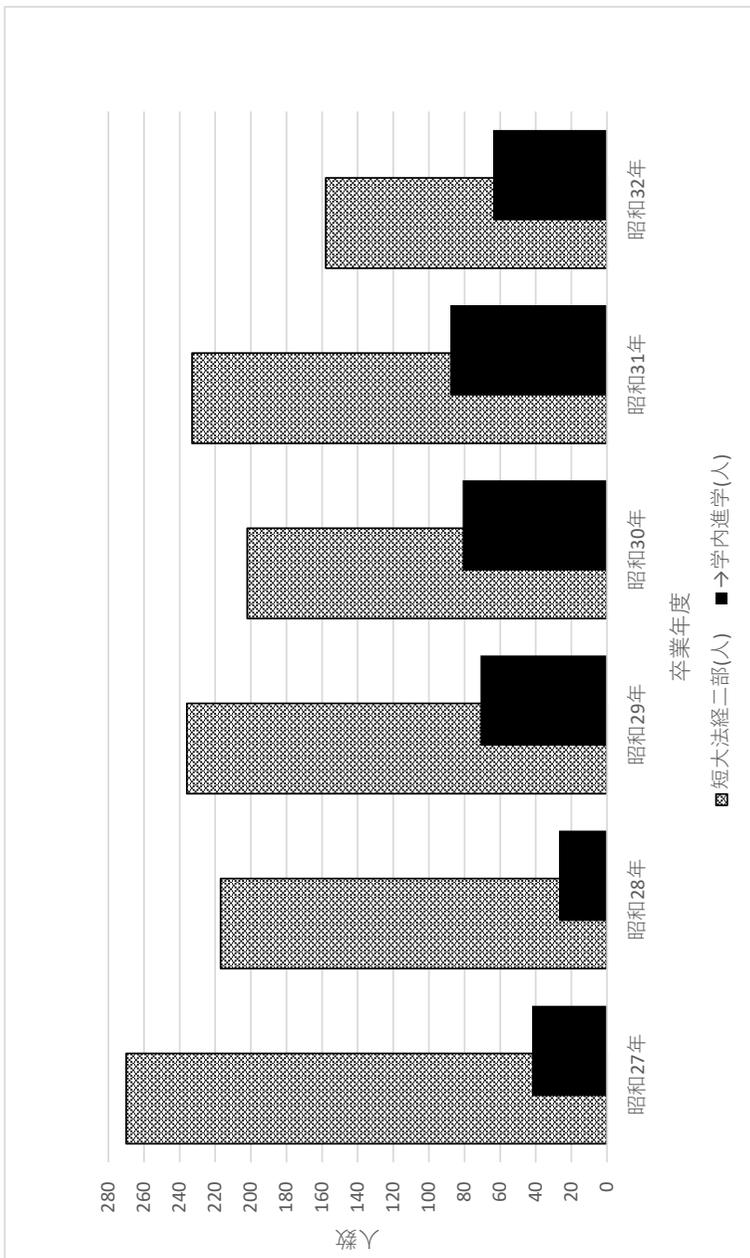


豊橋校舎【夜間】短期大学部法経科第二部卒業生数と学内進学者数

卒業年度	短大法経二部(人)	学内進学(人)	進学率%
昭和27年	83	18	21.7%
昭和28年	82	20	24.4%
昭和29年	101	33	32.7%
昭和30年	68	19	27.9%
昭和31年	94	38	40.4%
昭和32年	75	38	50.7%
昭和33年	65	20	30.8%
昭和34年	58	20	34.5%
昭和35年	60	25	41.7%
昭和36年	60	25	41.7%
昭和37年	61	38	62.3%
昭和38年	78	47	60.3%
昭和39年	130	77	59.2%
昭和40年	160	82	51.3%
昭和41年	164	96	58.5%
昭和42年	250	143	57.2%
昭和43年	145	63	43.4%
昭和44年	129	33	25.6%
昭和45年	135	38	28.1%
昭和46年	87	14	16.1%
昭和47年	66	13	19.7%
昭和48年	75	3	4.0%
昭和49年	67	6	9.0%
昭和50年	59	2	3.4%
昭和51年	67	6	9.0%
昭和52年	40	5	12.5%
昭和53年	49	6	12.2%
昭和54年	8	0	0.0%

※校友課所有データから算出

☒ 1-2

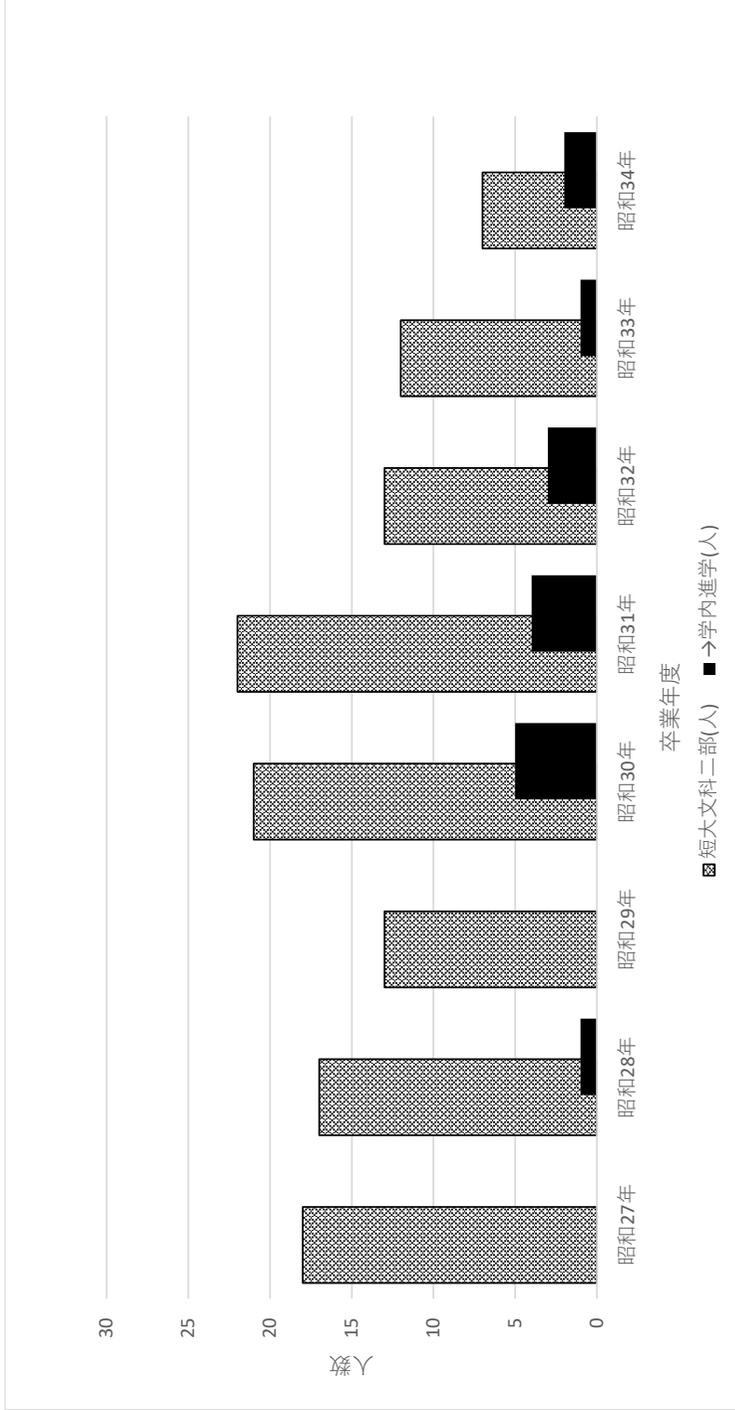


名古屋校舎【夜間】短期大学部法経科第二部卒業生数と学内進学者数

卒業年度	昭和27年	昭和28年	昭和29年	昭和30年	昭和31年	昭和32年
短大法経二部(人)	270	217	236	202	233	158
→学内進学(人)	42	27	71	81	88	64
進学率%	15.6%	12.4%	30.1%	40.1%	37.8%	40.5%

※校友課所有データから算出

1-3



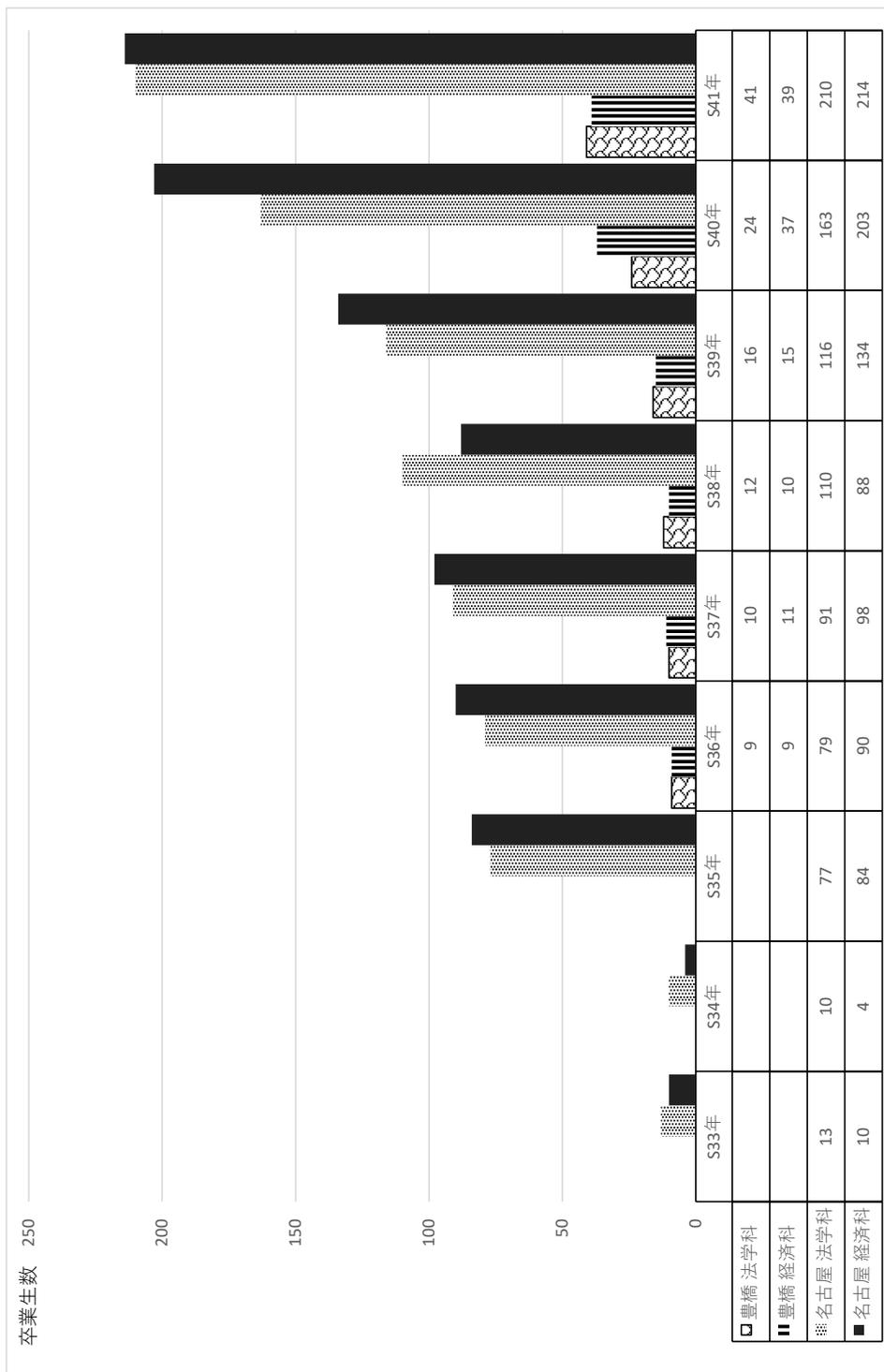
豊橋校舎【夜間】短期大学部文科第二部卒業生数と学内進学者数

卒業年度	昭和27年	昭和28年	昭和29年	昭和30年	昭和31年	昭和32年	昭和33年	昭和34年
短大文科二部(人)	18	17	13	21	22	13	12	7
→学内進学(人)	0	1	0	5	4	3	1	2
進学率%	0.0%	5.9%	0.0%	23.8%	18.2%	23.1%	8.3%	28.6%

※校友課所有データから算出

図 1-4

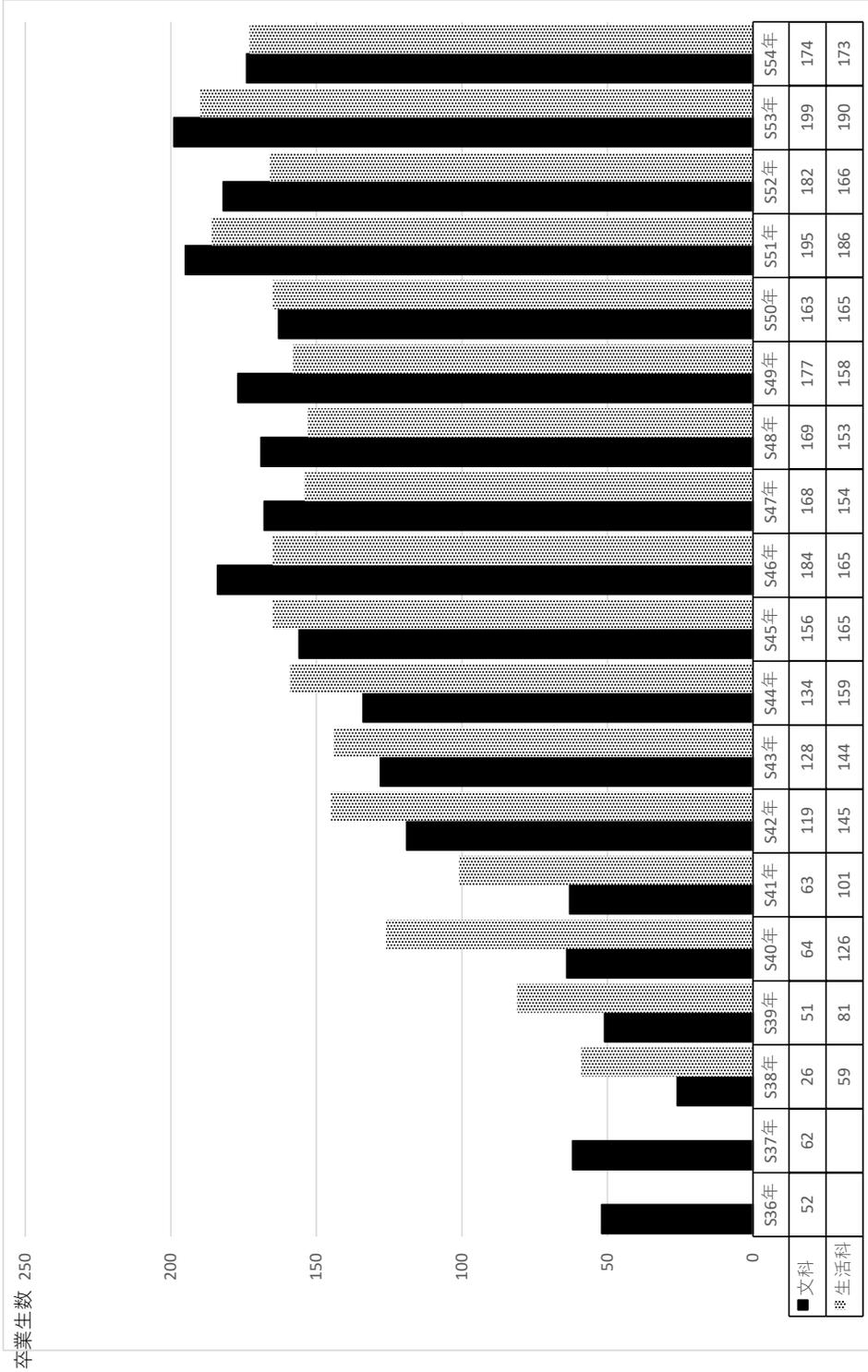
※同窓会名簿より集計



【夜間】法経学部第二部 卒業生の推移

図1-5

※同窓会名簿より集計



女子短期大学部 卒業生の推移

愛知大学短期大学部（昭和27～34年度卒業生） 同窓生へのアンケート

アンケートの回答をお願いいたします。[]の中で該当する番号に大きく○をつけてください。複数回答でも結構です。また、自由記載へのご協力をお願いいたします。記入欄が不足の場合は別用紙への記載も可能です。よろしくお願いいたします。

A. あなたの入学時のことなどを差し支えない範囲でお答え下さい。

1	お名前 () 性別 [①男 ②女]
	入学年次は(昭和 年) 卒業年次は(昭和 年3月) 生年月日は(昭和 年 月) 現在(2020.4.1)(歳)
2	入学前のお住まい (県都府道 市郡 町村) 入学後のお住まい (県都府道 市郡 町村) それは [①寮 ②下宿 ③アパート ④自宅 ⑤ほか ()]
3	入学される前の学校 [①国内 ②国外] 学校名()
4	本学への入学は [①卒業後 ②編入 ③ほか()] 本学の在籍年数(年間)
5	どのように本学を知りましたか
6	本学を志望した理由は <div style="border: 1px solid black; height: 30px; margin-top: 5px;"></div>
7	本学へ合格した理由は [①入試 ②推薦 ③面接 ④ほか ()]
8	授業料はどのように工面しましたか [①親から ②親戚・縁者から ③奨学金から ④アルバイトから ⑤ほか ()]
9	生活費はどのように工面しましたか [①親から ②親戚・縁者から ③奨学金から ④アルバイトから ⑤ほか ()]

B. あなたの入学先をお尋ねします。

1	(学部 学科 専攻) キャンパスは [①豊橋 ②名古屋 → (③東邦高校跡 ④車道)]
2	入学した理由は <div style="border: 1px solid black; height: 30px; margin-top: 5px;"></div>
3	途中で転学部、転学科、転専攻した場合 (学部 学科 専攻)へ
4	理由は <div style="border: 1px solid black; height: 30px; margin-top: 5px;"></div>

C. あなたの在学中の学業は

1	学業の位置は [①学業が主 ②どちらかといえば学業 ③学業はまずまず ④学業は従]
2	その理由は <div style="border: 1px solid black; height: 30px; margin-top: 5px;"></div>
3	興味をもったり、面白かった学業分野や授業は <div style="border: 1px solid black; height: 30px; margin-top: 5px;"></div>
4	印象に残った先生とその理由は <div style="border: 1px solid black; height: 30px; margin-top: 5px;"></div>

5 ゼミを選択していた方は、どのような内容で、担当の先生は

6 卒業研究を行った方は、その研究テーマは、その理由は

7 先生との交流はありましたか。その交流内容は

8 図書館を利用していましたか。図書館をどのように活用されましたか

9 在学中の全体としての満足度は [①大いに満足 ②まずまず満足 ③まあまあ ④あまり満足していない]

10 その理由は

11 学業の成果がその後の人生に与えた影響は [①大いに影響 ②まずまず ③まあまあ ④あまり]

12 どのような影響でしたか

D. あなたのクラブ・サークル活動は

1 クラブ・サークル活動に参加していた方は、クラブ・サークル名は ()

2 よく参加しましたか [①よく参加した ②まずまず ③あまり参加しなかった]

3 どのような活動内容でしたか

4 クラブ・サークル活動をやってよかった点は or クラブ・サークル活動をしなかった理由は

5 クラブ・サークル活動はその後の人生に影響がありましたか
[①大いにあった ②まずまず ③まあまあ ④あまりなかった]

6 その理由や、良かった点は

7 学外のクラブ・サークル活動をされた場合、どのような活動でしたか

8 その後の社会参加との関わり合いがありましたか

*裏面につづきます。ご協力をお願いいたします。

E. 就職、就業について

- 1 卒業時に就職活動をされましたか
[①かなり積極的 ②やや積極的 ③普通に ④あまりしない ⑤全くしない]
- 2 その理由は
- 3 あなたの卒業時の就職環境は
[①かなり厳しい ②やや厳しい ③普通 ④あまり厳しくない ⑤全く厳しくない]
- 4 卒業時に就職先、分野を決めていましたか。なぜその分野でしたか
- 5 希望した分野の職種、企業、機関名、組織へ就職できましたか
[①はい ②なんとか ③意識せず ④意に反して]
- 6 それが可能であった理由は
- 7 差し支えなければ、就職先の企業名、機関名、組織名をお答えください
(所在地)
- 8 就職のさい、お世話になった方は
[①大学就職課 ②愛大卒業生 ③知人、友人 ④自力 ⑤就職先 ⑥ほか ()]
- 9 就職先では「愛知大学卒業」という経歴は、意識したことはありましたか [①はい ②少し ③特になし]
- 10 その理由は
- 11 転職をされていれば、転職先をお答えください。
①(会社名: /業種: /所在地:)
②(会社名: /業種: /所在地:)
- 12 定年後、再就職されていれば、就職先をお答えください。
①(会社名: /業種: /所在地:)
- 13 就職先や社会人として、愛大卒業生は他大学出身者と比較してどのように評価できると思われますか
- 14 愛知大学卒業生を他大学卒業生と比較すると、どのような点に特徴がありますか (ありましたか)

F. 愛知大学卒業生として

- 1 愛知大学の設立主旨は、「世界平和と日本文化への寄与を根幹とし、国際的教養をもつ人材育成、地域社会文化への貢献」であり、さらに「知を愛する真理の探求」、湧き上がった「自由、受難」などが掲げられています。これらの大学の理念が、あなたにどのように反映されたかについてお教え下さい。

2 愛知大学のルーツは上海にあった「東亜同文書院」にあり、そのため愛知大学は戦後すぐに設立認可されました。当初、書院生や他の学校からの編入、入学生も多数にのぼりました。東亜同文書院生や他の外地校からの編入、入学生との交流はありましたか [①交流があった ②少しあった ③なかった]

3 交流があられた方は、具体的な内容をお答えください。

4 皆さんの在学中、あるいはその前後にいわゆる「愛大事件」があり、本間学長は最後まで学生の弁護に徹しました。この事件に対して、あなたは知っていますか [①よく知っている ②多少 ③ほとんど知らない]

5 「愛大事件」を知っている方（上記①②の方）は、どのように感じられましたか

6 あなたは母校としての愛知大学に [①大変関心 ②多少関心 ③普通 ④あまり関心ない]

7 その理由は

8 あなたは愛知大学の情報を何から得ていますか
 [①テレビ、新聞 ②大学のホームページ ③「愛大通信」 ④さまざまな会合 ⑤受験雑誌
 ⑥同窓生 ⑦同窓会報 ⑧愛大新聞（豊橋、名古屋） ⑧ほか（ ）]

7 愛知大学にどのような情報を期待しますか

8 あなたは同窓会（支部活動も）に参加していますか [①はい ②よく ③時々 ④いいえ]

9 その理由は

10 同窓会の魅力をどのようにアップしたらよいとお考えですか。要望や提案があればご自由に

10 今日の愛知大学をどのように見ておられますか。要望や提案があればご自由に

11 愛知大学の後輩の学生に伝えたいことをご自由に

12 人生をふりかえて、あなたは [①大いに満足 ②まずまず満足 ③普通 ④少し不満 ⑤大変不満足]

13 満足度と、愛大卒業生との関係は [①大いに関係 ②多少関係 ③普通 ④あまり関係ない ⑤全くない]

14 最後にあらためて、あなたが愛知大学から得たものは何ですか。あれば座右の銘もお答えください

15 あなたが、あなたの人生経験や研究をまとめ、自費出版も含めて刊行したものがあればご紹介ください

3	印象に残った先生とその理由は
4	卒業研究を行った方は、その研究テーマと、そのテーマを選んだ理由、工夫した点は
5	先生との交流はありましたか。その交流内容は
6	図書館を利用していましたか。図書館をどのように活用されましたか
7	在学中の全体としての満足度は [①大いに満足 ②まずまず満足 ③まあまあ ④あまり満足していない] その理由は
8	学業の成果がその後の人生に与えた影響は [①大いに影響 ②まずまず ③まあまあ ④あまり] どのような影響でしたか
C. あなたのクラブ・サークル活動は	
1	クラブ・サークル活動に参加していた方は、クラブ・サークル名は ()
2	よく参加しましたか [①よく参加した ②まずまず ③あまり参加しなかった] その理由は。また、どのような活動内容でしたか
3	クラブ・サークル活動はその後の人生に影響がありましたか [①大いにあった ②まずまず ③まあまあ ④あまりなかった] その理由は
D. 就職、就業について①	
1	卒業時に就職活動をされましたか [①かなり積極的 ②やや積極的 ③普通に ④あまりしない ⑤全くしない] その理由は
2	あなたの卒業時の就職環境は [①かなり厳しい ②やや厳しい ③普通 ④あまり厳しくない ⑤全く厳しくない]
3	卒業時に就職先、分野を決めていましたか。なぜその分野でしたか

裏面へ続く→

3	①②の方は、どのようにして知ったのですか
4	皆さんの在学中、あるいはその前後にいわゆる「愛大事件」があり、本間学長は最後まで学生の弁護に徹しました。この事件に対して、あなたは知っていますか [①よく知っている ②少し知っている ③知らない] 「愛大事件」を知っている方（上記①②の方）は、どのように感じられましたか
5	あなたは母校としての愛知大学に [①大変関心 ②多少関心 ③普通 ④あまり関心ない] その理由は
6	あなたは愛知大学の情報を何から得ていますか [①テレビ、新聞 ②大学のホームページ ③「愛大通信」 ④さまざまな会合 ⑤受験雑誌 ⑥同窓生 ⑦同窓会報 ⑧愛大新聞（豊橋、名古屋） ⑨ほか（ ）]
7	愛知大学にどのような情報を期待しますか
8	あなたは同窓会（支部活動も）に参加していますか [①はい ②よく ③時々 ④いいえ] その理由。また、先輩や後輩とどのようなつながりがありましたか
9	あなたの次の世代の昭和40年代には他大学と同様に「学園紛争」がありました。それはその後の同窓会活動などその他に影響があればご記入下さい
10	同窓会の魅力をどのようにアップしたらよいとお考えですか。要望や提案があればご自由にご記入下さい
11	今日の愛知大学をどのように見ておられますか。要望や提案があればご自由にご記入下さい
12	愛知大学の後輩の学生に伝えたいことをご自由にご記入下さい
13	人生をふりかえて、あなたは [①大いに満足 ②まずまず満足 ③普通 ④少し不満 ⑤大変不満足]
14	満足度と、愛大卒業生との関係は [①大いに関係 ②多少関係 ③普通 ④あまり関係ない ⑤全くない]
15	最後にあらためて、あなたが愛知大学から得たものは何ですか。あれば座右の銘もお答えください
16	あなたが、あなたの人生経験や研究をまとめ、自費出版も含めて刊行したものがあればご紹介ください
17	以上のほか、あなたの愛大時代の印象的な思い出がありましたらご記入下さい

NC-B

--	--	--

愛知大学短大二部同窓生（昭和42～45年度卒業生）へのアンケートです

アンケートの回答をお願いいたします。[]の中で該当する番号に大きく○をつけてください。複数回答でも結構です。また、自由記載へのご協力をお願いいたします。記入欄が不足の場合は別用紙への記載も可能です。よろしくをお願いいたします。

A. あなたの入学時のことなどを差し支えない範囲でお答え下さい。

1	お名前 () 性別 [①男 ②女]
	入学年次は (昭和 年) 卒業年次は (昭和 年3月) 生年月日は (昭和 年 月) 現在 (2021.4.1) (歳)
2	入学前のお住まい (県都府道 市郡 町村) 入学後のお住まい (県都府道 市郡 町村) それは [①寮 ②下宿 ③アパート ④自宅 ⑤ほか ()]
3	入学される前の学校 [①国内 ②国外] 高校名またはその他 ()
4	本学への入学は [①卒業後 ②編入] ②を選んだ方：編入前の学校名 ()
5	どのように本学を知りましたか ()
6	本学のあなたの入学先は [①豊橋 ②名古屋 (車道)] キャンパス (学部 学科 専攻)
7	あなたは入学時、すでに就職をしていましたか (①はい ②いいえ) その際に、本学へ入学した理由は
8	本学へ合格した経緯は [①入試 ②推薦 ③面接 ④ほか ()]
9	授業料はどのように工面しましたか [①親から ②親戚・縁者から ③奨学金から ④アルバイトから ⑤ほか ()]
10	生活費はどのように工面しましたか [①親から ②親戚・縁者から ③奨学金から ④アルバイトから ⑤ほか ()]
11	途中または卒業後に転学部、転学科、転専攻した場合 [①豊橋 ②名古屋 (車道)] キャンパス (昭和 年に 学部 学科 専攻)へ 他大学 (昭和 年に 学部 学科)へ その理由は

B. あなたの在学中の学業は

1	学業の位置は [①学業が主 ②どちらかといえば学業 ③学業はまずまず ④学業は従] その理由は
2	興味をもったり、面白かった学業分野や授業内容は

3	印象に残った先生とその理由は
4	卒業研究を行った方は、その研究テーマと、そのテーマを選んだ理由、工夫した点は
5	先生との交流はありましたか。その交流内容は
6	図書館を利用していましたか。図書館をどのように活用されましたか
7	在学中の全体としての満足度は [①大いに満足 ②まずまず満足 ③まあまあ ④あまり満足していない] その理由は
8	学業の成果がその後の人生に与えた影響は [①大いに影響 ②まずまず ③まあまあ ④あまり] どのような影響でしたか
C. あなたのクラブ・サークル活動は	
1	クラブ・サークル活動に参加していた方は、クラブ・サークル名は ()
2	よく参加しましたか [①よく参加した ②まずまず ③あまり参加しなかった] その理由は。また、どのような活動内容でしたか
3	クラブ・サークル活動はその後の人生に影響がありましたか [①大いにあった ②まずまず ③まあまあ ④あまりなかった] その理由は
D. 就職、就業について①	
1	卒業時に就職活動をされましたか [①かなり積極的 ②やや積極的 ③普通に ④あまりしない ⑤全くしない] その理由は
2	途中または卒業後に転学部、転学科、転専攻した場合 [①豊橋 ②名古屋(車道)] キャンパス [①かなり厳しい ②やや厳しい ③普通 ④あまり厳しくない ⑤全く厳しくない]
3	卒業時に就職先、分野を決めていましたか。なぜその分野でしたか

裏面へ続く→

D. 就職、就業について②	
4	希望した分野の職種、企業、機関名、組織へ就職できましたか [①はい ②なんとか ③意識せず ④意に反して] それが可能であった理由は
5	差し支えなければ、就職先の企業名、機関名、組織名などをお答えください (_____ 所在地 _____)
6	就職のさい、お世話になった方は [①大学就職課 ②愛大卒業生 ③先生 ④知人、友人 ⑤自力 ⑥就職先 ⑦ほか (_____)]
7	就職先では「愛知大学卒業」という経歴は、意識したことはありましたか [①はい ②少し ③特になし] その理由は
8	転職をされていれば、転職先をお答えください。
	①(会社名など _____ /業種: _____ /所在地: _____)
	②(会社名など _____ /業種: _____ /所在地: _____)
9	定年後、再就職されていれば、就職先をお答えください。
	①(会社名など _____ /業種: _____ /所在地: _____)
10	就職先や社会人として、愛大卒業生は他大学出身者と比較してどのように評価できると思われますか
11	愛知大学卒業生を他大学卒業生と比較すると、どのような点に特徴がありますか (ありましたか)
E. 愛知大学卒業生として	
1	愛知大学の設立主旨は、「世界平和と日本文化への寄与を根幹とし、国際的教養をもつ人材育成、地域社会文化への貢献」であり、さらに「知を愛する真理の探求」、湧き上がった「自由、受難」などが掲げられています。これらの大学の理念が、あなたにどのように反映されたかについてお教え下さい。
2	(1)あなたの卒業した短大二部（夜間）は愛知大学創設期に勤労学徒のために開学されました。そして入学生はその中で努力され、多くの人材を輩出し、愛知大学のベースをつくらただけでなく、地域の社会経済にも大きく貢献したと思われます。その点の意識とともに具体的に紹介下さい。
	(2)しかし、すでに多くの方が亡くなられています。短大二部の同窓の方々の中で亡くなった方も含め、注目すべき方々の名前をご紹介いただき、その理由もお教え下さい。
3	愛知大学のルーツは上海にあった「東亜同文書院」にあり、そのため愛知大学は戦後旧制大学として設立認可されました。当初、書院生や他の学校からの編入、入学生も多数にのぼりました。あなたは、そのような愛知大学創設期の歴史を知っていましたか [①よく知っている ②少し知っている ③知らない]

3	①②の方は、どのようにして知ったのですか
4	皆さんの在学中、あるいはその前後にいわゆる「愛大事件」があり、本間学長は最後まで学生の弁護に徹しました。この事件に対して、あなたは知っていますか [①よく知っている ②少し知っている ③知らない] 「愛大事件」を知っている方（上記①②の方）は、どのように感じられましたか
5	在学中あるいはその前後に全国的に学園紛争があり、愛大でもありました。あなたはそれをどう受け止めましたか。また、それらがもたらした影響があれば具体的にお教え下さい。
6	あなたは母校としての愛知大学に [①大変関心 ②多少関心 ③普通 ④あまり関心ない] その理由は
7	あなたは愛知大学の情報を何から得ていますか [①テレビ、新聞 ②大学のホームページ ③「愛大通信」 ④さまざまな会合 ⑤受験雑誌 ⑥同窓生 ⑦同窓会報 ⑧愛大新聞（豊橋、名古屋） ⑧ほか（ ）]
8	愛知大学にどのような情報を期待しますか
9	あなたは同窓会（支部活動も）に参加していますか [①はい ②よく ③時々 ④いいえ] その理由。また、先輩や後輩とどのようなつながりがありましたか
10	あなたの次の世代の昭和40年代には他大学と同様に「学園紛争」がありました。それはその後の同窓会活動などその他に影響があればご記入下さい
11	同窓会の魅力をどのようにアップしたらよいとお考えですか。要望や提案があればご自由にご記入下さい
12	今日の愛知大学をどのように見ておられますか。要望や提案があればご自由にご記入ください
13	愛知大学の後輩の学生に伝えたいことをご自由にご記入下さい
14	人生をふりかえて、あなたは [①大いに満足 ②まずまず満足 ③普通 ④少し不満 ⑤大変不満足]
15	満足度と、愛大卒業生との関係は [①大いに関係 ②多少関係 ③普通 ④あまり関係ない ⑤全くない]
16	最後にあらためて、あなたが愛知大学から得たものは何ですか。あれば座右の銘もお答えください
17	あなたが、あなたの人生経験や研究をまとめ、自費出版も含めて刊行したものがあればご紹介ください
18	以上のほか、あなたの愛大時代の印象的な思い出がありましたらご記入下さい

NC-C			
------	--	--	--

愛知大学短大二部同窓生（昭和46～54年度卒業生）へのアンケートです

アンケートの回答をお願いいたします。[] の中で該当する番号に大きく○をつけてください。複数回答でも結構です。また、自由記載へのご協力をお願いいたします。記入欄が不足の場合は別用紙への記載も可能です。よろしくをお願いいたします。

A. あなたの入学時のことなどを差し支えない範囲でお答え下さい。	
1	お名前 () 性別 [①男 ②女]
	入学年次は (昭和 年) 卒業年次は (昭和 年3月) 生年月日は (昭和 年 月) 現在 (2021.4.1) (歳)
2	入学前のお住まい (県都府道 市郡 町村) 入学後のお住まい (県都府道 市郡 町村) それは [①寮 ②下宿 ③アパート ④自宅 ⑤ほか ()]
3	入学される前の学校 [①国内 ②国外] 高校名またはその他 ()
4	本学への入学は [①卒業後 ②編入] ②を選んだ方：編入前の学校名 ()
5	どのように本学を知りましたか ()
6	本学のあなたの入学先は [①豊橋 ②名古屋 (車道)] キャンパス (学部 学科 専攻)
7	あなたは入学時、すでに就職をしていましたか (①はい ②いいえ) その際に、本学へ入学した理由は
8	本学へ合格した経緯は [①入試 ②推薦 ③面接 ④ほか ()]
9	授業料はどのように工面しましたか [①親から ②親戚・縁者から ③奨学金から ④アルバイトから ⑤ほか ()]
10	生活費はどのように工面しましたか [①親から ②親戚・縁者から ③奨学金から ④アルバイトから ⑤ほか ()]
11	途中または卒業後に転学部、転学科、転専攻した場合 [①豊橋 ②名古屋 (車道)] キャンパス (昭和 年に 学部 学科 専攻) へ 他大学 (昭和 年に 学部 学科) へ その理由は
B. あなたの在学中の学業は	
1	学業の位置は [①学業が主 ②どちらかといえば学業 ③学業はまずまず ④学業は従] その理由は
2	興味をもったり、面白かった学業分野や授業内容は

3	印象に残った先生とその理由は
4	卒業研究を行った方は、その研究テーマと、そのテーマを選んだ理由、工夫した点は
5	先生との交流はありましたか。その交流内容は
6	図書館を利用していましたか。図書館をどのように活用されましたか
7	在学中の全体としての満足度は [①大いに満足 ②まずまず満足 ③まあまあ ④あまり満足していない] その理由は
8	学業の成果がその後の人生に与えた影響は [①大いに影響 ②まずまず ③まあまあ ④あまり] どのような影響でしたか
C. あなたのクラブ・サークル活動は	
1	クラブ・サークル活動に参加していた方は、クラブ・サークル名は ()
2	よく参加しましたか [①よく参加した ②まずまず ③あまり参加しなかった] その理由は。また、どのような活動内容でしたか
3	クラブ・サークル活動はその後の人生に影響がありましたか [①大いにあった ②まずまず ③まあまあ ④あまりなかった] その理由は
D. 就職、就業について①	
1	卒業時に就職活動をされましたか [①かなり積極的 ②やや積極的 ③普通に ④あまりしない ⑤全くしない] その理由は
2	あなたの卒業時の就職環境は [①かなり厳しい ②やや厳しい ③普通 ④あまり厳しくない ⑤全く厳しくない]
3	卒業時に就職先、分野を決めていましたか。なぜその分野でしたか

裏面へ続く→

3	①②の方は、どのようにして知ったのですか
4	皆さんの在学中、あるいはその前後にいわゆる「愛大事件」があり、本間学長は最後まで学生の弁護に徹しました。この事件に対して、あなたは知っていますか [①よく知っている ②少し知っている ③知らない] 「愛大事件」を知っている方（上記①②の方）は、どのように感じられましたか
5	あなたの入学前に全国的に学園紛争があり、愛大でもありました。あなたは知っていますか [①よく知っている ②少し知っている ③知らない] ①②の方へ。あなたはそれをどう受け止めましたか。また、大学生活にどんな影響がありましたか
6	あなたは母校としての愛知大学に [①大変関心 ②多少関心 ③普通 ④あまり関心ない] その理由は
7	あなたは愛知大学の情報を何から得ていますか [①テレビ、新聞 ②大学のホームページ ③「愛大通信」 ④さまざまな会合 ⑤受験雑誌 ⑥同窓生 ⑦同窓会報 ⑧愛大新聞（豊橋、名古屋） ⑧ほか（ ）]
8	愛知大学にどのような情報を期待しますか
9	あなたは同窓会（支部活動も）に参加していますか [①はい ②よく ③時々 ④いいえ] その理由。また、先輩や後輩とどのようなつながりがありましたか
10	あなたの次の世代の昭和40年代には他大学と同様に「学園紛争」がありました。それはその後の同窓会活動などその他に影響があればご記入下さい
11	同窓会の魅力をどのようにアップしたらよいとお考えですか。要望や提案があればご自由にご記入下さい
12	今日の愛知大学をどのように見ておられますか。要望や提案があればご自由にご記入下さい
13	愛知大学の後輩の学生に伝えたいことをご自由にご記入下さい
14	人生をふりかえて、あなたは [①大いに満足 ②まずまず満足 ③普通 ④少し不満 ⑤大変不満]
15	満足度と、愛大卒業生との関係は [①大いに関係 ②多少関係 ③普通 ④あまり関係ない ⑤全くない]
16	最後にあらためて、あなたが愛知大学から得たものは何ですか。あれば座右の銘もお答えください
17	あなたが、あなたの人生経験や研究をまとめ、自費出版も含めて刊行したものがあればご紹介ください
18	以上のほか、あなたの愛大時代の印象的な思い出がありましたらご記入下さい

愛知大学同窓生（昭和22～34年度卒業生）へのアンケート

アンケートの回答をお願いいたします。[] の中で該当する番号に大きく○をつけてください。複数回答でも結構です。また、自由記載へのご協力をお願いいたします。記入欄が不足の場合は別用紙への記載も可能です。よろしくお願いいたします。

A. あなたの入学時のことなどを差し支えない範囲でお答え下さい。

1	お名前 () 性別 [①男 ②女]
	入学年次は(昭和 年) 卒業年次は(昭和 年3月) 生年月日は(昭和 年 月) 現在(2020.4.1) (歳)
2	入学前のお住まい (県都府道 市郡 町村) 入学後のお住まい (県都府道 市郡 町村) それは [①寮 ②下宿 ③アパート ④自宅 ⑤ほか ()]
3	入学される前の学校 [①国内 ②国外] 学校名()
4	本学への入学は [①卒業後 ②編入 ③ほか()] 本学の在籍年数(年間)
5	どのように本学を知りましたか
6	本学を志望した理由は
7	本学へ合格した理由は [①入試 ②推薦 ③面接 ④ほか ()]
8	授業料はどのように工面しましたか [①親から ②親戚・縁者から ③奨学金から ④アルバイトから ⑤ほか ()]
9	生活費はどのように工面しましたか [①親から ②親戚・縁者から ③奨学金から ④アルバイトから ⑤ほか ()]

B. あなたの入学先をお尋ねします。

1	(学部 学科 専攻) [①1年次入学 ②編入学 () 年次] キャンパスは [①豊橋 ②名古屋 → (③東邦高校跡 ④車道)]
2	入学した理由は
3	途中で転学部、転学科、転専攻した場合 (学部 学科 専攻)へ
4	理由は

C. あなたの在学中の学業は

1	学業の位置は [①学業が主 ②どちらかといえば学業 ③学業はまずまず ④学業は従]
2	その理由は
3	興味をもったり、面白かった学業分野や授業は
4	印象に残った先生とその理由は
5	ゼミを選択していた方は、どのような内容で、担当の先生は

--

6 卒業研究を行った方は、その研究テーマは、その理由は

--

7 先生との交流はありましたか。その交流内容は

--

8 図書館を利用していましたか。図書館をどのように活用されましたか

--

9 在学中の全体としての満足度は [①大いに満足 ②まずまず満足 ③まあまあ ④あまり満足していない]

10 その理由は

--

11 学業の成果がその後の人生に与えた影響は [①大いに影響 ②まずまず ③まあまあ ④あまり]

12 どのような影響でしたか

--

D. あなたのクラブ・サークル活動は

1 クラブ・サークル活動に参加していた方は、クラブ・サークル名は ()

2 よく参加しましたか [①よく参加した ②まずまず ③あまり参加しなかった]

3 どのような活動内容でしたか

--

4 クラブ・サークル活動をやってよかった点は or クラブ・サークル活動をしなかった理由は

--

5 クラブ・サークル活動はその後の人生に影響がありましたか

[①大いにあった ②まずまず ③まあまあ ④あまりなかった]

6 その理由や、良かった点は

--

7 学外のクラブ・サークル活動をされた場合、どのような活動でしたか

--

8 その後の社会参加との関わり合いがありましたか

--

E. 就職、就業について

1 卒業時に就職活動をされましたか

[①かなり積極的 ②やや積極的 ③普通に ④あまりしない ⑤全くしない]

2 その理由は

3 あなたの卒業時の就職環境は
[①かなり厳しい ②やや厳しい ③普通 ④あまり厳しくない ⑤全く厳しくない]

4 卒業時に就職先、分野を決めていましたか。なぜその分野でしたか

5 希望した分野の職種、企業、機関名、組織へ就職できましたか
[①はい ②なんとか ③意識せず ④意に反して]

6 それが可能であった理由は

7 差し支えなければ、就職先の企業名、機関名、組織名をお答えください
(所在地)

8 就職のさい、お世話になった方は
[①大学就職課 ②愛大卒業生 ③知人、友人 ④自力 ⑤就職先 ⑥ほか ()]

9 就職先では「愛知大学卒業」という経歴は、意識したことはありましたか [①はい ②少し ③特になし]

10 その理由は

11 転職をされていれば、転職先をお答えください。

①(会社名: /業種: /所在地:)
②(会社名: /業種: /所在地:)

12 定年後、再就職されていれば、就職先をお答えください。

①(会社名: /業種: /所在地:)

13 就職先や社会人として、愛大卒業生は他大学出身者と比較してどのように評価できると思われますか

14 愛知大学卒業生を他大学卒業生と比較すると、どのような点に特徴がありますか (ありましたか)

F. 愛知大学卒業生として

愛知大学の設立主旨は、「世界平和と日本文化への寄与を根幹とし、国際的教養をもつ人材育成、地域社会文化への貢献」であり、さらに「知を愛する真理の探求」、湧き上がった「自由、受難」などが掲げられています。これらの大学の理念が、あなたにどのように反映されたかについてお教え下さい。

愛知大学のルーツは上海にあった「東亜同文書院」にあり、そのため愛知大学は戦後すぐに設立認可されました。
2 当初、書院生や他の学校からの編入、入学生も多数にのぼりました。東亜同文書院生や他の外地校からの編入、入学生との交流はありましたか [①交流があった ②少しあった ③なかった]

3 交流があられた方は、具体的な内容をお答えください。

3-2 *愛知大学開学2年目に、愛大学生たちと豊橋市民は、空襲被害がなかった市公会堂で市民との文化交流会が開催されました。それによって、各地から集って来ていた愛大学生たちがまとまったと言われています。その文化交流会の様子を知っていますか [①知っている ②知らない]

3-3 ご存じの方は、知っている内容をお答えください。

--

4 皆さんの在学中、あるいはその前後にいわゆる「愛大事件」があり、本間学長は最後まで学生の弁護に徹しました。この事件に対して、あなたは知っていますか [①よく知っている ②多少 ③ほとんど知らない]

5 「愛大事件」を知っている方（上記①②の方）は、どのように感じられましたか

--

6 あなたは母校としての愛知大学に [①大変関心 ②多少関心 ③普通 ④あまり関心ない]

7 その理由は

--

8 あなたは愛知大学の情報を何から得ていますか

[①テレビ、新聞 ②大学のホームページ ③「愛大通信」 ④さまざまな会合 ⑤受験雑誌
⑥同窓生 ⑦同窓会報 ⑧愛大新聞（豊橋、名古屋） ⑧ほか（ ）]

7 愛知大学にどのような情報を期待しますか

--

8 あなたは同窓会（支部活動も）に参加していますか [①はい ②よく ③時々 ④いいえ]

9 その理由は

--

10 同窓会の魅力をどのようにアップしたらよいとお考えですか。要望や提案があればご自由に

--

10 今日の愛知大学をどのように見ておられますか。要望や提案があればご自由に

--

11 愛知大学の後輩の学生に伝えたいことをご自由に

--

12 人生をふりかえて、あなたは [①大いに満足 ②まずまず満足 ③普通 ④少し不満 ⑤大変不満]

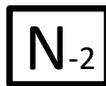
13 満足度と、愛大卒業生との関係は [①大いに関係 ②多少関係 ③普通 ④あまり関係ない ⑤全くない]

14 最後にあらためて、あなたが愛知大学から得たものは何ですか。あれば座右の銘もお答えください

--

15 あなたが、あなたの人生経験や研究をまとめ、自費出版も含めて刊行したものがあればご紹介ください

--



愛知大学同窓生（昭和35～41年度卒業生）へのアンケートです

アンケートの回答をお願いいたします。[]の中で該当する番号に大きく○をつけてください。複数回答でも結構です。また、自由記載へのご協力をお願いいたします。記入欄が不足の場合は別用紙への記載も可能です。よろしくをお願いいたします。

A. あなたの入学時のことなどを差し支えない範囲でお答え下さい。	
1	お名前 () 性別 [①男 ②女] 入学年次は (昭和 年) 卒業年次は (昭和 年3月) 生年月日は (昭和 年 月) 現在 (2021.3.1) (歳)
2	入学前のお住まい (県都府道 市郡 町村) 入学後のお住まい (県都府道 市郡 町村) それは [①寮 ②下宿 ③アパート ④自宅 ⑤ほか ()]
3	入学される前の学校 [①国内 ②国外] 高校名またはその他()
4	本学への入学は [①卒業後 ②編入] ②を選んだ方：編入前の学校名 ()
5	どのように本学を知りましたか ()
6	本学のあなたの入学先は [①豊橋 ②名古屋(車道)] キャンパス (学部 学科 専攻)
7	あなたは入学時、すでに就職をしていましたか (①はい ②いいえ) その際に、本学へ入学した理由は
8	本学へ合格した経緯は [①入試 ②推薦 ③面接 ④ほか ()]
9	授業料はどのように工面しましたか [①親から ②親戚・縁者から ③奨学金から ④アルバイトから ⑤ほか ()]
10	生活費はどのように工面しましたか [①親から ②親戚・縁者から ③奨学金から ④アルバイトから ⑤ほか ()]
11	途中で転学部、転学科、転専攻した場合 [①豊橋 ②名古屋(車道)] キャンパス (昭和 年に 学部 学科 専攻) へ その理由は
B. あなたの在学中の学業は	
1	学業の位置は [①学業が主 ②どちらかといえば学業 ③学業はまずまず ④学業は従] その理由は
2	興味をもったり、面白かった学業分野や授業は

3	印象に残った先生とその理由は
4	ゼミを選択していた方は、どのような内容で、担当の先生は
5	卒業研究を行った方は、その研究テーマは、その理由は
6	先生との交流はありましたか。その交流内容は
7	図書館を利用していましたか。図書館をどのように活用されましたか
8	在学中の全体としての満足度は [①大いに満足 ②まずまず満足 ③まあまあ ④あまり満足していない] その理由は
9	学業の成果がその後の人生に与えた影響は [①大いに影響 ②まずまず ③まあまあ ④あまり] どのような影響でしたか
C. あなたのクラブ・サークル活動は	
1	クラブ・サークル活動に参加していた方は、クラブ・サークル名は ()
2	よく参加しましたか [①よく参加した ②まずまず ③あまり参加しなかった] どのような活動内容でしたか
3	クラブ・サークル活動をやってよかった点は or クラブ・サークル活動をしなかった理由は
4	クラブ・サークル活動はその後の人生に影響がありましたか [①大いにあった ②まずまず ③まあまあ ④あまりなかった] その理由や、良かった点は
5	学外のクラブ・サークル活動をされた場合、どのような活動でしたか
6	その後の社会参加との関わり合いがありましたか

裏面へ続く→

D. 就職、就業について	
1	<p>卒業時に就職活動をされましたか [①かなり積極的 ②やや積極的 ③普通に ④あまりしない ⑤全くしない] その理由は</p>
2	<p>あなたの卒業時の就職環境は [①かなり厳しい ②やや厳しい ③普通 ④あまり厳しくない ⑤全く厳しくない]</p>
3	<p>卒業時に就職先、分野を決めていましたか。なぜその分野でしたか</p>
4	<p>希望した分野の職種、企業、機関名、組織へ就職できましたか [①はい ②なんとか ③意識せず ④意に反して] それが可能であった理由は</p>
5	<p>差し支えなければ、就職先の企業名、機関名、組織名をお答えください (_____ 所在地 _____)</p>
6	<p>就職のさい、お世話になった方は [①大学就職課 ②愛大卒業生 ③知人、友人 ④自力 ⑤就職先 ⑥ほか (_____)]</p>
7	<p>就職先では「愛知大学卒業」という経歴は、意識したことはありましたか [①はい ②少し ③特になし] その理由は</p>
8	<p>転職をされていれば、転職先をお答えください。 ①(会社名: _____ /業種: _____ /所在地: _____) ②(会社名: _____ /業種: _____ /所在地: _____)</p>
9	<p>定年後、再就職されていれば、就職先をお答えください。 ①(会社名: _____ /業種: _____ /所在地: _____)</p>
10	<p>就職先や社会人として、愛大卒業生は他大学出身者と比較してどのように評価できると思われますか</p>
11	<p>愛知大学卒業生を他大学卒業生と比較すると、どのような点に特徴がありますか (ありましたか)</p>
E. 愛知大学卒業生として	
1	<p>愛知大学の設立主旨は、「世界平和と日本文化への寄与を根幹とし、国際的教養をもつ人材育成、地域社会文化への貢献」であり、さらに「知を愛する真理の探求」、湧き上がった「自由、受難」などが掲げられています。これらの大学の理念が、あなたにどのように反映されたかについてお教え下さい。</p>

2	愛知大学のルーツは上海にあった「東亜同文書院」にあり、そのため愛知大学は戦後旧制大学として設立認可されました。当初、書院生や他の学校からの編入、入学生も多数にのぼりました。あなたは、そのような愛知大学創設期の歴史を知っていましたか [①よく知っている ②少し知っている ③知らない] ①②の方は、どのようにして知ったのですか
3	皆さんの在学中、あるいはその前後にいわゆる「愛大事件」があり、本間学長は最後まで学生の弁護に徹しました。この事件に対して、あなたは知っていますか [①よく知っている ②少し知っている ③知らない] 「愛大事件」を知っている方（上記①②の方）は、どのように感じられましたか
4	あなたは母校としての愛知大学に [①大変関心 ②多少関心 ③普通 ④あまり関心ない] その理由は
5	あなたは愛知大学の情報を何から得ていますか [①テレビ、新聞 ②大学のホームページ ③「愛大通信」 ④さまざまな会合 ⑤受験雑誌 ⑥同窓生 ⑦同窓会報 ⑧愛大新聞（豊橋、名古屋） ⑧ほか（ ）]
6	愛知大学にどのような情報を期待しますか
7	あなたは同窓会（支部活動も）に参加していますか [①はい ②よく ③時々 ④いいえ] その理由。また、先輩や後輩とどのようなつながりがありましたか
8	同窓会の魅力をどのようにアップしたらよいとお考えですか。要望や提案があればご自由に
9	今日の愛知大学をどのように見ておられますか。要望や提案があればご自由に
10	愛知大学の後輩の学生に伝えたいことをご自由に
11	人生をふりかえて、あなたは [①大いに満足 ②まずまず満足 ③普通 ④少し不満 ⑤大変不満足]
12	満足度と、愛大卒業生との関係は [①大いに関係 ②多少関係 ③普通 ④あまり関係ない ⑤全くない]
13	最後にあらためて、あなたが愛知大学から得たものは何ですか。あれば座右の銘もお答えください
14	あなたが、あなたの人生経験や研究をまとめ、自費出版も含めて刊行したものがあればご紹介ください
15	あなたの愛大時代の印象的な思い出がありましたらご記入下さい

3	印象に残った先生とその理由は
4	先生との交流はありましたか。その交流内容は
5	自由研究(~1977) 卒業研究(1978~)を行った方は、その研究テーマとそのテーマを選んだ理由、工夫した点は
6	あなたは特別実習を履修していましたか [①タイプライティング ②茶華道 ③洋裁 ④料理 ⑤音楽 ⑥その他 ()]
7	あなたは教職課程を履修しましたか [①はい ②いいえ] その理由は
8	あなたは図書館をどのように活用されましたか
9	在学中の全体としての満足度は [①大いに満足 ②まずまず満足 ③まあまあ ④あまり満足していない] その理由は
10	学業の成果がその後の人生に与えた影響は [①大いに影響 ②まずまず ③まあまあ ④あまり] どのような影響でしたか
11	あなたは学外旅行に参加しましたか ①オリエンテーションキャンプ : 行き先 ②サマーキャンプ : 行き先 ③北海道への研修旅行 : 行き先 ④学部合同のスキー合宿 : 行き先 ⑤英語圏ハワイ短期研修 : 行き先 ⑥短期国際セミナー : 行き先 ⑦ゼミ合宿 : 行き先 ⑧その他 : 行き先 思い出などがあればご記入下さい
C. あなたのクラブ・サークル活動・課外活動は①	
1	クラブ・サークル活動に参加していた方は、クラブ・サークル名は ()
2	よく参加しましたか [①よく参加した ②まずまず ③あまり参加しなかった] その理由は。また、どのような活動内容でしたか
3	あなたは短大友会活動に参加していましたか [①はい ②いいえ] また、どのような活動内容でしたか

裏面へ続く→

C. あなたのクラブ・サークル活動・課外活動は②	
4	<p>あなたは音楽活動に参加しましたか [①主体的に ②聴衆として ③両方に] 参加</p> <p>その参加活動は [①音楽部(～1967) ②合唱団(1967～) ③歌声喫茶『みんなで歌う会』 ④短期大学部音楽会(定期演奏会) ⑤その他 ()]</p> <p>当時の様子や思い出などがあればご記入ください</p>
5	<p>クラブ・サークル活動はその後の人生に影響がありましたか [①大いにあった ②まずまず ③まあまあ ④あまりなかった]</p> <p>その理由は</p>
D. 就職、就業について	
1	<p>卒業時に就職活動をされましたか [①かなり積極的 ②やや積極的 ③普通に ④あまりしない ⑤全くしない]</p> <p>その理由は</p>
2	<p>卒業時に就職先、分野を決めていましたか。 [①家事手伝い ②一般企業 ③公務員 ④教職 ⑤その他]</p> <p>なぜその分野でしたか</p>
3	<p>希望した分野の職種、企業、機関名、組織へ就職できましたか [①はい ②なんとか ③意識せず ④意に反して]</p> <p>その理由は</p>
4	<p>差し支えなければ、就職先の企業名、機関名、組織名などをお答えください () 所在地 ()</p>
5	<p>就職のさい、お世話になった方は [①大学就職課 ②愛大卒業生 ③先生 ④知人、友人 ⑤自力 ⑥就職先 ⑦ほか ()]</p>
6	<p>転職をされていれば、転職先をお答えください。</p> <p>①(会社名など) /業種: /所在地:</p> <p>②(会社名など) /業種: /所在地:</p>
7	<p>定年後、再就職されていれば、就職先をお答えください。</p> <p>①(会社名など) /業種: /所在地:</p>
8	<p>就職先では「愛知大学卒業」という経歴は、意識したことはありましたか [①はい ②少し ③特になし]</p> <p>その理由は</p>
E. 愛知大学卒業生として	
1	<p>愛知大学の設立主旨は、「世界平和と日本文化への寄与を根幹とし、国際的教養をもつ人材育成、地域社会文化への貢献」であり、さらに「知を愛する真理の探求」、湧き上がった「自由、受難」などが掲げられています。これらの大学の理念が、あなたにどのように反映されたかについてお教え下さい。</p>

2	(1)あなたは創成期に短期大学部（女子）の精神として揚げられた三つの「F」、「元気に Frisch」「自由に Frei」「明るく Froh」を知っていますか [①よく知っている ②少し知っている ③知らない]
	(2)それはあなたの人生にどのような影響をあたえましたか
	(3)現在でも、その精神は生きていますか [①はい ②いいえ]
3	愛知大学のルーツは上海にあった「東亜同文書院」にあり、そのため愛知大学は戦後旧制大学として設立認可されました。当初、書院生や他の学校からの編入、入学生も多数にのぼりました。あなたは、そのような愛知大学創設期の歴史を知っていましたか [①よく知っている ②少し知っている ③知らない]
	①②の方は、どのように知ったのですか
4	皆さんの在学中、あるいはその前後にいわゆる「愛大事件」があり、本間学長は最後まで学生の弁護に徹しました。この事件に対して、あなたは知っていますか [①よく知っている ②少し知っている ③知らない]
	①②の方は、どのように感じられましたか
5	かつて全国的に学園紛争があり、愛大でもありました。あなたは知っていますか [①よく知っている ②少し知っている ③知らない]
	①②の方は、あなたはそれをどう受け止めましたか。また、大学生活にどんな影響がありましたか
6	あなたは愛知大学の情報を何から得ていますか [①テレビ、新聞 ②大学のホームページ ③「愛大通信」 ④さまざまな会合 ⑤受験雑誌 ⑥同窓生 ⑦同窓会報 ⑧愛大新聞（豊橋、名古屋） ⑧ほか（ ）]
	7 愛知大学にどのような情報を期待しますか
8	あなたは同窓会（支部活動も）に参加していますか [①はい ②よく ③時々 ④いいえ]
	その理由。また、先輩や後輩とどのようなつながりがありましたか
9	同窓会の魅力をどのようにアップしたらよいとお考えですか。要望や提案があればご自由にご記入下さい
10	あなたは母校としての愛知大学に [①大変関心 ②多少関心 ③普通 ④あまり関心ない]
	どのようなことに関心があり、期待していますか。また後輩の学生に伝えたいことはありますか
11	人生をふりかえって、あなたは [①大いに満足 ②まずまず満足 ③普通 ④少し不満 ⑤大変不満足]
12	満足度と、愛大卒業生との関係は [①大いに関係 ②多少関係 ③普通 ④あまり関係ない ⑤全くない]
13	以上のほか、あなたの短大時代の印象的な思い出などがありましたら自由にご記入下さい

【愛知大学卒業生アンケート調査報告特集 (2)

「愛知大学創設期における（夜間）短期大学部二部、（夜間）法経学部二部、
女子短期大学卒業生の在学状況とその後の軌跡】

3. 愛知大学「夜間短大」「夜間学部」卒業生たちの 在学時代とその後の軌跡

愛知大学名誉教授（地理学）、愛知大学東亜同文書院大学記念センター元センター長 藤田 佳久

第1章 はじめに

すでに述べたように、愛知大学は1946年に「旧制愛知大学」として豊橋市に開学し、東亜同文書院大学からの引揚げ学生たちを主に、他の海外からの引揚げ学生、さらに戦災を受けた大都市の学生や、地元からの入学生も交えて予科3年、学部3年の計6学年が同時にスタートした。これはほかに例がなく、しかし、それだけに新大学とはいえ、愛知大学が既存の大学と変わらない体制が最初から組めたのは、実質的には東亜同文書院大学を継承するかたちを内蔵していたからである。入学時に1年生から始める新大学とは大きく異なっていた。したがって、学生だけでなく、教職員も完成した大学の規模でスタートした。

豊橋も名古屋もまだ戦災の傷跡が多く残る中で、学生たちも多くは寮生活とはいえ、腹をすかし物資不足の中で、停電の多い夜には豊橋駅まで歩いて出かけ、駅の電灯の下で勉学に励んだりした。そんな中で時間がたつにつれ戦後の新しい時代の中で、地元地域の中からも戦時中、勉学の機会を奪われた復員学徒や勤労学徒たちから、学びたい意欲が大学にも伝わり、前述のような大学側からの「夜間講座」が盛況になり、さ

らにその制度化、つまり夜間短大開設への動きとなっていった。こうして1947年9月には、夜間2年制の法学、経済、文学の別科また夜間1年制の高等科が地元の要望にも応えて開設されたが、1949年に新制大学制度が発足し、折しも国も短期大学をとりあえずは認定する方針を出してきたため、その翌年の1950年、愛知大学はそれを利用することができた。すなわち、「夜間短大」として豊橋に法経科と文科、そして名古屋には法経科が改組発展して設置された。それも、引揚げ大学としてすでに完成した組織ができており、そのような地元若者たちへの対応ができる状況にあったという点が大きかったといえよう。

ちなみに、その2年後の1952年のデータ（『愛知大学20年史』）によると、夜間短大の法経科の学生数は2年生が354人、1年生が458人で増加しており、定員を大きく上回る志願者があった。文科はそれぞれ22人と20人となっている。東海地方の学生の指向は経済や法律といった実利的分野が多く、文科のような非実利的と思われる分野は弱かった。ましてや戦後の貧しい時代の反映でもあったが、しかし、その流れは今日

でもこの地域全体としては変わらないように見える。しかし、その非実利の文学部を新制大学時に発足させた点は、画期的であり、「愛知」にふさわしく、特筆される。

このように、活況を帯びた「夜間短大」ではあるが、今回2020年、3月から春にかけて行ったアンケートでは、もう一つの学内の他の組織による別方法によるアンケートとダブったこと、それ以上に卒業生の高齢化（80～90歳代が多い）が進み、亡くなったり、記憶が不確かであったり、住所変更なども加わり、回答者数はかなり少なかった。アンケート実施が10年遅かったと反省した次第であった。しかし、そのような中で

も丁寧に回答を寄せてくれた方々は多く、1年後にも何通か届き、貴重な資料も寄贈していただくケースもあって、『愛知大学50年史』ではほとんど取り上げられていない「夜間短大」卒業生の軌跡が浮かび上がってきたことは、うれしい成果であった。結論的に先にいえば、愛知大学創設期をこの地域において大きく盛り上げ、大きな功績を上げた卒業生たちが多かったといえる。

なお、「夜間短大」生へのアンケート表も前段2で添付してた。

では、以下、アンケートに従って回答を見ていく。

第2章 豊橋校舎《夜間短大》「法経科二部」卒業生の場合

1. 生年と入学年、そして入学、出身校など

「夜間短大法経科」卒業生のうち、回答を寄せてくれたのは、当初の1950年（昭和25年）から1959年（昭和34年）までの前半期は27名、次いで1960（昭和35年）から1979年（昭和54年）までの後半期が32名の合計59名であった。その両グループについてそれぞれの出生年と入学年を示したのが、表2-1と表2-2である。まず表2-1の前半期を見ると、生年と入学年に間にはかなりばらつきがあり、例えば1953年入学の生年は昭和4年から同11年までと幅広く、戦後間もないこの時期には、様々な経歴の学徒たちが入学したことがわかり、愛大の「夜間短大」は、復員や勤労学徒たちの目指す学業の世界であったことがわかる。

したがって、世の中が落ち着いてくると、表2-2の後半期のように生年と入学年の間のばらつきは減少し、表中の左上から右下への帯状の分布があきらかになり、年齢による学校教育の規則性が浮かび上がっている。つまり入学生の年齢幅が狭くなり、同級生的感覚が生まれたということである。

では、どのようにこの「夜間短大」を知ったかということである。表2-3はそれを示した。その理由は入学年の古い方から示した前半期はかなり多様な理由があげられ、「至便」以外は、ほかからの勧めで知ったケースが多く、後半期は客観的な情報によるケースが多い。

表2-4はさらに突っ込んで、志望した理由である。前半期は志望理由の幅がかなり広く、それぞれ夢が語られている点に特徴がある。それに対して後半期は、無記、不明

が多く、時代の落ち着きの中で、当たり前の進学という意識になったということであろう。入学生の年代の差は、はっきり見られる。そこをもう一押しして、表2-5に「入学理由」を尋ねた。かなりばらつきがあるが、前半期は、表2-4と同じように短大自体を大きくとらえ、夢が語られているのに対して、後半期は就職先も意識した入学理由が示されている。新制大学も増え、経済も何とか動き始めたこの時期の中での現実味を帯びた入学理由だとみることができる。

では彼らはどの地区から入学したのであろうか。表2-6はかれらの出身地を示した豊橋校舎への夜学通学となるため、豊橋、豊川、新城などとその周辺市町村が多いが、後半期になるとさらにその周辺へも広がり、西三河や浜松周辺、名古屋にまで及んでいる。表2-7は、あわせて出身高校を示した。判明分だけではあるが、表2-6の地区の学校が示されている。普通科高校だけでなく実業高校の出身者も目立ち、幅広い学校から入学してきた点に、大きな特徴がみられ、人材の多様化が期待されたといえる。

2. 在学中の学業について

こうして入学した「夜間短大」での学業はどのような状況だったであろうか。表2-8はそれを示した。全体としては前半期と後半期ともに全体の4割が「学業は従」であったとし、前半期と後半期との間には差が見られない。ほとんどが仕事を持った勤労学生であり、学業はぎりぎりまで頑張っていたといえる。その一方で「学業に専念」や「どちらかといえば学業に重点を置いた」学生

の比率は 2.5 割ほどであったが、学業に目が開かれ、資格などへも挑戦している。もちろん、仕事に追われながらも学業を目指した学生もいた。

したがって、色々な学問に興味をもったのもそれらの表れであった。表 2-9 はその状況を示している。後半期は法律学への関心が高まっているが、とりわけ前半期には初めて学ぶ色々な学問に興味を持ち、その幅の広がったことがわかる。それまでの「夜間講座」の刺激の延長でもあったように思われるが、特に前半期は担当教員も旧制大学以来の著名で有力な教授が兼担で教壇に立っていたこともその理由であったと思われる。

それは表 2-10 の「印象に残った先生」の前半期の一覧からもわかる。後半期は担当の先生の名前よりも受講科目名が多くなっている。学生たちからは、前半期には大石、久曾神、小岩井、山本、細迫、上村教授らが人気であり、後半期は学長をやめ講義を担当するようになった本間が人気であった。科目への興味は本来的な姿であり、学生の関心の幅が広がっていたことを示している。その科目領域が広がっていたことも興味深い。

3. 教員との交流

次にこのような学問を深めるための教員との交流は、全体としては勤労学生ゆえの時間不足でその機会は少なかったという回答が多い中、表 2-11 のような交流事例も見られた。また図書館利用も同様であった(表 2-12)。

では、在学中の満足度は同であったのか。それを示したのが表 2-13 である。「大いに

満足」と「まずまず」の割合を見ると全体の 7 割を占め、その理由も学の世界を知った喜び、大学と学問を知ったこと、そして確かな友人ができたことなどがあげられている。後半期は「まずまず以上」は 5 割で前半期より少し低い、理由を見ると前半期より個別的な内容があげられている。時間不足や学園紛争の影響を除けばそれなりの満足をしていたことがうかがえる。

そして、この学びがその後の人生に与えた影響については、それぞれがそれに自信を持ち、就職も含め、人生を切り開いていったことがあげられている(表 2-14)。

4. クラブ、サークル活動

クラブ、サークル活動については、多くの回答が、勤務の関係で活動時間がえられなかったとし、無記入も多かった。そんな中でクラブに参加し、活動した回答もあった(表 2-15)。そこで、ここではそれらの回答例を紹介する。少ない例ではあるが文科系が多く、前半期では中国関係のクラブが並ぶ。本学に編入した東亜同文書院大学出身学生や書院大学の教授の影響もあったと思われる。

5. 就職状況

では、学生生活の中の就職状況はどのようであったのか。表 2-16 は夜間短大の在学中の就職活動について問うた回答である。多くの学生は就職活動を全くしていない。これは勤労学生としてすでに就職していたからである。中には、司法試験準備に集中していたためというケースもあり、実際、弁護士になったりしている。それとは別に当時は経済不況もあり、一般的には就職環境がかなり厳しい状況もあった。しかし、それを

認識しながらも平穏風であったのは、多くがすでに就職していたからである(表 2-17)。ただし、そのような中でも、希望職種はあった。それを示したのが表 2-18 である。中国系分野や弁護士のほか公的企業への希望が見られる(表 2-18)。

そのように若干の就職の検討機会も少ない。実際これは前半期も後半期も共通する。その就職先はどこであったのか。表 2-19 はそれを示している。それによると金融やメーカーはまだ少なく、手堅い公務員が圧倒的に多い。民間企業は経済成長が始まる後半期あたりからで、まだ卒業生の就職状況には反映していない。それでも就職活動をした卒業生が世話になった人たちもいた。就職課や指導教員など大学関係者たちだが、まだ主力ではなかった。その過半は学生の自力であり、夜間短大でのクリアが就職開拓への自信につながったとみることができる(表 2-20)。

こうして、この後の高度経済成長期を公務員などの堅実な職業で過ごせた卒業生も定年を迎えるが、公務員の場合、その後の職場も用意されるケースが多かった。ここでは判明分のみ表 2-21 に示した。

ところで、このような就職活動も通して、夜間短大卒業生の眼から見た場合の、愛知大卒業の一般学生も含め、他の大学卒業生と比較したときの特性があるかどうかについて問うた。それをまとめて示したのが表 2-22 である。「考えたことはない」、「個人差である」、「変わりない」、「意識しなかった」

「とくにない」などの回答とともに愛大生の特性がいくつか挙げられており、存在感を与えていた局面も伝わってくる。その「愛大生の特性」を正面から問うたのが表 2-22-

1 である。前半期は、「学業に仕事に熱心で、正義感にあふれ、愛大の歴史の誇りを感じていた」の諸回答があり、後半期は「まじめに好奇心もあり、じっくりと力強く地域と密着して取り組み、愛大を愛してる」という共通的な回答がみられることになり、愛知大学の歴史が生み出した愛大カラーあふれた愛大卒業生像というべきものといえる。

6. 愛知大学卒業生として

その愛大カラーの原点は、戦後の旧制愛知大学を創立するにあたって、その「設立趣意書」の中にあつた。そこでは戦後の国際関係の中で「世界平和と日本文化への寄与」を根幹とし、「国際人の養成」と「地域文化への貢献」がうたわれた。学生たちのこれに対する対応は表 2-23 に前半期と後半期の分をそれぞれ示した。両者とも設立趣意書には強く共感して反応していることがうかがわれる。それは諸教授たちの人格にまで触れることができたというように学生の思想や人生観にまで影響していたことがわかる。

旧制愛知大学が誕生してすぐの 1947 年 6 月に行われたほとんど東亜同文書院大学からの帰国学生が、大学の設立趣意書の「地域文化への貢献」をいち早く実現しようと主催して豊橋市民を巻き込んで行ったほぼ 1 週間にわたる市民との「文化交流祭」があつた。これは前述したように大盛況であつたが、その認知度を表 2-24 に示した。ここでは祭りの実施年次に近い前半期の学生のみを示した。回答者はほぼ全員が認知していた。これは夜間短大の例であるが、昼間部学生にも認知されており(前号参照)、この経験や認知がその後の盛大な「愛大祭」へ継承されたといえるだろう。

ところで、このような市民との積極的な文化交流祭りを中心に行った東亜同文書院出身編入生たちへの認知、交流はどうであったのか、を示したのが、表 2-24-1 である。それによると、多少でも知っているという回答が過半を占めている。その理由を見ると、後半期ほど、一部には書院からの編入生に直接会ったという回答もあるが、書院生を語る様々な言説が拡散しつつ、夜間短大生への耳へも入ってきたということである。それだけ、書院生の存在や関心が大きかったということであろう。

ところで、1952 年 5 月夜、2 人の警官が学内に潜入してきたのを学生が発見拘束したことから発生した「愛大事件」は、折からの朝鮮戦争に伴う米ソの冷戦下の強まる環境下であり、全国の大学で様々な動きがあった中で生じた。同様な事件が起こった東大や早大では拡大しなかったが、愛大では誕生したばかりの県警が揺さぶりをかけ、学生の逮捕者を出すまでに拡大した。開学してまだ新しい大学ゆえ、県警は愛大を軽く見たのであろう。しかし、折から最高裁の事務局長から愛大へ復帰した本間喜一学長は、学生の陳述を正しいと判断し、警察の行動を大学の自治介入として、それ以降、法廷闘争となり、最後まで学生を弁護した。この事件は戦前戦時、長らく軍国主義的統制に慣らされていた地域の社会には大きな衝撃として受け取られ、愛大を赤い大学として揶揄する風潮まであり、多くの尽力によって奇跡的に誕生した愛知大学にとっては不本意な風評となった。このような事件を体験して認知した当時の夜間大学生はこの事件をどうとらえたのかについて問うた。その回答を表 2-25 に示した。まずその認知度

を見ると、その事件発生に近かった前半期では、ほとんどが知っており、その理由も、臨場感がある回答となっている。それに対して後半期では知っている比率はほぼ半減し、事件が遠くなったせいか、その理由はやや部外者的な視点もみられる。全体的には、警察権力への不当性や大学の自治を指摘しており、学生の目は、当時センセーショナルに取り上げた新聞各紙などのメディアの報道とは大きく異なっている

また、その 17 年後、後半期生の在学時代の、昭和 40 年代には全国の大学で学園紛争が広がり、愛知大学ではそれまで安く抑えられていた授業料の値上げ問題に火がついて、学園紛争へ突入したことがあった。それについての認知と受け止め方について問うた。それを示したのが表 2-26 である。夜間部であったためとはいえ、認知度はそれなりにあるが、その受け止め方は、全体として冷静であった。

それにも関係して、次に愛知大学への関心度について問うた。表 2-27 はそれを示している。それによると「関心があまりない」という無関心学生はみられない。また「大変あり」と「多少あり」の合計は前半期は約 8 割、後半期は 6 割強を示し、前半期を中心に関心度は高い。その理由も見ると、前半期では、学びの場を提供してくれたことへの感謝が多く、働きながらも学べたことが関心の多くを占めている。後半期はさらに幅広い視点からの関心が見られ、F の「ふつう」という回答も関心が高いことを示している。

では、愛大情報をどこから得ているのかについてみてみると、表 2-28 のようである。前半期も後半期に大きな傾向差はみられず、最多は『同窓会報』、次いで『愛大通信』、「テ

レビ、新聞」が3大情報源になっている。大学のホームページがほとんど見られていないのは、今回の卒業生たちの高齢化と関係がありそうである。今後工夫すべき大学側の課題であろう。

これら情報源に関係して、期待したい情報を問うた。表2-29がそれである。個別的には分散して多様であるが、大学や同窓生の動きや活躍情報への期待であることは間違いない。

次は同窓会にかかわる件である。まず、同窓会への出席状況についてである。表2-30がその結果である。前半期、後半期とも何人かはよく出席し、終身会員になったり、仕事や趣味と絡めているケースも見られるが、大多数は出席できていないということである。これは、今日高齢化のためが多く、それに関係して友人や知人がいなくなったという理由も挙げられている。

ではこのような同窓会のみ魅力アップをどうしたらよいかについて問うたところ、表2-31のような色々な意見が出された。出席が思うに任せない同窓生も、内に秘めた思いがあるということだろう。それぞれ妥当な意見が開陳されているように思われる。ぜひ同窓会関係者でご検討くださればと思う。

では、こんにちの愛知大学をどのように見ておられるのかを問うてみた。表2-32はそれを示した。夜間短大として創設期の愛知大学を支えた前半期の方々の見方は、概してシャープである。こよなく「愛大愛」が強く伝わってくる。「もっと愛大よ頑張れ」ということであろう。後半期は評価もしながら、学んだ豊橋校舎の学部減に対するテコ入れの要望がかなり強い。

このような卒業生たちの後輩へ伝えたいことも尋ねた。それが2-33である。前半期では、学問に飢えた大学生活を反映してか、ここでもシャープな意見で、「学問をきちんとやりなさい」ということを伝え、後半期になると、さらに人生の過ごし方の指針を伝えようとしている。どの文言も蓄積した人生からの集約であり、重みがある。ぜひ後輩たちに伝えたいものである。

そして以上から、卒業生個々の人生の満足度と、それに愛知大学卒業とがどのようにかかわっているかをそれぞれ5段階で評価してもらい、相関図で示した。それが図2-1である。それぞれの人生をどう評価するのはむづかしいところもあり、主観だとそのばらつきは大きくなるということも踏まえて、この図を見ると、人生も愛大もそれぞれが「普通以上という分野」が大半を占めていることから、まずは両者ともプラスの関係にあったとみてよいだろう。図中左上の何人かは愛大に満足したわけではなかったが、長い人生では自力で頑張れたというケースである。また左下の分布はいずれも満足度が低かったということで、それがなぜであったかということも今後のために気になるところである。

また、最後にこの愛知大学から得たものを示してもらった。それを示したのが表2-34である。前半期は恵まれた教授陣、自由、他人への愛、そして認識の形成など学業、自由の重層性、人生の目的、認識形成など2年間の中で法学と経済学を幅広く学び、真摯に学問に取り組んだ情熱が伝わってくる。後半期については、前半期に比べ肩の力を抜いた形で学び、自信も得たことが伝わってくる。そのように学生たちが学んで得て

くれたことに、大学側も誇りを持ってよいだろう。そして回答のあった座右の銘(表 2-35)と個人の出版物(表 2-36)も掲げておく。座右の銘はこの夜間短大卒業生の総括のようにも見える。また、表 2-37 は、夜間短大時代の思い出、印象などの一覧である。回答者の方々の個々の印象深い記憶の断面ではあるが、それぞれの大学生活史が垣間見られ興味深い。

が、上司に頼み込んで17時前に退勤させてもらい、約1時間かけて豊橋校舎に通いました。豊橋駅からは部活動の「自動車部」が運行する「ガタビシ」の中古バスに1回10円で乗せてもらいました。大学までの道のりはほとんど田んぼでした。懐かしく思い出します。毎日18時から講義を2コマ受講。そこで切り上げないと、豊田まで帰れる電車がなくなってしまうんです。とにかく、仕事は退勤時刻に間に合うよう頑張る。そして勉強も限られた時間内で頑張る。いい経験になったと思いますね。

条例づくりに生かされた 愛知大学での学び

愛知大学で学んだ「行政学」が公務員の仕事に役立ったことは言うまでもありませんが、一つひとつの講義よりもむしろ、大学ならではの学び方を経験したことが、その後の仕事に生きたと思います。行政機関は法律を執行するわけですが、地方公共団体はこれに加えて「立法」の機能も備えています。「条例」といって、法律の範囲内でしか制定できませんが、この条例を市役所では頻繁につくりまします。そこでは、課題を分析して解決の方向を検討し、どのような条例が必要かを論理的に考える、というプロセスがあります。これらを遂行する上で、愛知大学で勉強した経験が役立ちました。その意味で、無駄になった授業は一つもありません。
残念なのは、大学に2年間しか通えなかった

こと。2年生になる直前に秘書課への異動が決まり、市長秘書を命じられました。市長秘書ともなれば夜間や休日の勤務も少なくありませんから、とてもじゃないが通えない。このときもまた頼み込んで1年間だけ代理の方に立っていただき、何とか2年間通わせてもらって、短大卒ということになりました。3年次からのゼミナールや卒業研究も楽しみにしていたのですが……、これは今も心残りですね。

職員として市長として 市民に寄り添った仕事を

市長秘書は26歳から9年間にわたって担当しました。市長自ら現場へ出かけ、課題を聞き出して方針を出す様を見て学びました。市長が現場の声、市民の声を聞くことすればどうしても夜間が多くなります。私も帰宅が遅くなり家族にも負担をかけたことが、得たのも大きかったですね。トップが現場を知らなければ部下任せになってしまう、市民のためになる政策を打ち出すことはできません。自分が部下を使うようになったとき、そして市長を務めたとき、この経験が役に立ちました。

市長時代に力を入れたのは安全安心のまちづくり。市町村合併で続いた旧稲武町と旧豊田市を結び伊勢神トンネルが、悪天候時に雨量規制がかかって救急車も通れなくなる問題では、当時の民主党政権による「事業仕分け」と戦いながら、着工にこぎ着け

ました。この他、2005年の愛知万博では会場誘致に東奔西走したことが記憶に残っています。

3期市長を務め、4選出馬は辞退しました。10年以上もトップの座にいと、人の使い方に問題が出るようになります。職員を能力で色分けし、ときには排除したりするように。地方公共団体の長というのは大統領と同じで、人を動かす権限も持っていますから、長く務めると弊害の方が大きくなり市民のためにならない。あくまでも公平・公正であるべきだと——私の名前も「公平」ですのでね——早い段階で4選不出馬を議会にお伝えし、次世代にバトンを渡すことにしました。

職場での関係を越えて

同窓生のつながりは広がる

愛大で良かったことをもう一つ挙げれば、たくさんの先輩や後輩たちに囲まれて、多様な経験ができたということですね。仕事の面でも生き方の面でも、色濃く影響を受けていると今も感じます。市長時代には若い同窓生に集まってもらい、「君たちどう思う?」なんてこともよくやりました。

豊田市役所には愛大出身者が多いんですよ。国立大学や関東の私大出身者もたくさんいますが、横の連携が一番取れているのが愛大ではないでしょうか。在職中、同窓生が100名ぐらいになった頃に、「愛大会」という職場の同窓会を作りました。これは今も続い

ていて、私も年に2度ほど会合に呼んでもらっています。とてもいい雰囲気ですね。職場の上下関係に関わらず自由闊達なコミュニケーションができ、それがひいては職場の活性化にもつながります。同じ大学で学んだ者同士、「君も愛大か!」のひと言ですぐにつながることができ、話題がどんどん広がっていく。いいじゃないですか。この恵まれたコミュニティに、若い方々もぜひ積極的に関わってほしいですね。

本記事は、愛知大学東亜同文書院大学記念センターが実施している卒業生アンケート調査「愛知大学創設期における卒業生の在学状況とその後軌跡」にご回答いただいた鈴木公平様のインタビューの記録です。



聞き手の藤田佳久名誉教授・元本学東亜同文書院大学記念センター長とともに。



愛大人

AIDAI-BITO

鈴木公平氏

元豊田市長

たくさんさんの愛大同窓生に囲まれて
多様な経験を積んだことが財産に

時間と戦いながら 豊橋校舎に通った日々

豊田市役所に勤めながら愛知大学に通うことに決めた元々の動機は、家庭の事情で全日制高校に通えなかったことでした。中学を卒業して入職したものの、勉強したいという思いは断ちがたく、中学の恩師に相談すると、「思い立ったときに好機運くはない」と励まされ、入職2年後に旭丘高校の通信制に入学しました。しかし、通信制の高校を卒業するには相当の熱意と努力が必要です。郵便による添削指導が中心ですから、どうしても解決できない疑問が出てきますね。そこで通信

制で学ぶ西三河の高校生たち呼びかけ、定期勉強会を主催しました。地元高校の先生方にボランティア講師をお願いし、会場は閉館後の公立図書館をお借りして、みんな熱心に勉強しましたね。この経験が、「さらに上の学校に進みたい」という意欲につながりました。

法律を学ぼうと考えたのは、仕事に生かしたかったからです。地方公務員が自分の一生の仕事と想っていましたから、今は制度が変わりましたが、当時の私の職場は採用時点の学歴がずつとついて回るものでした。入職後に大学を卒業しても、給料には跳ね返らない笑。ただ「学びたい」という気持だけが進学の理由でした。職場の終業時刻は17時15分でした

鈴木 公平(すずき こうへい)

1954年高橋村(現豊田市)役場に入職。働きながら愛知県立旭丘高等学校通信課程を卒業。1965年愛知大学短期大学部法経科第2部を卒業。秘書課長、総務部長などを経て、1992年豊田市助役。2000年第7代豊田市長に就任。周辺6町村との合併、「とよたecoful town」建設などに尽力。2012年の任期満了まで3期12年間にわたり市政運営を指揮した。また、財団法人2005年日本国際博覧会協会副会長を務めた。2013年に旭日中級卒受章。

【愛大人】

愛大人と書いて「あいだいびと」。
愛知大学に関わるすべての人が愛大人です。

夜間：豊橋短大法経二部

2-1

【夜間】豊橋短大法経科第二部									
(調査対象：昭和27年～34年卒,1952～1959)									
入学年 生年	S25	S26	S27	S28	S29	S30	S31	不明	計
	1950	1951	1952	1953	1954	1955	1956		
昭和2年								1	1
昭和3年									0
昭和4年				1					1
昭和5年									0
昭和6年		1	1		1	1		1	5
昭和7年	1			2	1				4
昭和8年			1	1	1				3
昭和9年				2	1		1		4
昭和10年				1		1	1	1	4
昭和11年				1		1	1	1	4
昭和12年									0
不明								1	1
計	1	1	2	8	4	3	3	5	27

2-2

【夜間】豊橋短大法経科第二部 (調査対象：昭和35～54年卒,1960～1979)																							
入学年 生年	S35	S36	S37	S38	S39	S40	S41	S42	S43	S44	S45	S46	S47	S48	S49	S50	S51	S52	S53	S54	不明	計	
	1960	1961	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971	1972	1973	1974	1975	1976	1977	1978	1979			
昭和10年					1																		1
昭和11年																							0
昭和12年	1	1																				1	3
昭和13年				1																			1
昭和14年			1	1																		1	3
昭和15年																							0
昭和16年		1				1																	2
昭和17年				1		2																	3
昭和18年				2																			2
昭和19年																							0
昭和20年																							0
昭和21年						1			2													2	5
昭和22年																							0
昭和23年																						1	1
昭和24年									3														3
昭和25年													1									2	3
昭和26年																						2	2
昭和27年										1	1												2
昭和28年																						1	1
昭和29年																							0
不明																							0
計	1	2	1	5	1	4	0	0	5	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	9	32

2-3

表 本学夜間短大を知った理由				
理由	【豊橋】	①昭和27 ～34年卒	②昭和35 ～54年卒	計
	通学至近・至便		3	
卒業生から		1		1
広告をみて		1		1
有名だったから		2		2
高校教員から		2	1	3
友人・先輩から		2	4	6
創立から知っていた		2		2
地元にあるから		1		1
バイト先情報から		1		1
勤務先		1	1	2
兄が卒業生		1		1
自然に知った		1		1
何となく		1		1
中国から帰国した大学			1	1
新聞から			2	2
愛大の先輩から			3	3
職場の同僚から			1	1
東三河唯一の夜学			1	1
自分で調べた			1	1
資料を取り寄せた				0
不明		8	15	23
合計		27	32	59

2-4

表 本学夜間短大の志望理由				
※複数回答あり				
志望理由	【豊橋】	①昭和27 ～34年卒	②昭和35 ～54年卒	計
	至近		5	
世界観をつくりたい		1		1
帰国学生受け入れPR		1		1
有名な大学だから		1		1
良い大学だと思った		1		1
働きながら学べるから		2	1	3
学びたい一心から		3	2	5
会計学で力をつけたい		1		1
有名な教授が多い		3		3
書院を知っていた		1		1
経済を学びたい		2		2
久曾神次兄のすすめ		1		1
職場に卒業生がいた		1		1
未知の世界を知りたい		1		1
職場の同僚から		1		1
高校も夜間で慣れあり		1		1
帰国した書院大学を			1	1
勤務先の理解			1	1
先輩のすすめ			1	1
法学・経済学を学びたい			1	1
不明		4	25	29
合計		30	32	62

夜間：豊橋短大法経二部

2-5

※複数回答あり			
入学理由	【豊橋】 ①昭和27 ~34年卒	②昭和35 ~54年卒	計
学校で学びたい	5	3	8
世界観づくり	1		1
リベラリストになりたい	1		1
帰国学生受入れ	1		1
働きながら学べるから	2	4	6
良い大学だ	1		1
至近・至便	2		2
資格をとりたい	2	1	3
著名教授へ期待	2		2
経済学を学びたい	1	1	2
家業に役立つ経営・経済学を	1		1
社会人としての知を得たい	1	1	2
久曾神先生の授業を	1		1
勤務先だから	1		1
高校の挽回を		1	1
向学心、さらなる学びを		3	3
伝統ある学風を		1	1
法律知識を学びたい		2	2
就職先のすすめ		1	1
大学で司書になりたい		1	1
会計学を学びたい		1	1
地元の大学だから		1	1
女性も学びたい		1	1
高校教師のすすめ		1	1
大学で色々調べたい		1	1
何となく		1	1
不明	5	7	12
合計	27	32	59

2-8

※回答者のみ集計、複数回答あり				
比重	【豊橋】 ①昭和27 ~34年卒	②昭和35 ~54年卒	計	主な理由
1.学業が主	4	4	8	勉学に専念
2.どちらかといえば学業	3	3	6	学業の余裕、学業明解が面白い
3.学業はまずまず	8	8	16	昼仕事に7割
4.学業は従	10	15	25	昼間の勤務が大
合計	25	30	55	

2-6

出身地	【豊橋】 ①昭和27 ~34年卒	②昭和35 ~54年卒	計
幸田		1	0
豊橋	10	5	15
名古屋	1	1	2
岡崎	2	1	3
豊川	3	5	8
刈谷	1		1
渥美	1		1
雄踏	1		1
三河一宮	1		1
蒲郡	2	3	5
新城	1	3	4
田原	1	2	3
碧南		1	1
浜松		2	2
西尾		1	1
豊田		1	1
御津		3	3
吉良		1	1
幡豆		1	1
員弁・大安		1	1
作手		1	1
不明	2		2
合計	27	32	59

2-7

出身校	昭和27~34年卒 1952~1959	昭和35年~54年卒 1960~1979	計
愛知大学予科	2		2
大学入学資格検定	2		2
豊橋工業高	2	1	3
豊橋工業高(夜間)	1		1
豊橋東高校	2		2
豊橋商業高	2		2
豊橋市立高	1	1	2
豊橋市立高(夜間)	1	1	2
時習館高		1	1
桜ヶ丘高		2	2
岡崎工業高	1		1
岡崎市立商業高	1	1	2
岡崎北高	1	1	2
岡崎養護学校高等部		1	1
豊川高	1		1
国府高		5	5
新城高校	2	3	5
新城女	1		1
蒲郡高	1	1	2
成章高	1		1
名古屋市立中央高		1	1
旭丘高		1	1
旭丘高(通信)		1	1
碧南高(定)		1	1
一色高(定)		1	1
安城農林高等学校		1	1
西尾高		1	1
三重県立員弁高		1	1
浜松商業高		1	1
気賀高		1	1
誠心高(浜松)		1	1
長野県飯田長姫高		1	1
大阪府立佐野工業高		1	1
不明	5	1	6
計	27	32	59

夜間：豊橋短大法経二部

2-9

表 本学夜間短大で興味を持った分野

※回答者のみ集計、複数回答あり

分野	【豊橋】	①昭和27 ~34年卒	②昭和35 ~54年卒	計
経営学		2		2
本間先生の商法		1		1
法律学・全般		1	8	9
全ての授業		1		1
資本論		1		1
中国語		2	1	3
中国系科目		1		1
哲学・経済学・法学		1		1
民法(黒木)		1		1
日曜の体育楽しむ		1		1
簿記・経営学		1	1	2
小岩井・黒木・山本		1		1
社会学(細迫)		1	1	2
経済学		1	1	2
行政法		1		1
経営学(大石)		1		1
友との語らい		1		1
論理学			1	1
体育		1	1	2
司書科目			1	1
統計学			1	1
哲学			1	1
ゼミ・演習			1	1
合計		20	18	38

2-10

表 本学夜間短大で印象に残った先生と分野

※回答者のみ集計、複数回答あり

先生・分野	【豊橋】	①昭和27~ 34年卒	②昭和35~ 54年卒	計
大石(面白)		4		4
胡麻本		1		1
久曾神(日文)		3		3
川合		1		1
鈴木沢		1		1
岡野		1		1
小岩井(授業,講和)		3		3
山本二三丸		3		3
長谷川雄一		2		2
酒井吉栄		1		1
細迫朝夫		3		3
大須賀		1		1
上村千一郎		2	2	4
本間喜一			3	3
佐藤			1	1
今泉			1	1
浅井			1	1
長沢(司書)			1	1
宮崎(労働法)			1	1
金丸			1	1
大内			1	1
玉井			1	1
松葉			1	1
司書関係			1	1
教職関係			1	1
近代経済学			1	1
計量経済学			1	1
社会学			1	1
倫理学			1	1
簿記・会計			1	1
ドイツ語			1	1
心理学			1	1
哲学			1	1
合計		26	24	50

2-11

表 本学夜間短大生の先生との交流

交流内容	【豊橋】	①昭和27 ~34年卒	②昭和35 ~54年卒
鈴木拓郎先生による中国語研究会		1	
論文のまとめ方の指導		1	
色々な先生に教えを受けた(幸せ)		1	
大学「山の家」で合宿			1
忘年会			1
津之地教授のアドバイス			1
ハイキング			1
忘れてしまった		多数	多数

2-12

表 本学夜間短大 図書館利用

利用状況	【豊橋】	①昭和27 ~34年卒	②昭和35 ~54年卒
時々利用した		2	2
大石先生推薦「科学的管理法」(byテイラー)読む		3	
利用した		1	
レポート作成時に利用		1	
新聞を毎日見た		1	
試験前利用			1
時間不足でなかなか利用できず		多数	多数
忘れてしまった		多数	多数

夜間：豊橋短大法経二部

2-13

		※回答者のみ集計	
満足度	【豊橋】	①昭和27～34年卒	理由
1.大いに満足		2	・自分で書物から学んだ ・数多くの友人が出来た ・未知の世界を知った
2.まずまず		8	・他の勤労学生との交流 ・学の本質を教えてもらった ・色々な業種の人たちと交流 ・友人ができた ・「大学」とはこういうところだと ・こうして現在がある
3.まあまあ		3	
4.あまり満足せず		1	・時間不足
満足度	【豊橋】	②昭和35～54年卒	理由
1.大いに満足		4	・先生や事務職員に大切にしてもらった ・多くの知識を得た ・課題を持続的に研究できた ・学生食堂の利用
2.まずまず		8	・大学の雰囲気を楽しめた ・仲間ができた ・クラス仲間と交流
3.まあまあ		10	・大卒資格を得た ・教養が身についた ・時間制約と通学も大変 ・友人が多かった
4.あまり満足せず		2	・学園紛争の影響があった ・時間不足

2-15

				※回答者のみ集計			
				【参加レベル：①よく参加した ②まずまず ③あまり参加しなかった】			
【豊橋】		①昭和27～34年卒		②昭和35～54年卒			
加入サークル名	参加レベル	活動内容	参加	参加レベル	活動内容	参加	活動内容
卓球	2		1				
中国語研究会	2	語劇	1				
	3	中国語学	1				
中国研究会	1	中国問題研究	1				
		中国友好協会へ積極的に参加	1				
コーラス	—	—	1				
生徒会	—	—	1				
記入なし	3	中国語学	1				
		もっぱら安保闘争	1				
		そんな元気なし	1				
		通学だけで精一杯	1				
		時間がとれない	1				
【豊橋】		②昭和35～54年卒					
加入サークル名	参加レベル	活動内容	活動内容				
新聞部	3	クラブが運くなるので	1				
ワングル	1	同一高卒の女子学生に誘われて	1				
社交ダンス	1	愛大祭へも参加	1				
アジア文化研究会	1	交流の場であった	1				
哲学研究会	1	—	1				
記入なし	3	安保闘争で	1				
	3	夜間は時間なし	2				
	3	そんな元気なし	1				

2-14

		※回答者のみ集計	
影響レベル	【豊橋】	①昭和27～34年卒	理由
1.大いに影響		9	・銀行員になれた ・テイラーの情報理論の本は自分の基礎となった ・給与アップ、役職アップへ ・大学の誇りと自分の自信へ ・労働管理ができるようになった ・自分は商売に向かないことがわかり、農業経営で成功。50人雇用 ・学友、先輩との情報交換が可能になった ・愛大卒生の教えて、東海4県転任試験で1位になった。 ・色々な資格を取得
2.まずまず		5	・時間を大切にする ・中国語のレベルアップ
3.まあまあ		4	・中国語のレベルアップ
4.あまり		—	
影響レベル	【豊橋】	②昭和35～54年卒	理由
1.大いに影響		7	・県の事務役に役立った ・20代後半、職場で昇進 ・法的社会活動の原点考える ・保護士として21年間勤め、法務大臣より表彰 ・県警上級合格、さらに検察庁へ ・幅ができた ・自分だけの収入で自立化 ・やり抜く力を得た ・学びがつづいた ・調べることが出来るようになった ・友人と互いに育った
2.まずまず		7	・国家公務員の基礎を得た ・職場内コンピューター関係へ ・社会の基礎知識を学んだ ・司書や教員免許がとれた ・人間形成ができた
3.まあまあ		6	・色々学べた
4.あまり満足せず		3	・人事考課で短大卒が評価されない

夜間：豊橋短大法経二部

2-16

※回答者のみ集計					
活動状況	【豊橋】	①昭和27 ~34年卒	②昭和35 ~54年卒	計	主な理由
1.かなり積極的		2	1	3	
2.やや積極的		4	1	5	
3.ふつう		2	2	4	
4.あまりしなかった		3	2	5	
5.全くしなかった		16	22	38	司法試験,国家試験,4年制編入 ※大多数はすでに就職
合計		27	28	55	

2-17

※回答者のみ集計				
環境レベル	【豊橋】	①昭和27 ~34年卒	②昭和35 ~54年卒	計
1.かなり厳しい		3	0	3
2.やや厳しい		3	2	5
3.ふつう		5	5	10
4.あまり厳しくない		0	0	0
5.全く厳しくない		2	2	4
合計		13	9	22

2-18

※回答者のみ集計				
分野	【豊橋】	①昭和27 ~34年卒	②昭和35 ~54年卒	計
中国系		1		1
弁護士		1		1
すでに国公職		1		1
父が決定		1		1
郵政研修生		1		1
国税局			1	1
電々公社			1	1
すでに決定			1	1
会計事務所			1	1
合計		5	4	9

2-19

※回答者のみ集計				
就職先	【豊橋】	①昭和27 ~34年卒	②昭和35 ~54年卒	計
中央相互銀行		1		1
日本通運豊橋支店		1		1
東栄中学校		1		1
東海銀行		2		2
弁護士		1		1
豊橋公共就職安定所		1		1
津田工業		1		1
税務署		1		1
豊橋市役所		1		1
愛知・八楽事務所		1		1
郵便局		1	2	3
愛知県企業庁		1		1
トビー工業		1		1
東京国税庁税務大学校			1	1
静岡県鷲津事務所			1	1
日工産業			1	1
大阪府警察			1	1
愛知県庁			1	1
県警本部			1	1
中部電力			1	1
石橋会計事務所			1	1
小坂井町役場			1	1
興和コンクリート			1	1
現JP			1	1
建設業			1	1
合計		14	14	28

2-20

※回答者のみ集計				
	【豊橋】	①昭和27 ~34年卒	②昭和35 ~54年卒	計
1.大学就職課		1		1
2.愛大卒業生		2	1	3
3.知人、友人、先生		1	1	2
4.自力		3	5	8
5.就職先				0
6.ほか(親)		1		1
合計		8	7	15

夜間：豊橋短大法経二部

2-21

表 定年後の就職先			
※回答者のみ集計			
就職先	【豊橋】 ①昭和27 ～34年卒	②昭和35 ～54年卒	計
本郷高校・講師	1		1
金融関係	1		1
スポーツ関係協会	1		1
愛知県都市整備協会	1		1
ミリオンカードサービス	1		1
理容専門学校		1	1
シルバー人材センター		1	1
マサル工業（通信材メカ）		1	1
東京海上火災		1	1
豊緑化技研		1	1
司法書士		1	1
郵便局		1	1
シーテック		1	1
合計	5	8	13

2-23

表 愛大設立趣意書への反応	
※回答者のみ集計	
【豊橋】①昭和27～34年卒	
愛大は生きてゆく。友よ今も自由・受難の鐘は鳴り、学生に響いているか	1
理論、歴史、哲学を学べてよかった	1
平和憲法を守る地域活動に協力している	1
中国の世界に対する地位	1
その通りである	1
趣旨はいつも頭のなかにある。従業員のバイオニアとして頑張った	1
感謝はしている	1
憧れの諸教授の人格にふれ、その思想、人生観が私の生涯の思想人生観の基になった	
自分自信の生涯にすべて反映している	1
【豊橋】②昭和35～54年卒	
夜間大学で「耐える・努力」の力となった	1
これからも関心を持ちたい	1
地域社会貢献に努力してきた	1
ルーツを思い、世界平和を思った	1
基礎力を身につけた	1
国際教養の英語を身につけ、ボランティアも	1
「知を愛す 心理の探求精神」を具体化し、県初の副検事合格	1
不屈の精神醸成	1
社会生活では「怒」の心を大切に。会社で多くの友人を得た	1
民生委、保護司、人権擁護員を担当した	1
夜学と勤労に苦勞し両立	1
夜学への入学のしやすさと、向上する大学だといわれた	1
夜学に扇を開いてくれ、それに答えようとしてきた	1
とくに反映しなかった	1
関心はなかった	2

2-22

表 愛大卒生を他大学と比較				
※回答者のみ集計				
特性	【豊橋】 ①昭和27 ～34年卒	②昭和35 ～54年卒	計	
考えたことはない		2	1	3
理論がよくできる		1		1
個人差あり、何とも言えぬ		1		1
夜学で学び、自信をもった		1		1
①愛大②名城③南山の順に大事にされた		1		1
地元大学として評価された		1		1
地味ながら粘りしと圧力		1		1
優秀である			1	1
変わらない			2	2
意識しなかった			1	1
存在感があった			1	1
公務員が多い			1	1
誇り高い			1	1
地域の密着性			1	1
常識的まじめに取り組む			1	1
とくにはない			1	1
合計	8	11	19	

2-22-1

表 愛大卒業生の特性	
※回答者のみ集計	
【豊橋】①昭和27～34年卒	
比較したことはない	1
物事を正しく見る	1
同窓意識あり	1
勉強しないと差は大	1
会社方針に前向き	1
残業も含め頑張る	1
十分力を持つが、表に出さない	1
永い歴史の愛大に誇り	1
【豊橋】②昭和35～54年卒	
愛大を愛している	1
真面目、研究心あり	1
まじめ	2
団結力	1
力強い	1
地域との密着性	1
じっくり物事に取組む	1
とくにない	1

2-24

表 愛大創設時の愛大生が企画した		
市民との文化交流祭		
※回答者のみ集計		
レベル	【豊橋】	①昭和27 ～34年卒
1.よく知っている	A	1
2.少し知っている		8
3.知らない		
計		9
《表中のA理由》		
・市公会堂でコーラスをはじめ沢山のイベントが行われた		

夜間：豊橋短大法経二部

2-24-1

表		書院生との交流		
※回答者のみ集計				
レベル	【豊橋】	①昭和27 ～34年卒	②昭和35 ～54年卒	計
1.よく知っている		0	B 5	5
2.少し知っている	A	3	C 15	18
3.知らない		12	7	19
	合計	15	27	42

《表中のA理由》		《表中のC理由》	
・帰国学生が夜間部にもいた	1	・本間学長の講和で	1
・豊橋復興土木で共に働いた岡崎師範性とは違っていた	1	・会計士も誕生したという情報	1
・中国語勉強会で知り合った	1	・優秀な各県卒業生	1
・学部編入先で	1	・在学中の会報で	1
		・職場の先輩から	2
《表中のB理由》		・戦時中に陸軍にいたと（学徒出陣）	1
・書院生が親戚にいた	1	・周囲の方々から聞いた	1
・各種案内や教授から	1	・同窓会報から	1
・歴史散歩で訪問	1	・広報誌から	1
		・パンフより	1
		・大学食堂で会った	1
		・名簿から	1
		・同窓会報と市広報から	1

2-25

表		「愛大事件」の認知		
※回答者のみ集計				
レベル	【豊橋】	①昭和27 ～34年卒	②昭和35 ～54年卒	計
1.よく知っている	A	10	C 3	13
2.少し知っている	B	11	D 11	22
3.知らない		2	E 11	13
	合計	23	25	48

《表中のA理由》	《表中のB理由》	表中のC理由
・新聞や警察は真実を語らぬことを知った	・夜間授業中に警官が学内に入ってきて大変な騒ぎになった	・ブレない精神を通す
・警察権の濫用に対して本間先生の「自由」と弁護は心に残った。しかし、世間は厳しかった面も	・警察の不当介入だと思う	・交番警察をつるし上げてても意味なし。公安警察ではない
・学生時代、学内に警察官をよく見た	・感心して見ていた	《表中のD理由》
・警察の不当な行為であり、裁判に納得できない	・偏向があった	・本間教授への憧れ
・バイト現場に居た学生が証人に呼ばれて検事とやりあったので	・本間学長の熱意、東大ポボロ事件と同じだ	・当時の世相のあらわれ
・当時の時代を感じる	・マスコミを通じて知ったが、権力者は先進的なものには口実をつくり侵入してくることを知っていた	・進歩的な大学だったとの印象
	・生家近くの下宿で愛大生2人が刑事2人に連行された	・影響はない
		・学長が正しいと思う
		《表中のE理由》
		・薬師の方が印象強い

夜間：豊橋短大法経二部

2-26

表 学園紛争の認知と受け止め方				
※回答者のみ集計				
レベル	【豊橋】	①昭和27 ~34年卒	②昭和35 ~54年卒	計
1.よく知っている			A 4	4
2.少し知っている			B 5	5
3.知らない			1	1
合計			10	10
《受けとめ方 表中のA》				
・違和感があった				
・接点がなかった				
・学生も同様にモノが言えるようになったが、まだ中途半端であった				
・一部の学生だけで関心なし。それによる休講が残念であった				
《受けとめ方 表中のB》				
・夜間部のため無関係だった				
・登校するとき。少し怖かった				

2-27

表 母校愛大への関心					
※回答者のみ集計					
レベル	【豊橋】	①昭和27 ~34年卒	②昭和35 ~54年卒	計	
1.大変関心あり	A	8	D 5	13	
2.多少あり	B	7	E 11	18	
3.ふつう	C	4	F 9	13	
4.あまりない		0	0	0	
合計		19	25	44	
《表中のA理由》		《表中C理由》		《表中F理由》	
・空襲と敗戦で焼け出された中で学べる夜間開設で希望を抱いた	1	・身近な存在	1	・卒業後25年経過したが関心あり	1
・偏差値アップはコンピュータの役	1	《表中D理由》		・夜学として社会貢献している	1
・常に革新的なものへ進もうとする精神が大切である	1	・地域から愛されている	1	・メディアに載る時	1
・母校だから益々の発展を期待	1	・創設者の努力に敬意	1	・かなり愛大夜間時代は厳しかったが、その後は別の世界のような	1
・大変お世話になった	1	・娘も愛大でお世話になった	1	・色々学部が移動したこと	1
		・活躍しているから	1	・卒業後、友人たちと母校を訪問していた	1
《表中B理由》		《表中E理由》			
・大学祭には構内を歩き、記念館も見ている	1	・同窓会の支部活動に従事	2		
・地元大学への愛着	1	・夜間部で学べたゆえ	1		
・郷土豊橋での学術文化の拠点としての思い	1	・沢山の同窓生がいる	1		
・豊橋での2年間で学できたこと	1	・勤め先が市内にあるため関心あり	1		
		・無事卒業できたから	1		
		・地元の大学で、就職も地元でできる	1		
		・卒業後も益々発展しているから	1		
		・今迄通りでよい	1		

夜間：豊橋短大法経二部

2-28

表 愛大情報の入手先				
※回答者のみ集計、複数回答あり				
入手先	【豊橋】	①昭和27 ～34年卒	②昭和35 ～54年卒	計
1.テレビ,新聞		4	8	12
2.大学ホームページ		1	0	1
3.愛大通信		8	12	20
4.会合		1	1	2
5.受験雑誌		0	0	0
6.同窓生		1	2	3
7.同窓会報		11	16	27
8.愛大新聞(豊,名)		0	1	1
9.その他		0	0	0
不明		10	5	15
合計		36	45	81

2-29

表 愛大への期待情報	
※回答者のみ集計	
【豊橋】①昭和27～34年卒	
東海地方の人的資源になっている情報を	1
就職,スポーツ,司法試験,地域貢献情報を	1
大学の活動状況	1
現状で良い	1
情報はもう不要	1
合計	5
【豊橋】②昭和35～54年卒	
同窓生の活動	1
各分野での活動情報	1
情報発信を	1
合計	3

2-30

表 同窓会への出欠状況				
※回答者のみ集計				
レベル	【豊橋】	①昭和27 ～34年卒	②昭和35 ～54年卒	計
1.はい	A	2	D	3
2.よく		0		0
3.時々	B	1	E	1
4.いいえ	C	13	F	13
合計		16		17
《表中A理由》				
・終身会員になった				1
・若い時代のなつかしさ				1
・母校の発展状況を知りたい				1
《表中B理由》				
・気持ちは十分あるが高齢のため				2
《表中C理由》				
・もう知人がいなくなった				1
・夜間2年を4年制化する運動で実現				1
・必要がなくなった(高齢)				1
・時間余裕なし				1
・高齢化と自営多忙				1
・以前はよく参加したが				1
・身体に不都合				2
・誘ってくれる人、友人もいなくなった				2
《表中D理由》				
・日常的つながりあり				1
・趣味を活かし社会活動				1
・自分の仕事にもつなげる				1
《表中E理由》				
				-
《表中F理由》				
・高齢化				2
・つながりなくなった				2

2-31

表 同窓会の魅力アップ法は	
※回答者のみ集計	
【豊橋】①昭和27～34年卒	
・地域の中で活動できる会であれ	
・卒業時、終身会費を納めた。それを広く	
・2部の卒生をどう支部へ集めるか	
・現役世代の参加を	
・毎年、支部会員を表彰したら	
・在学3～4年生へ同窓会のPRを	
・金儲けや出世欲をもち、自由、受難の鐘を鳴らせ	
・在校生に愛校心を	
・スポーツ振興、低学力生を入れない	
【豊橋】②昭和35～54年卒	
・地域の中で活動できる会	
・卒業時に終身会費納入のすすめ	
・2部卒生を支部へ集める工夫を	
・現役世代の参加を	
・卒業生を毎年顕彰する	
・在学生へのPRを	
・広く同窓生に門戸を広げる工夫を	
・就職先情報を共有化	
・大学情報を伝える	
・有名人を会へ招く	

夜間：豊橋短大法経二部

2-32

表 愛大をどう見る一及び提案	【豊橋】②昭和35～54年卒
※回答者のみ集計	・すばらしい成長、さらに地域活動を
【豊橋】①昭和27～34年卒	・りっぱな校舎になり、頼もしい
・講演会は時々あるが、その方向性が見えない	・40～50年前の卒業生は現在以上に社会活動をした
・学生もふえ、頑張っているようにみえる	・意識してみている
・大学設立時の趣旨を大切に、特色ある大学へ	・主要学部が名古屋へ移り、豊橋校舎にテコ入れを
・もっと勉強に意欲を	・東京では愛大卒をなかなか見かけな
・中国語にもっと特化して特色を	・豊橋キャンパスの学部減で淋しい。テコ入れを
・名古屋偏重になりすぎている	・夜学を残して欲しい
・「旧制大学」にもっと表に出すべき	
・開学時とは随分変わってしまった	

2-33

表 後輩に伝えたい事
※回答者のみ集計
【豊橋】①昭和27～34年卒
・1960年代の経済成長で人間は間が抜けた生き物になった。苦勞しても哲学と理論（ワルラス）を学べ。変化に対応できる
・がんばれ（加油）
・法学部生は司法に関心を
・学びの中にボランティア精神を
・学歴だけでなく、もっと学業に意欲を
・中国語と英語はしっかりマスターせよ
・小岩井先生は「政治学講義」で古典を読み、親しめと
・自分に忠実に努力のみ
・君が人間に生まれたことは宝くじ1等の奇蹟だ。全力投球を。
・知（智）を愛すること
【豊橋】②昭和35～54年卒
・一心に学べ
・仕事と人生にヤル気を
・母校の誇りと同窓会参加で視野を広げて
・母校の誇りと同窓会参加で視野を広げて
・積極的に社会とのかかわりを
・生き甲斐に何を求めるか
・素晴らしい伝統の継承を
・何事も継続的に努力する姿勢を
・愛大で学問できる幸せ。何のための学問か。生きることは常に「なぜ」の問いを
・すべて一生懸命、全力で
・語り継げる思い出を沢山つくる

2-35

表 座右の銘
※回答者のみ集計
【豊橋】①昭和27～34年卒
・汝の道を歩め
・真実は曲げるな、自由主義者だ
【豊橋】②昭和35～54年卒
・日々好日

2-34

表 愛大から得たもの
※回答者のみ集計
【豊橋】①昭和27～34年卒
・学長をはじめ、良い教授陣に恵まれた時代。個性を大切にする
・努力
・大いなる愛
・自由の尊さと読書
・もう2年学びたかった。中国語をもっと学びたかった
・認識の基礎（自分の世界観、人生観）の形成
・温故知新、自由独立
・愛大卒業生を多く採用した
・経済人生を合理的に考え、自分のことは少しあとにし、他人のためになることをする（人生すべて自己責任、損して損する覚悟で生きる）
・政治、経済などへの関心 <small>もと</small>
・本間先生の愛大事件のお心にふれた
【豊橋】②昭和35～54年卒
・愛大→日大→税理士55年を全うできたのは、「耐える、努力」ゆえ。このまま人生を終えたい
・学ぶことの大切さ
・若い時に常識を学べたことがその後の人生で役に立った
・日常生活のあらゆる場で自信を持てた
・真摯に明るく前向きに
・大学生活からは「日々好日」就職してからも多くを得た
・素晴らしい地域密着の伝統継承を大切に
・継続は力なり
・全力投球と思いやり精神
・教育心理学で自分が「いい子だね」と、他人が言う「いい子だね」の受け取り方の大違いを知る
・課題をもち、持続的に学ぶ習慣

2-36

表 出版物
※回答者のみ集計
【豊橋】①昭和27～34年卒
・『いのち』申命会
・同窓会報の作成
【豊橋】②昭和35～54年卒
・『どんぐり』復刻版

夜間：豊橋短大法経二部

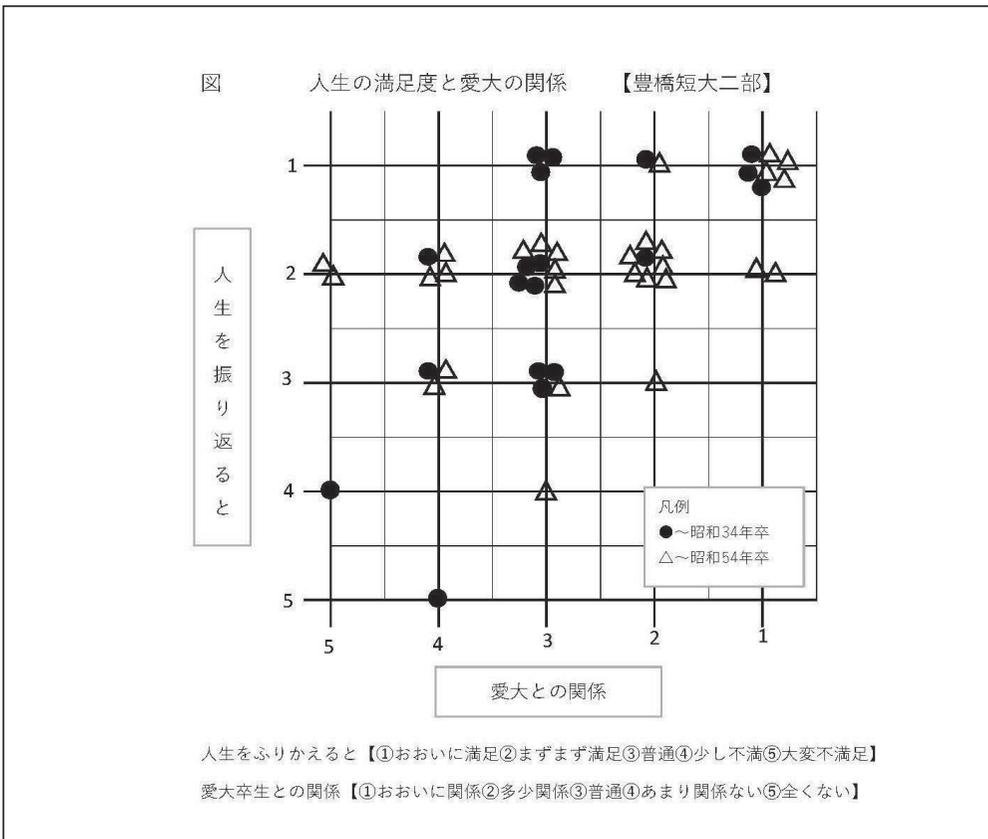
2-37

表 本学夜間短大の思い出深きこと、印象、付記など

※回答者のみ集計

【豊橋】①昭和27～34年卒	
・88歳でも現役・娘が父に尋ねながらアンケート作成	
【豊橋】②昭和35～54年卒	
・なつかしい安保闘争	・司書友人に山野辺女史
・行政法は大林正平先生、憲法は浅井敦先生に教授された。感謝	・夜間学生にも資格試験の道は開かれ「大卒」となった
・薬師岳遭難…高校時代は山岳部だったので心が病んだ	・勤務上、1日おきしか通学できなかったが、卒業させていただき感謝
・勤労学徒としての誇りは高い	・夜間学生ゆえに探究心は旺盛だった
・卒業した同窓生と今も多様な活動継続中	・卒業生を大事にしてくれ、うれしく思います
・17時30分豊橋駅前の丸物前から愛大バス乗車。駅立食うどん30円(壺屋うどん)	・夜間ゆえ、帰る時、学食は閉じら残念だった
・仕事の関係で同窓会半分しか出席できず残念	・2年目は学生運動(昼間学生)に邪魔された
・夏に愛大山の施設を先輩と見学	・3年目は聞き取りにくい難しい授業で、休講が多かった
・公務員勤務だったので、通学上時間の上で上司は不満	・夜学とはいえ大学教育を受けられ本当によかった。しかし、3年編入は条件が満たされず無理だった

図 2-1



第3章 豊橋校舎《夜間短大》「文科二部」卒業生の場合

1. はじめに

豊橋校舎夜間短大には文科も設けられた。1949年の新制大学への移行期には、新たに文学部が新增設され、全国初の社会学科、そして国文学科がスタートし、専任教員も採用され、やがて教養部も設置されたこととも関係したと思われる。しかし、戦後のまだ貧しい時代の中で文学系を主に学ぶ学生は多くなく、この夜間短大の文科は1959年を以て廃止された。逆にそういう時代だからこそ、文科で文学を学ぶ学生には強い志と貴重な存在感があったはずである。早めに廃止されたために、アンケート時には、すべての方々が高齢化したり、病氣療養され、亡くなった方々も多かった。やはり、もっと早くアンケートをすべきであった、と反省している。そのような中で、回答を寄せていただいた方は6人いた。貴重な存在である。以下はこの6人のアンケートの回答を見ていく。

2. 生年と入学、出身校

表3-1は回答のあった生年と入学年である。生年は1930（昭和5年）から1935年（昭和10年）で、アンケート時点でいずれも85歳以上であった。入学年の不明が2人みられるのも記憶が不正確になったせいであろう。うち4人が最高齢の1930年生まれである。その出身地は表3-2で示すように、豊橋、豊川、蒲郡の各2人で、地元である。出身校は表3-3に示すように、女学校出身者が半分の3人いて、女性が文科に注目していたことがわかる。ところで、夜間短大文科を知ったのは、新聞記事や先輩からなど

で、ばらついている（表3-4。）また、入学に伴う授業料や生活費の工面は、親や奨学金、アルバイトで賄ったことがわかる（表3-5）。入学したかった理由は、勉学したい、教職資格を取りたい、などと明確で、通学至便もあげられ、勉学目的が明確な入学理由も見られる（表3-6）。

3. 在学中の学業

では在学中に学業の位置付けはどうだったのであろうか。表3-7に示した。学業が主と学業は従と二つに分かれた。前者は目的のために学び、後者は勤労学生として学業は夜の勉学だけであった。学びの中で興味を持った分野は表3-8に示した。国文は当然として政治や経済にも興味を持ったのは、教養科目の広がりがあったためと思われる。関連して、印象に残った先生を見ると、表3-7のようになり、やはり文学以外への広がりも見られる（3-9）。

こうして学んだ在学中の満足度とその理由についてみてみると、勉学をやる気がなかったという1人を除けば残る5人はほぼ満足していることがわかる。初めての学問に新鮮さがあったのであろう、懸命に頑張った様子がうかがわれる（表3-10）。

そしてこの学びがその後の人生にもよい影響を与えたこともうかがわれる。女子高では教えてもらえなかったが古文の面白さ、それを生かして好きな道へ進めた喜び、さらなる向学心を抱けた、などは今の学生諸君以上の学問への新鮮さを味わったということだろう（表3-11）。

こう見てくると、夜間短大の入学生たち

は、その期待以上に学問のおもしろさを味わったということであろう

4. クラブ活動への参加

クラブ活動への参加は、夜学ゆえにかなりむつかしかったといえる。自由時間が制約されたからだ。表 3-12 はそれを示している。参加したとの回答者は 2 人とどまった。1 人が資本論研究で楽しく、しかも西洋哲学まで勉強できたという。もう 1 人はコーラス部で楽しかったとしている。当時学部にも女子学生は少なく、女性コーラス活動は大変だったように思われるが、それを達成したことは賞賛に値する。のちに女子短大ができると、女性合唱団は女子短大及び愛大学の花形に育っていく歴史があった。その点でこのコーラス部はその生みの親的存在になっていったとも思われる。

いずれにせよ夜間短大のクラブ活動は、なかなか大変であったけれども、その後の活動に芽を残す役割もあったことが想像される。この点は関係者からさらにお教えいただきたい点である。

5. 就職活動

そして卒業後の就職活動については、表 3-13 と、表 3-14 を見ると、あまり積極的には取り組んでいないことがうかがわれる。夜間学生ゆえすでに就職していたことも大きい理由である。経済環境が厳しい中で、それでも 2 人決定し (表 3-15)、表 3-16 からみると、いずれも縁故で決定したものと思われる。当時は大学に就職課があったが、民間企業では縁故採用があたりまえの時代であった。

6. 愛大卒業生として

次に愛大とのかかわりである。まず愛大が創立されたときの設立趣意書への理解と対応についてである。戦後の平和国家のために国際人の養成と地域文化への貢献を掲げたもので、入学式には必ず学長が伝えている内容である。前述の豊橋校舎の夜間短大ではかなりの反響が示された。この夜間短大文科では、表 3-19 の程度に留まっている。

旧制愛知大学としてスタートした愛知大学は、東亜同文書院からの転入生が多くを支えた。この夜間短大の初期には、書院生が豊橋キャンパスにまだいくらかとどまっていたように思われるが、その書院生たちへの認知である。表 3-18 はその結果で、多少知っているのが 2 人だけではあるが、記憶の中には残っていたことがわかる。その書院生たちが中心となって最初の授業年の 6 月に、初の豊橋市民との「文化交流祭」を行い、これが「愛大祭」にも発展していった。この点の認識を示したのが表 3-19 である。それによると半数の 3 人が認知しているという。実際どのようにかかわったかはわからないが、部分的には継承されていたことがわかる。

次に 1952 年におこった「愛大事件」であるが、これについては 5 人がほとんど知らないとしている (表 3-20)。その事件はこの夜間短大文科の学生の入学年に生じている。その時の混乱やそのあと本間学長の学生の弁護に力を注いだ点などの無関心であったのだろうか。それとも事件のイデオロギーに耳を塞いでしまったのか、など気になるところである。

次に母校愛大への関心度である。1 人を除

き5人はふつう、ないしそれ以上に関心は持っている。その理由に開学の精神があげられている(表3-21)が、それと表3-17とどのようなつながりになるかはわからない。次いで愛大情報の入手先である(表3-22)。アンケートの数が少ないので特徴はわからないが、ほかの夜間大学の入手先とは一致している。そして愛大への期待情報は表3-23に示した。幅広い講座、講演への期待である。なお、同窓会への出席状況は、家を離れたり、知人がいなくなったりして出席は無理としている(表3-24)。では愛大をどう見ているかについては回答が一人であるが、質の高い学生と誇りありとしており、自己評価とも重なっているように思われる(表3-25、略)。

後輩へ伝えたいことも1人だけの回答であるが、勉学と友達作りをあげている(表3-26)。

そして、人生を振り返ると、「まずまず満足」する卒業生が4人で、「普通」が2人でまずまずである(表3-28)が、愛大との関係は、「普通」以上が2人、「大いに関係」が1人、あまり関係ないが1人であり、全体としてはアンケート数が少ないが、回答者についてはまずまずの関係があつともと思われる(表3-27)。アンケート数が少ないため、相関性の有効性に欠けるため、両者の相関図は省く。

最後に、愛大から得たものについては5人から回答を得た。それぞれ「前向きで学ぶことができ、自由で大きな心を持ち、地元を愛すること」、などを教えてもらったとする(表3-29)。なお、出版物は表3-30のような成果があった。

以上から、概していえば、夜間大学文科の卒業生の多くは、初めて学問に触れ、学ぶ意欲を持ちつつ、その多くは夜間短大に満足しながら、その後の人生もその延長上で過ごしたといえそうである。なお夜間短大文科は、まだ時代が早かったためか、短い時間で幕を開めたが、1949年(昭和24年)には新制大学の開設時にあらたに文学部が誕生し、社会科学に次いで国文学科が開設され、文科方面の志願者はこちらへ継承された。またこの国文学科にはやがて大学院に相当する国文学専攻科も設けられ、研究者や高校巨教員への道も開かれ、実績をあげた。

夜間：豊橋短大文科二部

3-1

【夜間】豊橋短大文科二部				
(調査対象：昭和27年～34年卒,1952～1959)				
入学年 生年	S25	S32	不明	計
	1950	1957		
昭和5年	2		2	4
昭和6年				0
昭和7年			1	1
昭和8年				0
昭和9年				0
昭和10年		1		1
不明				0
計	2	1	3	6

3-3

【夜間】豊橋短大文科二部	
(調査対象：昭和27～34年卒,1952～1959)	
出身校	昭和27～34年卒
	1952～1959
豊川中学校	1
豊橋市立高等女学校 (現：豊橋東高校)	2
豊橋市立女子商業	1
蒲郡高校	2
計	6

3-5

表 授業料・生活費の工面		
	※回答者のみ集計	
どのように	【文科】	
	授業料	生活費
1.親から	2	3
2.親戚・縁者から		
3.奨学金から	1	
4.アルバイトから	1	
5.ほか	1	2
合計	5	5

3-7

表 本学夜間短大在学中の学業比重		
	※回答者のみ集計	
比重	【文科】	主な理由
	昭和27～34年卒	
1.学業が主	2	・卒業が目的, 親と約束
2.どちらかといえば学業	0	
3.学業はまずまず	1	
4.学業は従	2	・昼は勤務あり, 当然
合計	5	

3-2

表 本学夜間短大 出身地	
出身地	【文科】
	昭和27～34年卒
豊川	2
豊橋	2
蒲郡	2
合計	6

3-4

表 本学夜間短大を知った理由	
理由	【文科】
	昭和27～34年卒
新聞記事による	1
勤め先の卒業生から	1
うわさで知った	1
普通	1
不明	2
合計	6

3-6

表 本学夜間短大の入学理由	
	※回答者のみ集計
入学理由	【文科】
	昭和27～34年卒
勉強したかった(サルトルを)	1
戦中、戦後学ぶ機会少なかった	1
教職希望	2
至便	1
合計	5

3-8

表 本学夜間短大で興味を持った分野	
	※回答者のみ集計
分野	【文科】
	昭和27～34年卒
国文学	1
文学	1
政治・経済	1
なし	1
合計	4

夜間：豊橋短大文科二部

3-9

表 本学夜間短大で印象に残った先生と分野

		※回答者のみ集計	
先生・分野	【文科】	昭和27~34年卒	
	久曾神 (国文学)		
若山 (漢文学)			1
川越 (社会学)			1
伊藤 (数学)			1
その先生も面白い			1
	合計		5

3-10

表 本学夜間短大在学中の満足度と理由

		※回答者のみ集計	
満足度	【文科】	昭和27~34年卒	理由
	1.大いに満足		3
2.まずまず		2	・楽しかった ・他のことを知らなかった
3.まあまあ			
4.あまり満足せず		1	・勉学をやる気がなかった

3-11

表 本学夜間短大での学業がその後の人生に与えた影響

		※回答者のみ集計	
影響レベル	【文科】	昭和27~34年卒	主な理由
	1.大いに影響		2
2.まずまず		2	・向学心を持てた ・本人納得の成果
3.まあまあ			
4.あまり		1	
	合計	5	

3-12

表 本学夜間短大でのクラブ・サークル活動

		※回答者のみ集計		
クラブ・サークル名	【文科】	昭和27~34年卒		
		活動内容	良かった点	その発展
資本論研究			大変楽しかった	西洋哲学を学ぶ
コーラス部		日本の歌声を	友と一緒に楽しかった	
二部で無理だった				

3-13

表 本学夜間短大在学中の就職活動

		※回答者のみ集計	
活動状況	【文科】	昭和27~34年卒	主な理由
	1.かなり積極的		
2.やや積極的			
3.ふつう		2	・就業中 ・早大哲学科へ
4.あまりしなかった			
5.全くしなかった		2	・就業中
	合計	4	

3-14

表 本学夜間短大在学中の就職活動

		※回答者のみ集計	
環境レベル	【文科】	昭和27~34年卒	
	1.かなり厳しい		
2.やや厳しい			1
3.ふつう			1
4.あまり厳しくない			
5.全く厳しくない			
	合計		3

夜間：豊橋短大文科二部

3-15

表 本学夜間短大生の就職先		
※回答者のみ集計		
就職先	【文科】	昭和27～ 34年卒
決定		1
共栄社		1
	合計	2

3-16

表 就職時に愛大を意識		
※回答者のみ集計		
レベル	【文科】	昭和27～ 34年卒
1.はい		
2.少し		1
3.なし		1
	合計	2

主な理由
・知人の紹介ゆえ
・同僚は同じ

3-17

表 愛大設立趣意書の反映	
※回答者のみ集計	
【文科】	昭和27～34年卒
日常の義務を果たすことだ	
古い兵舎に大陸的においが好きでした	

3-18

表 書院生について		
※回答者のみ集計		
認知度	【文科】	昭和27～ 34年卒
1.よく知っている		
2.少し知っている		2
3.知らない		
	合計	2

3-19

表 愛大創設時の愛大生が企画した 市民との文化交流祭		
※回答者のみ集計		
レベル	【文科】	昭和27～ 34年卒
1.よく知っている		
2.少し知っている		3
3.知らない		
	計	3

3-20

表 「愛大事件」の認知		
※回答者のみ集計		
レベル	【文科】	昭和27～ 34年卒
1.よく知っている		
2.多少知っている		
3.ほとんど知らない		5
	合計	5

3-21

表 母校愛大への関心		
※回答者のみ集計		
レベル	【文科】	昭和27～ 32年 卒
1.大変関心あり	A	1
2.多少あり	B	1
3.ふつう		3
4.あまりない		1
	合計	6

《表中のA理由》
・二部で学べて幸せだった

《表中のB理由》
・開学に精神

3-22

表 愛大情報の入手先		
※回答者のみ集計		
入手先	【文科】	昭和27～ 34年卒
1.テレビ,新聞		1
2.大学ホームページ		
3.愛大通信		1
4.会合		1
5.受験雑誌		
6.同窓生		
7.同窓会報		1
	合計	4

夜間：豊橋短大文科二部

3-23

表	愛大への期待情報
※回答者のみ集計	
【文科】昭和27～34年卒	
公開講座（語学，郷土史）	
講演会（市民啓発）	

3-25

表	愛大をどう見ているか
※回答者のみ集計	
【文科】昭和27～34年卒	
・質の高い学生が集まり誇りを持っている	

3-26

表	後輩に伝えたい事
※回答者のみ集計	
【文科】昭和27～34年卒	
・精一杯まじめに勉強し、よい友達を作って！	

3-28

表	人生をふりかえると (A)
※回答者のみ集計	
	昭和27～32年卒
レベル	【文科】
1.大いに満足	
2.まずまず満足	4
3.ふつう	2
4.少し不満	
4.大変不満	
合計	6

3-29

表	愛大から得たもの	
※回答者のみ集計		
【文科】昭和27～34年卒		
・誠実、前向き、一生懸命		1
・汝を玉にする		1
・勉強したい人たちが集まっていて楽しく過ごせた		1
・自由で大きな心		1
・地元愛		1
・愛大にはお世話になりました	(合計)	5

3-24

表	同窓会への出欠状況
※回答者のみ集計	
レベル	【文科】昭和27～32年卒
1.はい	
2.よく	
3.時々	
4.いいえ	A 4
合計	4
《表中のA理由》	
・地元離れ	
・知人いない	

3-27

表	愛大との関係は (B)
※回答者のみ集計	
レベル	【文科】昭和27～32年卒
1.大いに関係	1
2.多少関係	
3.ふつう	2
4.あまり関係ない	1
4.全くない	
合計	4

3-30

表	出版物
※回答者のみ集計	
【文科】昭和27～34年卒	
・豊川市史中世（分担）	

第4章 名古屋校舎《夜間短大》「法経科二部」卒業生の場合

1. はじめに

名古屋校舎の「夜間短大法経科」の場合も、前述したように「夜間講座」から「夜間大学」への転換によって誕生した。しかし、1956年に「名古屋校舎2部の法学科と経済学科」が開設されることで「夜間短大法経科」は6年間で廃止された。以下、名古屋校舎法経科」の6年間の卒業生の在学時代とその後の軌跡をアンケートから見てみる。

2. 生年と入学年、出身校

表4-1は6年間における「夜間短大法経科」卒業生の生年と入学年を示した。全体としては、勤労学生の特性もあって、生年が4年幅を示しながら入学年を追うように順調に表の右下方向へ分布している傾向がわかる。

その回答者42人の出身地を表4-2に示した。その半数は名古屋に集中し、あと尾張一円と、三河、岐阜と三重のうちの名古屋への近接地の範囲である。関連してその出身校を見ると表4-3のようになる。学制改革による旧制中学から新制高校への転換期にあり、生年の最小の方には旧制中学出身者も見られる。あとは普通高校、実業高校、定時制大学からと学生は多彩であったことがわかる。

表4-4は、夜間短大を知った情報源について示した。その内容はかなり幅広いが、新聞、先輩、高校教師、友人、愛大の有名知名度などが目立つ。そしてそのように知った上での志望理由を見ると、表4-5のようになる。複数回答以上は、通学至便、勉学のため、広い知識を得たい、学歴取得、建学の精

神、他さまざまな理由があげられ、それだけ、愛大夜間部は注目されたということであろう。

なお、入学時の授業料や大学生活での生活費の工面については、勤労による自分の給料やアルバイトなどから支え、生活費も自分の給料や親からの支えでカバーしていたことがわかる。まさに勤労学徒の夜間短期大学であった(表4-5-1)。

では、実際に入学した理由についてみると、表4-6のようになる。これも幅広く、夜間短大への入学が多面的であったことがわかる。「法経科」入学であるため、法学と経済学の学びは当然であろうが、ほかに愛大で「学びたい」とする強い志の意向は多く、学び幅に期待が大きかったことがわかる。そしてその期待への「満足度」とその理由についてみると、表4-6-1のようになる。回答総数33のうち、通学時間や仕事の条件で「あまり満足せず」という回答の2人を除くと、満足度は高く、そこに挙げられた理由も「熱意溢れる先生と授業の充実、仕事と勉学の両立、クラブ活動や自治会活動の充実」などについてあげられ、全体にも活気があふれていたようにみえる。このような満足度が高いことは、その後、夜間の4年制2部が開設されると、さらなる学びを求めて4年制への編入進学希望者を数多く生み出すことになったといえる。

3. 在学中の学業

こうして入学した夜間短大における学業のウェイトについては、表4-7のようになる。回答数31名のうち、学業中心に過ごせ

た学生は約 4 分の 1 で、彼らはさらなる目標に向かえる好条件にあったということがわかる。全体としては、勤労学生として仕事に追われた学生は約 5 割いたこともわかる。残る 3 割は就職しながらも、目的は持っていたことがうかがえる。

こうした入学生が興味をもった分野についてみると、法学と経済学関係が多くみられるのは当然として、全体としてみると、かなり哲学関係にも開眼し、その他多岐にわたり、学問の本質を理解しようとした学生もそれなりに存在し、夜学短大が単なる法経分野の専門学校ではなかったことを示している（表 4-8）。その関係で印象に残った先生については、表 4-9 に示すように哲学の真下、政治学と哲学も交えた小岩井、マルクス経済の山本二三丸、近代経済学の小畑と岡崎、学長であり商法の本間、そしてのちに学長も務めた細迫、脇坂、久曾神などがあげられている。このような多岐にわたる夜間短大生の個性が、その後社会でどのように花開いたかについては興味がある。

なお、学業にも関係して、先生方との交流を見ると、表 4-9-1 のようであった。クラブの中国語研究会の忘年会、熱心に指導してくれた黒木先生の送別会、結婚式への細迫先生の出席、統計学の先生による国際便のやり取り、などの交流例が紹介されている。

また、卒論のテーマについては、回答分を一覧すると表 4-9-2 のようになる。法学と経済学の直球的な内容と、時代の要請があった分野や応用分野の研究テーマであり、当時の時代的関心も反映されている。

このような多分野への関心も含んだ夜間短大の学生たちの学びが、その後の人生にどのように影響したかを見ると、表 4-10 の

ようになる。全体としては「大いに満足」が全体の約 3 割、「まずまず満足」が 5 割強を占め、あわせると 8 割が大きな影響を受けたとし、残る 2 割弱も反省的な弁をしている。それらの理由から見ると、いずれも多面的な人生に発展したことを実感したことが伝わってくる。夜間短大は勉学の間として極めて有効であったといっていよう。

4. クラブ、サークル活動

学業の一方、クラブ、サークルには参加できたのか。その問いに対して、表 4-11 の回答があった。ここでは 10 のクラブ数が上がっていて、豊橋の夜間短大よりも多い。しかも創設期であったためにバトミントン、ヨット、ホッケーなどのクラブの創設にかかわったとする活動もかなり積極的である。時間が制約された中で頑張った姿がうかがわれ、社会人になってからも発展していることがわかる。学びに飢えていた学生たちは、課外のクラブにも積極的な側面があったことがわかる。

5. 就職活動

すでに就職しながら夜学で勉強していた学生たちは、卒業時に就職問題にはどう対処したのであろうか。表 4-12 はそれを示している。その大半は、やはりすでに就職しており、就職活動は全くしていなかったが、一部の学生は再就職を試み、動いてはいた。しかし、時代的に就職状況は厳しかったこともうかがわれ、新規の就職開拓は大変だったと思われる（表 4-13）。

実際に多くの学生は就職していたが、新規の若干の就職も踏まえてその就職先を示したのが表 4-14 である。就職先は名古屋市

役所を筆頭に国や地方の公務員が目立つ。企業も3割近くを占め、大手企業が多い。進学率がまだかなり低い時代、夜間短大生は公務員だけでなく、民間企業からも受け入れられていたことがわかる。この傾向は昼間部の学生たちにも共通し、ほかに競争相手の大学や短大がまだなかったこの時代、愛知大学卒業生はこれらの就業先を独壇場として頑張れたのであり、今日に続く就職状況の基礎を作ったといえる。

なお、参考までに、定年後の再就職先についても回答分を一覧で示した(表 4-14-1)。税理士や司法書士のような自営の職業も見られるが、全体には公務員の外郭団体への就業が多く、現役時代の仕事の高い評価が再就職にも表れたとみることができる。

ところで、これらの就職状況の中で、愛大卒業生はどのような自己認識をしていたのであろうか。表 4-15 はまず、「就職時に愛大卒を意識したか」という点である。回答には若干の差はあるが、みな意識したとの回答である。職場に愛大卒業生が沢山いたのが意識の源になっているし、それがプライドにもなっていたとしている。ほかの回答の中には、「今は旧制大学のプライドが落ちていないか」という感想もあった。課題である。では、職場で出会ったほかの大学の卒業生との比較ができるかについて問うと、表 4-16 の回答を得た。「比較したことはない」、「よくわからない」という4件を除くと、大多数は愛大生にプラスの評価をしている。

では就職時にどこに愛大卒業生の特性を見出せるかという点である。これについては表 4-17 に示す。そのほとんどはポジティブにとらえ、各評価されたキーワードに自信が満ちている。まだ大学進学率が低い時

代、制約条件の中で努力して夜間短大をクリアして仕事についてきたことへの自信であろう。

6. 愛大卒業生として

愛大卒業生は、入学時に愛大設立の趣旨の門をくぐる。戦後の最も早く旧制大学として設立された愛大の設立趣意書には、入学式や関連講義の中で洗礼を受けたはずである。日本の再出発をリードすべく、大きくは「世界平和への貢献」をめざし、「国際人の養成」と「地域文化への貢献」がうたわれている。それに対する反応は、表 4-18 である。全体してはほとんどの回答者がそれぞれの視点からこの趣意書への思いがあげられ、共感していたことがわかる。この「愛知大学の理念をもっと広報すべき」という反応は、設立趣旨に対する強い思いと自信が十分に表れているように思われ、当然それぞれの思いでこの趣旨を理解し対応してきたと思われるが、そこに愛大卒業生のアイデンティティとその継承を見出すことができる。この点は今後も大事にしていくべきことであろう。

ところで、この時期の夜間短大生は、その直前までの時期に校舎は違うが、在学していた東亜同文書院大からの学生の交流や書院生に対する認知もあったと思われる。それについての回答は表 4-19 である。その大半が、直接の交流はなかったが、何人かは話に聞いており、同窓会で親交があり、中には戦時期に東亜同文書院が借用していた上海交通大学へ戦後訪問経験もあったという。

また、その東亜同文書院大学からの編入生たちが中心になって、開学直後に豊橋市民との文化交流祭を大規模に開催したこと

についても、回答者のほとんどは「少しは知っている」としており(表 4-20)、当時は校舎が違って、大学全体の有名な歴史になっていたことがうかがえる。

そして、時期が重なった「愛大事件」については、そのほとんどが認知していた(表 4-21)。その理由については、認知レベルの差はあれ、事件については、「警察の思想的弾圧であり、それに対する本間先生の献身的努力に対する高い評価と尊敬」が共通してみられる。当時のメディアなど巷の風評とは異なる愛大夜間学生の内部からの認識が明らかになったといえる。

それに関連して、母校愛大への関心度について表 4-22 に示した。それによると、全体の半分近くが「大変関心 (A)」を持ち、「多少 (B)」、「普通 (C)」とほぼ折半し。無関心はゼロであり、関心の高さがわかる。その理由として (A) については、強い愛大愛が見られ、愛大への強い誇りを持ち、最近の愛大にも気を寄せる愛大応援団ともいえる。(B) と (C) もほぼ同様であり、大学側としてはうれしいことだと言える。それだけにその期待に応えるように大学側も努力を続けていくべきだろう。

ではこの愛大情報は何かから得ているのか。表 4-23 はそれを示した。それによると、『同窓会報』と『愛大通信』がとくに多く、「テレビ・新聞」のメディアがそれを追っている。ここでも「大学のホームページ」からの情報源が少ないのは、高齢の方々が多いせいであろうが、大学側でも工夫が必要であろう。

このような情報源とともに、どのような情報を大学側に希望しているかは表 4-24 からうかがわれる。卒業生の活動や大学の動

きなどの情報希望が中心となっている。夜間大学では自由時間がなかなか取れず、在学中の友人確保は不自由だった面もあろう。それは同窓会への期待と高齢化による顔を出せないジレンマが表裏の関係にあり、(表 4-25)、それは同窓会への期待へもつながっている(表 4-26)。この表は、同窓会の魅力活性化の方法の提案をしてもらったもので、その内容を見ると、全体としては、内向きでなく、広い領域ともつながれるように、女性も若い層も含めた同窓会の機会を増やしたらどうかという共通の思いを持った提案がなされている。

次は愛知大学をどう見ているかについて尋ねた。大学への希望も期待をも込めた回答(表 4-27)である。大学を信頼する一方で、愛大のより一層の発展を願う卒業生たちの豊かな社会経験を踏まえた外からの提案や、希望が沢山盛り込まれている。えてして大学人は、大学内だけ、あるいは研究室内だけというような偏狭な視点の虜になりがちである。その点、広い世界を知る卒業生たちの視点や提案には一理どころか多理があるように見え、それらの意見はバランスの取れた大学づくりの参考になるように思われる。ありがたい卒業生たちである。

このような卒業生たちは愛大に対してだけでなく、長い人生経験を踏まえ、後輩および在学生たちにも伝えたいことがある。それを示したのが表 4-28 である。方法というよりは、スローガン的ではあるが、後輩たちに「加油」(がんばれ)によって愛知大学の発展を多様な含蓄を以て強く願っていることがわかる。

それはまた、「愛知大学から得たもの」にも関係し、そこには愛知大学から得た卒業

生の珠玉の宝物が紹介されている(表 4-29)。先輩たちが愛知大学でなにを得たのかは、これも後輩、在校生たちには多いに参考になるものと思われる。とくに、今は廃止されているが、かつてはこの愛大夜間部で多くの、学生たちが歯を食いしばって学び、そして社会に羽ばたいた経験から得た知恵は、今の緩やかな学生たちには想像しがたい面もあるだろうが、それらは厳しい経験の中から得た人生訓であり、モットーでもあって、それだけに大変貴重である。後輩、在校生たちにはぜひ噛みしめてもらいたい。

最後であるが、人生を振り返ったときの満足度(図 4-1 の縦軸)と愛知大学とのかかわり度(同図の横軸)との関係性を相関図として示した。それによると、人生の満足度は1人以外は「普通以上」の満足度で、「まずまず満足以上」が過半を占める。一方、愛知大学とのかかわりは「まずまず関係有り」が半数弱を占め、「普通以上の満足」になると6割強になる。概していえば、愛知大学との関係で満足度を得られた卒業生は、6割余りということになろう。同図では両者のあいだにほぼ相関関係の傾向線が引けそうで、同図の右上方ほど人生の満足度が愛知大学での学びなどの満足度と強く関係しているということになる。これらの関係レベルから、さらに多くの学生に満足度を与える工夫は今日の学部でも試みていく必要があるだろう。

附問とした「座右の銘」(表 4-30)と出版物(表 4-31)を紹介する。

改めてアンケートにお答えいただいた方々に熱くお礼申し上げる。

夜間：名古屋短大法経二部

4-1

【夜間】名古屋短大法経科第二部
(調査対象：昭和27年～32年卒,1952～1957)

入学年 生年	S25	S26	S27	S28	S29	S30	不明	計
	1950	1951	1952	1953	1954	1955		
大正15年							1	1
昭和3年		1						1
昭和4年	1	1			1			3
昭和5年							1	1
昭和6年		1		1			5	7
昭和7年	1		4	2			1	8
昭和8年				3	4			7
昭和9年				3	1	1		5
昭和10年					1	3		4
昭和11年					1	1		2
不明							3	3
計	2	3	4	9	8	5	11	42

4-2

表 本学夜間短大 出身地

出身地	【名古屋】	昭和27～ 32年卒
	名古屋	
一宮		1
小牧		2
豊明		1
日進		1
春日井		1
東海		1
守山		1
東春日井		1
知立		1
岐阜		3
多治見		1
土岐		1
南濃		1
桑名		3
合計		42

4-3

【夜間】名古屋短大法経科第二部
(調査対象：昭和27～32年卒,1952～1957)

出身校	昭和27～32年卒 1952～1957
豊橋中学校	1
岡崎中学校	1
中川中学校	1
愛知工業学校	2
豊橋東高校	1
名古屋高	1
名古屋薬学専門学校	1
東邦商業高(夜間)	1
中京商業高	1
金城商業高	1
明德工業高	1
横須賀高校	1
明和高校	1
一宮高	1
瑞陵高(定)	2
瑞浪高	1
光陵高	1
西陵高	1
向陽高校	1
小牧高	3
刈谷高	1
刈谷北	1
刈谷商業家庭高	1
桑名高(三重)	2
四日市商業	1
中津高校(岐阜)	1
八百津高(岐阜)	1
多治見高(岐阜)	1
華陽高(岐阜)(定)	1
岐阜市立高	1
大阪府立北野高	1
東京農工大学繊維学部	1
海軍予科練→名工大土木 短期大学	1
不明	4
計	42

夜間：名古屋短大法経二部

4-4

表 本学夜間短大を知った理由

理由	【名古屋】	昭和27～ 32年卒
新聞		3
先輩		4
通学至便		1
入学案内		1
高校で		3
ポスター		1
友人		3
自然に		1
夜間大愛大のみ		1
自分で調べた		1
地元		1
名古屋私大トップ校		2
受験雑誌		1
アルバイト先		1
知人		1
知名度		1
心に刻まれた		1
	合計	27

4-5

表 本学夜間短大の志望理由

※複数回答あり

志望理由	【名古屋】	昭和27～ 32年卒
新聞		1
旧制大・中国		1
広い知識を		2
入学願書		1
夜間、経済あり		1
昇格試験用		1
勉学のため		4
通学至便		6
手頃感		1
先輩から		1
学歴取得		2
友人・向上心		1
反戦・民主主義		1
夜間は愛大のみ		1
転職をめざす		1
建学精神		2
名古屋私大トップ校		2
本間・小岩井両先生への憧れ		1
授業料の安さも		1
知名度		1
先輩が多い		1
旧制大・著名教授		1
	合計	34

4-5-1

表 授業料・生活費の工面

※回答者のみ集計、複数回答あり

どのように	【名古屋】	授業料	生活費
1.親から		6	15
2.親戚・縁者から		0	0
3.奨学金から		3	4
4.アルバイトから		10	6
5.自分の給料		24	20
	合計	43	45

夜間：名古屋短大法経二部

4-6

		※複数回答あり
入学理由	【名古屋】	昭和27～32年卒
	経済学を学びたい	
広い法学と法知識を学びたい		4
知識欲		1
勉強したい		2
通勤を利用して勉強		1
通学至便		1
本間学長の名声		1
公務員試験受験のため		1
働きながら学べる		1
大学で学びたい		2
名工大夜間より愛大に合っている		1
小岩井先生の存在		1
編入も含め4大で学びたい		1
社会人として学びたい		1
伝統校だから		1
自分自身の研鑽		1
著名な教授達が他を圧倒していた		1
中国語を学びたい		1
短大卒の資格欲しい		1
国家公務員試験に合格を		1
私学第1位の大学だから		1
国鉄内教育が終了したため		1
番外：工学系も付加して欲しい		1
	合計	29

4-6-1

		※回答者のみ集計	
満足度	【名古屋】	昭和27～32年卒	理由
	1.大いに満足		8
2.まずまず		15	<ul style="list-style-type: none"> ・講義1日2コマは大変だったが、先生の熱意と人間性を強く感じられた(2) ・仕事との関係がうまく出来た ・学会賞を受賞できた ・職場で通学の理解を得られた ・会社、テニス、大学とうまく回せた ・勉強が出来、卒業もできた ・皆勤出席できた ・弁論部でよき友人を得た
3.まあまあ		8	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方一流、学生は勤劳貧乏学生をクリア ・希望した法経の基礎を学べた ・授業のみに恵年した ・成績悪く、恥ずかしい
4.あまり満足せず		2	<ul style="list-style-type: none"> ・通学時間がかかり、大学生生活が不十分になった ・仕事がどうしても主になっていた

4-8

		※回答者のみ集計、複数回答あり	
分野	【名古屋】	昭和27～32年卒	
	経営学		
経済学・哲学			4
法・経両方			1
授業すべて			2
哲学			5
税務講演			1
行政法			1
法学関係と語学			1
経営学と哲学			2
文学			1
経済学			1
政治学と哲学			3
哲学と政治学・民法			1
経済学、政治学			1
法学			1
憲法・民法			1
民法・商法			1
政治学と哲学			1
	合計		32

4-7

		※回答者のみ集計	
比重	【名古屋】	昭和27～32年卒	主な理由
	1.学業が主		4
2.どちらかといえば学業		3	<ul style="list-style-type: none"> ・商業学校は知識だけだったことへの不満 ・文武両道きわめたい。教職、税理士、社労士の免許を仕事と学業の両立をめざす
3.学業はまずまず		10	<ul style="list-style-type: none"> ・すでに就職(名古屋国税局)で多忙 ・教員免許めざす
4.学業は従		14	<ul style="list-style-type: none"> ・昼間は会社勤め(ほとんど多数) ・昼にアルバイト
	合計	31	

夜間：名古屋短大法経二部

4-9

表 本学夜間短大で印象に残った先生と分野

※回答者のみ集計、複数回答あり

先生・分野	【名古屋】 昭和27～32 年卒
本間	2
小岩井	5
一円一億	1
秋葉	1
大石	1
細迫	2
脇坂	2
久曾神	2
真下	5
四方	1
岡崎	2
小幡	2
山本二三丸	3
黒木	1
酒井	1
長谷川	1
花村	2
越川	1
経済学	1
統計学	1
フランス語	1
ドイツ語	1
合計	39

4-9-1

表 本学夜間短大 先生との交流

(事別として)

交流内容	【名古屋】昭和27～32年卒
中国語研究会の忘年会	
黒木先生の送別会・研究会	
統計学の先生からペルーへ行く私に伯父さんへの手紙を託された	
結婚式に細迫先生出席、その後もつきあいが続いている	

4-9-2

表 卒論研究テーマ

【名古屋】昭和27～32年卒

テーマ (希望者のみ、判明分)
「土地収用」
「社会と哲学」
「経済成長論」
「家族制度と社会の民主化」
「人工授精児の嫡出性」
「資本論」

4-10

表 本学夜間短大での学業がその後の人生に与えた影響

※回答者のみ集計

影響レベル	【名古屋】 昭和27～ 32年卒	主な理由
1.大いに影響	10	<ul style="list-style-type: none"> ・研究心へアップした ・人生に有形、無形で ・法律の勉強ができた ・中国語が得意となり対中貿易に従事。対中出張多かった ・高卒への目とは違う感じた ・記念論文に応募できた ・公務員33年、社労士31年
2.まずまず	19	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職1級へ昇進 ・公務員行政職に役立った ・多面的かつ慎重に事象をとらる ・法律を勉強できた ・人並に生活を送れた ・就職の業務担当へ ・考察力が増大した ・法律系の事務職となった ・司法書士に合格した ・不況期に一流企業へ ・対面課題に全力処理できる ・仲間も自分も名駅駅長就任
3.まあまあ	2	<ul style="list-style-type: none"> ・社会に出て基礎学力不足を感じた
4.あまり	3	<ul style="list-style-type: none"> ・バランス感覚で仕事処理できない
合計	34	

夜間：名古屋短大法経二部

4-11

表 本学夜間短大でのクラブ・サークル活動			
※回答者のみ集計			
【名古屋】	昭和27～32年卒		
クラブ・サークル名	活動内容	良かった点	その発展
中国語研究会	中日大辞典スタッフと交流。欧陽可先生とも	指導してくれた先生と交流。通訳出張も	
ソフトテニス	勤務先も文武両道を評価	会社、クラブ、大学と大変だったが、頑張れた	団体、個人優勝、人間関係・社会評価アップ
バトミントン	創設にかかわった		協会理事、国際審判も
ヨット	創設にかかわった		
スケート	創設にかかわった		学外で、スケートはショートに寄与
サッカー	試合に参加		
弁論	各大学と交流した	人前での話に自信	
合唱	日本の歌を中心に		
軟式テニス	練習のみ		
哲学研究会	全学連集會に参加		同世代人の考え方がわかった

4-12

表 本学夜間短大在学中の就職活動		
※回答者のみ集計		
活動状況	【名古屋】 昭和27～32年卒	主な理由
1.かなり積極的	1	・かなり不況時に合格し、準大卒となった
2.やや積極的	2	・アルバイトよりも高い勤め先を
3.ふつう	3	
4.あまりしなかった	1	
5.全くしなかった	16	・三菱重工系に就職していた ・名古屋東区役所に就職中 ・人事院に就職中 ※大多数はすでに就職
合計	23	

4-13

表 本学夜間短大在学中の就職活動	
※回答者のみ集計	
環境レベル	【名古屋】 昭和27～32年卒
1.かなり厳しい	5
2.やや厳しい	11
3.ふつう	2
4.あまり厳しくない	1
5.全く厳しくない	0
合計	19

4-14

表 本学夜間短大生の就職先		
※回答者のみ集計		
就職先	【名古屋】 昭和27～32年卒	
名古屋大学 学生部		1
名古屋工業大学 学生部		1
名古屋アルミ		1
日本通運		1
古河電池		1
トヨタ工機		1
日本ビクター		1
東邦ガス		1
東海銀行		1
商工組合中央銀行		1
名古屋市役所		4
名古屋東区役所		1
名古屋水道局		1
愛知県庁		1
愛知県上級職		1
法務省法務官		1
職業安定所		1
国家公務員		1
地方公務員		1
国鉄中部		1
合計		23

4-15

4-14-1

表 定年後の就職先	
※回答者のみ集計	
就職先	【名古屋】 昭和27～ 32年卒
愛知県鉄工連合会	1
名古屋大学 学生部	1
税理士開業	1
日本水道協会	1
八起社（福祉）	1
厚生省外部団体	1
社会福祉法人	1
愛知県労働協会21世紀職業財団	1
司法書士	1
建設会社興立産業	1
日本ハウジング	1
社会福祉労士	1
合計	12

14-16

表 愛大卒生を他大学と比較	
※回答者のみ集計	
特性	【名古屋】 昭和27～ 32年卒
積極的	1
それなり評価（とくに教養面）	1
他大に負けない成果	1
幅広い分野で活躍	1
地元から信頼	1
もう少し自由闊達な思想を	1
出身大より個人差だ	1
書院の流れを引く立派な大学	1
社労士としての先輩を尊敬	1
評価されてない	1
中位	1
まあまあ	1
そこそこ	1
比較したことはなし	2
よくわからない	2
合計	17

表 就職時に愛大を意識したか		
※回答者のみ集計		
レベル	【名古屋】 昭和27～ 32年卒	主な理由
1.はい	6	<ul style="list-style-type: none"> ・愛大生が多数いた ・先輩や同期が多数いた ・愛大創設の経緯を知っていた ・大卒生少なく、書生さんと呼ばれた ・プライドを持った
2.少し	6	<ul style="list-style-type: none"> ・公務員で行政担当するため ・先輩の存在があった ・県職は愛大卒が圧倒的多数であった ・名女子商科短大講師もつとめた ・愛大卒生沢山いたが、子育てで学士会入らず
3.特になし	—	<ul style="list-style-type: none"> ・短大のみだったから ・当時は意識せず、今は旧制大学なのにレベルダウンしてないか
合計	12	

14-17

表 愛大卒業生の特性	
※回答者のみ集計	
【名古屋】①昭和27～32年卒	
誇り高い	
教養、学業に自信あり	
個性の良さと人付き合いの良さ	
信念があった	
まじめ	
とくにないが、他校に負けては恥ずかしい	
地元で歴史的に一番活躍している	
ネットワーク立ち上げと親睦	
大きな違いはない	
玉石混交	
胸を張って愛大卒とはいえぬ。認知度が低い	
誇りを持っている	
わからない	

夜間：名古屋短大法経二部

4-18

表 愛大設立趣意書の反映	
※回答者のみ集計	
【名古屋】昭和27～32年卒	
中国関係を重視し、世界平和に寄与	
平和憲法下で役立った	
「限りなき知を愛する者よ」に心が湧き上がる	
地域社会への貢献	
趣旨に少しでも近づけたいと思った	
色々な事象に考察する能力を得た	
権力への反発、不正への嫌悪	
これらは自慢できる	
この大学の理念をもっと広報すべき	
これから、この道ですすめたい	
幅広く書物に親しみ、理論も身につける	
哲学や宗教も学びたい	
自分の行動に自信と責任感をもつこと	
中国、朝鮮へ時々旅行した	
自分には反映されていなかった	
「愛知」は地名か	

4-20

表 愛大創設時の愛大生が企画した 市民との文化交流祭		
※回答者のみ集計		
レベル	【名古屋】	昭和27～ 32年卒
1.よく知っている	A	1
2.少し知っている		16
3.知らない		
	計	17
《表中のA理由》		
・話を聞いたことあり		

4-19

表 書院生との交流		
※回答者のみ集計		
レベル	【名古屋】	昭和27～ 32年卒
1.交流があった		1
2.少しあった		4
3.なかった		14
	合計	19
理由		
・同窓会で上海へ行き上海交通大学（一時期書院）を訪問		
・時々話に聞いていた		
・同窓会で2～3人の書院生と親交		

4-21

表 「愛大事件」の認知		
※回答者のみ集計		
レベル	【名古屋】	昭和27～ 32年卒
1.よく知っている	A	10
2.多少知っている	B	15
3.ほとんど知らない		3
	合計	28
《表中のA理由》		
・学生と教員の一帯感と本間学長のすばらしさ		
・警察国家の再来かと思った		
・東大、早大に次いで愛大へ警察が入った		
・信念を貫くことの難しさと尊さ		
・本間学長は立派な人であった		
・思想的弾圧だった		
・（次期）安保闘争の先を越していた事件だった		
・好意的でない新聞記事だった		
・歴史に残る快挙であり、愛大が高レベルの大学であった		
・本間学長を尊敬		
・本間学長の献身的行動		
・本間先生、ご苦労様でした		
《表中のB理由》		
・大学の自治と学問の自治は大切だと思った		
・十分理解できた		
・大変な事件だったと思うが細かくは知らない		
・本間学長は立派な人であった		
・思想的弾圧であった		
・真実の追求が必要		
・安保闘争の先を越していた		
・学生運動は活発で、ハキがあった		
・警察官が学内に侵入し、紛争が起きた		
・本間先生を尊敬する		

4-22

表 母校愛大への関心		
※回答者のみ集計		
レベル	【名古屋】	昭和27～ 32年卒
1.大変関心あり	A	12
2.多少あり	B	5
3.ふつう	C	9
4.あまりない		0
	合計	26
《表中のA理由》		
・海外起源の旧制大学だから		
・人生の一部になっている		
・私学の中で健全かつ立派な大学であってほしい		
・建学の精神をもっと感じてほしい。学生も活発化を		
・一にも二にも愛大ファンで、家族も驚くほどだ		
・孫も愛大出だ		
・最近愛大の眞の強さが失われているようだ。もっと活力を		
・新聞公表偏差値が気になるから		
・「旧制大学」として建学の精神を受け継いで欲しいから		
・社労士の会を車道で開催し、愛大卒生も採用している		
《表中B理由》		
・愛大精神よ永々なれ。益々の発展を思っている		
・前進しつづけている		
・後輩の努力がある		
・つきあいが継続中		
・「愛大事件」の経過説明		
《表中C理由》		
・文系大学から脱して欲しい		
・激動時代の出身大学だから思い入れは大		

夜間：名古屋短大法経二部

4-23

表 愛大情報の入手先		
※複数回答あり，回答者のみ集計		
入手先	【名古屋】	昭和27～32年卒
1.テレビ,新聞		8
2.大学ホームページ		2
3.愛大通信		12
4.会合		2
5.受験雑誌		
6.同窓生		3
7.同窓会報		17
8.愛大新聞		4
9.ほか		2
	合計	50

4-24

表 愛大への期待情報	
※回答者のみ集計	
【名古屋】昭和27～32年卒	
卒業生の活動情報	
卒業生の団結	
名古屋キャンパス頑張ってる欲しい情報	
将来の展望	
リーダーを多く出す情報	
健全な発展の情報	
岐阜は少人数でも継続、交流が楽しみ	
就職情報	
卒業生の求人情報	
とくになし	
わからない	
	など

4-25

表 同窓会への出欠状況		
※回答者のみ集計		
レベル	【名古屋】	昭和27～32年卒
1.はい	A	4
2.よく		0
3.時々	B	5
4.いいえ	C	13
	合計	22
《表中のA理由》		
・卒業生としての誇り		
・岐阜県内で数名の同窓会が最大の楽しみ		
・得るところ多い		
《表中B理由》		
・会社人間から社会人へ		
・家庭の事情		
・会えるのが楽しみ		
《表中C理由》		
・高齢化(多い)と足腰悪化		
・久々出席し、心動いた		
・共通話題も知り合いも減った		
・連絡来ない		
・住所変更		

4-26

表 同窓会の魅力アップ法は	
※回答者のみ集計	
【名古屋】昭和27～32年卒	
・開催を名古屋校舎でも	
・異業種交流と人間関係の強化	
・もっと地域、財界、労働界に關与すべき	
・もう少し卒業生が集まれば、愛大名声も上がる	
・同窓会名簿の作成に力を入れて欲しい	
・多くの機会をつくることで集まりたい	
・若い層と女性の参加を工夫	
・カラオケなど、安い会費で	
・変化の時代の今が読めない	

4-27

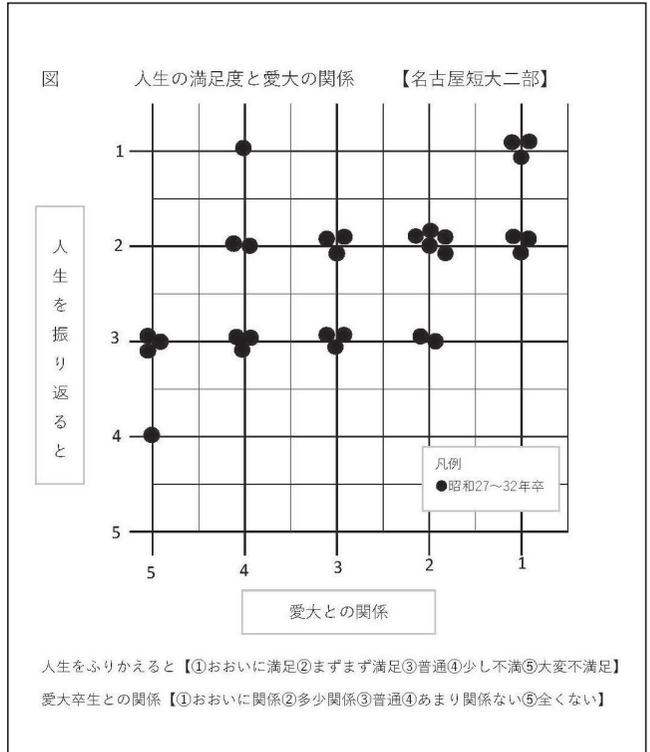
表 愛大をどう見ているか	
※回答者のみ集計	
【名古屋】昭和27～32年卒	
・もっとPRを積極的に	1
・大学としての成長を	1
・関東地区の後輩をふやす	1
・質実剛健の実と質を強化	1
・学究的雰囲気	1
・売名よりは学業研究発展を	1
・地元文系私学として信頼している	1
・立派になって満足している	2
・就職した職域活動を	1
・他大学に比べ低レベル化のクリアを	1
・ロゴマークを元へ戻し、伝統を示して欲しい	1
・社会に認められる活動を	1
・広報を活発に、教授たちの知名度アップを	1
・自分自身のために努力すること	1
・活力を出してほしい	1
・豊橋には農学部を	1
・中部一番の大学になって欲しい	1

夜間：名古屋短大法経二部

4-28

表 後輩に伝えたい事
※回答者のみ集計
【名古屋】昭和27～32年卒
・東海一の大学に
・努力すること
・後輩を応援している
・先輩も頑張っているの、自信をもって社会への貢献を
・中部地方の私学の中核でありつづけること
・自信をもって活躍を
・愛大からもっと発信を
・大きく羽ばたいて欲しい
・誇りをもって
・少なくとも中部の大学ではリーダー格だ
・笹島の活気をもっと
・「加油愛大生」
・大学の歴史をしっかりと知って誇りを
・自己主張をもっと強く
・大学創設理念を継承し、地域社会へ貢献を

図 4-1



4-29

表 愛大から得たもの
※回答者のみ集計
【名古屋】昭和27～32年卒
・自由、平和、叡知
・小岩井先生の熱意
・一般教養
・沢山得て列挙できず
・近江商人の知恵
・戦後間もない時代を自分なりによくやってきた
・人は試練に耐えて成長する
・不屈の精神と開拓心
・和而不同
・なせばなる精神。敗者の理由は聞きたくない
・人を大切にすること
・いつでも勉強すること
・敬天人愛
・事象に対する再考能力
・政治への関心と権力への反発
・私の後輩が私の背中を見て入学してきた
・戦後の木造校舎時代は、私のboosterでした
・愚直王道
・法令解釈と行政運営
・専門教科、商取引、弁証法で心強い
・夢をもっと頑張る
・学問に近道はない
・ご縁を大切に
・色々な知識を得た
・卒業後、大学に変革力がない。また偏差値が下がり、活気低下も懸念している

4-30

表 座右の銘
※回答者のみ集計
【名古屋】昭和27～32年卒
・急ぐな、怒るな、気にするな
・自由受難
・脚下照顧

4-31

表 出版物
※回答者のみ集計
【名古屋】昭和27～32年卒
・『最終決戦兵器「明水」その源流を探る』光人社刊「秋水懐古」ほか論文多数
・俳句の本をまとめた(所沢市では「柳光」の名で有名)
・小学6年の夏、広島で見た原爆の惨状。戦後の食糧難などの体験記録出版を計画中
・『王道楽土の夢破れて』(著者、目崎久雄氏。昭28年名古屋夜間法経入学。昭30年豊橋・法経科編入。資料編も付加された大変大きな力作です。一編者注)
・ ^{てんこく} 書道篆刻の展示計画
など

第5章 名古屋校舎《夜間学部》「法経学部2部法学科」卒業生の場合

1. はじめに

前章でもふれたように、愛知大学は開学の直後から、豊橋地域と並んで、まだ戦後も戦災跡地が生々しく残る名古屋地区の青年や市民に対して、法経や教養関係の学問を提供すべく「夜間講座」や「夏季大学」を開催し、戦時中以来学問に飢えてきた青年や一般市民に大好評となった。教員も手分けしてフル活動し、青年や一般市民からの要望に対応した。そのような熱気に対して、愛知大学は「夜間短大」を設置し、法経と文学・教養が学べる対応をした。この夜間短大も当時他に学べる機会がなかったため、勤労青年などの志願者は多く、次第にさらに学びたいとする要望が増え、大学側はさらにその先に各学科の2部（4年制の法、経、文）への発展を模索した。

しかし、東邦高校校舎に代わり新たに入手した中京女子短大跡の車道校舎は、建物が1棟のみで、そのままでは増加する学生を収容できず、新校舎の建設を計画した。1号館である。そして不足する資金を広く求め、夜間短大生だけでなく、学生自治会も賛同して、寄付の支援を呼びかけた。こうして1号館建設が始まると、本間学長は、既存の法経のほかに新たに「商学部」の開設案も提案した。まさに東亜同文書院大学の学部の継承を図ったものと思われた。こうして新学部と「4年制昼と夜間の2部」の設置を目指したが、申請先の文部省は昼と夜の両認可を認めず、夜間の2部だけを認可した。当時の収容建物と人事の採用に準備不足もあったように思われる。しかも文部省は認可条件に夜間短大の廃止を前提条件として

打ち出したため、寄付まで協力した学生自治会は、その廃止に反対し、学内も意見が割れ、大変であった。その後も議論を重ねた中で、日本の経済社会の先も見据え、本間学長は「4年制の法学と経済学両学科の2部」設置で進むことに決定した。こうして夜間の法経短大は、1956年の学生募集が停止され、志願者は申請された両学科2部へ移行することになった。また文科もそのあとで廃止された。こうして本間学長が構想した商学部構想は崩れたが、後に豊橋、名古屋両校舎に経営学科が独立し、後に経営学部へと発展していった。

以上のような経緯の中で、新たに誕生し、多くの志願者を受け入れてきた名古屋校舎の法経の夜間短大は、夜間学部として法経学部2部「法学科」と「経済学科」に生まれ変わり、新体制で教育研究が進むことになった

またこの数年後には、豊橋校舎にも両学科の2部が誕生している。

そこで、ここではまず「名古屋校舎の法経学部2部法学科」の1966年（昭和41年）までの卒業生たちに実施したアンケートの結果をまとめて紹介したい。

2. 生年と入学年、出身校など

表5-1は、今回アンケートをお願いした1966年（昭和41年）までの卒業生で回答のあった36人の方の生年と入学年をまとめたものである。年次が遡るほど回答者数が少なくなっているが、年齢を見ると最高が89歳であり、もっとも若くても77歳と高齢である。アンケートの回答も、高齢化と

それに伴う健康上の問題もあって制約されたことが伝わってくる。奥さんなど身内の方が本人に聞いたり、記憶をたよりに代筆していただいた方も見える。このアンケートの実施がもう 10 年早ければと反省している。と同時に、そのようななか、ご回答いただいた方々には心よりお礼申し上げたい。

表 5-2 はそれらの方々の出身地一覧である。地元名古屋は最も多く、次いで尾張、三河で、岐阜や三重の方も見えるがその数は少ない。夜学であるため、どうしても勤労学生が多くなり、遠距離通学が難しいことが伝わってくる。

次の表 5-3 は、その出身校を一覧化した結果である。これも当然通学距離に制約された学校が多いが、通学が困難なかなり遠方の出身校も見える。遠方の学校卒業後、名古屋地区へ就職し、そこからの通学であろう。また大学からの入学生も見えるが、新たに法学科の誕生を知り、再入学したものと思われる。当時の法学科のスタッフは法曹界でも著名教授が多く、学術会議委員にも選ばれた教授が多く、広く認識されていた。愛知大学の法学科には強い吸引力があったものと思われる。

それに関係してこの法経 2 部法学科を知った理由を見ると、表 5-4 のようになる。回答者の 6 割がこの問への回答を寄せており、多分野から情報を入手していたことがわかる。またそれに関連して、表 5-5 は、入学理由を一覧した。明らかに、前述したように、愛知大学法科への期待感があふれている。実際このような入学生の中から司法試験に挑み、堂々と弁護士になった卒業生も出て、この伝統はこのあとの 2 部にも継承され、今日のロースクールにもつながっている。

3. 在学中の学業

しかし、実際に授業が始まると、学業・勉学を中心に進めることができたのは、全体の 3 分の 1 であり、多くは勤労学生ゆえに、生活のために仕事中心になったりするという現実があった (表 5-6)。しかし、そのような環境の中でも後述するように、「志」は強く持っていた学生は多く、それが、卒業後の社会で花開くケースは多かった。

そのような環境の中で、まず、興味を持った分野をたずねると (表 5-7)、やはり、ほとんど法学に関係する分野が並ぶが、哲学、社会学、文学など初めて学ぶ幅広い分野への関心も示している。大学での新鮮な発見であったろう、と思われる。

それに関係して、表 5-8 は、授業で印象に残った教授たちとその分野を選んでもらった一覧である。人気投票というわけではないが、久曾神 (文学) や酒井両教授のようにユーモアを交えた力量のある教授と小岩井、本間、脇坂など学長経験者の教授、そしてやはり人気の哲学担当の高桑教授らが「印象に残った」という意味で選ばれている。

では、学業の分野で受講ゼミと卒論について試みる。いずれも必修であった。

まず、回答者が受講したゼミを見ると、表 5-9 のようになる。この回答については特定のゼミに集中せず、憲法や行政法を中心に、かなり多分野に広く開かれていて、どのようなゼミが開かれていたかがわかる。そしてあわせて卒論テーマを表 5-10 に示した。テーマだけから内容の深部まではわからないが、私法から公法、私法と公法の絡み (例えば、「国家法と入会権」)、そして地域のプランニングまで広がりがあり、当時の日本が置かれた国際状況や、様々な政治、社会、

経済問題と取り組んだことがわかる。頼もしく思えるのは、第三者からの思いでもある。

そのような中での先生方との交流はどうであったのか、表 5-11 はその回答である。2部の夜間ではあるが、在学年数の増加分もあり、具体的な内容も見ると、夜間短大生の場合よりも交流は中身も濃くなっているように思われる。図書館の利用度も高まっていたことがうかがわれる(表 5-12)。

以上のような学生生活を経て、在学中の満足度とそれについての理由を尋ねた。その結果が表 5-13 である。それによると無記入は 5 人いるが、それ以外は「まあまあ以上」であり、しかも「大いに満足」と「まずまず」とを加えると全体の 7 割を占めており、法経 2 部法学科では、ほぼ満足した学生が多かったといえる。実際、ゼミ、卒論などの学業と研究、友人との交流、仕事との両立など個々の充実ぶりが伝わってくる。そしてこのことがその後の人生にもよい影響を与えたとする回答が多いのは高い満足度を示している(表 5-14)。勤労学生という条件下にありながら、ゼミや卒論での学び方や調査法の習得、そして特に自分で立論し、実証する卒論作成は、自律的な人間形成になることを示しているように見える。

4. 就職活動

そしていよいよ就職の状況である。しかし、勤労学生としてすでに多くの学生は就職しており、まだ経済も低調な時代ではあったが、就職活動は表 5-15 に示すように、一部を除くとほとんど就職活動をしないで済み、就職活動に時間を取られなかったことがわかる。そのことに関していえ

ば、今日からはうらやましいことで、その分、仕事があったとはいえ、卒論や学業に打ち込めたのであり、それが在学自体の満足度を高めることになったのではないかとと思われる。

私事だが、20 年ほど前、2 年間近くイギリスの某大学に客員教授として滞在中、色々な経験をさせてもらったが、当時のイギリスの大学では、日本のように在学中からの就職活動はなく、明日卒業式という前日まで授業が続けられ、最後まで学生たちは大学で勉学に励んでいた。では就職はどうするのか。それは卒業後 3 年間はインターン制でいろいろな企業や事業所などへ行き、インターン生として働き、3 年間の内に自分に適し、相手も受け入れてくれるところへ就職するシステムになっていた。学生には選択のゆとりがあり、最後まで大学で勉強できるのは最高であろう。今の日本では、もう 4 年生は事実上就職だけで走り回り、しかも入学時から就職準備が始まり、大学は就職予備校のようになってきた。本来の勉学時間に集中できず、学力は低下することになる。データ的にみれば、イギリスの大学卒業生の失業率は高い、と日本のメディアが伝えているが、それは以上からもわかるように、イギリスの大学卒業後の学生の就職方法とのかかわりが理解されていないからである。失業ではないのである。日本もそして愛大も学生の大学時間をどう確保するかは、今後の日本の、そして愛大のレベルをきめていくように思われる。

表 5-16 は法経 2 部法学科生の就職先の判明分である。すでに名古屋市役所や愛知県庁、また地方裁判所などの公務員などが目立ち、民間企業も多く、それも有名企業が多

い。高卒以来の就職先も含まれている。参考までに、定年後の再就職先判明分も一覧で示した(表 5-17)。ここでは再就職先も堅実であり、やはり法学科卒業後の最初の就職分野の延長的指向性がうかがわれる。

ところで、少し戻るが、卒業後の就職時に愛大卒を意識したかという点を尋ねた。その回答を示したのが、表 5-18 である。その回答によれば、大半は無回答であったが、愛大卒に誇りを持ち、また職場にはすでに多くの先輩たちがいたことから仕事もやりやすく、劣等感もなかったが、中には夜間出身で勉強時間が足らなかったのでは、という気持ちや、大学名で気おくれしたとの回答もある。しかし、これもむしろそのような状況の就職先に就職できたという自信と誇りを示したことであろう。

またあわせて、他大学の卒業生との比較を訪ねた結果が表 5-19 である。回答者の3分の1がこれに回答してくれた。それによると、「愛大建学の精神への誇りと、夜学で昼夜ともがんばったことへの誇り、まじめさ」などの特徴が指摘されている。そしてトータルとしての愛大生の特性については、全体としては前表にもみられるが「まじめ」と「前向き」なところが大きな特徴だと読める。そして話は飛んで、今日の愛大の伸び悩みについて気にしている声もある。これまでこれだけ頑張ってきたのにという誇りと自信からの心配の声としてうかがえる。大学側もそのような声に耳を傾け、その対応する姿を卒業生に見せてもらいたい(表 5-20)。

5. 愛知大学卒業生として

最後に、愛知大学の卒業生としての意識

を問うてみた。その結果を見てみよう(表 5-21)。

まずは、愛知大学の設立趣意書への評価と反応である。すでにほかの章でもふれたが、戦後の新生日本の進路をみさだめ、世界平和への貢献を目指し、国際人の養成と旧制大学としては初の6大都市以外での立地開設ゆえの地域文化への貢献をうたった内容に対してである。

それに対してこの設立趣意書の理念に共感して入学したという反応は、他の学科でも共通してみられ、入学生に強い自覚と影響を与えていたことがわかる。そこから新たな世界観を知り、世界や地域活動に自ら積極的にかかわってきたという回答も同様である。また、勤労学生が目線でカリキュラムを工夫してくれたので、おかげで得難い友人も確保できた点での感謝も述べられている。あらためて設立趣意書は愛大憲法であったといえる。

それにも関係して、愛大の開設理由のひとつであった東亜同文書院大学からの帰国編入生についての認知である。7割近くの回答が書院生を認知していることがわかる。色々な情報からもそれを得ており、関心がきわめて高かったことがわかる(表 5-22)。

次に、最初の入学の直前におこった「愛大事件」についての認知とその受け止め方についてである。まだ旧兵舎が学生寮として広く使用されていた時代、夜陰に紛れて豊橋キャンパス内に侵入した2人を、不審に思った学生が拘束したら、警察官であったことから、メディアが大騒ぎし、誕生したばかりの県警が介入して大騒ぎになった。当時朝鮮戦争がはじまり米ソの東西冷戦が顕在化する中で、日本国内も揺れた時期で、

大学では東大や早稲田大で同様な事件が起こったが、両校では大きな問題にならず、愛大だけが狙われ、まだ軍国時代の雰囲気が残っていたこの地方では、「赤い大学」という風評が飛び交い、企業からの大学への寄付金が途絶え、卒業生も風評被害を受けたりした面もあった。前述の両大学などは不発であったが、愛大は大陸以来の歴史はあるが、戦後の新設大学であり、県警からは簡単につぶしにかかされると軽く見られたのだろう。しかし、この事件に対して、愛大を設立し、この事件の際に最高裁の事務総長を務め、直後に大学へ戻り、愛大の学長に就任したばかりの本間学長は、警官を拘束した学生は真実を伝えたのに、二人の警官は口裏をそろえ虚偽を伝えていると批判し、学生を終始弁護する一方、大学の自治は国家権力から守るべきなどの論陣を張った。こうして愛大は警察権力につぶされなかったのである。本間学長を中心に学生への弁護は続き、関係大学からの支援も広がった。この本間学長の学生擁護する姿勢は、学生たちから強い支持を受けた。

表 5-23 は、この事件を 6 割の学生が認知しており、認知している理由は本間学長への支援が多く、メディア発による風評被害を受けつつも、権力への対抗心は強かったといえる。そこには本間学長への信頼度が高く、法学を学ぶ学生たちゆえに、その観点は揺るがなかったものと思われる。

開学間もない時の事件であったが、このような経過の中で、母校愛大への関心はどのようなものであったのか。表 5-24 はそれを示している。それによると、36 人中 32 人が回答し、「多少以上」の関心ある卒業生が全体の半分を占めた。「大変関心あり」の理由を見

ると、設立趣意書もベースにしながらか、「愛大を誇り、愛大の行き方を支援し、それに感謝する」などの強い愛大ファンとしての関心が見られる。正義感を抱いた卒業生たちの存在であり、このような卒業生を大事にしていく大学側本間学長が示した方策は今後も必要であろう。

では名古屋法経 2 部法学科の卒業生たちは、愛大情報をどこから得ているのだろうか。表 5-25 はそれを示している。複数回答ではあるが、『同窓会報』が最も多く、次いで「テレビ、新聞」、さらに、『愛大通信』の順である。やはりここでも「大学ホームページ」は少ない。課題である。

では愛大にどのような情報を期待しているのかを表 5-26 から見てみる。ここでは 6 件の情報への期待があげられているが、卒業生の活躍情報を筆頭に加え、いずれも大学の活動、発展を期待する内容である。ということは大学側にこの分野の実態とその発信力が弱いということのあらわれでもあろう。大学側も参考になろう。

次は同窓会への反応である。表 5-27 は「同窓会への出席状況」で、回答者の 3 分に 1 が「時々」以上出席している。まずは現段階では良好のように思われる。表中 A のグループはほぼ常連であろう。同窓会の役付きであったり、人脈が確立している状況がうかがえる。そのほかのグループでも、会費は納入し、同好会的な自分たちの同窓会には出席しているようで、個人間の多岐な交流もあるようである。今後の同窓会の会の盛り上げには参考になるのではないと思われる。

同窓会がマンネリ化したり、出席者が減少して来たりしているという話は多少聞こ

えてくるが、では「同窓会の魅力アップ」の工夫はないのかを問うてみた。その回答が表 5-28 である。ここでは 9 件の意見があった。「積極的な PR と PR できるほどの社会貢献などの内容の魅力、そして楽しみを」、というまとめになるうか。同窓会側も参考にしてほしい。

では、後輩たちに何を伝えたいかということも問うてみた。それをまとめて示したのが表 5-29 である。これには 17 人が答えてくれた。社会経済での経験豊かな卒業生たちからの体験、経験から出てきた指摘であろう。それぞれには重みがある。キーワードとしてみると、「建学精神、愛知、真理、自信と誇り、冒険と傷害の学び」などで、愛大精神の原点から広がってゆくように思われる。在学生、後輩は参考にしてほしい。

いよいよ、まとめも最後に近づいてきたが、まずは、「母校愛大をどう見ているか」である。それを表 5-30 に順不同で示した。それによるとまずは大学への発展の期待が多面的にも個別的にも多くみられ、個別的には法科大学院や孔子学院、中国問題、名駅校舎など、個々の分野の発展策や新学部構想案も含み、それなりに高い評価もできるとともに、全体としては大学の発展への強い期待がある。その背景には「近年、愛知大学の特徴や個性がなくなった」という他の学科からの意見にも見られる危機感が卒業生の間に生じつつあるように思われる。ぜひ、大学は耳を傾けてほしい問題である。

そして次は、「愛大から得たもの」についてである。それを表 5-31 に一覧した。多方面にわたるが、愛大から多くのことを得たとする回答は愛大としてはうれしい限りで、教育、研究が卒業生に評価されたというこ

とである。内容的には、「人生の生き方、友人とのつながり、真理の探究、あらたな知見と視野の拡大、努力とチャンス、大きな自信、弱者への理解、自由な勉学の機会を得た」などである。そしてこれらの「得たもの」があまり重ならない形で回答されたことは、愛大教育の中で自然にそれぞれの個性が育まれたことを伝える。

そしていよいよ最後が、卒業生の「人生における満足度」とそれが「愛大とどのようにかかわっているのか」との相関関係である。その結果を図 5-1 に示した。縦軸は下から上へ満足度が高くなることを示し、横軸は愛大との関係で、左から右へ行くほど強くなることを示している。黒丸 1 つは、それぞれの回答者 1 人を示している。全体としてみると、右上に行くほど両者のつながりは強くなり、図中では両軸のそれぞれ中央から右上方範囲での点の分布が多く認められ、多くの卒業生は人生の満足度は高く、しかもそれは愛知大学での学びと強い関係にあると反応している。なお右下の 1 人、愛大と強い関係にありながら人生の満足度は少し低かったというケースであり、何らかの因子が作用したものと思われる。一方、左側の範囲内の 6 人は愛大との関係は弱かったり、ほとんど関係がないという卒業生で、しかし、人生の満足度は普通以上であることから、かなり卒業後に自力でがんばったことを示している。

また、表 5-32 は在学中の思い出とその後の出版物の紹介を示した。とくに思い出は色々多彩で在学中が充実していたことを示し、学生生活の色々なストーリーの断面を伝えてくれる。

6. おわりに

以上から見ると、愛大名古屋法経 2 部法学科では、多くの学生が在学中にはまじめに大いに法律学を中心に学び、卒業生になっても幅広い在学時代からの教育効果に自立性も加わり、優れた社会人たらしめたと評価できるだろう。

そして、特に、心からの愛大ファンであることもわかった。それゆえの今日の愛大への期待と要請にはより誠意をもって大学側は答えていく必要があるだろう。

夜間：名古屋法経部二部【法学】

5-1

表 本学二部（夜間）卒業年次と調査時の年齢

※年齢は記入者のみ集計
法経学部二部 名古屋

【法学】 卒業年	対象者：S33～41年卒	
	回答者数	2020.4.1時点 年齢
昭和33年（1958年）	1	89
昭和34年（1959年）	1	85
昭和35年（1960年）	1	87
昭和36年（1961年）	3	88,82
昭和37年（1962年）	3	83,84,86
昭和38年（1963年）	4	81,81,84,85
昭和39年（1964年）	5	79,81,81,84,87
昭和40年（1965年）	6	79,79,80,81,82
昭和41年（1966年）	12	77,77,78,78,78, 79,80,80,81,81, 82,83,
合計	36	

5-2

表 本学二部（夜間）出身地

法経学部二部 名古屋

【法学】 出身地	昭和33～ 41年卒
名古屋	19
江南, 布袋	1
春日井, 清州	1
丹羽, 大口	1
岡崎	2
多治見	1
半田	1
碧南	1
上郷	1
犬山	1
一宮	1
稲沢	1
大府	2
加納大手(岐阜)	1
槇妻(岐阜)	1
駒野(三重)	1
合計	36

5-3

表 本学二部（夜間）出身学校

(※) 編入
法経学部二部 名古屋
(調査対象：昭和33～41年卒,1958～1966)

【法学】 出身校	人数
南山大学(※)	1
名城大短大(※)	1
名古屋工業大学	1
市邨学園高蔵高校	1
名古屋西高校	1
桜台高校	1
松陰高校	2
稲沢高校	2
一宮高校	1
刈谷高校	1
菊里高校(定時制)	1
岡崎北高校	2
碧南高校	1
大府高校	1
豊田西高校	1
斐太高校	1
東邦高校	2
向陽高校	1
新城高校	1
西陵商業高校	1
愛知商業高校	4
加納高校(岐阜)	1
大垣北高校(岐阜)	1
津実業高校(三重)	1
四日市高校(三重)	1
四日市工業高校(三重)	1
成東高校(千葉)	1
磐田商業高校(静岡)	1
無記入	1
合計	36

5-4

表 本学二部（夜間）を知った理由

※回答者のみ集計
法経学部二部 名古屋

【法学】 理由	昭和33～ 41年卒
知人から	3
学校資料	1
入試要項	1
友人から	4
前から知っていた	1
通学至便	1
勤務先に近い	1
新聞から	3
先生から	1
広報から	1
先輩から	1
夜間大を調べた	1
市内の有名大学	1
身内が入学	1
合計	21

夜間：名古屋法経部二部【法学】

5-5

表 本学二部（夜間）の入学理由	
※回答者のみ集計	
法経学部 二部名古屋	
入学理由	【法学】 昭和33～41年卒
通学至便	3
公務員志望	1
就職先官庁	1
就職先公務員	3
大学卒資格を	2
地域発展に貢献したい	1
法律を学ぶ	4
私学のトップ大学	1
一般教養を学ぶ	1
教職資格取得	1
仕事に役立たせたい	1
先輩のすすめ	1
司法試験のため	1
広く学びたい	1
地方公務員で余裕あり	1
同級生のすすめ	1
スキルアップを	1
働きながら学べる	1
労働法を学ぶ	1
職場に愛大卒生多い	1
会社到大卒多い	1
合計	29

5-6

表 本学二部（夜間）在学中の学業比重		
※回答者のみ集計		
法経学部 二部名古屋		
比重	【法学】 昭和33～41年卒	理由
1.学業が主	4	・法律とくに民法学びたい ・法学を勉強したい
2.どちらかといえば学業	1	
3.学業はまずまず	5	・就業中 ・仕事多忙 ・正社員になったため
4.学業は従	21	・生活のために働く ・就職中 ・仕事中心
合計	31	

5-7

表 本学二部（夜間）で興味を持った分野	
※回答者のみ集計	
法経学部 二部名古屋	
分野	【法学】 昭和33～41年卒
フランス語	1
社会、法、史	1
刑法、行政法	1
憲法、地方自治法	1
学友が良く、楽しかった	1
憲法、社会学、地方自治法	1
法律	1
政治	1
行政法	1
哲学、政治学	1
法学、中国語	1
法学	1
法学、諸科目	1
現代法	1
成長する仕事	1
久曾神先生	1
文学、哲学、ゼミ	1
刑法、民法	1
労働法	1
借家、借家法	1
憲法、経済学	1
憲法	1
合計	22

5-8

表 本学二部（夜間）で印象に残った先生と分野		
※回答者のみ集計		
法経学部 二部名古屋		
先生・分野	【法学】 昭和33～41年卒	理由
入江	1	
小岩井	3	・見識広く
本間喜一	2	・立派な先生
岡崎（経済原論）	1	
戒能（憲法）	1	
久曾神	6	・面白い
酒井	3	・九州人らしい、説得力
高桑（哲学）	4	
中条（英語）	1	・情熱的
柳沢	1	
脇坂（民法）	2	
今泉（中国語）	1	
宮崎	1	
浜田	1	
合計	28	

夜間：名古屋法経部二部【法学】

5-13

法経学部 二部名古屋			
レベル	【法学】	昭和33～41年卒	
1.大いに満足	A		6
2.まずまず	B		19
3.まあまあ	C		6
4.無記入			5
	合計		36
《表中のA理由》			
・良い指導教授に恵まれ、卒論、ゼミ、小旅行も楽しんだ			1
・異なった職場の人達との交流ができた			1
・厳しい環境下で卒業できた達成感			1
・仕事と両立でき、充実した学生生活			1
《表中のB理由》			
・講義に十分な興味をもった			1
・夜間で時間不足でじっくり学べなかったが			2
・学生運動とうたごえ活動ができた			1
・実践に役立った			1
・友人ができた			3
・しっかり単位もとれ、4年生では1科目のみ			1
《表中のC理由》			
・1960年安保で授業の中止があった			1

5-14

※回答者のみ集計 法経学部 二部名古屋		
影響レベル	【法学】 昭和33～41年卒	主な理由
1.大いに影響	9	<ul style="list-style-type: none"> ・生き方に対して ・行政委員会に自信もてた ・小生に高卒職員が続いてきた ・仕事と法令トラブルに対応できた ・これからの職業選択に大いに悩んだ ・仕事が厳しい時、愛大への通学が心の支えに ・4年間をやりとげ、粘り強くなった
2.まずまず	10	<ul style="list-style-type: none"> ・司法試験をめざすのに役立った ・学歴が付加できた ・各種の資格がとれた ・勉強になった ・法律総論と各論の思考方法が理解できた ・卒業後、上司の目が変わった ・最低賃金制の研究ができた ・上場会社の特許紛争にかかわれた
3.まあまあ	8	<ul style="list-style-type: none"> ・就職先が広がり、友人ができた ・人間としての幅が広がった
4.あまり	2	
	合計	29

5-16

※回答者のみ集計 法経学部 二部名古屋	
就職先	【法学】 昭和33～41年卒
東亜合成化学	1
広告代理店（大阪）	1
名古屋調達局	1
名古屋市役所	4
碧南市役所	1
愛知県庁	2
NTT	1
三菱商事	1
名古屋地方裁判所	1
東洋信託銀行（現：三菱UFJ信託銀行）	1
朝日食品工業所	1
河本製機（豊田自動織機系）	1
	合計
	16

5-15

法経学部 二部名古屋		
影響レベル	【法学】 昭和33～41年卒	理由
1.かなり積極的		
2.やや積極的		
3.ふつう	3	
4.あまりしない	1	
5.全くしない	24	すでに就職中
6.無記入	8	
	合計	
	36	

夜間：名古屋法経部二部【法学】

5-17

表 定年後の就職先	
法経学部 二部名古屋	
就職先	【法学】 昭和33～41年卒
エージェンシー（広告）	1
名古屋市学校事務職員	1
中部電気保安協会	1
地方議員	1
北区役所行政相談員	1
ボランティア（高齢者福祉）	1
行政書士事務所	1
愛知県土木改良連合会	1
小浅商事（ニコニコ海苔）	1
横浜家庭裁判所	1
中部復建（建設コンサル）	1
金印わさび	1
無記入	24
合計	36

5-18

表 就職時に愛大卒を意識したか		
法経学部 二部名古屋		
意識レベル	【法学】 昭33～41年卒	理由
1.はい	5	・愛大を誇りに思っていた ・職場に愛大卒生が多かった ・職員全体のレベルアップをめざす
2.少し		・県庁に愛大卒生が多かった ・大卒者に劣等感を抱かなかった ・夜間卒ゆえ、ゆっくり勉強できなかった
3.特になし	3	・すでに就職中 ・職場は一流大ばかりのため、愛大の名を出せなかったことも
4.無記入		24
	36	

5-19

表 愛大卒生を他大学と比較	
法経学部 二部名古屋	
比較	【法学】 昭和33～41年卒
建学精神は愛大しかなく誇りであった	1
昼は修行、夜は学業に励む	1
2部へ通う意識の高さあり	1
地元に着している	1
ローカル性が強い	1
信頼が厚い	1
中国に強い	1
まじめでおとなしい	1
まじめな卒生が多い	1
全体的に評価低い	1
150人中愛大卒生が2人	1
第一線で働いた	1
無記名	24
合計	36

5-20

表 愛大卒生の特性	
法経学部 二部名古屋	
比較	【法学】 昭和33～41年卒
まじめ、意欲的	1
物事への積極性強い	1
修行と学業に励む中で、学費をカバーしてもらえた	1
名城大と比較されるが、愛大の方が高い	1
最近については伸び悩みがみられないか	1
親近感あり	1
まあまあのポジション	1
まじめでおとなしい	1
傲慢なところはない	1
法学系は上昇	1
愛大事件後にその影響があった	1
無記名	25
合計	36

夜間：名古屋法経部二部【法学】

5-21

表 愛大設立趣意書反映	
※回答者のみ集計	
法経学部二部 名古屋	
(調査対象：昭和33～41年卒,1958～1966)	
【法学】	
反映内容	
自由に意見が述べられる	
知を知り、人生を豊かに	
その理念を意識されて入学し、誇りをもった	
勉学機会に感謝	
特定少数の赤旗行政が大学評価を低めたが、今は評価は高く、地域を支える卒業生が多い	
教育の必要性を感じる	
2部で友人を得たのはかえがたい	
自分の知らない世界観を教えてもらった	
かなり自覚している	
勤労学生の目線に沿うカリキュラムだった	
地域の様々な行事に積極的に参加した	
世界の繊維機械に貢献した	
メシを食うのに精一杯で反映できてなかった	
夜間学生としては特にない	

5-22

表 東亜同文書院生の認知と交流		
法経学部 二部名古屋		
【法学】 レベル	昭和33～ 41年卒	理由
1.よく知っている	5	・愛大入学前に書院が上海にあったことを知っていた 1 ・同窓会支部長からの情報あり 1 ・本間学長から知った 1
2.少し知っている	15	・新聞記事から 5 ・入試要項から 1 ・入試案内から 1 ・雑誌から 1 ・書籍から 2 ・大学新聞から 1 ・パンフレットから 1 ・大学図書館から 1 ・父親から 1 ・大学で 1 ・兄から 1 ・先生から 1 ・同窓会報から 1
3.知らない	9	
4.無記入	7	
合計		36

5-23

表 「愛大事件」の認知とその受け止め方			
※回答者のみ集計			
法経学部 二部名古屋			
【法学】 レベル	昭和33～ 41年卒	A	B
1.よく知っている	A	5	
2.少し知っている	B	13	
3.知らない		12	
合計		30	
《表中のA理由》			
・本間先生の尽力に敬服			
・当時よく頑張った			
・学生の熱意を感じたが過度な行為はダメだ			
・権力と正面から戦う姿勢に共感した			
・友人の兄が被告側に立った			
《表中のB理由》			
・若者のエネルギー発散（表向きは国家権力への抵抗）			
・新聞で知った			
・大学の自治は大切だ			
・世間から偏見もあった			
・当時の愛大生は左翼的だった			
・詳しくは知らない			

夜間：名古屋法経部二部【法学】

5-24

表 母校愛大への関心			《表中のA理由》		
法経学部 二部名古屋			・ 愛大に誇りあり		
レベル	【法学】	昭和33～ 41年卒	・ 地域連帯に寄与		
	1.大変関心あり	A	11	・ 愛大発展を願うから	
2.多少あり	B	8	・ 中国との関係強化を		
3.ふつう	C	11	・ 苦労して2部学生として卒業できた誇り		
4.あまりない		2	・ 私を育ててくれた愛大に感謝		
5.無記入		4	・ 自分の卒業した大学だから		
合計		36	《表中のB理由》		
			・ 出身校だから		
			・ 弱者に対する救済の理念		
			・ 当会社への愛大法科卒業生合格率は日本一だったから		
			《表中のC理由》		
			・ 卒業からかなり経過している		
			・ 他大学と変わらない		
			・ 一流大に比べて実績がなく、人前で愛大生とはいえなかった		

5-25

表 愛大情報の入手先		
※複数回答あり		
法経学部 二部名古屋		
入手先	【法学】	昭和33～ 41年卒
	1.テレビ,新聞	
2.大学ホームページ		4
3.愛大通信		8
4.会合		1
5.受験雑誌		
6.同窓生		4
7.同窓会報		24
8.愛大新聞		1
9.その他 (社会で活躍している人々から)		1
10.無記入		2
合計		55

5-26

表 愛大への期待情報		
※回答者のみ集計		
法経学部 二部名古屋		
期待情報	【法学】	昭和33～ 41年卒
	卒業生の社会貢献	
地域で広く貢献できること		1
国際協力		1
中国だけでなく、世界に情報を		1
入学生をふやし、社会的地位向上を		1
大学の発展情報を		1
合計		6

夜間：名古屋法経部二部【法学】

5-27

表 同窓会への出欠状況		
法経学部 二部名古屋		
レベル	【法学】	昭和33～41年卒
1.はい	A	6
2.よく	B	1
3.時々	C	5
4.いいえ	D	17
5.無記入		7
合計		36
《表中のA理由》		
・ 同窓会役員、同窓会報発行担当中		
・ 先輩後輩とのつながりが強い		
・ 関東、神奈川支部で交流		
・ 尾張西部支部長担当中		
・ 東京の法曹界とつながっている		
《表中のB理由》		
・ 今は役をはなれているため		
《表中のC理由》		
・ 今は役をはなれているため		
・ 同窓生の動向を知りたいため		
・ 名古屋市役所学士会 名支部参加		
《表中のD理由》		
・ 会費は納入している		
・ 今は市役所内のグループ中心で		
・ 個人的に先輩後輩と交流あり		
・ 夜間部のために学生間交流少なかった		
・ チャンスがなかった		

5-28

表 同窓会の魅力アップ法は		
※回答者のみ集計		
法経学部 二部名古屋		
回答	【法学】	昭和33～41年卒
社会認知を高めたい		1
商売につなげる工夫		1
会合をもっとふやす		1
日刊紙に積極的にPRを		1
社会への貢献を		1
大学食堂の利用を		1
法曹をふやしたい		1
各行事に楽しく参加できるように		1
興味を持てるように		1
合計		9

5-29

表 先輩に伝えたい事		
※回答者のみ集計		
法経学部 二部名古屋		
内容	【法学】	昭和33～41年卒
自尊心を		1
前向きに		1
やはり世界平和、知を愛し、など		1
建学の精神をもち、学生生活を。そして社会貢献を		1
若いうちに冒険して欲しい		1
社会に恩返し、真理の探求		1
私学乱立の中で誇れるように		1
地元を社会をよく理解すること		1
自信をもって頑張れ		1
学生の不幸事の背景を明らかに		1
愛大で学んだことを誇りに		1
自信をもって一歩ずつ取り組むことで目標達成となる。卒業後も勉強だ		1
どんなジャンルでもよいから、愛大の名を高めてほしい		1
目的意識と行動力を身につける		1
真実を追求し、社会を良くするために		1
血潮を燃やしてほしい		1
海外への技術移転はブラックボックスで		1
合計		17

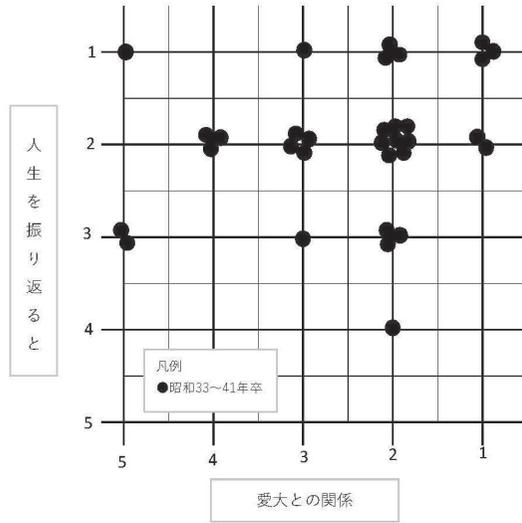
5-30

表 愛大をどう見ているか		
※回答者のみ集計		
法経学部 二部名古屋		
見方	【法学】	昭和33～41年卒
建学の精神が薄れて一般大学と変わらなくなった		1
特徴がなくなった		1
名駅校舎をうれしく思う		1
他の私大に負けない高質の学生を広くから集めるように		1
県内私大のトップだと認識している		1
情報の発信を		1
地元で広く活躍するよう頑張っ欲しい		1
名駅立地に期待		1
孔子学院にも距離を置き、欧米に近づくべき		1
法科大学院のさらなる発展を		1
日本に愛大ありと発信して欲しい		1
中部では格式が上昇している		1
工学部、医学部を加えた総合大学化を		1
当時に比べ、各段に高い状況にある		1
中国との打開策を実行してほしい		1
合計		15

夜間：名古屋法経部二部【法学】

図 5-1

図 人生の満足度と愛大の関係 【法経学部二部名古屋 法学】



人生をふりかえると 【①おおいに満足②まずまず満足③普通④少し不満⑤大変不満】

愛大卒生との関係 【①おおいに関係②多少関係③普通④あまり関係ない⑤全くない】

5-31

表 愛大から得たもの	
※回答者のみ集計	
法経学部 二部名古屋	
内容	【法学】 昭和33~41年卒
生き方	1
自分の考えを即実行	1
人生の理念プラス思考。戦前の戦争反対、平和と自由、困難に直面したら1つ1つ片付けていけば解決に向かう。自己の弱点を話せば人と親しくなる	1
急がば回れ、失敗は成功のもと	1
大学で得た友人を大切にしたい	1
千葉に離れているが、良いひとのつながり	1
知を愛する真理の探究	1
他人に期待しない	1
知らなかった世界を教えてもらったこと	1
学びの心「好心普道」	1
夜学で得た友人	2
がしんしょうたん「臥薪嘗胆」	1
車道校舎で日本の将来を考えたこと	1
同じ条件ならどの大学（東大、京大、早大、慶大ほか）に負けない自信があった	1
どんなことも追求、探求する頑張り精神	1
貧乏のつらさ、弱者の悲しみを忘れるな	1
人生の視野が拡大、沢山の友人を得た	1
学生時代の仲間と過した楽しい時間	1
コロナ前まで1年生時クラスの忘年会を実施してきた	1
勉学の機会ありがとう「念ずれば花開く」	1
自由に勉学できたこと	1
合計	22

5-32

表 出版物、愛大時代の思い出など	
※回答者のみ集計	
法経学部 二部名古屋	
【法学】 昭和33~41年卒	
卒論が愛大図書館にある	
日本は米国に追随せず、戦争時代を反省すれば中国や北朝鮮とも仲良くなれる。書院の列率主旨にも合致する	
千葉生まれの自分が東海地方ともつながれて良かった	
憲法ゼミは酒井先生と親しくしていたのに逝去され残念	
通学時、貧富の差を痛切に感じ、弱者の見方になりたいと	
法経学会賞を受けた	
ある教授から同一問題を昼と夜に出したら夜間学生の方が成績が良かったという話があった	
一生懸命通った大学ゆえ、欠席はほとんどなし	
同じクラス8人で北海道旅行をした	
息子が生まれた時、卒論を書いていた	
就職先で愛大夜間学生に偏見があったこと	
1年生クラスの忘年会、北海道旅行、試験前の勉強とコンパ	
『エネルギー＆クリーン』	
津市各図書館配布「歴史散歩」資料／津市のまつりなど	
『立ち上がれふるさと、それぞれの地方創生』	
『労研』発行。学生の協力も	

第6章 名古屋校舎《夜間学部》「法経学部2部経済学科」の場合

1. はじめに

本章では、前章の法学科と対を成す経済学科のアンケート結果の紹介である。法学科と同じ設問であり、両学科で共通の説明をしたところもあり、それとダブらないよう、冗長にならないようにすすめた。

法経2部経済学科も法学科と同時に、それまでの夜間短大を発展させる形で成立した。そうして昭和33年(1958年)、最初の卒業生が誕生した。今回は昭和41年(1966)までの卒業生を対象とした。その間の対象者は、やはりすべてが調査時点2019年3月で、79歳以上であり、高齢者となっている。回答者数は法学科卒業生よりも下回り、26人とどまった。

2. 生年、入学年、出身校など

表6-1は、回答者の卒業年次別人数を示した。当然ながら後半の方が人数は多い。回答者の出身地は、表6-2に示した通りである。大学のある名古屋がもっとも多く、次いで尾張の各地、三河、そして名古屋寄りの岐阜、三重である。夜間学部への通学になるため、大学への交通至便な場所が居住地になっている。その一方、遠隔地から仕事の関係で名古屋や名古屋近郊に居住し、そこから通学するケースも見られる。

出身校も出身地に対応している。表6-3がそれである。名古屋市内を中心に尾張、三河が多く、岐阜県でも遠隔な飛騨、長野、山口などの出身者は就職の関係で、地元の下宿か企業の寮からの通学であろう。多少でも出身地が広いことは、お互いに良い刺激になったと思われる。

次は「本学を知った理由」(表6-4)である。自分で調べた、知人から、新聞からなどが多いが、他は個々で多様である。通学の至便性などは、自ら情報を集め、知ったケースが多い。

では、愛大へ入学した理由は何だったのであろうか。表6-5がその理由を示している。最初の入学生の回答から順に並べてある。法学科に比べるとその理由のばらつきは大きく、色々の理由を持った学生が入学したことがわかる。前号の法経学部経済科と同様の幅の広さといつてよいだろう。しかし、自分の課題も含め、学びたいとする意欲は共通する。

こうして入学した際の授業料と生活費については、いずれも勤労学生としてその多くを自分の勤労部分から支出しており(表6-6)、そこに本学の2部生の大きな特徴がみられる。自からの労働価値で学んだのであり、その分、昼間部に多く見られる親の負担による学生よりは、より自ら主体的に学ぼうとする意欲が高かったことは法学科と同様で、顕著である。

3. 学業の位置付け

こうして授業に臨むことになるが、勤労学生であるという現実条件もふまえ、学業はどのように位置づけていたのであろうか。表6-7はそれを示している。それによると、回答数25人の内、7人が学業を意識して学び、残る18人はその理由にも示した通り、それぞれの仕事が生活も加え、中心になっていたことがわかる。一方、学業を中心に置くことのできたグループは勉学に特化し、

各授業も堪能し、会計士を目標とするケースもあり、生活にも余裕があると思われることから、最初から昼時間を多くとれる夜間学部へ入学したケースのようにも思われる。法学科では司法試験の受験を目指し、最初から2部入学を目指すケースであり、合格もしている。学業への幅は、自己の目的と置かれた条件の中で多岐にわたったということが見られるが、前述したように、このような状況にしる、学びの姿勢は共通していた。

次に、興味を持った分野について問うた。表 6-8 はそれを示している。当然経済学関係科目が興味を持つはずであるが、回答 32 件の内、複数科目選択によると、経済学関係を明示した科目数は 18 で、半数を占めるにとどまり、そのほかは国文学や哲学、社会学、語学などで幅の広い関心が見られた。そんな中で新たに赴任した安藤満寿男教授による経済立地論は各学科で興味をもたれている。それまで経済学は、マル経にしても近経にしても理論が中心であったが、安藤教授の経済立地論は現実の企業立地へのアプローチで、理論と実践が組み込まれ、経済学と経営学の両分野に及び、新鮮な科目として学生に注目され、学生を引き付けたのであろう。

また関連して印象に残った先生については表 6-9 に示した。ここでも安藤教授が人気を集め、時事解説でわかりやすい山本二三丸教授も見られる。そのほかの教授もそれぞれの特徴で、印象を強く残した。

ではそのような先生たちとの交流はどうだったのか。表 6-10 がそれである。やはり、安藤先生との交流が卒業後も地域問題とのかかわりつつづいている例もある。愛大の

教授が学外の実際の経済地域で具体的な地域計画と地域指導にフィールドワークをベースとした扉を本格的に開いた初めての例であったと思われる。安藤先生は経済地理学、地理学が専門で、筆者も後に愛大文学部の地理学教室に赴任し、安藤先生のご存命中、経済地理学会とその中部支部の運営を支部長や代表幹事役としてサポートした。卒業生のアンケートから安藤先生の愛大での足跡が具体的に浮かび上がったのは、大きな収穫であった。

そのほか各先生とのゼミ中心のコンパなどが交流事例として見られる。

表 6-11 は、回答者が受講したゼミの一覧である。これ以外にもゼミは開かれていたと思われるが、回答例に従って示した。ここでも経済成長が少し見え始めた昭和 30 年代後半から実地に議論し産業の立地調査を行う安藤ゼミが人気であったことがわかる。

そんなゼミ生が挑戦した卒論のテーマで記憶に残っている分を回答してもらったのが表 6-12 である。記憶がなくなったという方も多く、その数は少ないが、卒論のテーマの状況は興味深い。トップの富士製鉄は中京地区に本格立地した製鉄工場であり、その立地分析に挑戦したのは安藤ゼミ生であった。そのほかにも単なる理論研究だけでなく、現実の事象分析にいどんでいるケースが多くみられ、経済学科の卒論テーマに生き生きとした変化がうかがわれる。

では、以上のような卒論も完成させるなど、法経 2 部経済学科の卒業生の在学中の満足度はどうであったのか。またその理由は何であったのか。表 6-13 はそれを示した。回答者 20 人の内、18 人、つまり 9 割が「まあまあ満足以上」と回答し、満足度が高かつ

たことを示している。特に「まずまず」以上の12人は、学生も教授もお互いが目的に向かって熱く学んだことがわかる。その一方、学費の悩み、仕事に追われた学生もいた。

そして「そのような学びがその後の人生に与えた影響」については、「まずまずの影響を与えた以上」が12人で過半を占める。与えた影響は自信と勉学に絡んだ上位資格の獲得、交友・人間関係の充実、そして理論だけでない学びができたことへの評価などがあげられ、一方、仕事と学問のやりくりが大変であったとするこれも現実の回答があった。しかし、全体としては愛大法経2部経済学科の学生の学びは人生のプラスに作用したといえそうである(表6-14)。

4. クラブ活動

学生生活の中のもう一つ、クラブ活動はどうであったのか。前述の法学科ではそれははっきりしないため、取り扱わなかった。やはり夜間学部ゆえの時間制約が、その活動を困難にしたということであろう。

この経済学科では、表6-15に示すように、いくつかの参加クラブ名が上がった。スポーツ分野3部と語学分野1部である。しかし、多くの回答者は、仕事があつてクラブまでは手が伸ばせなかったとしている。それゆえ少人数ではあれ、クラブ活動に参加した学生のチャレンジに拍手したいし、経済学科生の特徴が出ている。夏、冬の休暇時期にクラブの弾力的な運用の方法がなかったのか少々気になるところがある

5. 就職活動と愛大生の特性

次は就職活動であるが、多くの学生はすでに勤労学生として就業しており、卒業時

の転職を図るケースもあるが、それが就職活動にどう影響したかである。

それを示したのが表6-16である。回答者22人のうち19人が就職活動はしていない。すでに就職しており、その必要はなかったということである。そして就職先を示したのが表6-17である。すでに就職していたところでそのまま成長発展したケースが多かったということである。それを見ると有名企業が並んでおり、それぞれの職場でそれ以上に活躍したことがうかがわれる。あわせて定年後の就職先も示した(表6-19)。定年で退職した人は多いから、再就職した人数は多くないが、再就職をするほど活躍し、信用されていたということであろう。

ところで就職中、愛大卒を意識したことがあったかという点である。表6-19はそれを示している。回答の6割は「特に意識していない」とする。理由は就職先がそういう環境にはなかったということである。意識したという回答では、学卒経費をカバーしたかった事、向学心があり、4年制大学に負けない気概を持っていたということなどである。全体としては、当時の企業では2部生も含め大学卒はまだ珍しく、意識する状況にはなかったということであろう。

職場によっては他大学卒生とともに働くケースもある。そんなときの愛大生はどのような評価をされるのかについてである。表6-20は、その回答である。それによると全体としての愛大卒生は評価も高く、信頼され、仕事もよくできたとする。その一方、少数ではあるが評価が低いケースもあったとある。それらの理由については情報がなく、不明である。

そこで最後に、以上を踏まえ、愛大法経2

部経済学科の卒業生の特性を示してもらった。表 6-21 がそれである。それによると、「意識したことがない」1人を除くと、それぞれいろいろな側面からもプラスの評価が並んでいる。中には戦時中の厳しい育ち故、愛大の設立趣意書の理念を大切にしているという回答も見られた。このような初期卒業生が培った社会的評価を後輩たちへも継承、そして発展させていってもらいたいと願う。

6. 愛知大学卒業生として

ここでは愛大卒業生としての愛大とのかかわりについて、いくつかの観点から問うた。

まず、表 6-22 は、愛大生がまず入学式で学長のあいさつの中で知ったであろう愛大設立趣意書の内容とそれへの反応である。すなわち、戦後の世界へ向けて「世界平和」を目的に「国際人の養成」と「地域文化への貢献」をめざした、いわば愛大憲法である。それについてのほとんどは、それぞれの立場で評価し、その趣旨の実践も務めたとする回答は経済学科でも見られた。

愛大設立の背景には、中国から引揚げ帰国して、愛大への編入学生の中心となった東亜同文書院大学の学生たちがいた。彼らは 1947 年には戦災でまだ焼け跡の残る豊橋の地で愛大学生中心の「市民との文化交流祭」を企画実施し、市民へデビューするとともに市公会堂と愛大グラウンドで 1 週間近く多分野交流し、彼らのエネルギーが、その後の「愛大祭」の原型になったと思われる。この編入してきた東亜同文書院生への関心は高かったと思われるが、書院からの編入生は豊橋校舎が中心になっており、しかも

名古屋校舎の 2 部生は書院の彼らが卒業した後の入学であり、すれ違っている。それだけに書院生に対する認知が 2 部の学生間での程度であったかを問うた。

その結果が表 6-23 である。回答者 22 名の内、「よく知っている」が 5 人いて、その中には勤務先から経団連の訪中団に同行し、団長であった書院卒で現役の春名丸紅会長から同行中 10 時間も書院の話が聞けたという驚くような 2 部の卒業生もいた。どんな話を聞いたのか興味を抱かせてくれる。そのほか色々な情報から「少し知っている」という卒業生が 12 人もいて、「知らない」という回答者もその後知っており、全員が書院生を認知していたことになる。

また、同じく入学前にあった「愛大事件」になると、これも豊橋校舎での事件であったが、「よく知っている」と「少し知っている」が半分弱あり、法学科より少し関心は低いが、それぞれの理由を見ると、「学問や言論の自由を守るべき」という方向が読み取れ、大学の対応を理解していたとみてよい（表 6-24）。ただし、事件後年数がたっており、法学科と比べるとどの程度具体的に大学側の対応を知っていたかは 回答内容からはわからないところもある。

では、愛大への関心度についてはどうか。表 6-25 はその回答をまとめたものである。「あまりない」という 1 人を除くと、「大変関心」と「多少関心」が「ふつう」と同数であり、全体としては、それぞれの理由を見ても、大きく二つに分かれているといえる。関心層の一つは、当然であるが、大学とのつながりを積極的にとらえ、大学を高く評価している。

もう一つの層は理由から見ると、否定で

はなく、当時、消極的な見方であったといえる。経済学科の幅広さであろう。

では、今日、愛大情報は何かから得ているかである。表 6-26 はそれを示した。最も多いのは『同窓会報』からで、次いで「テレビ、新聞」、次の生情報中心の『愛大通信』は配布先の関係もあるのか、少なめである。また「大学ホームページ」はもっとも生情報が多いが、ほとんど情報源になっていない。ほかの学科も同様である。これは今回のアンケート対象がご高齢の卒業生を中心としており、パソコンやスマホからは距離があるからであろう。それゆえに、それをふまえ、愛大ファンが多いこの世代に生情報をどう伝えるかは工夫の余地がありそうである。

そのような中での愛大への期待情報を問うと、表 6-27 のようになった。愛大の歴史から大学の貢献情報までその幅は広いが、そこに卒業生たちの期待があり、大学にとっては情報提供の参考になろう。

卒業生の同窓会活動はすでに長い歴史があり、その活動レベルは中部地方でも屈指であるといわれてきた。ではこの世代の卒業生たちの同窓会への出欠状況はどうか、を問うた。それが表 6-28 で、それぞれの理由も付記した。高齢化が進む中で積極的に出席している会員も見られるが、欠席がちになっている状況も、それぞれの理由からわかる。そんな中で「いいえ」の回答が最も多いが、その理由を見ると、かつては積極的に参加し、会を盛り上げてきた会員ばかりであることがわかる。同窓会としては会が直面する初めての高齢化問題ともいえる。こうした理由から見ると、かつての会を盛り上げた会員たちから、今のうちに急いでそのノウハウなどを継承していくべき時期

だと思われる。そしてこの状況は今後も続いていくことからすれば、継承しながら、先輩たちのノウハウをいかに蓄積していくかという初体験を実践する体制づくりが同窓会に迫っているといえる。

その点で次の表 6-29 は、今回の名古屋法経 2 部経済学科同窓生からの「同窓会の魅力アップ法」の提案をまとめたもので、色々な提案は、同時に現在の会の持ち方の課題を示したものともいえる。ほかの各学科の卒業生からも色々な提案があり、それらも含め同窓会の各組織で、あるいは全体で総合的に検討していく材料になれば幸いである。

では、さらに進めて、現在の愛大をどう見ているかという点である。表 6-30 がそれである。多様な見方が出されているが、長年にわたり、実社会、経済界などでの体験者が愛大をどう見ているかという点で、いずれも貴重な見方である。今後の社会、経済を見て、学生をどう新たに教育していくかという重要な提案にもなっている。大学を高く評価してくれている見方も多いが、一方、近年の学生の質を懸念する指摘もある。いずれも同窓生ゆえのあたたかな指摘として、大学側がこのような見方にどうこたえていくかということになろう。

また、あわせて、後輩たちに伝えたいことにも回答してもらった。それが、表 6-31 である。それを見ると、特定の事柄に集中することなく、多方面にわたっての学生諸君への提案だともいえ、学生諸君への人生経験を積んだ大先輩たちからの遺言ということにもなる。それぞれの言葉には説得力があり、その言葉を生み出したそれぞれの卒業生の人生史としてのストーリーがそのべ

ースにあるはずで、愛大生にとっては珠玉の言葉になるだろう。回答の言葉が多く、側面に広がったところに、多分野に関心を持つ経済学科生の特徴が出ているように思われる。

今回のアンケートで、このような新しい局面が得られたことに、他学科の卒業生も含め、各位には厚くお礼申し上げたい。

なお、それに関連して、表 6-32 は、「愛大から得たもの」について回答いただき一覧にまとめた。これも、卒業生たちがこれまでの人生を振り返りつつ、愛大から学び、そして得たものとしての回答だと理解できる。基本的には「働きながら懸命に学んだ自信と誇り、そして利己主義ではなく、世のため、人のためという信念」が、卒業生たちの心情と愛知大学の卒業生としての特性を表している。在学中の勤労学生としてのまじめさと下からの目線、そして大切にしてきた友情の発露であろう。

そして最後に、これまでの人生の満足度と愛知大学との関係について図 6-1 に示した。もちろん人生の満足度は卒業生個々によって異なるが、それは個人個人の主観的評価に任せた。愛知大学との関係も同様である。なお図中の縦軸は、上方ほど人生の満足度が高く、横軸では右方ほど大学との関係が強いという座標軸で、そのなかに各人の評価ポイントを置いた。同図では上下と右左の各中央の〔3、3〕の交点より右上方ほ

ど、人生の満足度と愛大との関係度が高い領域になる。縦軸の人生の満足度はほとんどが 3 ランク以上で、まずまずの人生を送ったことを示し、大学との関係では 2 ランク以上の 8 人が大学との強い関係があり、3 ランク以上に広げると、16 人が大学ともまずまずの関係であったことになる。図中、大学との関係が薄いとされた 4、5 ランクの 7 人は、卒業後自力で頑張り、うち 2 人がまずまずの満足度を得たということになる。色々な人生があったと思われるが、大きくみると、縦軸ではほとんどが 3 ランク以上であり、その領域では各人が右上がりの回帰線を描けることから、人生の満足度と愛大との関係は正の関係が認められるということになる。愛大はかなりの卒業生の人生の満足度にそれなりに寄与したといえる。

最後に、参考として回答を寄せていただいた出版物関係の情報も付記させていただいた（表 6-33）。

夜間：名古屋法経二部【経済】

6-1

※年齢は記入者のみ集計 法経学部二部 名古屋			
【経済学】 卒業年	対象者：S33～41年卒		
	回答者数	2020.4.1時点 年齢	2021.3.1時点 年齢
昭和33年（1958年）	0		
昭和34年（1959年）	0		
昭和35年（1960年）	2		84,85
昭和36年（1961年）	3		82,82,84
昭和37年（1962年）	4		82,83,84,82
昭和38年（1963年）	3		82,81,81
昭和39年（1964年）	1		80
昭和40年（1965年）	8		79,79,79,79,80, 80,80,85
昭和41年（1966年）	5		79,80,80,81,83
合計	26		

6-2

法経学部二部 名古屋	
出身地	【経済学】昭和33～ 41年卒
名古屋	13
常滑	1
江南	1
半田	3
春日井	1
高浜	1
扶桑	1
岐阜	1
土岐	1
羽島	1
四日市	1
無記入	1
合計	26

6-3

【夜間】法経学部二部 名古屋	
(調査対象：昭和33～41年卒,1958～1966)	
出身校	【経済学】 人数
名古屋西高校	2
菊里高校	2
熱田高校	2
旭丘高校	1
明和高校	1
東邦高校	1
愛知商業高校	1
名古屋市立中央高校	1
常滑高校	1
半田商業高校	1
半田高校	1
犬山高校	1
尾北高校	1
岡崎工業高校	1
安城農林高校	1
加納高校	1
中津高校	1
斐太高校	1
土岐商業高校	1
四日市立商業高校	1
辰野高校（長野）	1
下松工業高校（山口）	1
無記入	1
合計	26

6-4

※複数回答あり 法経学部二部 名古屋	
理由	【経済学】昭和33～ 41年卒
新聞から	4
至近大学	3
調べた	5
知人から	5
雑誌	1
同級生と	1
何となく	1
友人	1
昔から知っていた	1
学校から	1
無記入	5
合計	28

夜間：名古屋法経二部【経済】

6-5

※回答者のみ集計 法経学部 二部名古屋		
入学理由	【経済学】	昭和36～41年卒
愛大が第1位の大学であった		1
知識を高めたい		1
大卒の資格をとる		4
在野精神の教授達と書院からの流れに魅力		1
本学開設を知り、あきらめていた進学を実現		1
工業高卒だが、工業卒が評価された		1
家庭の財政理由		1
昼間大学に失敗したが、どうしても勉強しなかった		1
夜間大学の必要条件上		1
通学に至便		1
家業を継承することになり、夜学で学ぶことに		1
学校が好きだった		1
大学生活を体験しなかった		1
勤め先の先輩からのすすめと、至近大学		2
専門知識を得るために、土岐から至便		1
職業会計人をめざしたが、広く学びたかった		1
職場での労働問題に悩み、学びたかった		1
財政金融の知識を得たかった		1
夜間なら学べると思ったから		1
合計		23

6-7

※回答者のみ集計 法経学部 二部名古屋		
比重	【経済学】	昭和33～41年卒
1.学業が主		1
2.どちらかといえば学業	A	3
3.学業はまずまず	B	3
4.学業は従	C	18
合計		25
《表中のA理由》		
・勉強のため名古屋に下宿		
・自営のため4年間十分単位取得し、卒論、教免、ゼミそして教授もすばらしかった		
・生活に余裕があった		
・会計士の仕事をめざした		
《表中のB理由》		
・仕事も楽しかった		
・就職はしていた		
・働きながら学ぶ気持ち		
《表中のC理由》		
・就職して働いていた		
・就職し、家計を支えていた		
・新聞社で昼間勤務		
・休日勤務断り、体育授業へ		
・石油会社で責任あるポストにいた		

6-6

法経学部 二部名古屋		
どのように	【経済学】	授業料 生活費
1.親から		2 7
2.親戚・縁者から		
3.奨学金から		
4.アルバイトから		3
5.自分の給料		18 19
6.会社の奨学金		2
7.そのほか		1
合計		26 26

6-8

※回答者のみ集計、複数回答あり 法経学部 二部名古屋		
分野	【経済学】	昭和33～41年卒
経済経営立地論（安藤）		3
国文学（久曾神）		2
憲法（小岩井）		1
哲学（細迫）		2
経済原論（山本二三丸）		1
ドイツ語		1
社会学		1
経済学		4
一般教育科目すべて		1
専門科目すべて		1
中国史と文化		1
外書（野間）		1
英語（藤井）		2
経済学史		1
近代経済学		1
経済学（角谷）		1
経営学		2
会計学		1
労働問題		1
金融論		1
学友たち		1
（安保デモ参加）		2
合計		32

6-9

※回答者のみ集計 法経学部 二部名古屋		
先生・分野	【経済学】	昭和33～41年卒
安藤万寿男（立地論）		3
小岩井（人格者、明解説）		1
山本二三丸（マル系経済）（時事解説）		2
福島種典		1
野間 清（中国経済）		1
久曾神（内容が面白い）		1
板倉（ドイツ語 わかりやすい）		1
大内（生物学）		1
岡崎（経済原論）		1
大石（経営学）		1
永井義雄		1
中西		1
合計		15

夜間：名古屋法経二部【経済】

6-10

表 本学二部（夜間）先生との交流	
法経学部 二部名古屋 【経済学】	
内 容	
安藤先生には卒業後も市の仕事を	
コンパ	
災害被害者へのカンパ	
三好先生と会食	
福島先生とゼミコンパ	
ゼミ先生と魚釣船	
ゼミ仲間と「ピープル」数回発行	

6-11

表 本学二部（夜間）受講ゼミ		
※回答者のみ集計		
法経学部 二部名古屋		
【経済学】 テーマ	担当	昭和33～41 年卒
経営立地論	安藤	3
貨幣経済論		1
中国経済論	野間	1
恐慌論	福島	1
会計学	青木	1
	永井義雄	1
	木村	2
資本主義と社会主義	角谷	1
経済と資本論		1
経済の実体分析	中西	1
合計		13

6-12

表 本学二部（夜間）卒論研究テーマ	
法経学部 二部名古屋 【経済学】	
テーマ	昭和33 ～41年
富士製鉄の立地	1
中国農業の集団性	1
日本酪農地域の一考察	1
労資関係と人間関係	1
資本主義体制下における恐慌の必然性	1
株の動きについて	1
大正期経済思想の一考察	1
高度経済成長時代の労働構造（その将来）	1
	8

6-13

表 本学二部（夜間）在学中の満足度と理由		
※回答者のみ集計		
法経学部 二部名古屋		
【経済学】 満足度	昭33～ 41年卒	理由
1.大いに満足	5	・教授も事務方も親切 ・3、4年生の2年間は面白かった
2.まずまず	7	・向学心に燃えた学生が多かった ・職場通学に理解あった ・入学当初の目的をほぼ達成 ・知識吸収と他の人達と交流
3.まあまあ	6	・熱心ではなかった ・学費が苦しかった
4.あまり	2	・勤労学生であるため
	20	

6-14

表 本学二部（夜間）での学業がその後の人生に与えた影響		
※回答者のみ集計		
法経学部 二部名古屋		
【経済学】 影響レベル	昭33～ 41年卒	理由
1.大いに影響	6	・理論だけでなく愛情大学であった ・国家公務員の上位を越え、大卒の自信 ・高卒入社から大卒試験で中堅幹部へ ・頑張りて退職時に満足する昇給と待遇を得た
2.まずまず	6	・交友関係ができ、在野精神も ・転職できた ・大卒の資格を得た。結婚もスムーズ ・人を知った
3.まあまあ	6	・会社勤めの仕事は学業の影響なし ・学んだことを活かせなかった
4.あまり	4	・仕事と学業を何とかこなす毎日であった
	22	

6-15

表 クラブ・サークル活動	
※回答者のみ集計	
法経学部 二部名古屋	
【経済学】 クラブ・サークル名	昭和33～ 41年卒
硬式野球	1
柔道部	1
英会話クラブ	1
水泳部	1
なし	6
※多くは仕事で無理であった	
合計	10

夜間：名古屋法経二部【経済】

6-16

表 本学二部（夜間）在学中の就職活動		
※回答者のみ集計 法経学部 二部名古屋		
【経済学】 影響レベル	昭33～ 41年卒	理由
1.かなり積極的	0	
2.やや積極的	0	
3.ふつうに	2	・人生のため、自分のため
4.あまりしない	1	
5.全くしない	19	・就職していた（ほとんどこのケース）
	22	

6-18

表 就職時に愛大卒を意識したか		
※回答者のみ集計 法経学部 二部名古屋		
【経済学】 影響レベル	昭33～ 41年卒	理由
1.意識した	3	・学卒経費が大、仕事は自分に貢献したい ・向学心が強い ・他私大には意識した
2.少し意識した	1	・学歴依存の会社ではなかった
3.とくに意識せず	6	・愛大卒以外はいなかった ・入社時は高卒だけだった ・会社は高卒扱いだった ・外資企業に学閥はなかった
	10	

6-20

表 愛大卒生を他大学と比較		
※回答者のみ集計 法経学部 二部名古屋		
比較	【経済学】 昭33～ 41年卒	
愛大への信頼が大		1
チャレンジ精神あり		1
大卒者として高い評価		1
余り高い評価はない		1
遜色なしの高評価		1
まあまあ良い		1
評価は低かった		1
当時、6大学出が優遇		1
まじめさ		1
仕事熱心で粘り強く		1
長所として、飛躍発展の夢見ない		1
	合計	11

6-17

表 本学二部生（夜間）の就職先		
※回答者のみ集計 法経学部 二部名古屋		
就職先	【経済学】 昭33～ 41年卒	
常滑市役所		1
東海財務局		1
中部経済新聞編集局		1
国鉄中部支社		1
日本碍子		1
名古屋大学		1
山一証券（東京）		1
鍛冶音工業		1
大和屋家具店		1
トヨタ車体		1
東通		1
電通		1
昭和薬品		1
昭和シェル石油		1
高橋製作所		1
	合計	15

6-19

表 定年後の就職先		
※回答者のみ集計 法経学部 二部名古屋		
就職先	【経済学】 昭33～ 41年卒	
JR東海総合ビルメンテナンス		1
江南短大事務		1
東海東京証券		1
総合広告		1
中部電気保安協会		1
昭和エンジニアリング		1
	合計	6

6-21

表 愛大卒生の特性		
※回答者のみ集計 法経学部 二部名古屋		
内容	【経済学】 昭33～ 41年卒	
チャレンジ精神		1
優しい心		1
意識したことなし		1
先輩も立派だ		1
リベラル派が多い		1
遜色なしの高評価		1
何事も地道にやる		1
まじめ		1
国民学校4年で終戦。ゆえに大学理念は大切にしている		1
	合計	9

夜間：名古屋法経二部【経済】

6-22

表 愛大設立趣意書反映	
※回答者のみ集計	
法経学部二部名古屋	
(調査対象：昭和33～41年卒,1958～1966)	
【経済学】	
反映内容	
・世のため、人のため、愛大に胸が高まる	
・社会文化への貢献につとめてきた	
・国際交流協会会長として「日本語教室」の立ち上げにも携わった	
・経済卒は法律でも学べと学部長の言葉が幹部になって痛感した	
・ある程度「知」がついた	
・「知」を愛する真理の探求は人間の求めてやまないものだ	
・私の信条と一致	
・政治への関心も	
・人生において愛大で学んだことは反映せず	
・世界平和への思いが強い。ミャンマーに心痛。アフガニスタンでの中村医師の生きざまに心打たれた	
・主旨に賛同するが、世間とは乖離もある	
・仕事関係のボランティアで国内外活躍	
・物事を多面的にみて判断することを子供の頃の戦争体験から、この理念は大切だ	

6-24

表 「愛大事件」の認知とその受け止め方		
法経学部 二部名古屋		
レベル	【経済学】	昭和33～41年卒
1.よく知っている	A	3
2.少し知っている	B	9
3.知らない		8
4.無記入		6
合計		26
《表中のA理由》		
・学問、言論の自由を守る姿勢は素晴らしい(1)		
・当時としては、やむをえなかった(1)		
・当たり前の裁判だと思っていた(1)		
《表中のB理由》		
・学問の自治を侵すべきではない(3)		
・判断できるほどは知らない(1)		
・少し嫌だなと思った(1)		
・教師が学生の気持ちを汲むことは大切だ(1)		
・大学やメディアからの情報で知った(1)		
・書院時代からの思想的継承(1)		

6-23

表 東亜同文書院生の認知と交流		
※回答者のみ集計		
法経学部 二部名古屋		
レベル	【経済学】	昭和33～41年卒
1.よく知っている	5	<ul style="list-style-type: none"> ・入学後の講義で ・親から聞いた ・書物などから知った ・経団連の訪中時に、書院出の春名丸紅会長から10時間書院の話を行った
2.少し知っている	12	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で知った ・入学時に先輩の歌った歌が書院の歌だった ・在学中の大学広報、同窓会などの諸行事で知った ・大学情報から ・大学の資料から ・新聞と同窓会報から ・図書から ・先輩から ・知人から ・大学で
3.知らない	5	<ul style="list-style-type: none"> ・入学してから知った ・就職先の社長から教えてもらった
合計	22	

6-25

表 母校愛大への関心		
※回答者のみ集計		
法経学部 二部名古屋		
レベル	【経済学】	昭和33～41年卒
1.大変関心あり	A	4
2.多少あり	B	5
3.ふつう	C	9
4.あまりない	D	1
合計		19
《表中のA理由》		
・母校であり大変感謝		
・出身校は可愛い		
・孫が愛大生		
《表中のB理由》		
・建学の精神を忘れない		
・母校として		
・熱心な学生ではなかった分、多少さめていた		
・学問に前向きなところ		
・大学の評価はもっと上がるべき		
《表中のC理由》		
・生涯つきあえる友人を得た		
・年金生活となり、楽しい交際の中で話題にしない		
・他大学のことはよくわからない		
《表中のD理由》		
・夜間学生ゆえ、本当の大学生活がわからない		

夜間：名古屋法経二部【経済】

6-26

表 愛大情報の入手先	
※複数回答あり	
法経学部 二部名古屋	
入手先	【経済学】 昭和33～ 41年卒
1.テレビ,新聞	11
2.大学ホームページ	1
3.愛大通信	8
4.会合	1
5.受験雑誌	0
6.同窓生	2
7.同窓会報	14
8.愛大新聞	0
9.無記名	4
合計	41

6-28

表 同窓会への出欠状況	
※回答者のみ集計	
法経学部 二部名古屋	
レベル	【経済学】 昭和33～ 41年卒
1.はい	A 2
2.よく	B 1
3.時々	C 4
4.いいえ	D 10
合計	17
《表中のA理由》	
・母校の状況を知り、先輩や後輩とつながりたい	
《表中のB理由》	
・現在、後輩の市議会議員の後援会長を務めている	
《表中のC理由》	
・高齢になったため	
・会社内での先輩・後輩関係の中で	
・卒業後50年経って、繰り返される同じ話題に少々食傷気味	
《表中のD理由》	
・夜間卒ゆえ知り合い少ないため。しかし、同期生とは交流している	
・かつて支部役員をし、先輩・後輩とは強いつながりをもった	
・企業別の愛大同窓会で活動した	
・かつては地元支部に出席した	
・仕事に追われて出席しにくかった	
・同窓会主催の研究会や講演会にはよく出席した	
・二部卒の引け目もあった	

6-27

表 愛大への期待情報	
※回答者のみ集計	
法経学部 二部名古屋	
期待情報	【経済学】 昭和33～ 41年卒
社会、国際関係などで貢献した内容	1
明るいニュース	1
大学のレベルアップを	1
大学の設立時の趣旨内容	1
平和への寄与、自由受難など活動発信	1
卒業生の活動、活躍情報	1
大学設立者から今に生きる知恵と情報	1
中国の町や村の自然、農業、生活感	1
司法試験の合格率の高さ情報	1
現行でOK、とくになし	5
合計	14

6-29

表 同窓会の魅力アップ法は	
※回答者のみ集計	
法経学部 二部名古屋	
回答	【経済学】 昭和33～ 41年卒
自分の生涯学習に役立つものを	1
時事、スポーツ、音楽のプロを招く	1
若い人も参加できるように	1
現職の頃は関心があったが、今は高齢で関心低くなった	1
関東支部は年齢層が高いから年齢層に分け、それぞれの関心事の会合を	1
共通の話題を設けることで男性会員には盛り上がるのでは	1
現状に満足	1
合計	7

6-30

表 愛大をどう見ているか	
※回答者のみ集計	
法経学部 二部名古屋	
見方	【経済学】 昭和33～ 41年卒
立派になった。門戸を世間へ広げて良い学校	1
優秀な人材を入学させ、まじめに教育する	1
名駅校舎はますます発展する様子でうれしい	1
AI、デジタル分野の伸びに応じた教育を	1
ビジネス的大学にはならないように	1
以前に比べて学生の質が落ちたような気がする	1
愛大設立趣旨を具体化するような講演会を	1
学部の特徴をもっとマスコミに発信して大学を知ってもらふ必要あり	1
20年後のAI社会にリーダーになれる人材の育成を。20年後の職業は大変革するからだ	1
合計	9

夜間：名古屋法経二部【経済】

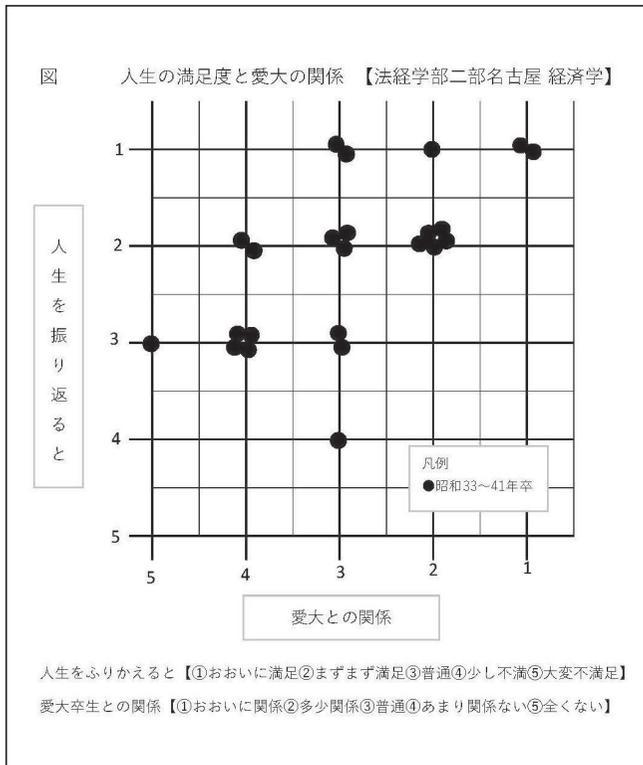
6-31

表 後輩に伝えたい事		法経学部 二部名古屋
内容	【経済学】	昭和33～41年卒
	教授、先輩、友人を師として充実した日々を	
大学は学識と人格を高め、生涯の友を獲得するところだ		1
生涯つきあえる友人をつくること		1
道を間違えないように		1
社会への奉仕の心を		1
愛大を誇りに前向きの活動を		1
自分の高いモチベーションをもち、挑戦を		1
利己主義に走り、法に背くようなことはするな		1
世のため、人のためになるリーダー的素質を熟成させよ		1
学問の基礎を学生時代にしっかり身につけよ。社会に出てからでは大変		1
あらゆる分野に好奇心を。行動力をもってすぐ体験し、かつ勉学に励み「優」を多くとること		1
	合計	11

6-32

表 愛大から得たもの、座右の銘など		法経学部 二部名古屋
内容	【経済学】	昭和33～41年卒
	「愛の心」「骨身惜しまず陰日向なし」	
知識はふえ、資格は取れ、社会上の判断力が身についた		1
わからないことはトコトン調べる		1
多少なりとも勉学ができた		1
夜学選択しか出来なかったが、自分に合った最小限の勉強ができた		1
ガッツの精神		1
得たものは「学歴」		1
「見栄を張るより知恵を出せ」		1
大卒となり自信がついた		1
真実を探究すること		1
「温故知新」		1
出来るだけ世のため、人のために尽くすこと		1
学問に対する姿勢		1
どんな環境でも学ぶことの大切さ。		1
「一意専心」		1
自分の道は自分でつくる。		1
「淡成甘壤」		1
無記入		12
	合計	26

図 6-1



6-33

表 出版物	
※回答者のみ集計	
法経学部 二部名古屋	
【経済学】 昭和36～41年卒	
・『坂井浩自選画集』制作中	
・刈谷市自分史悠友会（発足後18年）夜学生について作品を執筆中	

第7章 豊橋校舎《夜間学部》「法経学部2部法学科」の場合

1. はじめに

次は「豊橋校舎2部の法学科と経済学科」の場合を、まず法学科から取り上げる。豊橋校舎では同2部は夜間短大がなお継続していたため、名古屋校舎より3年後に誕生し、法経学部2部として設置され、豊橋校舎では法学科が1961年(昭和36年)に、勤労学生が2部夜間生として初めて卒業し、経済学科も同じく1961年が初めての卒業生となった。しかし、一方、以前からの夜間短大は並列的に継続していたため、名古屋校舎のように夜間学部への編入、進学は少なかった。今回は以降1966年までの短い期間の卒業生を対象とした。そのため、回答者の高齢化もあって、名古屋校舎に比べ回答数は少ない、

2. 卒業年次と年齢、出身校など

表7-1は回答者5人の卒業年次と調査時点の年齢を示した。1964年と1965年の卒業で、調査時点の年齢は79歳以上となっている。その出身地は三河、遠州、それに名古屋(表7-2)で、それぞれの出身地の学校の卒業生で、飯田長姫高校の出身者は、新城で職を得たあとの入学である(表7-3)。学校を知った理由は、地元をベースとする関係者からで(表7-4)、その入学理由は向学心に満ちており、夜間短大へ入学した後、この4年制へ編入した経過も見られた(表7-5)。

入学時の授業料や生活費は、奨学金の1人以外はすべて昼の勤労による給料であり、独立心は強かったといえる(表7-6)。

3. 学業のウェイト

その回答は、勤労学徒であった理由からその多くは学業が従であったとしている(表7-7)。そのような状況下でも、法学関係の分野には興味をもち(表7-8)、その関係の教授が印象的であったとしている(表7-9)。そのような中でのゼミは浅井先生が主で(表7-10)、卒論研究もその延長にあったことがわかる(表7-11)。在学中の満足度については、「心躍らせた」1人と「仕事に有益であった」とする4人ということではほぼ満足していたことがうかがえる(表7-12)

4. 就職状況

就職についてはみな勤労学徒であり、転職も考えていた1人は別とすれば、就職活動には無関心であったようだ(表7-13)。そのような状況下での就職をめぐる希望もあった(表7-14)。その結果の就職先は表7-15である。それぞれ活躍できそうな職場で、公務員、民間企業業、NHKなどに広がっている。

ところで、このような就職時に、愛大卒を意識したかどうかを問うた(表7-16)。それによると、いずれの職場にも愛大の卒業生がおり、そのおかげで職場での仕事はスムーズであり、愛大を意識したとしている。その頃も多く職場で愛大卒の独壇場になっていたことがわかる。

そのような中で、ほかの大学卒業生との比較については、対応してくれた回答では、愛大生に「遜色はなし」、や「実力次第」だとし、自信にあふれている(表7-17)。

ちなみに、定年後の就職先も示した。就職希望者は地元有力企業に再就職できている

ことがわかる。評価されていたのだと思われる(表 7-18)。

5. 愛知大学卒業生として

愛知大学卒業生として、まずは愛大憲法とでもいえる愛知大学設立趣意書への意識である。表 7-19 はそれを示している。回答数は少ないが、回答者はそれを大いに評価するが 3 人で、無記入が 2 人であり、全体としては「共感」している。また愛知大学設立のベースを作った東亜同文書院大学から愛知大学への編入生とその書院自体については、回答者は同窓会や知り合いからの情報を得て知っており、この時期にもなお認知されていたことがわかる(表 7-20)。その一方、そのあとの「愛大事件」については、その認知レベルが分かれ始めている。次期には大学紛争期を迎える前の事であり、アンケートの標本数は少ないが、法学科を指した学生たちの間では、その前に豊橋校舎で起こった全学を巻き込んだ「愛大事件」についての風化が一部で始まっていたということになる(表 7-21)。

では、「愛大への関心度」はどうだったのか。これも回答数が少ないので、なかなか一般化はむつかしいが、関心ありの 3 人と無記入の 2 人に分かれる。関心ありの層には明確な目標があることがわかる(表 7-22)。

それに関連して、愛大の情報入手先を見ると、回答数が少ない中、『同窓会報』、『愛大通信』、「テレビ、新聞」があげられている(表 7-23)。これはほかの学部学科の結果と同様である。愛大のホームページからはここではゼロである。そして、愛大への期待情報については、「卒業生の活躍情報」だけがあげられ、卒業生の動向への関心は高い(表

略)。

一方、同窓会への出欠状況は、「よく出席する」と「時々出席する」の各 1 人のほかは「いいえ」が無記入である。理由を見ると、その理由に納得できるが(表 7-24)、出席できないなどの回答者は、高齢化の影響が大きそうである。なお、表中の理由の A の中の「古哲会」は、愛知県庁のなかの愛大卒業生の会である。

それに関連して、同窓会の活性化案は「卒業生の活躍の情報」があげられている(表略)。「愛大をどう見ているか」については「素晴らしい大学になった」の評価する回答がある(表略)。

そして、後輩たちに伝えたいこと、については、表 7-25 の通りで、卒業生のこれまでの人生からの遺言でもある。

では「愛大から得たもの」については、無記入が 1 人だけで、複数回答を含む 8 件の回答があった。「法律学を中心に懸命に学んだこと、そして友人を得た」ことなどである(表 7-26)。

最後に、人生を振り返ったときの満足度(縦軸)と愛知大学との関係度(横軸)による座標軸の中での関係性の相関図である(図 7-1)。データとしての標本が少ないため、この図から相関関係を検討するのは無理であるが、図中の右上ほど、人生の満足度と大学との関係が深いといえ、右上に分布する 2 人はそれに該当し、両軸の中央の 1 人は平均的、左上方の 1 人は、むしろ大学卒業後、かなり自力で頑張ったということになる。

以上のほかに、出版物の紹介(表 7-27)、さらに、大学生時代の思い出について(表 7-28)を紹介する。

<付記. 参考>

ところで、上記出版物の中で「土地収用」に関する本をご紹介いただいたのは、**中嶋静夫氏**で、1961年に愛大豊橋校舎夜間短大に入学した勤労学生からスタートした。仕事上、法律学を学ぶ必要を痛感したため、さらにその後、当時まだ不十分な世界でありながら、次第にその必要性が高まる気配の出してきた土地収用問題に取り組むべく法経学部2部法学科へ編入して、当時の大林教授などの薫陶を得て新しい仕事世界に首を突っ込んだ。そしてそのあとそれまでの愛知県新城事務所から本庁へ転勤になり、専門担当が当時は手薄な「土地収用」関係の主担当となり、この世界をリードした。以後、この担当一直線で専門の道を切り開き、県庁内で「土地収用・補償」関係担当のトップになった。そして県の中に初めて「用地課」を作っている。愛大のグラウンドの中に臨時に渥美線を通し、渥美線を地下化した仕事(全国から鉄道マニアが殺到)や境川流域環境の仕事などにもかかわったという。その過程で担当課の課員の教育も行い、この道の専門担当者も育てた。紹介していただいた著書は中嶋氏が教え子グループを束ねた力作だといえ、高い評価を得た。

ところで、今回のアンケート依頼の際、同氏はわざわざ愛大内でアンケート調査を担当している東亜同文書院記念センターまでお出かけいただき、これまでの研究書や著書、それに大学時代の教科書、参考書などをたくさんご持参していただき当センターへご寄贈いただいた。いわば同氏のこれまで生きてきた軌跡を示す証であった。そこで言葉でも人生史を語っていただきたいとお

願いし、ご協力いただいた。

以下はその時、お話しいただいた内容の録音記事からの、ダイジェストとして紹介させていただく。時代的背景もあり、愛大の初期夜間短大からのからの人生記録は、場面こそ異なっているけれども多くの方々に共有できると思い、ここにごく一部であるがご紹介させていただく。なお文頭の番号はお話しのまとまり順に便宜上付したものである。

なお、別ページには、やはり本学の夜間短大ご出身で、のちに豊田市長としてご活躍された鈴木公平氏の人生軌跡も掲載させていただいた。当センターにて収録させていただいた内容が中心になっており、今年3月の『愛大通信』への収録分である。あわせてお読みいただければ幸いです(第2章参照)。

では、以下、中嶋氏の人生軌跡をダイジェストで示す。

1. 「私は、昭和12年生まれで、名古屋で空襲にあって焼かれ、親を亡くし、一人で長野県にもらわれ、飯田の高等学校を卒業し、愛知県庁新城土木へ就職しました。仕事をやりながら愛大へ行きたかったのですが、お金がなく、4年後の昭和36年、愛大の夜間短大へ入学することができました。」
2. 「当時の新城には県の土木事務所、地方事務所、農水事務所が別々にありましたが、それが総合庁舎になり、そんな中で私が一番最初に愛大にお世話になりました。新城からは私が愛大への開拓者だったのです。そうしたらそのあと、それを知って各事務所からあわせて5~6人が一緒に飯田線に乗って愛大へ通うように

なったのです。」

3. 「職場へは 30 分早く出勤し、30 分早く退勤して、夕方 5 時半には豊橋駅着。駅前で夕食を食べ、6 時過ぎから授業でした。」

4. 「同じクラスは 20 人ほどで、非常に手厚いアットホームな授業をやっていたいただきました。例えば、黒木先生の授業では私はかぶりつくような感じで聞いていましたよ。授業が終わると、すぐ帰るのですが、新城へ帰ると夜 11 時ごろでした。当時の飯田線の本数は今より多かったように思います。クラスメイトの年齢は色々でしたね。私も高校卒業後 4 年目の入学でしたから、若衆ばかりではありませんでした。また社会人ばかりでしたから学生らしく交流するということはありませんでした。」

5. 「私は、高等学校から奨学金をもらいながら学校へ行き、社会人になってから返していました。あるとき先生から、大学に籍があれば返済は保留にでき、また借りられると教えられ、うれしかったですね。当時、奨学金は 2 千円くらいで、授業料はほとんどそれで間にあっていましたね。しかし、初任給は 7,900 円の安月給でした。でも電車賃、食費、下宿代、そして授業料を払って何とかやっていたですね。それで借金もしませんでした。」

6. 「当時の愛大情報は、中国から帰ってきた東亜同文書院ですね。それに、愛大では学問も右寄りもあれば左寄りもあると。特に経済学ではマルクス経済学があるということでそれに憧れましたね。しかし、新城の総合庁舎では、青年婦人部という労働組合があり、勉強会もやっていたけ

ど、愛大の夜学へ行くメンバーはいませんでした。私が通うようになって、行けるんだということになって、4~5 人ついてくるようになったのです。」

7. 「さらに、愛大夜間の経済学部 2 部への進学は、もっと学びたいという強い気持ちがあったからです。愛大の法学も有名でした。当時の日本は、GHQ の支配から解放されたばかり、朝鮮戦争で東西冷戦が強まり、安保がらみの憲法問題がかまびすしくて、憲法がすぐにでも変えられてしまうのではないかということで、憲法のゼミに入り、基本的人権は政治権力が変更すべきでないし、戦争もすべきでないと、卒論を「憲法改正の限界」というタイトルでまとめました。また、同時に、黒木先生の昔の家族制度をどう時代に合わせていくかという「民法」にも大変関心を持ちました。またその後の薬師岳遭難事件も、本間学長の「命は地球よりも重い」という名言も含め、当時の愛大を全国的に有名にしましたですね。」

8. 「県庁の本庁舎に勤務するようになって、庁内に愛大の同窓会「古哲会」があることを知りました。名古屋にも愛大の夜学があり、多くの愛大卒業生がいて、夜学で学んだ副知事などもいました。この組織は各部署を横断し、寄付をしたりする団体でした。私が現役最後のころの副知事、青山さんも愛大卒業生、夜学の卒業生ですね。」

9. 「私が、土地の用地関係、道路、河川、などのために土地を買いますね。家があって住んでいる人にはどいてもらう。そういう時に、昭和 37 年、国が補償基準要綱っていうのを作ったんですね。しかし、

国は作っただけで地方には浸透していなかった。例えば、いわゆる補償費をどんなふうに積算するのか、どういう形で払うのかななどを、一生懸命愛知県の手先として一緒にやっていました。そういう意味では、愛大で勉強した権力寄りではなく、人に寄り沿う補償の仕方を工夫し、当時のシビルミニマムと言われた時代の意識で、一生懸命補償基準を作っていました。」

10. 「私にとって、一番ひどかったのは三河と尾張の境を流れる境川の流域下水道問題で、最後は最高裁まで行って、結局勝訴しましたが、ややこしくしたのは、名古屋市の東大卒の職員が、東大の先生を連れてきて、反対運動にテコ入れしたり、名古屋市民の会なるものを作って、地主たちに反対させるとかで、それに対抗しながら10年間もタッチさせられたことです。当時、三里塚（成田空港）、熊本の川辺川ダム問題と並ぶ3大事件といわれました。そんな時の対応は、私がここ愛大で学ばせてもらったことが効いていたと思っています。」

11. 「新しくできた用地課の課長をやったあと、企業庁へ行き、現役の最後は収用委員会の事務局長でした。その4年目の平成9年に退職しますが、平成14年から1期だけ3年間、収用委員をやりました。折しも中部新空港建設時で、取り付け道路には常滑市長が大反対で大変でした。、、、あと、三河湾の埋め立て問題と漁業権の問題もありましたね。、、、伊勢湾台風の時には、神野新田での堤防建設問題もありました。、、、」

12. 「結局県に努めて40年、うち32年は土地関係でした。私みたいな職歴は愛

知県庁でも珍しいですね。普通は5年くらいで職種が変わるからです。だから土地関係一筋だったのですね。」

13. 「今もこの関係本刊行のために、私の部下とか同僚に原稿を書かせながら、継続中です。部下だった愛大卒業生は、やっぱりみな真面目で、優秀なのが多かったですね」

(以上)



中嶋静夫氏（左）と藤田名誉教授（右）

2021年10月22日

愛知大学東亜同文書院大学記念センターにて

夜間：豊橋法経二部【法学】

7-1 表 本学二部（夜間）卒業年次と調査時の年齢

法経学部二部 豊橋		
卒業年	【法学】	対象者：S36～41年卒
		回答者数
昭和39年（1964年）		2
昭和40年（1965年）		3
	合計	5

7-2 表 本学二部（夜間）出身地

法経学部二部 豊橋	
出身地	【法学】 昭和36～41年卒
蒲郡	1
名古屋	1
新居	1
幸田	1
新城	1
	合計

7-3 表 本学二部（夜間）出身学校

法経学部二部 豊橋	
(調査対象：昭和36～41年卒,1961～1966)	
出身校	【法学】 人数
蒲郡高校	2
浜松商業	1
浜松北高校	1
飯田長姫高校	1
	合計

7-4 表 本学二部（夜間）を知った理由

法経学部二部 豊橋	
理由	【法学】 昭和36～41年卒
地元の大学だから	1
職場で	1
知人から	1
居住地から近い	1
無記入	1
	合計

7-5 表 本学二部（夜間）の入学理由

※複数回答あり		
法経学部 二部豊橋		
入学理由	【法学】	昭和36～41年卒
学問を学びたい		1
知識、教養を身につけ仕事に活かす		1
もう少し勉強したい		1
大卒の資格をとりたい		1
通学可能な条件あり		1
向学心があった		1
憲法を学びたかった		1
浅井教授の講義を		1
マル経、近経とも学びたい		1
短大から4年制へ編入した		1
無記入		0
	合計	10

7-6 表 授業料・生活費の工面

法経学部 二部豊橋			
どのように	【法学】	授業料	生活費
1.親から			
2.親戚・縁者から			
3.奨学金から		1	
4.アルバイトから			
5.自分の給料		4	5
	合計	5	5

7-7 表 本学二部（夜間）在学中の学業比重

法経学部 二部豊橋			
比重	【法学】	昭和36～41年卒	理由
1.学業が主		0	
2.どちらかといえば学業		0	
3.学業はまずまず		1	勤労学徒だから
4.学業は従		4	勤労学徒だから
	合計	5	

7-8 表 本学二部（夜間）で興味を持った分野

法経学部 二部豊橋	
分野	【法学】 昭和36～41年卒
民法、憲法	1
法学概論	1
憲法（浅井）	1
どの教科に対しても	1
無記入	1
	合計

夜間：豊橋法経二部【法学】

7-9

表 本学二部（夜間）で印象に残った先生と分野

※理由、複数回答あり
法経学部 二部豊橋

先生・分野【法学】	昭和36～41年卒	理由
山中（民法）	1	・わかりやすい
浅井（憲法）	2	
本間学長	1	・卒業式の挨拶
大林（行政法）	1	
黒木（民法）	1	
無記入	1	
合計	7	

7-10

表 本学二部（夜間）受講ゼミ

法経学部 二部豊橋

ゼミ【法学】	昭和36～41年卒	内容など
民法	1	
憲法（浅井ゼミ）	3	・熱意 ・豊川自衛隊駐屯地訪問
無記入	1	
合計	5	

7-11

表 卒論研究テーマ

法経学部 二部豊橋 【法学】

テーマ（希望者のみ、判明分）	昭和36～41年
・憲法の中の地方自治	1
・憲法9条アンケートからの現実と理念	1
・憲法改正の限界	1
・無記入	2
合計	5

7-12

表 本学二部（夜間）在学中の満足度と理由

法経学部 二部豊橋

満足度【法学】	昭和36～41年卒	理由
1.大いに満足	1	・心躍らせ授業を聞いた
2.まずまず		
3.まあまあ	4	・仕事に面白く、淡々とした講義に
4.無記入		
合計	5	

7-13

表 本学二部（夜間）在学中の就職活動

法経学部 二部豊橋

影響レベル【法学】	昭和36～41年卒	理由
1.かなり積極的		
2.やや積極的		
3.ふつう	1	給与アップをめざす
4.あまりしない		
5.全くしない	2	すでに就職(2)
6.無記入	2	
合計	5	

7-14

表 卒業時の就職先、分野希望

法経学部 二部豊橋

希望事情【法学】	昭和36～41年卒
局内で資格試験合格	1
自動車に乗りたい	1
愛大時代に就業	1
無記入	2
合計	5

7-15

表 本学二部生（夜間）の就職先

法経学部 二部豊橋

就職先【法学】	昭和36～41年卒
豊橋市役所	1
県土木課	1
NHK	1
名古屋トヨペット	1
無記入	1
合計	5

7-16

表 就職時に愛大卒を意識したか

法経学部 二部豊橋

意識レベル【法学】	昭和36～41年卒	理由
1.はい	2	・卒業生は多く、人間関係はうまくいっていた ・学びの場を得たことに感謝
2.少し	1	・会社に「愛大生」があった
3.特になし		
4.無記入	2	
合計	5	

夜間：豊橋法経二部【法学】

7-17

表 愛大卒生を他大学と比較

法経学部 二部豊橋	
比較	【法学】 昭和36～41年卒
昔は誰でも入学できたが、今は難しい	1
仕事はブランドではなく、実力でやるものだ	1
ふつう	1
遜色なし	1
無記入	1
合計	5

7-18

表 定年後の就職先

法経学部 二部豊橋	
就職先	【法学】 昭和36～41年卒
サーラグループ	1
中部テック	1
無記入	3
合計	5

7-19

表 愛大設立趣意書の反映

法経学部 二部豊橋	
反応	【法学】 昭和36～41年卒
真の理念は心の栄養	1
地域社会への貢献	1
2部ゆえに友人を多くは得られなかったのが残念	1
無記入	2
合計	5

7-20

表 東亜同文書院生の認知と交流

法経学部 二部豊橋		
レベル	【法学】 昭和36～41年卒	理由
1.よく知っている	2	・同窓会活動で知った ・愛大のことは知られていた
2.少し知っている	1	・知り合いの先生など
3.知らない		
4.無記入	2	
合計	5	

7-21

表 「愛大事件」の認知とその受け止め方

法経学部 二部豊橋		
レベル	【法学】	昭和36～41年卒
1.よく知っている		1
2.少し知っている	A	1
3.知らない	B	2
4.無記入		1
合計		5
《表中のA理由》		
・愛大らしいと思った		
《表中のB理由》		
・10年前のことで知らずに過ごしてきた		

7-22

表 母校愛大への関心

法経学部 二部豊橋		
レベル	【法学】	昭和36～41年卒
1.大変関心あり	A	2
2.多少あり	B	1
3.ふつう		
4.あまりない		
5.無記入		2
合計		5
《表中のA理由》		
・大学での学びが大		
《表中のB理由》		
・大林教授に研修の講師委託 ・愛大前の道路拡幅にかかわった		

7-23

表 愛大情報の入手先

法経学部 二部豊橋		
※複数回答あり		
入手先	【法学】	昭和36～41年卒
1.テレビ,新聞		1
2.大学ホームページ		
3.愛大通信		1
4.会合		
5.受験雑誌		
6.同窓生		
7.同窓会報		2
8.愛大新聞		
9.無記名		2
合計		6

7-24

表 同窓会への出欠状況

法経学部 二部豊橋		
レベル	【法学】	昭和36～41年卒
1.はい		1
2.よく		
3.時々	A	1
4.いいえ	B	2
5.無記入		1
合計		5
《表中のA理由》		
・「古哲会」中心で、それも不動産鑑定の間間うち		
《表中のB理由》		
・仕事の延長上で多くの友人を得て、これ以上活動の場を広げられない		

夜間：豊橋法経二部【法学】

7-25

表 後輩に伝えたい事	
法経学部 二部豊橋	
内容	【法学】 昭和36～41年卒
大学で学べることの幸せを大切に	1
色々な分野の学問にふれてほしい	1
無記入	3
合計	5

7-26

表 愛大から得たもの	
※複数回答あり	
法経学部 二部豊橋	
内容	【法学】 昭和36～41年卒
多くの友人と人間関係	1
貴重な学びの時間をもらったこと	1
ある程度「知を愛す」が心にあった	1
浅井憲法を学んだこと	1
大林行政学が身についた	1
入学式で宣誓、卒論で学会賞をもらったこと	1
登山を楽しめた友人を得たこと	1
無記入	1
合計	8

7-27

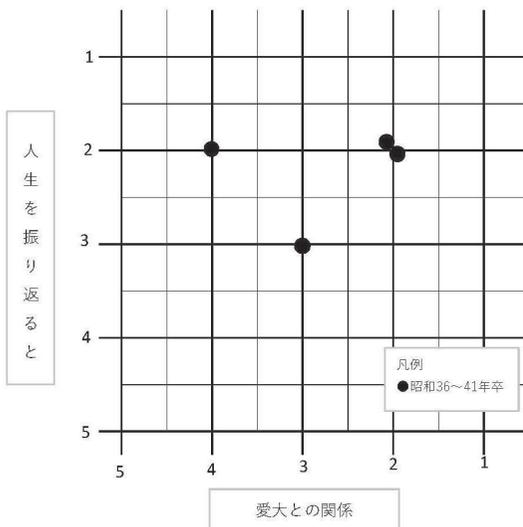
表 出版物
※回答者のみ集計
法経学部 二部豊橋
【法学】 昭和36～41年卒
・『用地取得補償の法律事務』（新日本法律出版）
・『困難事例にみる補償の実務』

7-28

表 本学二部（夜間）そのほかの思い出
※回答者のみ集計
法経学部 二部豊橋
【法学】 昭和36～41年卒
・ 仕事のあとの飯田線
・ 愛大前食堂での夕食
・ 卒論の苦勞

図 7-1

図 人生の満足度と愛大の関係 【法経学部二部豊橋 法学】



人生をふりかえると 【①おおいに満足②まずまず満足③普通④少し不満⑤大変不満足】

愛大卒生との関係 【①おおいに関係②多少関係③普通④あまり関係ない⑤全くない】

第8章 豊橋校舎《夜間学部》「法経学部第2部経済学科」の場合

1. はじめに

豊橋校舎では、夜間部でさらに学びたい学生のために、1961年(昭和36年)に初めての卒業生が誕生し、法学科とともに経済学科も4年制第2部として誕生した。ただし、以前からの夜間短大法経科は並行して継続していたので夜間学部への入学、編入した学生は多くなかった。ここでは1966年(昭和41年)の卒業生までの6年分を対象とする。

2. 卒業年、調査時年齢、出身学校

表8-1は回答者7人の卒業年と調査時点の年齢を示した。卒業年は1961、1964、1965、1966年でいずれもアンケート時には78歳以上の高齢であった。出身地は豊橋、豊川、田原鳳来の東三河と西三河、遠州であった(表8-2)。出身高校もそれに基づいており、既存の短大からの編入も見られた(表8-3)。この2部が誕生したことを新聞や地元の至近距離の大学として知ったとする(表8-4)。そして入学に至った理由は勉強意欲であり、働きながら学べるチャンス、先生の指導などがあげられている(表8-5)。そして在学中の授業料や生活費は自分の勤労給料、アルバイト、奨学金で工面し(表8-6)、ほぼ自前で賄っている。あわせて強い独立心もあったと思われる。

3. 学業のウェイト

では、勤労学徒として入学してからの学業についてはどのくらいのウェイトを置いたのであろうか。それを示した表8-7によれば、やはり学業は従が多いが、「どちらか

いえば学業」、「学業はまずまず」という回答もあり、前述の「学びたい」という願望が具体化していたと思われる。ではどんな分野に興味を持ったかといえば、経済学以外にもかなり興味を示しており、大学で学ぶ良さを味わっていたと思われる(表8-8)。また印象に残った教授も経済学以外にも見られ、学問に幅を見出していたといえそうである(表8-9)。

また教授との交流は、無記入が多いが、若干例の交流もあった(表8-10)。回答数ももっとあれば、もっといろいろな交流があったと思われる。そして、集大成となる卒論は無記入者を除くと回答者の1人だけで「日産自動車の部品管理」をテーマにしている。その背景には、この時代、トヨタも含め国民大衆車生産への始まりがあり、それを的確に把握したのであろう。

では、法経2部経済学科の在学中の満足度はどうであったろうか。表8-12がそれを示している。回答者7人の内4人がそれに回答し、すべて「まあまあ以上」で、満足を得ていたことがわかる。その理由を見ると、「広い視点を得た」、「大学を知ることができた」、そして「進級、卒業をすることができた」からなどとしている。

また、2部での学業がその後の人生にも影響したかについては、「最も影響した」という2人は「人生観や世界観」を得たとし、生き方への影響があったとする。「まずまず」と「まあまあ」の3人は、企業経営の責任者となったことや職場での昇格などを挙げている(表8-13)。色々在学中に努力した結果であらう。

4. 就職状況

では就職についてはどのように対応したのであろうか。表 8-14 を見ると、回答者は 2 人ともすでに勤労学生として就職しており、就職活動はしていない。無記入の 5 人の実態は不明であるが、実際の就職先についての回答を見ると（表 8-15）、3 人が就職先を明記しており、無記入者も就職していたものと思われる。あわせて定年後の再就職も 2 人が関係していた職域で就職したことがわかる（表 8-16）。

その就職を通して、2 部の卒業生を他の大学卒業生と比較したときの感想を問うと、1 人「地元唯一の大学で、しかも書院からの歴史がある点で誇りだ」としている（表 8-17）。この時期、どの程度書院に関心があったのかを問うと、表 8-18 のような回答があった。7 人の内 2 人が大学からの情報ではなく、すでに書院をよく知っている地元の人たちや、大学創設期のような、直接的に書院からの編入生との交流は、この時期にはなくなっている、あちこち市民の間や創設期卒業生の先輩たちには伝承が残り、それが伝えられ、それらからの情報として認知していたことがわかる。

5. 愛大卒業生として

次に愛大卒業生として、実態として、また意識として愛大とかかわっているかを見てみる。

まずは愛大憲法ともいえる愛大設立趣意書への反応である。それを表 8-19 に示した。もともと対象者と回答数が少ないため、一般化しにくいところもあるが、うち 1 人は頭のなかにいつもあること、もう 1 人は娘さんも後援会長として愛大を支えていると

反応を示している。

次いで戦後の愛大史のエポックであった「愛大事件」については、「少し以上」知っている回答者が 2 人で、うち「よく知っている」という 1 人は、単に知っただけでなく、その時代的な判断もしている（表 8-20）。

さらに、母校愛大への関心は、2 人がその理由を記し、勤労学生としての学び、大学 2 部として学べたことに地域貢献の役割として評価している（表 8-21）。そして愛大への期待情報を見ると、世界的な取り組み情報、また短大から大学への進学情報などがあげられている（表 8-23）。

では愛大情報をどこから得ているかについてみると、6 件の回答があるが、他の学科や短大と違って、回答は広くバラけている。初期の豊橋法経 2 部経済学科では、情報源があまりまとまっていなかったことになる。これも経済学科生の特徴であろう（表 8-22）。

同窓会への出欠状況は、無記入のほかは欠席が多い。ただし、理由を見ると、市役所内には副次的同窓会があり、仲間うちの会合には出席していたり、かつては同窓生のつながりは必要だと認識している局面もあり、無記入者も含め、関心を持ちつつも、高齢化の影響がベースにありそうである（表 8-24）。

そこで、この同窓会の魅力アップの方法について尋ねた。「終身会費制の復活や同窓生の相互関係の強化」などがあげられている（表 8-25）が、その強化の方法が知りたいところである。

次に「愛大をどうみているか」を問うた。1 人の回答だけだが、「愛大力をもっと出し、国際人の養成を」とある。愛大への要望でも

ある。

この愛大から得たものを挙げてもらった。表 8-27 がそれである。無記入者は少し減り、この点については反応が少し広がり、関心が沸いたのであろう。それによると、「4年間夜学でがんばり、そこで常識、教養、友人を得、また未知の世界であった「大学」を知ったこと」だとする。やはり、4年間の夜学での学びが自分自身への評価にもなったのであろう。

そこで最後に、卒業生の人生の満足度と愛大との関係について尋ねた。人生の満足度を縦軸に示し、愛大との関係を横軸に示した。それを示したのが図 8-1 である。データ（回答者数）が 4 人分しかなく、全体の相関傾向を言及することはできない。それ

ぞれの各人のポイントは縦横それぞれに分散的に分布する特徴がみられるが、いずれも決定的ではない分布を示している。ここにも多分野に関心を持った経済学科卒業生の特性が表れているとも思われる。

<付記>

そして付記として、座右の銘（表 8-28）と夜学時代などの思い出を示してくれたので、最後に紹介する（表 8-29）。それぞれの言葉と文章を綴った個人個人の人生のストーリーに想像の共有が沸くとき、このアンケートの愛大卒業生としてのアイデンティティの意味が生まれるものと期待したい。

夜間：豊橋法経二部【経済】

8-1

表 本学二部（夜間）卒業年次と調査時の年齢		
法経学部二部 豊橋		
卒業年	【経済学】	対象者：S36～41年卒
		回答者数
		2021.3.1時点年齢
昭和36年（1961年）	1	85
昭和39年（1964年）	2	80,81
昭和40年（1965年）	2	79,83
昭和41年（1966年）	2	78,78
合計	7	

8-2

表 本学二部（夜間）出身地		
法経学部二部 豊橋		
出身地	【経済学】	昭和36～41年卒
豊橋		2
碧南		1
豊川		1
田原		1
鳳来		1
浜松		1
合計		7

8-3

表 本学二部（夜間）出身学校		
法経学部二部 豊橋		
（調査対象：昭和36～41年卒,1961～1966）		
出身校	【経済学】	人数
新城高校		1
成章高校		1
刈谷商高		1
豊橋商高		2
豊橋工業高		1
短大より		1
合計		7

8-4

表 本学二部（夜間）を知った理由		
法経学部二部 豊橋		
理由	【経済学】	昭和36～41年卒
地元の大学として認知		3
新聞		1
至近		1
不明		2
合計		7

8-5

表 本学二部（夜間）の入学理由		
法経学部 二部豊橋		
入学理由	【経済学】	昭和36～41年卒
実に勉学のため		1
学歴が欲しかった		2
働きながら学べる		2
教養を高めたい		1
高校の先生（久野重明）		1
合計		7

8-6

表 授業料・生活費の工面			
※複数回答あり			
法経学部 二部豊橋			
どのように	【経済学】	授業料	生活費
1.親から		0	0
2.親戚・縁者から		0	0
3.奨学金から		2	0
4.アルバイトから		2	1
5.自分の給料		5	6
合計		9	7

8-7

表 本学二部（夜間）在学中の学業比重		
法経学部 二部豊橋		
比重	【経済学】	昭和36～41年卒
1.学業が主		0
2.どちらかといえば学業		2
3.学業はまずまず		1
4.学業は従		4
合計		7

8-8

表 本学二部（夜間）で興味を持った分野		
法経学部 二部豊橋		
分野	【経済学】	昭和36～41年卒
政治学（小岩井）		1
歴史学		2
日本経済史		1
日本史		1
会計学		1
フランス語		1
合計		7

夜間：豊橋法経二部【経済】

8-9

表 本学二部（夜間）で印象に残った先生と分野

法経学部 二部豊橋		
先生・分野	【経済学】	昭和36～41年卒
小岩井（政治学）		1
久曾神（国文学）		1
胡麻本		1
四方		1
大石（経営学）		1
歌川（歴史の見方）		1
河合（会計学）		1
	合計	7

8-10

表 本学二部（夜間）先生との交流

法経学部 二部豊橋		【経済学】
交流内容		昭和36～41年卒
・奥三河「山の家」での研修		1
・河合先生と		1
・無記入		5
		7

8-11

表 本学二部（夜間）卒論研究テーマ

法経学部 二部豊橋		【経済学】
テーマ（希望者のみ、判明分）		昭和36～41年卒
・「日産自動車部品の管理と流れ」		1
・卒論をやらなかった		5
・無記入		4
		10

8-12

表 本学二部（夜間）在学中の満足度と理由

※理由、複数回答あり		
法経学部 二部豊橋		
満足度	【経済学】	昭和36～41年卒
		理由
1.大いに満足		2
		・広い視野を得た
2.まずまず		1
		・大学自体を知ることができた
		・対人関係が発展できるようになった
3.まあまあ		1
		・なんとか進級、卒業できた
4.無記入		3
		7

8-13

表 本学二部（夜間）での学業がその後の人生に与えた影響

※理由、回答者のみ		
法経学部 二部豊橋		
影響レベル	【経済学】	昭和36～41年卒
		理由
1.大いに影響		2
		・人生観、世界観を得た
2.まずまず		2
		・会社46年、営業部長
		・武漢合併会社で工場責任者
3.まあまあ		1
		・職場進級試験に合格
4.無記入		2
		7

8-14

表 本学二部（夜間）在学中の就職活動

※理由、回答者のみ		
法経学部 二部豊橋		
影響レベル	【経済学】	昭和36～41年卒
		理由
全くしなかった		2
		・すでに就職していた
無記入		5
		7

8-15

表 本学二部生（夜間）の就職先

法経学部 二部豊橋		
就職先	【経済学】	昭和36～41年卒
豊橋市役所		1
湖西保健所		1
小野田セメント（田原）		1
無記入		4
	合計	7

8-16

表 定年後の就職先

法経学部 二部豊橋		
就職先	【経済学】	昭和36～41年卒
静岡県更生会養護専門学校		1
監査役で継続		1
無記入		5
	合計	7

夜間：豊橋法経二部【経済】

8-17

表 愛大卒生を他大学と比較		
法経学部 二部豊橋		
比較	【経済学】	昭和36～41年卒
地元唯一の学校で東亜同文書院からの流れは誇り		1
無記入		6
	合計	7

8-18

表 東亜同文書院生の認知と交流			
法経学部 二部豊橋			
レベル	【経済学】	昭和36～41年卒	理由
1.よく知っている			
2.少し知っている		2	・地元の人はよく知っている ・会社の先輩からの話で、書院生と愛大生の関係ありと
3.知らない			
4.無記入		5	
	合計	7	

8-19

表 愛大設立趣意書の反応		
法経学部 二部豊橋		
反応	【経済学】	昭和36～41年卒
常に頭の中で参考にしている		1
長女も短大後援会長として認識している		1
無記入		6
	合計	8

8-20

表 「愛大事件」の認知とその受け止め方			
法経学部 二部豊橋			
レベル	【経済学】	昭和36～41年卒	
1.よく知っている	A	1	
2.少し知っている	B	1	
3.知らない			
4.無記入			5
	合計		7
《表中のA理由》			
・新時代に向かう出来事だったと			
《表中のB理由》			
・新聞で知った			

8-21

表 母校愛大への関心		
法経学部 二部豊橋		
レベル	【経済学】	昭和36～41年卒
1.大変関心あり	A	1
2.多少あり		
3.ふつう	B	1
4.あまりない		
5.無記入		5
	合計	7
《表中のA理由》		
・働きながら勉強をよくやった		
・コッペパンの思い出		
《表中のB理由》		
・夜間大学として地域貢献		

8-22

表 愛大情報の入手先		
法経学部 二部豊橋		
※複数回答あり		
入手先	【経済学】	昭和36～41年卒
1.テレビ,新聞		1
2.大学ホームページ		
3.愛大通信		1
4.会合		
5.受験雑誌		1
6.同窓生		1
7.同窓会報		1
8.愛大新聞		1
9.無記名		4
	合計	10

8-23

表 愛大への期待情報		
法経学部 二部豊橋		
期待情報	【経済学】	昭和36～41年卒
地球や外国情報		1
短大から大学への進学		1
無記入		5
	合計	7

夜間：豊橋法経二部【経済】

8-24

表 同窓会への出欠状況		法経学部 二部豊橋	
レベル	【経済学】	昭和36～41年卒	
1.はい			
2.よく			
3.時々			
4.いいえ	A		3
5.無記入			4
	合計		7
《表中のA理由》			
・市役所内に「ふくろうクラブがあり、それに出ている			
・当初は参加したが…			
・卒業生とのつながりは必要			

8-26

表 愛大をどう見ているか		法経学部 二部豊橋	
見方	【経済学】	昭和36～41年卒	
すぐれていた大学の力の特色をもっと出し、国際人の養成を			1
無記入			5
	合計		6

8-29

表 本学二部（夜間）そのほかの思い出		法経学部 二部豊橋	
内容	【経済学】	昭和36～41年卒	
兵舎利用で早くから清掃、夏の蚊対策			1
薬師岳遭難事件			1
夜学は通学で苦労した。よく卒業できたと思う			1
目的をもって行ったが、プロたして仕事に役立つかは不明			1
無記入			3
	合計		7

8-25

表 同窓会の魅力アップ法は		法経学部 二部豊橋	
回答	【経済学】	昭和36～41年卒	
タテヨコのつながり			1
卒業時に終身会費制の復活を			1
無記入			5
	合計		7

8-27

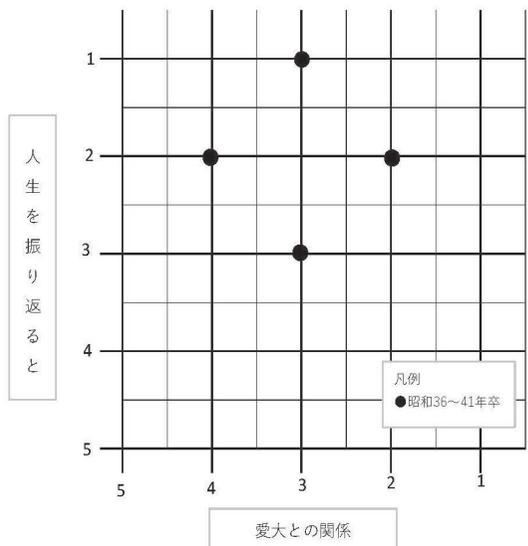
表 愛大から得たもの		法経学部 二部豊橋	
内容	【経済学】	昭和36～41年卒	
幅広い教養、友人			1
常識を深めたために役立つ			1
大学自体を知った			1
4年間、夜学で頑張った			1
無記入			3
	合計		7

8-28

表 座右の銘		法経学部 二部豊橋	
内容	【経済学】	昭和36～41年卒	
和と感謝「歳月人を待たす」			1
つっぱらない			1
無記入			5
	合計		7

図 8-1

図 人生の満足度と愛大の関係 【法経学部二部豊橋 経済】



人生をふりかえると【①おおいに満足②まずまず満足③普通④少し不満⑤大変不満足】

愛大卒生との関係【①おおいに関係②多少関係③普通④あまり関係ない⑤全くない】

【愛知大学卒業生アンケート調査報告特集 (2)

「愛知大学創設期における（夜間）短期大学部二部、（夜間）法経学部二部、
女子短期大学卒業生の在学状況とその後の軌跡」】

4. 女子短大卒業生の場合

愛知大学・同短期大学部非常勤講師 高木 秀和

1. はじめに

ここでは、愛知大学女子短期大学部（以下、女子短）の創設から1979（昭和54）年の卒業生に対して行ったアンケート調査を分析し、1959年4月の文科創設からおよそ20年間にわたる学生生活の様子や卒業後の就職状況などについて報告する。

これまでの女子短の発展過程は、『愛知大学五十年史』や『愛知大学短期大学部（女子）五十年史』（2009）（以下、『短大50年史』）などの公式的な正史から知ることができる。また、『愛知大学五十年史』編纂事業のひとつとして、初めての女子短専任教員であり、発足当初は女子短事務職員も兼ねていた牧野由朗先生の口述記録が残されている。

卒業生の証言も大学当局や同窓会の事業として集められ、『短大50年史』に収められた「卒業生の言葉」には、昭和40年代から平成初期に学んだ卒業生の思い出がまとめられている。さらに『愛知大学同窓会創立55周年記念誌』（2007）には、文科1期生が寄せた女子短創設時の回想が収められ、牧野由朗先生の証言を引き出しながら、当時の心情や状況を振り返っている。

しかし、アンケート形式での卒業生の調査は、近年では三遠南信地域連携研究センター（2020）が愛知大学で学んだ学生を対象

とした大規模な調査を実施しているが、これまで女子短を対象とした大規模な調査は行われてこなかったため、自由記述を中心とした大規模な量的・質的調査は当東亜同文書院大学記念センターによるものが最初であると考えてよい。

ここでは、女子短文科1期生である1961（昭和36）年卒業生から（生活科は1961年に開設、生活科1期生は1963年卒）、1979（昭和54）年卒業生の女子短卒業生に対して、2021年夏に発送したアンケート調査の集計結果を報告する。卒業生数、アンケート発送数、回収数は、文科は2,466人、1,328通、72通、生活科は2,490人、1,518通、69通であり、回収数の合計は141通である。

調査に用いたアンケート票は5つの部分から構成され、おもに学生生活の様子を尋ねる内容となっている。Aでは回答者のプロフィール、Bでは正課の授業のほか、教職、司書過程、特別実習や、オリエンテーションキャンプや北海道研修旅行などの課外活動について尋ねた。さらにCでは部活、サークル、学友会活動、Dでは就職活動について質問し、最後にEでは愛知大学の歴史と現在、期待について、自由記述を交えながら回答してもらった。

アンケート集計に際し、20年近くの期間

の卒業生を対象としたために、一部では大きく4期に時期区分してまとめた。つまり、

- (1) 創設期の1966(昭和41)年卒まで、
 - (2) 70年安保までの学園紛争期として昭和45年卒まで、
 - (3) それに続く昭和50年卒まで、
 - (4) 文科の定員増(昭和49)後の卒業生である昭和51年卒から54年卒である。
- その内訳は、(1) 文科8、生活科12、(2) 文科18、生活科18、(3) 文科30、生活科25、(4) 文科16、生活科14である。また、寄せられた思い出やコメントなどは誤字、脱字を訂正するとともに、文意を損ねないように修正し、集計結果として表れる数値の背景を裏付ける資料として全面的に活用した。

2. 回答者のプロフィール (A)

愛知大学の女子短は、女子の専門教育機関として、その空白地域である豊橋とその周辺地域の期待に答えて開設された。そのような背景があり、アンケート回答者の出身地は31人が豊橋市、12人が浜松市、11人が新城市であり、以下岡崎市、名古屋市が続くように、東三河を中心に遠州から尾張の広い範囲から学生が集まった(図表9-1、2)。そのため、自宅通学の学生が大半を占めた(図表9-3)。本学を知った経緯にもそれが反映され、地元だから当たり前のように知っていたと回答した卒業生が多かった(図表9-4)。

女子短の学生の経済状況を見ると、学費、生活費ともに親が負担をしているケースが大半であり、不足する場合はアルバイトで補っていた(図表9-5)。むろん、彼女たちも遊興費などはアルバイトで賄っていただろうが、この点は男子勤労学生がほとんど

であった学部二部、短大二部の状況と大きく異なっている。

3. 在学中の学業について (B)

愛知大学女子短の大きな強みは、四年制学部(以下、四大)と同じ敷地にあることであろう。女子短の多くの講義は四大の専任教員らが兼担しており、アンケート結果からも久曾神昇先生、板倉軯音先生や丸山薫先生をはじめ、先生自身や授業内容に対する印象の深さと満足度の高さがうかがえる(図表9-6、7)。

文科では、国文と英文が両方学べることが大きな特徴であり、それを生かすために教職や司書を志す学生が多かった(図表9-8)。これらの課程は生活科の学生も履修可能であった。ただし、2年間の在学期間で教職と司書過程を履修するのは大変ハードであり、勉学に明け暮れた学生もいた(図表9-9、10)。一方、生活科は調理や被服の実習を中心とした構成で、昭和40年代前半までの卒業生は年齢が近く親近感を感じた渥美令子先生や、生物学の大内義郎先生の試験で苦勞したこと、昭和40年代後半の卒業生は厳しいながらも充実した実習の思い出を寄せている(図表9-11)。

そして、両科の卒業生は「自由研究」(昭和52年以降は「卒業研究」)として女子短での学びの成果をまとめ、それを通じての先生との深い交流もあった(図表9-12、13)。ただし、図書館は四大の敷地に立地しており、授業やサークルなどで忙しかったこともあり、その利用頻度は個人差が大きかった(図表9-14)。

特別実習は茶華道やタイプライティングなどが比較的人気を集めたものの、1970(昭

和45)年に全廃となったが、生活科ではそれ以降もそれらの実習が何らかのかたちで行われたようである(図表9-15)。教職、司書過程については前述した通りだが、両科ともに昭和40年代前半までの卒業生が比較的多く履修し、これらの資格取得に励んだ成果が人生によい影響を与えたと考える卒業生もみられた(図表9-16)。

課外活動の旅行は、卒業生にとって女子短の学生生活の思い出の一コマになっているようである(図表9-17)。そのうち、入学直後のオリエンテーションキャンプとサマーキャンプが特徴的であり、前者は三河湾沿岸、後者は山間地域が選ばれたことがうかがえる。さらに研修旅行は10日前後の日程で北海道周遊するもので、修学旅行ととらえた参加者も少なくなかった。しかしながら、『短大50年史』によると昭和40年代半ばからサマーキャンプの参加者が減少した一方、サークル合宿やスキー合宿の参加者が増加するようになり、1977(昭和52)年からは「卒業研究」のゼミ単位で合宿などが行われることになった。こうしたことから、女子短行事としてのサマーキャンプと北海道研修旅行は、その役目を終えることになった。



写真1 愛知大学女子短期大学部北海道旅行記念(昭和44年8月)
(写真1~5は愛知大学蔵)



写真2 調理実習の様子

4. クラブ、サークル活動(C)

女子短が四大と同じ敷地にある強みは、両者の学生の交流にもよい影響を与えた。つまり、四大の部活やサークルに参加する学生も多く、これらの活動がより活発になった(図表9-18、19)。そして卒業後の人間関係にも影響を与え、折りにふれてOB・OG会が開かれ、結婚をしたカップルも現れた(図表9-20)。

女子短独自のサークルや女性が多かったサークルでも同様で、現在も交流を続けている卒業生が多くみられる。とりわけ、短期大学部合唱団(旧音楽部。以下、合唱団)、邦楽研究会、児童文化研究会「カーネーション」に参加した学生から多くの回答があった。昭和40年代後半以降は、ワンダーフォーゲルやギターアンサンブルなど、様々なサークルが活発に活動し、現在でも気の合う仲間との交流が続いているようである。その一方、学友会活動への参加は全体的に低調だったが、初期に行われていた「グループリーダーシップ・トレーニングセミナー」に関する証言は興味深い(図表9-21)。

音楽関係では、創設期には女子短に音楽科を設置するプランがあったことも関係し、音楽に興味がある学生の入学もみられた。とくに合唱団に参加した卒業生にとり、その練習や演奏会、顧問の中出惇先生との交

流が思い出深い。また、歌声喫茶の活動も活発で、コーラスだけでなくフォークソングも歌われた(図表 9-22)。このことは、後述の学生運動とも関わってくる。



写真3 自動車部



写真4 カーネーションクラブ



写真5 馬術部

5. 就職状況 (D)

就職活動の状況をみると、集計結果では文科、生活科ともに積極的に活動した卒業生はそれほど多くない(図表 9-23)。しかし、公務員や教員を目指した卒業生は、その準備

を就職活動と考えておらず、一般企業就職者も家族や親族の働きかけで就職したケースもあり、それを積極的な就職活動ととらえていないようである。そうした背景もあり、就職活動の形態は現在とは異なっていることもあったが、回答者の多くが就職し、男女の給与格差がなかった公務員や教員だけではなく、大手企業に就職を果たした卒業生も目立っていた(図表 9-24、25)。ただし、家族や親族の就職への干渉がマイナスに作用することがあり、高校卒業時の進路選択にも影響を与えたケースも少なくなかった(図表 9-26)。

就職先では、職場の先輩、後輩として四大、女子短卒業生が在籍するケースも多く、同僚とのつながりなどから母校を意識している(図表 9-27)。また、女子短では小学校の教員免許が取得できないため、働きながら免許取得を目指す卒業生もみられた。また、結婚、出産後も仕事を続けたり、現在でも現役で活躍している卒業生もいる(図表 9-28)。

6. 愛知大学卒業生として (E)

女子短では、その創設期に三つの「F」(元気に Frisch、自由に Frei、明るく Froh)という精神が掲げられた。アンケートの集計結果によると、いずれの年代もその認知度は低いが、知らなくても、あるいは忘れてとしてもそのような生き方を実現しているというコメントがみられた(図表 9-29)。

東亜同文書院や「愛大事件」の認知度は、今回の調査対象期間の後半になるほど低くなるが、前者は身近な人や資料を通じて知ったという回答が目立ち、後者は昭和40年代までの文科の卒業生の認知度がやや高い

傾向にある(図表 9-30、31)。両者ともに授業を通じて知ったと記憶している卒業生がみられることから、授業などで積極的に愛知大学の歴史を伝えていくことが必要であろう。

その一方、学園紛争は両科、どの年代ともに多くの卒業生が認知しており、とりわけ昭和 40 年代の卒業生がそれぞれの思いを寄せている(図表 9-32)。寄せられたコメントをみると、いわゆるノンポリとして学生運動を外側から見ており、プラカードを横目に教室へ向かった学生が多かったが、付き合いでデモに参加したという回答者もみられた。しかしながら、昭和 40 年代後半の卒業生は授業の休講を経験しており、それが学生時代の印象のひとつになっている。

母校とのつながりをみると、同窓会への出席は全体的に低調である(図表 9-33)。しかしながら、前述したように個人やグループ単位での交流は卒業後もさかんである。いずれの学科、年代の卒業生も同窓会報や「愛大通信」から母校の近況を把握しているようであり、これらを通じて母校とのつながりを意識する卒業生もみられる(図表 9-34)。そして、母校に対する関心は、昭和 40 年代の卒業生が比較的高い(図表 9-35)。以上をまとめると、寄せられたコメントなどからうかがえるように、在学期間の近い卒業生を集めた女子短同窓会、とくに昭和 40 年代の卒業生を対象とする会を企画すれば、参加希望者も多く集まると思われる。

最後に、人生の満足度と愛知大学卒業との関係を見ると、女子短の卒業生はまずまず人生を満足しており、母校との関係は個人差が大きいことが浮かび上がってきた(図表 9-36)。また、文科に比べ生活科の卒

業生の数値にバラツキがみられることがうかがえる。

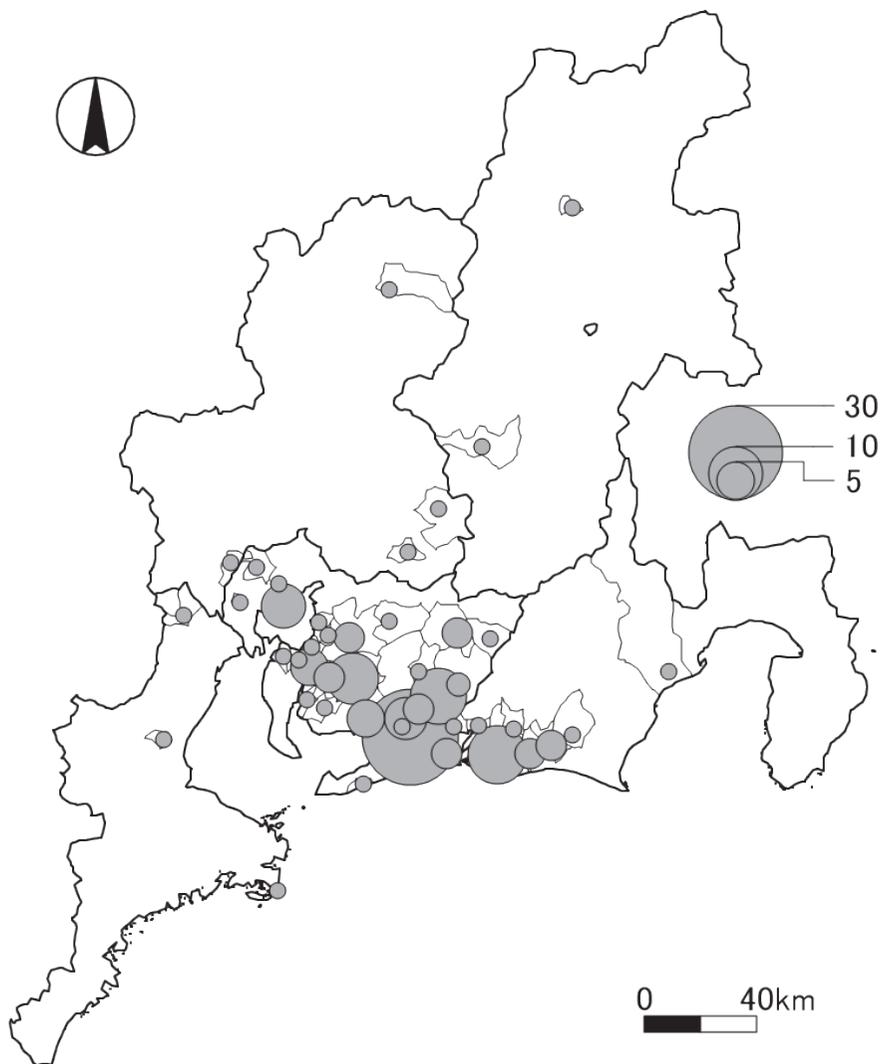


写真 6 愛知大学女子短期大学部合唱団
OG 合同演奏会 (昭和 53 年 12 月)
会場：豊橋勤労福祉会館 (現在のアイプラザ)
藤城佐知子さん (昭和 42 年卒) 提供

最後になりましたが、アンケート調査にご協力頂いた女子短の卒業生の皆さまに感謝申し上げます。また、貴重な資料を提供して頂いた卒業生の皆さまに厚くお礼申し上げます。アンケートの結果と提供して頂いた資料については、今後も研究をすすめてまいります。忌憚なきご意見と、資料を賜れば幸いです。

参考文献

- 愛知大学三遠南信地域連携研究センター
(2020)「愛知大学ブランド向上化・卒業生アンケート調査結果(概要速報)」
愛知大学短期大学部 50 周年記念事業企画委員会 (2009)『希望のかなた 愛知大学短期大学部(女子)五十年史』
愛知大学同窓会創立 55 周年記念誌編集委員会 (2007)『学生たちの証言で綴る 創成期の愛知大学 愛知大学同窓会創立 55 周年記念誌』
牧野由朗 (1995)「牧野由朗氏に聞く一短大(女子)創設のころ一」『愛知大学史紀要』第 2 号 (のちに『社会学と私の五〇年』、2002 に再録)



[9-1]女子短 出身地（入学前の住まい）（単位：人、以下同じ）

注：他に大阪府 1、愛媛県 1。

[9-4]女子短 本学を知った理由（複数回答）

[9-3]女子短 自宅生・下宿生の別

	文科	生活科
自宅	56	60
(うち文科2名は下宿の可能性)		
下宿	13	5
その他	1	1
無回答	2	3
計	72	69

	文科	生活科
高校先生	6	7
親	3	1
家族	2	2
親族	4	3
先輩	4	2
知人	4	1
印刷物	14	9
地元	15	14

[9-2]女子短 出身学校

	文科	生活科
--	----	-----

【遠州】

磐田北	2	2
浜松海の星	3	0
西遠女子学園	2	1
浜松市立高	1	2
掛川東	2	
二俣	2	
浜松女子商業	1	
新居	1	
気賀	1	
浜松南		1
浜名		1
三ヶ日		1

【豊橋】

豊丘	5	2
豊橋商業	1	5
豊橋東	2	3
桜ヶ丘	1	4
藤ノ花		1

【新城・南北設楽】

新城	3	6
鳳来寺	1	2
田口		2
新城東	1	
本郷	1	

【豊川・蒲郡・田原】

国府	3	3
蒲郡	1	2
成章	1	1
蒲郡東		1

【西三河】

岡崎北	3	2
刈谷北	1	4
豊田東	2	
安城	1	1
岡崎	1	
光ヶ丘	1	
幸田	1	
刈谷	1	
豊田西	1	
衣台	1	
岡崎商業		1
岩津		1
碧南		1

	文科	生活科
--	----	-----

【名古屋】

名短大付属	1	1
椋山女学園	1	
市立西陵商業	1	
市立北	1	
瑞穂		1
熱田		1
松蔭		1

【愛知その他】

大府	1	
横須賀	1	
津島	1	
一宮商業		1
県立高校	1	

【中部地方】

静岡城北	1	
岩村（岐阜）	1	
中津（岐阜）		1
員弁	1	
津	1	
鳥羽	1	
蘇南（長野）	1	
松本美須々ヶ丘	1	

【その他】

鷗友学園（東京）	1	
寝屋川（大阪）	1	
大洲（愛媛）		1

無回答	9	14
-----	---	----

合計	72	69
----	----	----

[9-5]女子短 授業料・生活費の工面

文36～41

	授業料	生活費
親	6	7
親・バイト	1	
無回答	1	1

文42～45

	授業料	生活費
親	17	17
親・奨学金	1	
親・バイト		1

文46～50

	授業料	生活費
親	29	25
奨学金		1
バイト		1
親・奨学金	1	
親・バイト		3
奨学金・バイト		

文51～54

	授業料	生活費
親	14	12
バイト	1	1
親・奨学金	1	
親・バイト		1
奨学金・バイト		1
親・奨学金・		1

生36～41

	授業料	生活費
親	10	11
親戚縁者	1	1
親・奨学金・ バイト	1	

生42～45

	授業料	生活費
親	16	18
親・奨学金	2	

生46～50

	授業料	生活費
親	23	22
親・奨学金	2	
親・バイト		3

生51～54

	授業料	生活費
親	13	12
親・奨学金	1	
親・バイト		2

[9-6]女子短 興味を持った先生と分野 (上：文科、下：生活科)

文科	文37	文38	文39	文40	文41	文42	文43	文44	文45	文46	文47	文48	文49	文50	文51	文52	文53	文54
丸山薫			2	(2年間受講、とくに興味あり)														
				1	(現代詩論、ノートを残しておけばよかった)													
					2													
									1	(毎回楽しみ)								
									1	(著名な先生の授業で興味がわく)								
									2	(国語の教科書に載った詩人の授業を受け感激)								
久曾伸昇																		
堀井令以知																		
生活科	生37	生38	生39	生40	生41	生42	生43	生44	生45	生46	生47	生48	生49	生50	生51	生52	生53	生54
遅美命子	生37	生38	生39	生40	生41	生42	生43	生44	生45	生46	生47	生48	生49	生50	生51	生52	生53	生54
料理の先生	生37	生38	生39	生40	生41	生42	生43	生44	生45	生46	生47	生48	生49	生50	生51	生52	生53	生54
大内義郎	生37	生38	生39	生40	生41	生42	生43	生44	生45	生46	生47	生48	生49	生50	生51	生52	生53	生54
高桑総子	生37	生38	生39	生40	生41	生42	生43	生44	生45	生46	生47	生48	生49	生50	生51	生52	生53	生54
紅露進	生37	生38	生39	生40	生41	生42	生43	生44	生45	生46	生47	生48	生49	生50	生51	生52	生53	生54

[9-7] 女子短 印象に残った先生と分野 (生活科)

	生37	生38	生39	生40	生41	生42	生43	生44	生45	生46	生47	生48	生49	生50	生51	生52	生53	生54	
遅美令子		1	(料理)																
		1	(高校の先輩)																
		1	(大学を出たばかりで親しみをもてた)																
牧野由朗					2														
		1	(社会学)																
		1	(近所に住んでいた)																
				1					1	(優しい笑顔)									
										2	(社会学)								
社会学の先生																	1	(「心豊かな愛情を」の言葉)	
板倉納音		1	(ドイツ語)																
大内順子			1	(有名な先生に初めて会った)															
舟井			1																
染色の教授				1	(自筆ノートが欲しいと言われ渡した)														
酒井 (法経学部)			1																
川村					1	(学生の出身地の古語を話し、故郷の言語に関心)													
久曾神昇				1															
岩井 (事務)					1	(明るい人)													
安藤宏子					1	(染色に興味あり、その後の先生はテレビや本の出版で活躍)													
大内義郎					1	(試験が大変とのうわさ)													
内田					1	(俳優・内田良平の兄弟)													
天野好野					1														
						1													
歴史の先生						1												1	(自由研究)
忠津玉枝						1	(担任)												
								1	(卒論指導、先生自宅での丁寧な指導も)										
心理学の先生											1								
紅露進								1											
												1	(高校の家政科の学習を深められた)						
													1	(食品加工の講義・実習が興味深い)					
																	2	(名前) (とても厳しい)	
田辺 (憲法概論)										1	(憲法9条の説明)								
高桑稔子											2	(食物関係の説明に興味をもつ) (食物の授業)							
											1	(常に新しい感覚をもつ)							
											1	(笑顔)							
													1	(担任)					
																3	(調理の授業では厳しい) (調理実習が楽しかった)		
																	1	(とても厳しい)	
フランス語の先生																	1	(チャーム)	
調理の先生 (年配)																	1	(いかにもフランスの感じ)	
長澤規矩也																		1	(先生の強い個性) (内容豊かで興味深い)

注：アミカケ部分の数字は回答者数。

[9-8]女子短 教職・司書課程（文科、昭和50年まで）

	司書	教職	教職理由など
文39		○	・教員になるため
文39	○	○	・2年間で履修できる科目は全部取ろうと思った（学部卒業最低単位を取得）
文39	○	○	
文39		○	・教員になりたかったため
文40	○	○	・教員志望
文40		○	・資格を持つため、教育実習で感動、60歳まで小学校教諭、中学免許状のため通信で小学校の免許状を取得、教師になり多くの人々に出会い現在も交流が続いている
文42		○	・友人が履修したため、自分にはその意志はなかった
文42		○	・両親も教職に就いていた、なんとなく
文42	○	×	
文42		×	・卒業後に就職は考えたことがなかったから
文43	○	○	・資格は何でもとろうと思った
文43	○	○	・教職に就けるから
文44	○	○	・四年制へ編入して教員になるため
文44		○	・とれる資格は何でもとりたかったから
文44		○	・資格がとりたかった、自分の性格に合っていると思った
文44		○	・入学目的が教職に就きたかったから
文44		○	
文44		×	・音楽教室の講師を目指していたから
文45	○	○	・教員採用試験を受け、先生を目指していた
文45	○	○	・授業のためになるかと考えた
文45	○	○	
文45		○	・教員志望も視野
文45		○	・英語が好きだった、もしかしたら教師になれるかもと考えて
文46		○	・親が教員免許をとるように言ったため
文46		○	
文46	○	×	
文47	○	○	
文47		○	・中学教員になるため
文47		○	・教員になりたかったから
文47		○	・可能であれば教職に進めればと考えていた
文47	○	×	
文47		×	(7名)
文48		○	・資格が欲しかったため
文48		○	・免許取得のため
文48		×	・サークル活動のため時間がなかった
文48		×	
文49		○	・勉強できるならやってみようと思った
文49		○	
文49		×	(2名)
文50	○	○	・教師も人生の選択肢のひとつだと考えたから
文50		○	・短大だから資格を取っておこうと思って
文50		○	
文50		○	
文50		×	・教職に就きたい気持ちはなかった

注：○印は参加、×印は不参加。司書課程については、アンケート用紙において司書課程に言及があったものに○印を付した。

[9-8]女子短 教職・司書課程 (文科、昭和 51 年以降)

	司書	教職	教職理由など
文51	○	○	
文51		○	・教育実習をしなかった、分かっていることを知らない事実として説明して教えるという体験は貴重だった
文51		○	・教師になりたかったから
文51		○	・教育実習の経験してみたかった
文51		○	・何となく
文51		○	
文51		×	(2名)
文52		○	・親に言われたため
文52		×	
文53	○	×	
文53		×	
文54		○	・父、姉が教師で次姉も教職課程を履修していたため自然に
文54		×	(3名)

[9-8]女子短 教職・司書課程 (生活科、昭和 45 年まで)

	司書	教職	教職理由など
生38	○	○	・先生に関心があったから
生38		○	・将来役に立つ事があるかもと考えて
生38		○	・いたってまじめに駅前のスクールバスにて通学、時々渥美線で通学
生39		×	・教職が好きでなかったから
生40	○	○	・就職先のひとつとして
生40		○	
生40		○	
生40		×	
生41	○	○	
生41		○	・親が教師
生41		×	・自信がなかったため
生41		×	
生42	○	○	・卒業後教員を希望していたから
生42	○	○	・教職に憧れ
生42	○	○	・資格を持っていれば就職に有利だから
生42		○	・女性の職業として役に立つのではと考えて
生42		○	・将来役に立つかと思って
生43		○	・先生になろうと思ったから
生43		○	・将来役立つことがあればと思い履修
生43		○	・取得できる資格は取っておきたかった
生43		○	
生43		○	
生44		○	・入学した理由が教職をとるため
生44		○	・親のすすめ
生45	○	○	・母は資格を取って欲しいが、教職に就くと父の転勤先についていけない
生45		○	・先生になりたかったから
生45		○	・親に言われて
生45		○	
生45		×	・成績もよくなり、興味もなかった
生45		×	

[9-8]女子短 教職・司書課程 (生活科、昭和46年以降)

	司書	教職	教職理由など
生46	○	○	・教師になりたいと思っていたから
生46		○	・教師を目指していたから
生46		○	・手に職をつけるため
生46		×	・自分の性格が教員に合っていないと思ったから
生46		×	・教職にはあまり興味がなかった
生47		○	・教員を目指していた、教員試験にも合格、配属校が決まっていた、親のすすめで市役所に就職
生47		○	・教員になるため
生47		○	・資格として
生47		○	・すすめられたので
生47	○	×	
生47	○	×	
生47		×	・教職につく予定がなかった
生47		×	・教職課程は自分にとってハードルが高いと思い履修せず
生47		×	(5名)
生48		○	・将来、教師になりたいと思っていた
生48		×	・生活科を選んだから
生49		○	・これまでよい先生に恵まれ、自分もそのようになりたいと思ったから
生49		×	・あまり興味がなかったから
生49		×	(2名)
生51		○	
生51		×	
生52	○	○	・資格を取得したかったため
生52		×	・自分に教師は向かないから
生52		×	(2名)
生53	○	×	・司書課程のみ履修
生53	○	×	
生53		×	・履修しなかったが、履修すればよかった
生53		×	
生54	○	×	・教職に興味がなかったから
生54		×	(3名)

[9-9]女子短 在学中の学業比重 (文科、昭和41年まで)

文36～41 1 学業が主、2 どちらかといえば学業、3 学業はまずまず、4 学業は従

1 (7)	<ul style="list-style-type: none"> ・高卒後もう少し勉強したかった、国文・英文の両方の教職が取れたこと、丸山薫先生への憧れ、司書免許が取れたこと ・学ぶことが楽しかった、友人・先生との交流、新しい世界を知ることへの喜び ・教員免許1級を希望し、勉学に励む ・教員資格を取り、教員になるため ・特にすることもなかったため
2 (0)	
3 (0)	
4 (1)	・学業は二の次、忘れられないとても楽しい2年間だった

[9-9]女子短 在学中の学業比重 (文科、昭和42年以降)

文42~45 1 学業が主、2 どちらかといえば学業、3 学業はまずまず、4 学業は従

1 (15)	・単位をとる、学んだことを自分の知識として役立てる
	・司書資格を得るため
	・教員免許、司書の資格をとるための必修科目が多くあった
	・司書教諭、教員資格を取得するため豊橋市内に1年間下宿して単位取得
	・短大なら行かせると親が言ったから (四年制は嫁のもらい手がなくなる)
	・親の収入が安定していた
2 (1)	・音楽関係も並行して勉強
3 (2)	・ピアノを習っていた、ピアノを生かした仕事がしたくてピアノを優先
	・当時講義に興味をもてなかった、下宿にも関わらず実家へ帰ることが多かった
4 (0)	

文46~50 1 学業が主、2 どちらかといえば学業、3 学業はまずまず、4 学業は従

1 (25)	・学ぶ事が主目的のため
	・学生は学業が大切だと思ったから
	・古典がよかった
	・教員の免許を取ろうと思ったから
	・教員免許が欲しかったから
	・自分の夢の仕事につくため英語を一生懸命勉強、夢を叶えられた
	・サークル活動も楽しかったが、学生の本分は学業であると思っていたから
	・アルバイトもしたが、可能な限り講義・講座に出席し単位取得、有意義だった
	・両親に負担をかけて入学させてもらったため勉学に励んだ (六人兄弟の二番目で下に兄弟がたくさんいた)
	・伯母宅に住まわせてもらっていたから
	・通学に往復2時間以上かかったため、学業中心にならざるを得なかった
・他にすることもなかったため	
2 (3)	・高校までと違い大学の授業はとても新鮮、 積極的に学ぶことで知識がより深くなり、楽しさや満足感に浸っていた
	・学業だけではなく、部活動で学部生と関わることも楽しかった
	・広く浅く学べればよいと思ったから
3 (2)	・テニスクラブに入り毎日練習していた
	・部活中心だったため
4 (0)	

文51~54 1 学業が主、2 どちらかといえば学業、3 学業はまずまず、4 学業は従

1 (10)	・短大を卒業して就職したいと思った、教員免許をとりたと思った
	・親から通わせるからには教員免許を取るようと言われたから
	・自宅から通学、交通費も必要なかった
2 (2)	・クラブと両立
3 (3)	・サークル活動を楽しみたかったから
	・特になし
4 (1)	・入学時の講義内容は高校の復習のようでつまらなかった、 それ以上に独学すればよかったが当時は気がゆるんでいた、 しかし頭の中に残るものが積み重なって蓄積できたものはあったと思う

[9-9] 女子短 在学中の学業比重 (生活科)

生36~41 1 学業が主、2 どちらかといえば学業、3 学業はまずまず、4 学業は従

1 (10)	・あたり前のことだから ・明治生まれの父が「学生は学業のみでいくべき」と
2 (1)	・友達がテニス部でローラー引きをした
3 (1)	
4 (0)	

生42~45 1 学業が主、2 どちらかといえば学業、3 学業はまずまず、4 学業は従

1 (15)	・好きな科目が多く楽しかった ・資格取得のため、学業に専念できたことを両親に感謝 ・英文科志望だったが、親が家事などを覚えた方がよいと生活科をすすめた ・名古屋から通学していたため、余計なことはできなかった ・同じ学校から行った仲間と朝一番に席をとり、ほぼ休まず真面目に勉強した もっと色々なことをして、遊びもやればよかった ・教員免許をとり故郷の男性と結婚すればよいと母にすすめられた、 司書・司書教諭もっておけば条件がよくなる
2 (2)	・教員になるのが目的で入学、同時にピアノのレッスンにも通っていた ・アルバイトもしていた (税務所、ピアノ教師)
3 (1)	
4 (0)	

生46~50 1 学業が主、2 どちらかといえば学業、3 学業はまずまず、4 学業は従

1 (18)	・学生だから ・学生なら当然だと思っていた ・2年で卒業するため ・短大は2年間 (のみ)、学業を主にして過したかった ・教師を目指しており、しっかり学びたいと思っていた ・高校では進学コースではなく祖父が (進学に) 反対 (ましてや私立)、 親 (とくに母) は反対せず、いろいろな学科の単位を取得して勉学した
2 (6)	・教師になるのが夢だった ・校内の部活にはとくに参加せず、自宅近くの洋裁教室へ通って服を作っていた ・友人と一緒に行動することが楽しかった ・家業の手伝いもしていた
3 (1)	・クラブ活動の吹奏楽団がとても楽しく、そちらに力が入り過ぎていたため
4 (0)	

生51~54 1 学業が主、2 どちらかといえば学業、3 学業はまずまず、4 学業は従

1 (5)	・教員と司書の資格を取得したかったため ・当時は親 (とくに母親) 敷いたレールに従うのが当たり前だと思っていたから
2 (2)	
3 (2)	・部活を思いきりやりたかったため
4 (0)	

[9-10]女子短 在学中の満足度 (文科、昭和 50 年まで)

文36～41 1 大いに満足、2 まずまず満足、3 まあまあ、4 あまり満足していない

1 (3)	・知を愛する自由な校風、何のプレッシャーも感じず楽しかった
2 (3)	・多感な年代を様々な価値観の人と出会い、生涯の指針を得られた あと一年学びたかったが、まだ女性が自由という時代でなかったのが残念
3 (2)	・東京の大学に比べてレベルが低いのではないかというコンプレックスがあった ・司書資格を取得できたこと。
4 (0)	

文42～45 1 大いに満足、2 まずまず満足、3 まあまあ、4 あまり満足していない

1 (3)	・短大の2年間は人生最大の宝物！、今でも輝っている、楽しかった ・希望したところに合格、二年間だが有意義だった ・市に司書として採用されたため
2 (9)	・国文学を学べた ・部活動は大いに満足、学業はもう少し熱心に励んでおけばよかった ・短大2年間で司書資格と教職課程はきつかった ・授業はハードだった、しかし自由な校風が楽しかった ・教員との交流はどれも満足、しかし当時の事務職員は学生に親切でなかった ・自分私以外は全員推薦入試、三河出身者が多くなかなかなじめなかった
3 (4)	・授業より合唱団に重点、今でもその友人と交流あり ・自分自身の勉学態度に反省あるのみ ・つつがなく学生生活が送れた
4 (2)	・もう少しきちんと勉強すればよかったと反省

文46～50 1 大いに満足、2 まずまず満足、3 まあまあ、4 あまり満足していない

1 (5)	・サークル活動を含めた人間関係が良好であったため ・たくさんの友だちができた、今でも交流している ・他の学生が学生運動もしていたが、環境がよく交通も便利でよかった
2 (17)	・友人が多くできたから ・サークル活動 (ユースホテルクラブ) での交流が楽しかった ・多くの友人ができ、今でも仲よくつながっている ・授業も充実、友人との学生生活も楽しかった ・社会学、心理学「脳の話」、哲学「人生いかに生きべきか」、英語などの講義、多岐にわたって教えてもらえたから ・教職の資格を取り、教育心理学が子育てに役に立ったから ・短大にも関わらず敷地内では四大生も学習、授業や部活で交流があった ・学生の自主活動、自由に感じられた
3 (6)	・2年間で司書と教職課程履修、サークルにも所属、遊ぶ暇もなく忙しかった ・楽しかったが、もう少し勉強をしっかりとっておけばよかった
4 (2)	・学業、クラブなど何もかもが中途半端だった ・社会に対応していない

[9-10]女子短 在学中の満足度（文科、昭和 51 年以降）

文51～54 1 大いに満足、2 まずまず満足、3 まあまあ、4 あまり満足していない

1 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・部活中心の生活だったが充実していた ・今の人生を形成する大切な基礎の2年間を過ごせた
2 (9)	<ul style="list-style-type: none"> ・サークル活動に打ち込めたこと ・学生生活は楽しかった、もう少し勉強すればよかった ・教室はきれいだったが、学生同士が交流できる機会や場所がなかった
3 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・友人に出会えた ・学校の規模が小さく落ち着いている学舎だったと思う、評価はまあまあ
4 (1)	

[9-10]女子短 在学中の満足度（生活科、昭和 45 年まで）

生36～41 1 大いに満足、2 まずまず満足、3 まあまあ、4 あまり満足していない

1 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・とても楽しい2年間だった ・2年間を本当に充実して過ごせた
2 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる行事に参加できたから
3 (3)	
無回答 (1)	

生42～45 1 大いに満足、2 まずまず満足、3 まあまあ、4 あまり満足していない

1 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・よい先生や友人と出会うことができた ・目的を持って生活していた、充実したアツという間の2年間だった
2 (13)	<ul style="list-style-type: none"> ・友人にも恵まれ、楽しい学校生活を過ごせたから ・部活動が思い出深い ・サークル（邦楽研究会）が楽しかった ・通学しやすかった ・料理、被服などの技術が身についたこと ・非常に忙しかった、母から小さい時からこれくらい勉強していればよかったのと言われてた ・本当は英文科を志望、父から女性はまず家庭のことができないと言われてた
4 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽大学に進みたかったから

[9-10]女子短 在学中の満足度 (生活科、昭和46年以降)

生46～50 1 大いに満足、2 まずまず満足、3 まあまあ、4 あまり満足していない

1 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・サークル活動に力を入れ、多くの人と有意義な時間を過ごせた ・部活の吹奏楽が楽しく、親しい友達もできてよかった ・いろいろな人とおつき合いできた
2 (15)	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの友達と過していた ・2年間だったがたくさんの友人ができたこと ・通学に1時間以上かかり、同方面の友達と一緒に帰るのが楽しかった ・学業よりサークルが楽しかった ・いろいろな考え方の人がいることを知った ・まずまず勉強した ・教職、司書をとっており、かなり忙しかった ・学生としてそれなりに楽しかったから ・高校では味わえない楽しい2年間だった
3 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりに好きな時間を過ごせた ・自分の責任だと考えるが、勉強できていなくても卒業できた ・2年間が短く、本人も欲がなかった
4 (0)	
無回答 (1)	

生51～54 1 大いに満足、2 まずまず満足、3 まあまあ、4 あまり満足していない

1 (0)	
2 (10)	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな地域の人と知り合えた、考え方も色々あると感じた ・興味のある授業を色々学ぶことができたから
3 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習が多かった、学食や図書館などを利用する時間がなかった
4 (0)	

[9-11] 女子短 興味を持った分野 (文科)

	内容ほか
39文	哲学、社会学、生物学など (元東大教授・東大卒の先生の講義は充実)
39文	講読系の授業 (知識をつけるため、面白かった)
40文	外国語の学習、他大学での学習に共感
42文	国文学、講読、万葉集
42文	古典文学の源氏物語、体育の社交ダンス
42文	フランス語
43文	映画理論
44文	米英文学、法文 (最も興味あり)
44文	ドイツ語、社会学 (初めて学んで新鮮)
44文	英文学と国文学が両方学べる
45文	国文学、社会学、幅広く授業がとれた
45文	体育の柔道
45文	司書、司書教諭免許取得のための授業
47文	今思えば、2年間で英会話ができるようになりたかった
47文	柔道
47文	古文 (黄表紙)
47文	言語学概論
47文	源氏物語「帚木」、オオカミ少年、邪馬台国
47文	英語、英会話
48文	英語は中学時代から好き
48文	卒業研究で毎日のように図書館へ ドイツ語 (2年次) は履修者が4人で必死に予習
49文	古典
49文	哲学、考古学 (高校の教科にはなく新鮮)
50文	英文学
50文	現代文学
50文	国文学
50文	百人一首、詩、漢文、フランス語
50文	国文学
51文	西洋文学概説
51文	古典、司書
51文	国文学
51文	集中講義 (映画)
52文	一般教養科目は四大と合同で面白かった 社会学、英文学概論
54文	映画演劇論

[9-11] 女子短 興味を持った分野 (生活科)

	内容ほか
38生	生活に関連した科目に興味あり
38生	一般教養の哲学を一年勉強したが理解できなかった
39生	生活に役立つ分野 (料理、ファッション)
40生	家庭科に関する実験
40生	染色、調理、保健衛生
40生	哲学
41生	哲学、社会学
42生	栄養学、調理実習、染色学、児童心理学、育児学、図書館司書学
42生	調理 (英文を望んだが結果的によかった)
42生	社会学
43生	歴史 (先生の授業が上手い)
44生	被服で浴衣を縫う (卒業後も着物、浴衣、ウールを縫う)
45生	染色、栄養学
45生	調理実習 (楽しみ)
45生	調理、食物関係
45生	すべて
46生	心理学、フランス語
46生	心理学
46生	家庭科に関する授業 (教員免許取得のため真面目に取り組んだ)
47生	絵本の選び方に関する授業 (その時の絵本が絵本選びの原点に)
47生	食品、服飾
47生	化学実験、教員養成?
47生	心理学、哲学
47生	図書館司書、児童心理学
48生	心理学
48生	社会学
49生	食品に関する授業
49生	食品化学、心理学
52生	調理実習
52生	歴史学
52生	調理実習、食品加工 (食に関する授業)
52生	調理実習、図書館司書講座
53生	実習よりも座学のほうが好き (家政学が苦手)
53生	心理学、基礎実験
53生	児童心理学、発達心理学
54生	食品、衣服
54生	司書学、染色学
54生	心理学、哲学 (学部生と大教室で授業)
	調理実習 (自分の班だけマヨネーズが分離して失敗)
	和裁 (今でも浴衣を保管している)
	ヘボ (ハチ) に白い紙をつけて追いかけた

[9-12]女子短 卒業研究テーマ (文科)

	ゼミ	内容ほか
42文		「折たく柴の記」(新井白石)
42文		小泉八雲の研究
42文		「非行少年について」
43文	忠津	保育園の子どもの状態の違いなど
43文		坪内逍遙が文学に与えた思想
44文	川村	英文学の比較(T.S.エリオットなど)
44文		鈴木三重吉(児童文学者)
44文		田村俊子(地元研究者と会う、県図書館で資料調査)
44文		キャサリン・マンスフィールド(短編作家)
44文		ヴァージニア・ウルフ「灯台へ」(複雑な人間関係)
44文		小林一茶
44文		前置詞について
45文		三好達治(社会性のある多くの作品とその変遷)
45文		Thatの活用法(「老人と海」からthatを拾う)
45文		フォークナー
46文		「『ユリシリーズ』は文学と言えるのか」(当時、最も難解な文学とされる)
46文		ディケンズ「クリスマス・キャロル」
47文		古事記
47文		三島由紀夫(愛と精神)
47文		宮沢賢治(「童話性について」)
47文		身近な句碑の研究(句碑の写真を撮り背景を調査)
47文		ディケンズ
47文	三浦	「第1人称" "の歴史」
48文	久野?	詩人シュリーについて
48文	中出	「お」について(アンケート調査を実施)
48文		夏目漱石の三部作
48文		A.A.ミルン「クマのプーさん」における児童文学性
49文		源氏物語
49文		樋口一葉(明治女性の生き方に興味)
49文		島崎藤村
50文		ヴァージニア・ウルフの文学について(英国女流作家の生き方に興味)
50文		「安部公房 壁 S・カルマ氏の犯罪」(難解な文学)
50文		「室生犀星 その人となり」(金沢旅行で見た犀川の美しさが印象に残ったため)
50文		壺井栄「二十四の瞳」
51文	三浦?	1960年代、戦後の日米の生活比較
51文		源氏物語(夕顔、もののけについて)
51文		国木田独歩「武蔵野」
51文		テネシー・ウィリアムズ
52文		「家族病理について」(古い家族のあり方に疑問)
54文		横光利一「蠅」(短編小説の中に大きなテーマが凝縮)

[9-12]女子短 卒業研究テーマ (生活科)

	ゼミ	内容ほか
38生		南部中で教育実習、保健「栄養」の授業
41生		保健(癌について)
42生		「大学生の食生活の実態」(学生にアンケート調査を実施)
42生		制服について
42生		白川郷の大家族制度
43生		友禅染について
43生		世界の民族衣装
43生		自殺について(何となく)
43生	忠津	漬物について(東海漬物、萱津神社で調査)
44生		食物について(学友との共同研究)
45生		家紋について
45生	牧野?	農家の働き手の高齢化と青年層の農外就業
45生	忠津	性格と不安(心理学、学生にアンケート調査を実施)
45生		子どもの絵と心理学(園児に調査を実施)
46生		「わらべ唄の研究」(学友との共同研究、奥三河の事例)
46生		保育園と幼稚園の違い(アンケート調査を実施)
47生	高桑?	鶏卵の調理に関する研究(プリンの凝固温度)
47生		絞染めについて
47生	牧野?	答志島の島民のくらし
47生		草木染
47生	高桑?	「お茶に関する研究」(自宅近所でアンケート調査を実施)
47生		幼児教育について
47生		洗濯機の洗い方と素材について
47生		食物関係
47生		「女であること」
47生		児童心理学
48生		精進料理について(歴史、材料など)
49生		肥満児対策について(当時たびたび取り上げられていた)
49生		登校拒否について(学友との共同研究、教育実習先でアンケート調査を実施)
51生	高桑	インスタント食品について(添加物、食味などの比較)
52生		緋について(浜松方面で調査)
52生		洗剤に関する研究
53生		名古屋の地下鉄について
53生		「子どもの遊び」の現状について(豊橋市内の保育園で実習)
54生		毛糸、おしゃれ着洗い洗剤の洗濯

[9-13]女子短 先生との交流 (上: 文科、下: 生活科)

文科	文37	文38	文39	文40	文41	文42	文43	文44	文45	文46	文47	文48	文49	文50	文51	文52	文53	文54				
牧野由朗			1	(社会学)																		
藤井制心			1	(講演会、博物館見学、クラス会)																		
中出惇				1	(放課後の喫茶店での交流)																	
				1	(古典、国文学研究会顧問)																	
					1	(音楽部顧問、部活の相談)																
堀井令以知								1	(合唱部顧問)													
																		1	(先生宅訪問)			
学長				1	(言語調査の手伝い)																	
板倉躬音								1	(卒業時に手を握ってもらった)													
丸山薫																			1	(音楽部部长、部活の相談)		
板倉・丸山																				1	(名前をすぐ覚えてもらった)	
忠津玉枝																				1	(板倉先生宅訪問時に先客の丸山先生と会話)	
英語の先生																				1	(ゼミ、先生宅での論文指導)	
ワンダーフォーゲル部顧問																				1	(担任)	
三浦八千代																				1	(担任)	
																					1	(卒論の推薦、卒業後の年賀状交換)
久野佐都美																					1	(講義以外で米国での体験談を聞く)
久曾神昇																					1	(卒業後の年賀状交換)
邦楽研究会の琴の先生																					1	(頭を下げる程度の挨拶)
黒柳孝夫																					1	(サークルで交流)
																					1	(ゼミ旅行)

生活科	生37	生38	生39	生40	生41	生42	生43	生44	生45	生46	生47	生48	生49	生50	生51	生52	生53	生54				
大内義郎		1	(生物学の追試)																			
牧野由朗		1	(先生宅訪問)																			
張祿沢		1	(卒業後先生宅で中華料理を習う、卒業後の年賀状交換)																			
無記名				1	(北海道研修旅行)																	
渥美令子																					2	(2016年に同窓会、今後も予定)
																						1
安藤宏子																					1	(卒業後に先生の個展で交流)
川村																					1	(先生の英語が楽しくESSに入部)
天野好野																					1	(卒業後に助手の誘いを受けるが実現せず)
村長利根朗																					1	(お話を聞く)
久曾神昇																					1	(北海道研修旅行で写真撮影)
無記名																					1	(先生が結婚で離職する際にクラス全員で「パパ オーシャン」へ行く)
高桑稔子																					2	(卒業後に講演会の開催を知るが参加できず)
																					1	(在学時に紅茶を頂く、卒業後の年賀状交換)
無記名																					1	(卒業後に助手となる)
紅露進																					1	(自由研究の授業)
担任 (無記名)																					1	(卒業後に助手となる)
染色の助手																					1	(家庭の事情の相談)
																					1	(美人の先生)

[9-14]女子短 図書館利用 (文科)

図書館をほとんど利用せず		図書館を利用	
39文	数回利用した	40文	本好きの友達と資料をさがしに行った、活字は知識の源
39文	ほとんど利用しなかった (朝から夕方まで授業がいっぱい)	40文	よく行った (司書資格をとっていた)
42文	卒業前に図書館で部活のOG会名簿作成	42文	勉強ではなく、ただ本を読みに行っていた
43文	ほとんど利用しなかった	42文	司書の授業の関連図書を閲覧
44文	卒業研究の資料集めのため利用、県図書館も利用	44文	待ち合わせ、空き時間に利用
44文	当時は図書館ガイダンスがなかった	45文	授業の空き時間に文学全集を読む
44文	利用しなかった	45文	自習室として利用
44文	あまり利用しなかった	46文	卒業論文と図書館司書の勉強
44文	あまり活用できなかった	47文	卒業研究のために利用
45文	ほとんど利用しなかった	47文	司書を目指していた
46文	四大敷地にあり入りづらかった、市図書館も利用	47文	授業の空き時間に自習
46文	ほとんど利用しなかった	47文	調べもののために利用
47文	あまり活用しなかった	47文	自習室として利用
47文	あまり利用しなかった	47文	卒業研究の資料集め、空き時間の読書
47文	待ち合わせで利用	48文	卒業研究のため通っていた
48文	利用しなかった (時間がなかった)	49文	卒業研究で資料を借りた
48文	利用しなかった	49文	自習室として利用
50文	授業の空き時間に眠つぶし	50文	卒業研究の関連図書を閲覧
51文	あまり利用しなかった	51文	本を借りた、卒業後もたまに利用
52文	あまり利用しなかった (学業とサークル漬けの毎日)	51文	レポートを仕上げるため利用
54文	あまり活用しなかった	52文	卒業研究の資料集め
		54文	おもに卒業研究で利用

[9-14] 女子短 図書館利用 (生活科)

	図書館をほとんど利用せず	図書館を利用
38生	あまり利用しなかった	38生 司書の授業を受講していたときに利用
38生	ほとんど利用しなかった	40生 帰宅時間までノート整理、司書の受験資格が得られた
40生	あまり活用しなかった	40生 自習室として利用
42生	あまり活用しなかった	41生 いつも利用 (本が好き)
44生	在学時はあまり利用しなかった、卒業後に大いに利用	42生 テープを聞くのが楽しかった (ESSに入部)
45生	短大時代に利用した記憶なし	42生 司書、司書教諭の学習
45生	利用しなかった	43生 時々活用
45生	名古屋の鶴舞図書館を利用	43生 卒業研究で多くのことを学んだ
46生	子どもと緑図書館を利用	43生 卒業研究のために利用
46生	あまり利用しなかった	45生 試験勉強のため利用
46生	活用しなかった	46生 試験勉強のため利用
47生	利用しなかった	47生 自習室として利用
47生	あまり利用しなかった	47生 卒業研究のために利用
47生	あまり利用しなかった	47生 部活仲間と勉強のため利用
48生	全く活用していなかった	47生 自習室として利用
49生	ほとんど利用しなかった	47生 卒業研究のために利用、普段はあまり利用しなかった
52生	全く利用しなかった	47生 卒業研究のために利用
53生	入りにくかったので行っていない (暗くて重厚な感じ) 短大だけの図書館があった?	48生 試験前に参考図書を借りた 49生 卒業研究のまとめなどを友人と行った
		49生 ゆったりした空間で、同世代が勉学に向かう姿に励まされた
		51生 おもに資料集めのため利用
		52生 卒業研究の資料集め、勉強
		52生 自習室として利用
		53生 友人との共同学習、待ち合わせ
		53生 参考資料の検索

[9-15]女子短 特別実習

(○印は参加)

	タイプ	茶華道	洋裁	料理	音楽	その他
文38	○					
文39		○			○	
文39		○				
文40	○					
文40						書道
文43	○	○			○	
文44	○					
文44	○					
文45		○				
文45		○				

	タイプ	茶華道	洋裁	料理	音楽	その他
生38	○	○				
生38	○	○				
生40			○	○		
生40		○				
生41		○				
生42		○				
生42		○				
生43				○		
生43		○				
生43		○				
生43		○				
生44		○				
生45	○	○		○		
生45		○				
生46	○					
生46	○					
生46		○				
生47			○	○		
生47		○	○	○		
生47		○				
生47				○		
生47		○			○	
生47			○	○		
生48		○				
生49	○					
生49		○				
生52			○	○		
生54				○		

[9-16]女子短 学業がその後の人生に与えた影響 (文科、昭和 50 年まで)

文36~41 1 大いに影響、2 まずまず、3 まあまあ、4 あまり

1 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・司書教諭として教員退職後も勤務 ・2年半教員生活を送り(公立中学英語教員)、人生の幅が広がった
1・2 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・たった2年間だったが今でも友達との交流が続いている、退職後に始めた趣味の俳句に、古典の学びが大いに役立っている
2 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・タイプ(ライティング)は本当に役立った ・就職時に成績表を見せて評価された、司書資格がのちの転職に役立ったこと
3 (0)	
4 (0)	
無回答 (2)	

文42~45 1 大いに影響、2 まずまず、3 まあまあ、4 あまり

1 (7)	<ul style="list-style-type: none"> ・現在も多くの友人と交流があり、友に恵まれた ・女子短講義以外は ・職場を決めてくれた ・国語、国文学を学んだことで教職に生かすことができた ・司書、司書教諭、教職免状を得て、図書館に就職することができた ・市立図書館に司書として採用された ・司書になり、40年も司書として働かせてもらった、ありがたい
2 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶことの大切さや楽しさを知り、興味のある世界へ迷わず入っていった ・老後、特に文学に興味をもつ、その基礎を理解できたのは学生時代の影響かと ・学業ではないが、同窓生が多いので紹介されたり
3 (1)	
4 (5)	
不明 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・よく分からないが、考えたり実行する時、二年間の勉学が役立ったと思う

文46~50 1 大いに影響、2 まずまず、3 まあまあ、4 あまり

1 (8)	<ul style="list-style-type: none"> ・英語、仏語、夏目漱石、正岡子規、寺田寅彦などの知識があったら ・夢であった教員になれて、充実した教員生活を送ることができた ・一流の企業に入社でき、その経歴により他県へ嫁いだ後も旅行会社に就職 ・この年齢で短大を卒業しているから長く働けた、68歳まで正社員 ・英語専攻でそれをいかした職業に就く、現在も近所の子どもに英語を教える ・就職先で活用、当時女性は結婚後は退職する風潮だった、責任ある仕事は少ないようだったが、学んだことが生かされた職場だった ・成果がなかった、いいかげんな生き方をした気がする
2 (10)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会や物事についての見方が広いような気がする ・教育実習で自分を成長させられた、アルバイトにも役立った ・就職でき、ずっと生活していくことができたから ・英文科だった、子どもに英語を教えられ、子と孫が英語系の大学に入学 ・自宅にて小中学生対象の英数教室を開校
3 (7)	<ul style="list-style-type: none"> ・2年間、愛大で学んだという誇りをもっている
4 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・あまりなし
無回答 (1)	

[9-16]女子短 学業がその後の人生に与えた影響 (文科、昭和 51 年以降)

文51～54 1 大いに影響、2 まずまず、3 まあまあ、4 あまり

2 (5)	・就職試験で英語の成績がよかったため合格できたこと ・読書が好きで子どもにも伝えられた、現在でも多少読んでいる
3 (4)	
4 (5)	・学業の成果をどのようにとらえるか分からないが、 人間として物事をどうとらえ、考えて行動するかが重要である
なし (1)	
無回答 (1)	

[9-16] 女子短 学業がその後の人生に与えた影響 (生活科、昭和 45 年まで)

生36～41 1 大いに影響、2 まずまず、3 まあまあ、4 あまり

1 (4)	・色々な学生を知った、アルバイトを初めてやった ・教職員として仕事ができる ・短大卒業後、幼稚園教諭資格をとるため編入、1年で取得できた
2 (3)	・卒業して3年後には結婚したが、家事・育児などで困ったことはなかった ・教養が身についた?
3 (4)	・特別実習でタイプライティングを学びやり、役立った ・もっとしっかり勉強すればよかった
4 (1)	

生42～45 1 大いに影響、2 まずまず、3 まあまあ、4 あまり

1 (2)	・教員採用試験に受かり、卒業後は教員になることができた
2 (10)	・友人ができたこと ・仲間とのきずな ・生活科卒だが社会人になって英語(会話)が役に立ち同僚が驚いていた ・教職の免許があるだけで気持ちが豊かになる ・卒業後他大学に入学、授業が少なくて済んだ、学童児童保育に面接なしで就職 ・教職に就けたから、中学の免許のみのため通信教育で働きながら学んだ ・子育て ・料理、栄養学や洋裁などが大いに役立った ・生活が充実し、自宅にて料理教室の経験ができたこと ・ひと通り学んだため、子育て、育児、中学までの学習はすべてみた、 子どもを塾に行かせなかった
3 (2)	
4 (4)	・料理実習で覚えたおせち料理を卒業後、結婚後も50年間くらい作り続けた

[9-16] 女子短 学業がその後の人生に与えた影響 (生活科、昭和 46 年以降)

生46～50 1 大いに影響、2 まずまず、3 まあまあ、4 あまり

2 (12)	<ul style="list-style-type: none"> ・親 (母親) が無理して入学させてくれた、有意義な短大生活を送れた、この年になっても勉学の意欲が出てきた ・心理学、哲学の講義を受けたことで、その後の本の選び方が変わった ・人にはいろいろな生き方がある、客観的にみることができた ・生活科で勉強したことは、色々役に立った ・生活科だったため、家庭生活のうえで役立つことが多くあった ・調理の時間にまとめた本は今でも使っている ・2年間学業をして、人生を見つめ、就職先は公務員を選択した ・公務員になるため ・食推協、教員補助 ・肩書きくらい
3 (9)	<ul style="list-style-type: none"> ・短期大学卒業という資格で就職できたと考えている ・食物に関する知識などは、ときどき調理で生かされていると思う ・まわりにふりまわされず、自分なりの時間を過ごせた
4 (4)	

生51～54 1 大いに影響、2 まずまず、3 まあまあ、4 あまり

1 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・地元中学校図書館司書として、数年間携わることができたこと
2 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の仕事 ・就職試験に合格できた (二社に合格) ・当時はミシンが足踏みぶみだった、実習でまともに作れた記憶がない、子育て中によいミシンを買い、洋裁ができるようになった
3 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・料理が好きになった ・結婚してからの料理、食品選び、ミシンなど ・染色の授業を受けたことで、染色や織物をやるようになった ・司書講習で司書の資格取得、学校図書館司書として勤務
4 (2)	

[9-17]女子短 旅行 (その1)

	オリエンテーションキャンプ		サマーキャンプ	
	行先	日程ほか	行先	日程ほか
38文	-	-	○	-
38生	-	-	津具村	各グループで寸劇
38生	○	-	山の家	-
39文	-	-	高山	2、3日滞在
39生	福島	(木曾福島?)	-	-
40文	-	-	木曾福島	交流会出し物で準グランプリ
40生	-	-	木曾福島	-
41生	○	-	-	-
41生	木曾	先生と近くでお話	-	-
41生	長野	-	-	-
42文	○	-	-	-
42文	三谷温泉	学生生活の注意点の説明	-	-
42生	蒲郡 平野屋	先生たちと海辺を散歩	-	-
42生	三谷? 平野屋?	-	-	-
42生	-	-	長野	-
42生	蒲郡 平野屋	-	-	-
42生	○	-	-	-
43文	○	-	-	-
43生	白樺湖	-	-	-
43生	-	-	○	登山中にわか雨で遭難しかけた
44文	館山寺	-	-	-
44文	白樺湖?	-	-	-
44文	-	-	長野県	-
44文	白樺湖	-	-	-
44文	車山付近	-	-	-
44生	信州 車山高原	-	-	-
44生	長野	-	-	-
45文	○	-	-	-
45文	富士五湖?	-	-	-
45生	西浦温泉	入学直後	高原?	-
45生	箱根	-	-	-
45生	蒲郡	-	-	-
46文	勝浦温泉	(西浦温泉?)	-	-
46文	西尾市	-	-	-
46生	蒲郡市の旅館?	-	-	-
47文	三河湾の島	-	-	-
47文	愛知県内	-	-	-
47文	西浦温泉	-	-	-
47文	○	-	-	-
47文	○	1泊、担当の先生と楽しく会話	-	-
47生	蒲郡	-	-	-
47生	○	-	-	-
47生	○	-	-	-
47生	うさぎ島	-	-	(行っていないと思う)

[9-17]女子短 旅行 (その1、続き)

	オリエンテーションキャンプ		サマーキャンプ	
	行先	日程ほか	行先	日程ほか
48文	島 (銀波荘?)	-	-	-
48文	蒲郡	-	-	-
48文	○	-	-	-
48文	蒲郡?	-	-	-
48生	蒲郡	-	-	-
49文	○	-	-	-
49文	-	-	美ヶ原高原	-
49文	○	-	-	-
49生	○	-	-	-
50文	西浦温泉	-	-	-
50文	○	-	-	-
51文	西浦温泉?	-	-	-
51文	○	楽しかった	-	-
51文	蒲郡	-	-	-
51生	石巻山	-	-	-
52文	蒲郡の海のそば	これからの学生生活に期待	-	-
52生	○	-	-	-
52生	西浦温泉?	-	-	-
52生	○	-	-	-
53文	○	-	-	-
53文	信州	-	-	-
53生	三河の温泉地	-	-	-
53生	西浦温泉	-	-	-
53生	?	入学直後のバスハイク	-	-

[9-17]女子短 旅行 (その2)

	研修旅行		ゼミ合宿	
	行先	日程ほか	行先	日程ほか
38生	○	友達と一日中一緒	-	-
38生	北海道一周	-	-	-
39文	-	-	浜名湖	1泊
39文	○	-	-	-
39文	南部方面一周	-	-	-
40文	阿寒湖	アイヌほか	-	-
40生	北海道一周	-	-	-
40生	道南	2週間	-	-
41生	○	11泊14日	-	-
41生	道中、道南	バスの旅	-	-
42文	予定表あり	12泊13日	-	-
42生	北海道一周	10日間	-	-
42生	函館、札幌、網走など	-	-	-

[9-17]女子短 旅行 (その2、続き)

	研修旅行		ゼミ合宿	
	行先	日程ほか	行先	日程ほか
43生	○	11泊13日	-	-
44文	函館	帰りの青函連絡船で皆が泣いた	-	-
44文	○	11泊12日、バスにて	-	-
45文	-	-	ゼミ合宿	赤目八滝ほか
45生	北海道各地	10日間くらい	-	-
45生	○	-	-	-
45生	北海道各地	学生時代の一番の思い出	-	-
47文	北海道	5泊くらい?	-	-
47文	?	北海道の旅行	-	-
47文	○	部活の仲間と行った	-	-
47生	北海道	7日間くらい、青函連絡船、夏なのにストーブ、百円札		
47生	北海道一周	-	-	-
47生	函館、知床、その他	部活仲間と行動、体重増で帰宅	-	-
47生	北海道一周	研修旅行より修学旅行	-	-
48文	北部以外周遊	10日間以上の旅	-	-
49文	洞爺湖、阿寒湖、札幌、網走	夜行列車、連絡船	-	-
50文	北海道一周	10日間	-	-
50文	○	-	-	-
50文	北海道一周	-	-	-
51文	○	参加してよかった	-	-
51文	北海道	-	-	-
51文	北海道	-	-	-
52生	北海道：8泊9日、行きはブルートレイン、帰りはフェリー（日本海側）、道内8泊、バス移動、若い男性ガイド			
54生	北海道	卒業旅行だったと思う	妻籠宿	-
54生	-	-	郡上八幡	浴衣、下駄で郡上おどり
54生	-	-	高山	-
54生	-	-	名張市赤目	他の宿泊客とテレビの取り合い

注：行先の○印は選択肢の番号に○が付されていたが、とくに言及がなかったもの。

[9-17]女子短 旅行 (その3)

		サークル合宿		スキー合宿	
		サークル名	行先ほか	種類	行先ほか
42生	ESS		本栖湖	-	-
43文	合唱部		合唱できる喜び、交流	-	-
44文	放送文化研究会		佐久島、白馬、市内旅館	スキー	白馬岳
44文	-		-	スキー	白馬
45生	-		-	スキー	信濃大町、先生のスキー技術
47文	囲碁部		湯の山温泉 (スキー場) ほか	-	-
47文	カーネーション		奥三河で人形劇巡回公演	スキー	白馬
47文	-		-	スケート	関ヶ原、初めてのスケート
47生	茶道部		-	-	-
49文	-		-	スキー	-
49生	-		-	スキー	八方尾根
49生	-		-	スキー	-
50文	ESS		長野県、佐久島	-	-
51文	-		-	スキー	(直前に参加できなくなり残念)

[9-18]女子短 クラブ・サークル活動の参加程度

(1 よく参加した、2 まずまず、3 あまり参加しなかった)

文36~41

1 (2)
2 (1)
無回答 (5)

生36~41

1 (5)
2 (4)
3 (2)
無回答 (1)

文42~45

1 (13)
2 (2)
3 (1)
無回答 (2)

生42~45

1 (11)
2 (2)
3 (3)
無回答 (2)

文46~50

1 (23)
2 (1)
無回答 (6)

生46~50

1 (16)
2 (2)
3 (2)
無回答 (5)

文51~54

1 (11)
2 (2)
3 (1)
無回答 (2)

生51~54

1 (5)
2 (2)
3 (2)
無回答 (5)

[9-19]女子短 クラブ・サークル活動の思い出 (文科、その1)

	部・サークル名	思い出など
文37	自動車部	自動車部で練習、その後自動車学校へ行って免許を取得、お楽しみ会（遠征）で色々な所に出かけた
文39	英語劇クラブ	豊橋公会堂で木村敬介の「夕鶴」を上演
文39	卓球	-
文39	弓道部	力をつけるため一生懸命だった
文40	国文学研究会・（フォークダンス）	素晴らしい先輩に会い現在も交流、「水煙」という同人誌を発行、古典の原書を読む会（中出先生指導）、正月百人一首かるた会、文学碑を訪ねる
文41	（記憶なし）	-
文42	証券研究会（学部）	国債について是非か、影響など（国債発行前だった）
文42	音楽部	楽譜・歌詞小冊子作り・コピー、音楽会に向けての練習、男声合唱団との協賛企画（みんなでうたおう）の準備や司会など
文42	写真部	部員が活動熱心で一緒に行動できて嬉しかった、学部生とも交流がありとても有意義
文42	児童文化研究会「カーネーション」	人形劇が主、人形作りや舞台装置など、離島への人形劇公演など
文43	弓道部	毎日弓を引いていた気がする、東京武道館や大阪府立体育館でも引いた
文43	短期大学部合唱団	ハーモニーが創られた時の感動
文44	放送文化研究会	多くはアナウンサー志望、学園祭の軽音楽部やジャズクラブ公演の司会、豊橋公会堂の案内アナウンス、学部の男子も2名ほど（番組制作のため）
文44	琴、尺八クラブ（邦楽研究会）	-
文44	児童文化研究会「カーネーション」	夏合宿で津具村などの小学校を訪問、児童劇を行ったりゲームなどして遊んだ
文44	短期大学部合唱団	歌うことが好き、伴奏もしていた
文44	短期大学部合唱団	年に一度の定期演奏会、男声合唱団との共演
文44	児童文化研究会「カーネーション」	途中退部
文44	ESS	-
文45	文学クラブ？（国文学研究会？）	敵な詩を作る先輩と就職先で一緒になり、同窓の絆となった
文45	児童文化研究会「カーネーション」	夏休みに人形劇で学校を回った
文45	ESS	英語が好き、唯一集まれる部室あり、たくさんの友達との輪が広がる
文45	映画サークル	映画の上映、16ミリ映写機講習
文46	聖書研究会	当時は学生運動が盛んで、将来の社会や自分の人生のあり方の指針を聖書に求めたかった、豊橋と地元教会に通った
文46	ユースホテルクラブ	部員との交流は今でも続いている
文46	ワンダーフォーゲル	山登りが楽しかった
文46	ワンダーフォーゲル	-

[9-19]女子短 クラブ・サークル活動の思い出 (文科、その2)

	部・サークル名	思い出など
文47	ギターアンサンブル	楽器の演奏をひとつ身につけたかった
文47	国文学研究会	一人の作家の本を選んで意見を出し会う、夏休みには合宿
文47	放送文化研究会	秋の文化発表?の際、他のクラブからの司会を依頼された、サークルとの交流あり
文47	フォークダンス	他校のフォークダンス部との交流あり
文47	(参加せず)	-
文47	囲碁クラブ	-
文47	児童文化研究会「カーネーション」	先輩からの誘い、楽しかった
文47	邦楽研究会	琴が好き
文47	広告研究会	化粧品に対するアンケートをとり内容を分析、「ちふれ化粧品を知っているか」など
文47	ギターアンサンブル (短大)	文芸連、定期演奏会などのために練習、合宿も参加
文47	ESS	リンカーン大統領就任演説、英語劇 (学園祭など)
文48	ユースホステルクラブ	女短にはワングルなし、それに近いクラブ、学部のワングルとの交流が多かった
文48	硬式テニス部	学部と合同、毎日練習、合宿、試合にも参加
文48	フォークダンス	学部と合同、かなりの人数、毎日の練習、合宿や全国大会にも参加
文49	ワンダーフォーゲル	鈴鹿や奥三河、夏合宿は北・中央・南アルプスへ
文49	ワンダーフォーゲル (短大)	先輩、仲間、後輩との山登り、達成感があった
文48	-	-
文49	吹奏楽団	昼と授業のない時はよく練習していた、定期演奏会
文50	ESS	英語を話せるようになりたかったから
文50	邦楽研究会	琴、三線の練習
文50	ユースホステルサークル	全国のユースホステルを巡る、学園祭でのパネル展示
文50	邦楽研究会	皆が部室に集まる、よく練習した
文51	放送文化研究会	-
文51	ワンダーフォーゲル	-
文51	ESS	ドラマの台本を暗記、暗唱
文51	硬式テニス部	午後は日没まで毎日活動、試合で名古屋に行っていた
文51	日本史研究会	好きな分野だったから
文51	奇術部	教えられ、身につくまで練習に打ち込んだ
文51	オリエンテーリング愛好会	友人と楽しみながら歩けた、合宿も参加
文51	弓道部	(病気)
文52	邦楽研究会	1年では六段の調を琴で演奏できるようになり、2年で地唄の曲を演奏、演奏会に出演、衣装も布から選んで制作
文53	豊橋フォークソング愛好会 (TFA)	ギターが好き、時々コンサートを開く
文54	ワンダーフォーゲル	自然を堪能、他大学の部員との交流など、後々続く人間関係を作れた
文54	邦楽研究会	学部と合同、合宿、演奏会がありやりがいがあった
文54	軽音楽部	-
文54	フォークダンス	踊ることが楽しかった、多くの民族舞踊を他大学と交流しながら覚えた

[9-19]女子短 クラブ・サークル活動の思い出 (生活科、その1)

	部・サークル名	思い出など
生38	フォークダンス	フォークダンスをやりたいと思ったから
生38	音楽部	気の合った友達がたくさんいたから
生39	美術部、フォークダンス	入学後に誘われて入部、愛大祭で喫茶店
生40	音楽部、邦楽研究会	箏、文化祭での発表のため練習に励んだ
生40	児童文化研究会「カーネーション」	人形劇、長野県下伊那地方、豊橋市内訪問
生40	邦楽研究会	箏、琴の音色が好き、大学の尺八と合同演奏会（豊橋市公会堂）
生41	フォークダンス	－
生41	児童文化研究会「カーネーション」	－
生41	－	（様子がよく分からなかった）
生42	ESS	英文科ではなかったから、せめてサークルはESSに、生活科では私一人、モリス先生（男性）
生42	写真部	家業が忙しかった
生42	演劇部	芝居が好き
生43	卓球部	－
生43	邦楽研究会	琴は難しかったが、尺八と合わせ年1回の発表会、春夏の合宿
生43	美術・工芸研究会	－
生43	短期大学部合唱団	－
生43	書道同好会	書道同好会を立ち上げ、高校の先輩（学部生）を講師に迎えて指導を仰ぐ
生44	邦楽研究会	1年目は練習、発表会に参加、2年目に退部
生44	フォークダンス	楽しかった
生45	国文学研究会	雑誌「水煙」販売、静大と合同勉強会、山での合宿、他のクラスの人と会えるのも楽しみ
生45	邦楽研究会	学部の尺八と短大の箏との合同演奏、練習や発表会
生45	軟式テニス部	好きだった
生45	写真研究会	撮影旅行、文化祭での展示、模擬店（お茶漬屋）
生45	奇術部（学部）	文化祭、奇術部への依頼イベントなど
生46	－	－
生46	吹奏楽団	ハードな練習だが楽しかった、合宿で寝食を共にして大勢の人と心が一つになった、全国大会で東京に行った
生46	短期大学部合唱団	発表会に向けての練習、合宿
生46	短期大学部合唱団	仲の良い友人ができた
生46	吹奏楽団	全国大会2回、大阪万博参加、定期演奏会

[9-19]女子短 クラブ・サークル活動の思い出 (生活科、その2)

	部・サークル名	思い出など
生47	児童文化研究会「カーネーション」	共同作業で成り立つ
生47	聖書研究会	－
生47	吹奏楽団	－
生47	広告研究会	－
生47	茶道研究会	茶道の手前、研究
生47	邦楽研究会	琴の練習、合宿
生47	茶道研究会	－
生47	児童文化研究会「カーネーション」	人形劇の上演
生47	フォークソング愛好会	部落問題研究会からスタート、戦争反対などを音楽を通して訴えた、その後ブルーグラスに
生47	なし	－
生48	ギターアンサンブル	学部と合同で活動、定期演奏会があり練習も頑張れた
生48	短期大学部合唱団	同期の団員が多く、仲が良かった、週一回先生を招いて練習、コンサート参加
生49	煎茶クラブ	煎茶の先生宅でクラブ活動、そこにはいつも大学の剣道部の人がいって交流できた
生49	文学研究会 (国文学研究会)	文学作品を読み、それぞれの考えを発表、多角的な視点が必要なことを学ぶ
生49	テニス	通学に時間がかかり、クラブを続けるには無理があった
生49	ワンダーフォーゲル	登山が好き、定期的な登山合宿
生52	(参加せず)	(家の手伝い、バイトのため)
生52	奇術部	学部と合同、舞台での個人演技を多くの人に見てもらう
生52	フォークダンス部	参加は1年程度 (資格試験受験の準備のため)、各国の民族舞踊、衣装も自作、他校との交流も
生52	ギターアンサンブル	教職の授業と重なってしまった
生53	短大美術部 (短大)	いい仲間がいた、今でも交流が続いている
生53	フォークダンス	－
生53	A 1年時：ギターアンサンブル B 2年生：児童文化研究会「カーネーション」	A 豊橋駅前、ヤマハホールでコンサート B 市内子ども会行事に参加
生54	美術・工芸研究会 (短大)	レザークラフトや七宝焼など
生54	美術・工芸研究会、テニスを愛する会・楽しむ会	学部の人たちと仲良くなれた

[9-20] 女子短 サークル活動がその後の人生に与えた影響 (文科、昭和 45 年まで)

文36～41

1 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 芦野宏 (シャンソン歌手) の歌を公会堂で何度も聞く、自信につながった ・ 伴侶を得た
2 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先輩やすぐれた才能を持つ友達から学ぶことができた
3 (1)	
4 (0)	
無回答 (4)	

文42～45

1 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業後も何回会っても楽しかった、いい人たちとの出会い ・ 弓道部の同級生とは50年以上たった今でも会って話す、会えばすぐ十代に戻る、不思議!、遠くからでも来てくれる、下宿の友達も同じ、2年前に学校を訪ねたら短大がなくなっており、弓道場の場所も変わっていた、少し残念 ・ 合唱の楽しさ、今も仲間と音楽を味わう、月1回例会を行っている ・ 一つの演奏会を企画、運営、成功させるための努力やノウハウを学んだ ・ 仕事で集まりを企画するにあたり、進行、構成、司会などをするのに役立った
2 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仲間意識が強く、生涯の友人ができた ・ クラブの仲間や先輩との交流が続いている ・ 今も年に1、2回交流がある
3 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語が好きだったが、会話はあまり上手くならなかった
3・4 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業後、企業内の夜学校の教員に、働きながら学ぶ子どもたちが授業に興味をもつよう紙芝居なども、これは在学時のサークルにもつながるかも
4 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 50年来の親友が岐阜・静岡に生存中、サークル仲間は三河地域の自宅通学生、他県育ちの私には習慣的考え方や生活度が合わなかった
なし (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 16ミリ映写機の操作ができた、子どもたちに映画会をしてあげた
無回答 (2)	

[9-20] 女子短 サークル活動がその後の人生に与えた影響 (文科、昭和46年以降)

文46～50

1 (14)	<ul style="list-style-type: none"> ・友人たちと意見交換できたから ・ESS卒業時に卒業後もみんなで会うことを約束、 現在も年賀状、豊橋で年1回くらい集まる (育児期間は5年単位で) ・仲間との繋がりが心の支えになっている ・今でも集まって楽しんでいる ・現在もOG会が開催され励まされる ・交友が今でも続いている、音楽仲間が多い ・50年近く経った今でも交流あり、登山が生涯の趣味として支えになっている ・同期・先輩・後輩とのつながり、旅を愛する心を持ち続けていられること ・楽しみを見つけることができた ・短大入学から50年テニスが続けている、今も一番の楽しみ ・英語、英会話を習得して就職、現在もそれを生かした活動をしている ・就職先で店内新聞や雑誌に載せる広告を書いた (上司に誉られた) ・夫と出会い結婚して現在に至る
2 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・人前に出てマイクを握ったり意見を発表することに物怖じしなくなった
3 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・ずっと友人としてつき合う ・「純粹さ」に憧れ聖書研究会へ、教会で最後に献金が回ってきて困った、それを境に金銭が目的と思えて無宗教になった ・伯父と法事であった時、囲碁をうつ機会があった
4 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・銀行に就職したため時間がなかった
無回答 (7)	

文51～54

1 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・大切な友人ができた ・若いうちはテニスが続けていた、今も仲間と交流がある ・サークル内の人と結婚 ・サークルの友人と今でもおつき合いしている、主人も同じサークル出身 ・就職後も新しい先生に師事して (等) 准師範になった ・フォークダンスの曲に親しみ、ステップも生かされる体操を始める、 教室活動をしている
2 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・友人を得た ・友人関係が続いている ・当時の友人と今でもつき合っている
3 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・友人ができた
4 (1)	
無回答 (3)	

[9-20] 女子短 サークル活動がその後の人生に与えた影響 (生活科、昭和50年まで)

生36~41

1 (3)	・生涯無二の親友たちができた、子育てを終えてから年一回集まって旅行なども ・一緒にクラブ活動をした友人たちとは今でも交流あり、何年も旅をともにする ・今でも地域の合唱団で歌ったり、邦楽演奏をする
2 (0)	
3 (3)	・仲良しとは今でも交流がある ・たまにコンサートに行ったりする
4 (1)	
無回答 (5)	

生42~45

1 (4)	・同級生の部員と卒業後何十年も友達でいること ・山の仲間の大切さ、自然のすばらしい景色 ・英語は結婚後も通信教育やテレビで学ぶ、旅行で外国人に会うと会話を楽しんだ ・教育実習で奇術をみせ生徒が喜んでくれた、授業がしやすかった
2 (2)	・12、3年くらい合唱団に所属している (現在)
3 (5)	・当時の部活仲間とのつき合いが現在も続いている ・仲間とのつき合いが今でも続いていること ・文学少女を気取っていたのかも ・茶華道の仕草は日々の暮らしの中に潤いをもたらす
4 (3)	
無回答 (4)	

人生

生46~50

1 (8)	・情報を得たければ現在はネットがあるが、当時は人と話すことだった、よく語り合った、そこで最高の人間関係を作った ・一生の友人ができた ・交流は続いている ・今でも交流している ・同期の仲間とは、ずっと交流が続いている ・友とのつきあい、行動 (自分なりに) など ・卒業後も趣味の山登、その中で交友関係が広まり深まった ・今も当時の楽器を修理し、35年のブランクの後、社会人バンドで活動、もっと吹きたかったため
2 (5)	・友人ができたこと ・自信がもてるようになった ・卒業後、お琴の教室 (先生が邦楽研究会の顧問) に通う
3 (4)	・行儀、礼儀作法 ・煎茶の作法が身につき、お茶に興味があった ・小さなサークルだが今でも参加している
4 (2)	
無回答 (6)	

[9-20] 女子短 サークル活動がその後の人生に与えた影響 (生活科、昭和 51 年以降)

生51~54

1 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・現在も会員と交流あり ・社会人になってもバンド活動をやった
2 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・友達ができた ・今も友人としてつき合っている ・友達の結婚式で奇術を披露した
3 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツやイラストが好きになった ・社会人になってから、ギターとエレクトーンを習った
4 (1)	
無回答 (6)	

[9-21] 女子短 学友会への参加 (文科)

文36~41

はい (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・会長として ・リーダーシップ研修会のような合宿あり、先生方のお話、討論会、合唱など、リーダーとしてのさらなる向上を目指したリーダーシップトレーニング、選管 (学友会)、生協がなかったためその準備会 ・記憶なし
いいえ (3)	
無回答 (2)	

文42~45

はい (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・学園祭実行委員 ・アルバムを作った、文化祭を企画できた
いいえ (16)	

文46~50

はい (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・二年次に学園祭係をやる、 ゴールデンウィーク中で参加者が少なく、催事場をくまなく見学できた
いいえ (25)	<ul style="list-style-type: none"> ・文芸連フェスティバル実行委員 ・忘れた
無回答 (3)	

文51~54

はい (0)	
いいえ (14)	
無回答 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・覚えていない

[9-21]女子短 学友会への参加 (生活科)

生36～41

はい (1)	・学友会
いいえ (11)	・活動について知らなかった
無回答 (0)	

生42～45

はい (0)	
いいえ (16)	
無回答 (2)	

生46～50

はい (0)	
いいえ (23)	
無回答 (2)	

生51～54

はい (0)	
いいえ (12)	
無回答 (2)	

[9-22]女子短 音楽活動 (文科、その1)

	参加	活動内容	思い出など
文39	主体的	音楽部 (～1967)	・藤井制心、山田昌弘、真理よし子 (真理ヨシコ?)、中田喜直に少しコーチしてもらった
文39	聴衆	歌声喫茶「みんなで歌う会」	・みんなで歌をうたい、声を出したり新しい歌を覚えるのが楽しかった
文40	両方	合唱団 (1967～) 短大音楽会 (定期演奏会)	・丸山先生作詞の「梢の歌」の発表会に藤井先生の特訓を受け参加、今でも時々口ずさんでいる
文40	主体的	合唱団 (1967～)	
文42	主体的	音楽部 (～1967) 短大音楽会 (定期演奏会)	・司会をするための発声練習、ホールなどでの場内アナウンスを学部先輩から教わる、学部・短大合同企画「みんなで歌う会」
文42	聴衆	合唱団 (1967～)	・友人のコーラスの発表会などでの裏方
文42			・定期的な参加ではなく誘われた時のみ、学部の方に集まって歌う会、ロシア民謡、反戦歌が多かった記憶
文42	聴衆	音楽部 (～1967)	・ここで初めてジャズに出会った
文42	聴衆	音楽部 (～1967)	
文43	主体的	合唱団 (1967) 短大音楽会 (定期演奏会)	・1966年12月10日 第7回定期演奏会「にほんのうた」で和歌を合唱

[9-22]女子短 音楽活動 (文科、その2)

	参加	活動内容	思い出など
文44	両方	合唱団 (1967~) 歌声喫茶「みんなで歌う会」	・公会堂での発表会、練習は大変だったが楽しかった
文44	主体的	合唱団 (1967~) 歌声喫茶「みんなで歌う会」 短大音楽会 (定期演奏会)	・豊橋公会堂にて演奏会、プログラム作成、チケット街頭販売など
文44	聴衆		・女子短の放送文化研究会と学部サークル交流、学部ジャズ部、軽音楽部の公演出演に参加、学部の合唱団とは合宿で親しくなる、在学中はクラシックをはじめ色々学ぶ、ヤマハのフェスティバルでナベサダの生演奏を聞く、顧問の内田先生やジャズ部と打上会にも出席
文44	聴衆	短大音楽会 (定期演奏会)	・琴、尺八クラブにも聴衆として参加
文44			(・そのようなものがあるとは知らなかった)
文45	聴衆	歌声喫茶「みんなで歌う会」	・フォーク全盛の時代にあの熱気がつかしい
文45	聴衆		・学部合唱団に高校の先輩がいて、定期演奏会に誘われ聞きに行った
文45	聴衆	歌声喫茶「みんなで歌う会」	
文46	聴衆	歌声喫茶「みんなで歌う会」 短大音楽会 (定期演奏会)	・歌声喫茶は短大の校舎内にあり?、毎回参加、フォークソングが多かった、楽しかった
文47	主体的		・学部と一緒に定期演奏会、毎日練習していたような気がする
文47	主体的	ギターアンサンブル	
文47			・邦楽部で定期演奏会 (琴と尺八)、作手村への夏合宿は楽しかった
文47	聴衆	歌声喫茶「みんなで歌う会」	・昼休みにみんなで集まり、フォークソングなどを歌った記憶がある
文47	聴衆	合唱団 (1967~)	・学園祭などで
文47	聴衆		・色々なサークルの発表会など見たり聴いたり (ギター、ダンスほか)
文47	聴衆		
文48			(・なし)
文49	主体的	吹奏楽団	
文49	聴衆	音楽部 (~1967)	
文50		邦楽研究会	
文50		邦楽研究会	
文51	聴衆	短大音楽会 (定期演奏会)	
文52	主体的	邦楽研究会	・毎日放課後に練習、夏に2回お寺などで合宿、年末に定期演奏会
文53	主体的	豊橋フォークソング愛好会	・夏休みに1週間くらいの合宿 (長野)
文54	主体的	短大音楽会 (定期演奏会)	・邦楽研究会、年1回の定期演奏会に向けて毎日のように練習した
文54		軽音楽部	

[9-22]女子短 音楽活動 (生活科、その1)

	参加	活動内容	思い出など
生38	主体的	音楽部 (~1967) 合唱団 (1967~) 短大音楽会 (定期演奏会)	・市公会堂で行われた演奏会に伊藤京子、ポニージャックスが来て一緒に歌った、楽しい思い出
生38	聴衆	歌声喫茶「みんなで歌う会」 短大音楽会 (定期演奏会)	・聞いたり、歌ったりするのが好きだった
生38			・豊橋公会堂でジャズコンサートあり聞きに行った
生40	主体的	合唱団 (1967~) 短大音楽会 (定期演奏会)	・豊橋公会堂で、オペラ歌手と一緒に歌った ・邦楽部 (桐竹会) で箏の演奏
生40	主体的		・琴と尺八の演奏会
生41		短大音楽会 (定期演奏会)	
生42			(・ほとんど不参加)
生42			(・参加せず)
生43	主体的	合唱団 (1967~)	・ピアノをひかせてもらった
生43	聴衆	合唱団 (1967~)	・邦楽研究会にも聴衆として参加
生43	聴衆		
生44		邦楽研究会	

[9-22]女子短 音楽活動 (生活科、その2)

	参加	活動内容	思い出など
生45	両方	歌声喫茶「みんなで歌う会」 短大音楽会 (定期演奏会)	・作手の小学校構堂、お寺を借りた合宿、市公会堂や文化会館で演奏会をした
生45	聴衆	短大音楽会 (定期演奏会)	
生45			・昼休みにみんなで歌う会に参加
生46	主体的	合唱団 (1967～)	・授業以外はほとんど部室と練習場に行った
生46	主体的	合唱団 (1967～) 歌声喫茶「みんなで歌う会」 短大音楽会 (定期演奏会)	・毎週金曜日に「みんなで歌う会」のチラシを配った
生46	主体的		・吹奏楽団、授業の空き時間も部室に行き個人練習、合宿中のゲームやソフトボール大会などの遊びも楽しかった
生46		吹奏楽団	
生47	主体的	短大音楽会 (定期演奏会)	・定期演奏会に出演するための合宿
生47	主体的	フォークソング愛好会	・豊橋公会堂などでフォークシンガー (五つの赤い風船、赤い鳥、高田渡ほか) と一緒にコンサートを開く
生47	聴衆	歌声喫茶「みんなで歌う会」	
生47	聴衆	歌声喫茶「みんなで歌う会」	
生47	聴衆	短大音楽会 (定期演奏会)	
生47		吹奏楽団	
生47			(・不参加、特になし)
生48	主体的	合唱団 (1967～) 歌声喫茶「みんなで歌う会」	・毎週、サークルの仲間に会えるのが嬉しかった、 ・歌声喫茶、学内の教室で外部の人とフォークソングなどをよく歌った
生48		ギターアンサンブル	
生49	聴衆	歌声喫茶「みんなで歌う会」	
生49			(・いいえ)
生52	聴衆		
生52			(・参加していない)
生53		ギターアンサンブル	
生54	主体的	軽音楽部	・木造の部室、学部生とバンドを組み学祭や名古屋のバンド大会に出場
生54	聴衆		

[9-23]女子短 在学中の就職活動 (文科、昭和 41 年まで)

文36～41 1 かなり積極的、2 やや積極的、3 普通に、4 あまりしない、5 全くしない

1 (0)	
2 (0)	
3 (1)	
4 (1)	・教員採用試験 (静岡) に合格したから
5 (5)	・静岡と愛知と採用試験に合格していた
	・父の導きで就職できた
	・また父が転勤になるから

[9-23]女子短 在学中の就職活動（文科、昭和42年以降）

文42～45 1 かなり積極的、2 やや積極的、3 普通に、4 あまりしない、5 全くしない

1 (1)	・図書館での仕事を希望していた
2 (1)	・自立して生活したかった
3 (11)	・安定した生活を目指した
	・一般職を目指していた、9月に合格するまでその準備のみした
	・教員採用試験中心だった、試験についてのフォローはなかったため
	・公務員試験をいくつか受けた程度
	・卒業したら就職するものだと思っていたから
	・一度は仕事に就きたいと思っていたから
4 (2)	・親が6年（大学院まで）を望んでいたが、2年で豊橋を離れたくなった、 実家に帰ったら自営業の父が就職を望まなかった、手元に置きたかった
	・家業の手伝いをと思っていたから

文46～50 1 かなり積極的、2 やや積極的、3 普通に、4 あまりしない、5 全くしない

1 (2)	
2 (2)	・自分のできることを試したい
3 (14)	・就職したいと思っていた
	・定年までしっかり働けるよう公務員を選び活動
	・名古屋で就職希望、豊橋校舎には少なく自分で希望の会社へ出した
4 (6)	・学校からの紹介はほぼなし、個人で応募
	・家事手伝い
5 (4)	・採用試験に受からなければ、書道塾をやるつもりでいたから
	・専門学校に入学した
無回答 (2)	

文51～54 1 かなり積極的、2 やや積極的、3 普通に、4 あまりしない、5 全くしない

1 (1)	
2 (2)	・このまま愛知県で就職するか、地元に戻るかを迷っていた
3 (9)	・無職はあり得ない
	・生活のため
4 (3)	・大変な就職難の時代、たくさんの求人があったとは思えなかった
5 (1)	・叔父の勤めている会社に誘ってもらった

[9-23]女子短 在学中の就職活動（生活科、昭和50年まで）

生36～41 1 かなり積極的、2 やや積極的、3 普通に、4 あまりしない、5 全くしない

1 (1)	・ 自立した生活
2 (0)	
3 (6)	・ 親に感謝
4 (2)	
5 (2)	・ 専門学校へ

生42～45 1 かなり積極的、2 やや積極的、3 普通に、4 あまりしない、5 全くしない

1 (0)	
2 (0)	
3 (7)	・ 学内の就職課で案内してもらい、1つめで決まった ・ 手段が分からず、掲示板に掲示されていた会社に打診
4 (5)	・ 教員採用試験しか頭になかった ・ 以前から先生と話し合っていて決めていたから ・ 父のコネを利用 ・ 就職先があまりなかった、学校の掲示板で見た企業を受けた ・ 父が病気で実家の手伝いをしなければならなかった
5 (5)	・ 親戚の家業の手伝い ・ 親の縁で入社 ・ ポーっとしていた
無回答 (1)	

生46～50 1 かなり積極的、2 やや積極的、3 普通に、4 あまりしない、5 全くしない

1 (2)	・ 教員になりたかった
2 (1)	
3 (11)	・ 家業を継ぐ ・ どこかに就職できればよいと考え、積極的ではなかった
4 (3)	・ 父と祖父が亡くなり、家庭内が慌ただしかったから
5 (7)	・ 教員を目指していたから ・ 市役所への就職を考えていた ・ 家業の仕事をする予定だったから ・ 習い事を予定していた
無回答 (1)	

[9-23]女子短 在学中の就職活動（生活科、昭和 51 年以降）

生51～54 1 かなり積極的、2 やや積極的、3 普通に、4 あまりしない、5 全くしない

1 (1)	
2 (3)	
3 (7)	・その年が就職難だったから ・今のように大学からの熱心な指導はなかった
4 (1)	・公務員試験に注力していたから
5 (1)	・ピアノ、電子オルガン講師を目指していたため
無回答 (1)	・母の要望もあり就職カードを学校に提出せず、斡旋してもらえなかった

[9-24]女子短 就職先の業種（文科、昭和 45 年まで）

文36～41 1 家事手伝い、2 一般企業、3 公務員、4 教職、5 その他

1 (1)	・家業が忙しかった、当時は花嫁修業として結婚まで家にいる人が多かった、その後諸事情で就職、数社の転職を経て定年退職、その後アルバイト
2 (1)	
3 (1)	
4 (3)	・自分の好きなこと（子ども、音楽、文学、美術）が生かせる場だと思ったから ・学業が好きだったため
5 (1)	・他の大学でももう少し学びたかった（大手商社）
無回答 (1)	

文42～45 1 家事手伝い、2 一般企業、3 公務員、4 教職、5 その他

1 (1)	・子は親を助ける、という考えがあった
2 (3)	・所在地が何となくよさそうな気がした
3 (7)	・安定性 ・生活が安定していると考えたから ・免許を活かしたかったから ・司書になりたかったから ・当時は土曜日が半日勤務、男女の給料の格差がなかった ・自宅からはそれしかなかった
4 (2)	・国語の免許を取得できたから ・国語、国文学を仕事に生かしたかった
5 (4)	・資格を生かしたいと思ったから ・好きだったので（財団法人職員） ・旅行会社（ホテル管理）を希望、入社（名古屋市）
無回答 (1)	安定している（団体職員）

[9-24]女子短 就職先の業種 (文科、昭和 46 年以降)

文46～50 1 家事手伝い、2 一般企業、3 公務員、4 教職、5 その他

1 (3)	・すぐに結婚するつもりだったから
2 (14)	・安定した企業
	・安定して働けるところ
	・安定した一流企業へ
	・待遇面と安定性
	・学校で学んだことを生かしたかった、その分野に興味があったため
	・英語を生かせる職種
	・英語を生かしてグローバルな活動がしたかった
	・自分にもできそうと思ったから
	・公務員よりも就職が早く決まると思ったから
	・身内に勧められた
・家事手伝い、教職以外で考えていた	
・数年働いてから結婚しようと思っていたから	
3 (5)	
2・3 (3)	・安定した将来
	・図書館司書を活かしたかったから
	・市役所、近くて働きやすいところだから
	・親のすすめ
	・県警巡視員、父が気弱な本人を心配、警察に勤めれば安心すると思ったから
4 (2)	・教職の試験に合格したから
3・4 (1)	
5 (1)	・興味があり趣味と実益で (専門学校入学)
無回答 (1)	

文51～54 1 家事手伝い、2 一般企業、3 公務員、4 教職、5 その他

1 (1)	
2 (9)	・大企業を希望していたから
	・幼ない頃から親しんでいた企業があった
	・公務員、教職に興味がなかった
	・珠算ができたため経理課へ
	・あまり考えていなかった
3 (2)	・帰省して決めた
4 (0)	
5 (2)	・学校に求人がきていたから (団体職員)
	・親戚がいて試験を受けた (団体職員)
なし (1)	・決めていなかった
無回答 (1)	

[9-24]女子短 就職先の業種 (生活科、昭和 45 年まで)

生36～41 1 家事手伝い、2 一般企業、3 公務員、4 教職、5 その他

1 (2)	
2 (1)	・ 一般企業しかなかった
3 (3)	・ 家から近く通勤に都合がよい、安定性のある職場
	・ 実家に戻り希望の図書館に勤務 (臨時職)、翌年教師に
4 (2)	・ 親が教師
3・4 (1)	・ 保護者が公務員と教職に就いていて、安心した暮らしができたから
5 (1)	
なし (1)	・ 就職は考えていなかった
無回答 (1)	

生42～45 1 家事手伝い、2 一般企業、3 公務員、4 教職、5 その他

1 (1)	
2 (7)	・ 会社員を経験したかった
	・ 名古屋まで通勤したかった
	・ 当時はOLがほとんどだった
	・ 商業高校で簿記検定を受けていた、事務職ならできると思ったから
	・ 学校からの斡旋
	・ 親のすすめ
	・ 働きながら勉強して1年後に教員採用試験に合格、大きな自信になった
3 (1)	・ 親の希望
4 (5)	・ 公務員が安定しており、男女の差があまりないから
	・ 父親が教師だったから
	・ 父が教員でとても慕われていたから、僻地教育をやってみたかった
5 (3)	・ 自分の専門であり興味があったから (カルチャーセンター)
	・ 音楽教室の講師
	・ 家族の希望 (親戚の家業)
無回答 (1)	

[9-24]女子短 就職先の業種 (生活科、昭和 46 年以降)

生46～50 1 家事手伝い、2 一般企業、3 公務員、4 教職、5 その他

1 (2)	・家業 (自営業) を手伝うため ・結婚の予定があったから
2 (6)	・親戚に銀行員が多く安心感があったから ・数年働ければよいという考えから、しかし結婚・出産後も働いた
3 (5)	・生活が安定している、両親の希望 ・親の姿を見て ・人のためになる仕事をしたかった ・生活改良普及員を希望
4 (4)	・子どもの頃から一生勉強したいと思っていた、教職が適していると考えた ・興味が少しあった
5 (2)	・司書 (大学図書館) ・依頼があったから
3・5 (1)	
なし (1)	・家業
無回答 (4)	

生51～54 1 家事手伝い、2 一般企業、3 公務員、4 教職、5 その他

1 (0)	
2 (10)	・安定した収入、出会いも多い ・採用条件がよかったため ・車のディーラーの受付をしたかったから (営業職) ・地元企業に入りたかった ・自宅から通勤できるため ・他は考えなかった
3 (1)	・安定性と性別による給与格差がなかったから
4 (0)	
5 (2)	・子どもの頃から電子オルガンを習っていたから (講師)
なし (1)	・勉強しつつ仕事ができるから (会計事務所)
無回答 (0)	

[9-25]女子短 就職先 (昭和 50 年まで)

文36~41

伊勢日産モーター (株)
岡崎市立中学校
伊藤忠商事 (株) 本社
岐阜県内小学校

文42~45

東海電線 (株) (のち、住友電装 (株))
野田貴商店 (名古屋支店)
日清紡績株式会社 針崎工場内 龍城高校
岐阜県立高校 図書館司書
サンケイ新聞 中京総局
中部建設協会
(財) ヤマハ音楽振興会 (ヤマハ浜松店)
カワイ音楽教室岡崎事務所
愛知県教育委員会
スズキ信販 (株) (浜松市)
豊田市役所
豊田市立図書館
愛知県庁 本庁
袋井市役所
市役所

文46~50

(旧) 中小企業センター
岡崎市役所
愛知県内小学校
作手村役場
析金 (マスクン) 食品工業 (豊橋市)
東愛知日産自動車 (株)
東海銀行 安城支店
近畿日本ツーリスト (名古屋市)
日本勧業銀行 (のち、みずほ銀行) (浜松市)
中部電力
名古屋市内企業の研究部事務室
安城市役所
日本電装 (株)
住友軽金属工業 (株) (名古屋市)
(株) 近畿日本ツーリスト
(株) 中部 (豊橋市)
郵便局 (浜松市)
トヨタ自動車
全日本空輸株式会社 (ANA)
名古屋市立大学病院
日本生命 刈谷支店
中部瓦斯
岡崎商工会議所

生36~41

朝日工業株式会社
愛知大学教務課
豊橋市役所
愛知県教職員
豊川市役所
神奈川県教職

生42~45

豊橋中日文化センター
瑞穂資材 (株) 名古屋支店
愛知県内公立学校
共栄火災 (名古屋市)
愛知県公務員 (教員)
証券会社 (豊橋市)
トヨタ生活協同組合
ヤマハ 音楽店 (豊橋市)
愛知マツダ (株)
愛知県内小学校
岡崎市立病院 (市民病院)
愛知県内小学校
森永製菓 (株)
鉄鋼業 (刈谷市)
外山良三商店 (豊橋市)
高砂鉄鋼 (刈谷市)

生46~50

東海銀行 豊川支店
(株) ヤマハ発動機
同朋大学部付属図書館
駿河銀行 名古屋支店
公立小中学校事務
三好町役場 (のち、みよし市役所)
日産サニー中部 中古車センター (豊川市)
袋井市役所
郵便局 (豊橋市)
豊橋市役所
安城市内小学校
国家公務員 郵政事務A
愛知県内公立小中学校事務
中部電力 (株) (岡崎市)
荏原 (名古屋市)
中部住宅販売 (株) (豊橋市)

[9-25]女子短 就職先 (昭和 51 年以降)

文51~54

遠州鉄道 (株)
日本道路公団
岡崎商工会議所
長野県大桑村役場
日本生命 (岡崎市)
デンソー
JA静岡経済連
山一証券 (豊橋市)
三喜商事
証券会社 (名古屋市)
豊田通商株式会社 浜松支店
アイシン精機

生51~54

日本楽器製造 (株) (のち、ヤマハ)
大平経営会計事務所 (豊橋市)
名古屋トヨペット (株)
日東電気工業 豊橋工場
ヤマハ (株)
キクチ眼鏡専門学校 事務局 (名古屋市)
斉藤 (株) (浜松市)
三菱自動車工業 (株)
住友生命 (刈谷市)
名古屋鉄道 名鉄協商

[9-26]女子短 就職先は希望通りか (文科、昭和 45 年まで)

文36~41

1 はい、2 なんとか、3 意識せず、4 意に反して

1 (5)	・ 中学免許状だったため、小学校に勤務しながら通信で小学校免許を取得 ・ 英語が得意だったから
2 (0)	
3 (0)	
4 (1)	
無回答 (2)	

文42~45

1 はい、2 なんとか、3 意識せず、4 意に反して

1 (11)	・ 資格を生かした
	・ 司書の免許を取得したから
	・ 採用試験の募集要項に司書の枠があったから
	・ 就職試験に受かったから
	・ 試験に受かり、希望する職種に入れた
	・ 専門の大学を出た人が多い中で採用された、頑張って勉強した
	・ 見習期間中に経営難、倒産前に退職勧奨 (入社前)、直後に別の企業へ
	・ 事務職
2 (2)	・ 短大卒では就職できず、知人の紹介で
3 (2)	・ 偶然の縁があり就職
4 (1)	・ 就職はあまり考えなかった
なし (1)	・ 大学同窓会に就職できたから、結婚後教職に就いた
無回答 (1)	

[9-26]女子短 就職先は希望通りか (文科、昭和46年以降)

文46～50 1 はい、2 なんとか、3 意識せず、4 意に反して

1 (14)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に合っていたような気がする ・配属先は希望通りでやりがいがあった (希望は出さなかった) ・企業の中で自分私を活かす分野に配属してくれた ・英語を生かし、世界中をみることができた ・その後職場結婚、警察の巡視員経験が役立った ・そこしか受けなかったから
2 (8)	<ul style="list-style-type: none"> ・一般事務ではなく、コンピュータ電算室に配属されたから ・家から通えるようになったから
3 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・たまたま掲示板で見かけた、祖父が応援してくれた ・姉のコネで入社 ・当時は目標がなかった、とりあえず結婚するまでと考えていた
4 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・美容業になったから
なし (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ (就職) していない
無回答 (1)	

文51～54 1 はい、2 なんとか、3 意識せず、4 意に反して

1 (9)	<ul style="list-style-type: none"> ・運良く ・不明、試験は合格をもらえたから ・家から通える、珠算が生かせる ・わざわざ地方大学に在籍していたため、かえって目立った ・文科は2年生から国文・英文に分かれ、1年時は英語の授業が多かった、短大生、高校生の受験者の中で英語の成績がトップだった (英語は本来苦手)
2 (2)	
3 (3)	<ul style="list-style-type: none"> ・求人があった
4 (0)	
無回答 (2)	

[9-26]女子短 就職先は希望通りか (生活科、昭和41年まで)

生36～41 1 はい、2 なんとか、3 意識せず、4 意に反して

1 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・母校の事務所で働けて本当に幸せだった (結婚するまでの間)
2 (1)	
3 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的には決めてなかった
4 (0)	
無回答 (3)	

[9-26]女子短 就職先は希望通りか (生活科、昭和42年以降)

生42～45

1 はい、2 なんとか、3 意識せず、4 意に反して

1 (9)	・採用試験に合格したから
	・企業からのパンフレットを見て決めた
	・音楽に携わりたかったから
2 (2)	・周りのすすめ
1・2 (1)	・楽しく働けそうだったから
3 (2)	・後輩たちには公務員や教職などの試験の周知と連絡を
4 (1)	・コネ入社があまりにも多くてはずれた
なし (2)	・教員試験が不合格だった
	・就職する時にもっと自分で色々なところを見ておけばよかった
無回答 (1)	

生46～50

1 はい、2 なんとか、3 意識せず、4 意に反して

1 (7)	・公務員を希望していたから
	・合唱団の先輩から教職試験に必要な勉強を教わった
	・伯父が銀行頭取と知人関係、短大卒でも受験できるようお願いしてくれたから
2 (3)	・卒業1年後、親の知人の世話で希望の職に就けた
1・2 (1)	・あまり努力したわけではないが
3 (5)	・就職するつもりはなかったが、タイミングよく縁故で就職
	・分野は考えていなかった
4 (3)	・試験科目を取得してなかったため
	・母親が教職より市役所をすすめた
	・保険会社に不採用だった
無回答 (6)	

生51～54

1 はい、2 なんとか、3 意識せず、4 意に反して

1 (4)	・講師資格を取って仕事をした
2 (4)	・車のディーラーに入社したが配属先が人事部だった (事務職)
3 (4)	・卒業後、職安へ半年間通って自分で見つけた
	・金融関係は自分の第一希望と推薦企業の受験日が重なる、そして不合格だった
4 (2)	・親の反対で親類の会社へ
	・短大卒の採用人数が少なかった
無回答 (0)	

[9-27]女子短 愛大卒の経歴を意識するか (文科)

文36~41

はい (2)	・四大英文科編入試験にも合格したが学費工面のため断念、総合大学卒業生として誇り、教授陣がすばらしかった
少し (2)	・地元国立大卒業生が多い職場だったから ・大学受験のとき教育学部が全く視野になかった、家から通えるということだけで決めた
特になし (2)	
無回答 (2)	

文42~45

はい (5)	・職員の中に卒業生が何人かいた、いつも支えてくれる人に恵まれていたから ・愛大卒、若く元気で明るかったから採用、来社した愛大教授が喜んでくれた ・それがなければ今はないから
少し (3)	・学部OBが何人かいた、社内OB会などがあった ・当時は高卒が多かったから
特になし (6)	・直接仕事には関係ないため
なし (1)	・市役所に愛大卒業生がたくさんいて大いに助けられた、年1回は飲み会あり、締めめに愛知大学応援歌を歌った
無回答 (3)	

文46~50

はい (4)	・愛知大学卒業生が多かったから ・中学校の免許しかなく、就職後小学校免許を取得
少し (12)	・地元だから卒業生が多い ・社内で愛知大学を知らない人はいなかったから ・愛女短の一年上の先輩が同じ会社に就職していることを知ったとき ・ショールームアシスタントに愛短卒業生が多かった、会社側の希望か ・愛教大卒教員が多い中、自分を生かすものがあった、それほど意識しなかった ・パート工員をしていた時、信用してもらい、アイデアを採用してくれた ・結婚後、豊川市で再就職した際、何人かから「愛大卒業生ですね」との声かけ、やはり地元はいいと思った
特になし (11)	・ない ・経歴を重視したくないから ・女性は結婚したら辞めるという時代、辞めたくなかったが育児のため退社、その悔しさが次のステップへのモチベーションになった ・愛知大学卒業生の名前を新聞などで見かけると思わず嬉しくなる
無回答 (3)	

生51~54

はい (0)	
少し (7)	・愛知県内では有名、歴史のある学校 ・後輩がその後入社した時 ・就職先の短大卒業生は静岡県内の短大卒業生が中心、愛短卒業生の方が偏差値が高く、少し鼻が高かった ・就職先の本社が名古屋だから親しみがあつた
特になし (6)	・特定の大学卒業という意識なし、気にしない、聞いてもないのに学歴を言う人は信用できない
無回答 (3)	

[9-27]女子短 愛大卒の経歴を意識するか (生活科)

生36～41

はい (3)	
少し (2)	
特になし (5)	
無回答 (2)	

生42～45

はい (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・高卒のみの採用で高卒として入社、本社の役員やお得意様に物怖じせず対応、大変かわいがってもらえた、余裕を持って過ごせた ・現在も現役を続けている、来年度入社予定者に後輩がいてとても嬉しい、他の愛大卒業生も将来が楽しみ
少し (3)	・教育大ではなかったため、通信教育で資格をとった
特になし (9)	
無回答 (2)	

生46～50

はい (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知大学卒の先輩がいたから ・教員になった時、先輩方がいた ・昭和47年頃は短大卒の人は少なかったから ・自分の心の中の想いとして
少し (10)	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知大学卒業という職員がとても多かったから ・後輩の愛短卒業生が同じ課に入ってきた ・学歴を書く時に少し ・自分が好きな学校だから ・就職先で初めての短大卒、年下の先輩に教えてもらった、商業科卒ではないからソロバンも遅かった
特になし (7)	・職場に先輩がいなかったから、話題にあがらなかった
無回答 (4)	

生51～54

はい (0)	
少し (3)	・同期入社の多くが高校卒業者、短大卒は少人数だったから
特になし (9)	<ul style="list-style-type: none"> ・何の関連もない職場だったから ・入社した時パートだったから
なし (1)	・同窓の上司とテレビに映った豊橋校舎を見て盛り上がった、似た学校名と間違えられ、何度か説明したら愛知大学と認識してもらえた
無回答 (1)	

[9-28]女子短 転職先・再就職先

文36~41

- ・産休代替小中学校教員（岡崎市）
- ・家業で働いた後、転職、退職後もアルバイト
- ・一般商店（蒲郡市）

生36~41

（記入なし）

文42~45

- ・火災保険代理（浜松市）、長野県内役場
- ・不動産業（福井市）
- ・車製造、工作機械製造、清掃（浜松市）
- ・学童保育の運営

生42~45

- ・寮姉（刈谷市）
- ・大学事務（パート）、学童保育（春日井市）
- ・製造業（豊川市）
- ・一般企業事務（名古屋市）

文46~50

- ・県立学校事務職員
- ・会計事務所（豊橋市）
- ・銀行（パート）（浜松市）
- ・メッキ加工（浜松市）
- ・看護師（安城市、名古屋市）
- ・豊川市学校用務員
- ・団体職員（豊田市）

生46~50

- ・製造業（名張市）
- ・保険 事務（新城市）

文51~54

- ・ケアマネージャー（掛川市）
- ・自営（蒲郡市）

生51~54

- ・ハーネス加工（名古屋市）
- ・介護士（浜松市）
- ・静岡県内県立高校図書館司書
- ・製造業（磐田市）
- ・社員食堂（刈谷市）、学校給食

[9-29]女子短 三つの「F」（文科、昭和45年まで）

文36~41

よく知っている (0)	
少し知っている (3)	・そうなりたいと思っている
知らない (4)	・自由な校風から、今でも自由にものを考える
無回答 (1)	

文42~45

よく知っている (3)	・魂の指針になっている、不安や孤独とは無縁な心を保っている
	・あまり影響があったとは思えない、夢中で生きてきた
少し知っている (4)	・曲がり角に来た時、しっかり考え選択して進む勇気をもらった
	・分からない
知らない (11)	・知らなかったが、自分の生き方に合っている
	・なし
無回答 (0)	

[9-29]女子短 三つの「F」(文科、昭和46年以降)

文46~50

よく知っている (1)	・在学中は知らなかった、数年前に同窓会活動を通じて知った
少し知っている (3)	・女性が生涯、元気に自由に働けるということ
知らない (24)	・学校は勉強するところ、学園生活は楽しまなかった気がする、怠惰で反省
	・忘れてしまった、これからその精神を心がけたい
	・知らなかった、現在そのように生きて思う
無回答 (2)	・なし

文51~54

よく知っている (0)	
少し知っている (1)	
知らない (16)	・知らなかった、のびのびと楽しい学生生活を送ることができた
	・記憶に無ないが、「元気に明るく自由で」な生き方を願ってきた
無回答 (0)	

[9-29]女子短 三つの「F」(生活科、昭和50年まで)

生36~41

よく知っている (1)	・消極的だったが、三つの「F」を知り少し積極的になれた
少し知っている (3)	・基本
	・明るく、元気
知らない (7)	・「自由に」は、なかなかできない
無回答 (1)	

生42~45

よく知っている (0)	
少し知っている (5)	・仕事をしている時
	・友に恵まれ、明るく楽しい学生生活を送ることができた
知らない (13)	
無回答 (0)	

生46~50

よく知っている (0)	
少し知っている (2)	・はい
知らない (22)	・50歳を過ぎてから、元気に自由に明るく過ごせていると思う
	・知らなくても、自然にそのように生活できている
	・よく分からない
無回答 (1)	

[9-29]女子短 三つの「F」(生活科、昭和 51 年以降)

生51~54

よく知っている (1)	・自由な考え方
少し知っている (1)	
知らない (12)	
無回答 (0)	

[9-30]女子短 東亜同文書院の認知度 (文科、昭和 45 年まで)

文36~41

よく知っている (0)	
少し知っている (7)	<ul style="list-style-type: none"> ・父、姉から知った ・在学していた高校の先生から ・在学中に聞く機会がよくあった ・先生方から聞いたり、会報で読んでいる ・知らなかった、後日牧野由朗先生の『社会学と私の50年』で知った
知らない (0)	
無回答 (1)	

文42~45

よく知っている (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・進学希望を持った時に父が教えてくれた ・短大在籍時に話を聞いたことがある ・著書、寮歌祭参加時に先輩方から教わる ・卒業後に学んだ
少し知っている (12)	<ul style="list-style-type: none"> ・父親から聞いた ・身内に卒業生がいたから ・母の親族に愛大出身者がいた、少し聞いていた ・家族の会話、新聞記事などで知った ・在学中、本間学長や他の先生、学部の先輩方に話を聞いた ・パンフレットや友人から ・誰かに聞いた気がする ・文献、時々報道もある
知らない (2)	・現在は少し知っている
無回答 (0)	

[9-30]女子短 東亜同文書院の認知度 (文科、昭和 46 年以降)

文46～50

よく知っている (2)	・同窓会活動をしていて
少し知っている (16)	・父から聞いた (2名)
	・父親 (愛大に一時在学) の話から (注: 上記2名に含んでいない)
	・身近な人から聞いた
	・大学案内の書物で読んだことがある
	・入学時に先生から聞いた
	・学内で
	・同窓会報 (2名)
	・学報などを読んで
	・広報
	・豊橋でサツマイモが生産され、学生の食生活のためだと聞いていた
知らない (10)	
無回答 (2)	

文51～54

よく知っている (0)	
少し知っている (5)	・高校にあった資料などから
	・愛短入学ガイドから
	・『愛知大学小史』で見た
	・文献
知らない (11)	
無回答 (0)	

[9-30]女子短 東亜同文書院の認知度 (生活科、昭和 41 年まで)

生36～41

よく知っている (1)	・本
少し知っている (8)	・叔父が出身者、愛知大学の先生
	・卒業後、愛大事務職員として在籍中に知った
	・学校の先生から
	・愛知大学の先生が話していた
	・卒業してから広報などで
知らない (2)	
無回答 (1)	

[9-30]女子短 東亜同文書院の認知度 (生活科、昭和 42 年以降)

生42～45

よく知っている (5)	・ 親から
	・ 就職先の部長が東亜同文書院出身だった
	・ 大学パンフレット
	・ 資料から
	・ 東亜同文書院についての講演を聞いた
少し知っている (8)	・ 入学時に聞いた (2名)
	・ 学業中に教授の先生から聞いた
	・ 先生方から少し話を聞いた
	・ 同窓会報などから
知らない (5)	
無回答 (0)	

生46～50

よく知っている (4)	・ 両親 (満鉄勤務だった) から聞いていた
	・ 先輩から聞いた
	・ 知人から
少し知っている (10)	・ 祖父が教えてくれた
	・ まわりの大人から聞いた
	・ 久曾神先生が学長をしていた、三好に愛大のキャンパスがあったから
	・ 授業の中で、卒業してからは書物などで
	・ 在学中に何かの書面で
	・ 冊子などで
知らない (11)	
無回答 (0)	

生51～54

よく知っている (0)	
少し知っている (8)	・ 地元だから
	・ 在学中に知る機会があったように思う
	・ 卒業後、大学からの冊子で
	・ 卒業後、色々な文献などで
	・ 書籍
	・ 大学会報
	・ 友人から
知らない (6)	
無回答 (0)	

[9-31]女子短 「愛大事件」の認知とその受け止め方 (文科)

文36～41

よく知っている (0)	
少し知っている (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・本間先生は立派な方だとその頃から思っている ・赤の思想として知っている
知らない (3)	
無回答 (1)	

文42～45

よく知っている (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の自治権を守ることの真意 ・感銘を受けたことを覚えている
少し知っている (7)	<ul style="list-style-type: none"> ・学長としての気概を感じた ・本間学長の勇気ある行動に敬意 ・本間学長の学生の立場に立ち、大切に思う気持ちに脱帽 ・学長の静かなる熱情を感じた、 20歳前に立派な人物に出会えたことを誇りに思っている ・詳しく知らなかったが後に知る、当時の時代背景の難しさを感じる
知らない (9)	
無回答 (0)	

文46～50

よく知っている (0)	
少し知っている (9)	<ul style="list-style-type: none"> ・通学門の前に高い物見櫓があった記憶、学生自治が強かったような ・最高裁判決間もない時期だった、愛大生として誇らしく思えた ・正義とは何か、と思った
知らない (19)	
無回答 (2)	

文51～54

よく知っている (0)	
少し知っている (2)	・大学自治と警察の関係を知らなかったから驚いた
知らない (13)	
無回答 (1)	

[9-31]女子短 「愛大事件」の認知とその受け止め方 (生活科、昭和41年まで)

生36～41

よく知っている (0)	
少し知っている (6)	・あまり大っぴらに話すことはできないことだと思った
知らない (6)	
無回答 (0)	

[9-31]女子短 「愛大事件」の認知とその受け止め方 (生活科、昭和 42 年以降)

生42～45

よく知っている (0)	
少し知っている (7)	<ul style="list-style-type: none"> ・学長の苦悩は私たちの心に届いた ・講義中に先生が話してくれたがよく覚えていない、近寄るべきでない気がした ・主人から聞いた
知らない (11)	
無回答 (0)	

生46～50

よく知っている (0)	
少し知っている (8)	<ul style="list-style-type: none"> ・裁判が長くかかったと聞いている ・自分の意志で行動できる人がすごいと思った ・興味がなかった ・よく分からない
知らない (16)	
知らない (1)	

生51～54

よく知っている (0)	
少し知っている (0)	
知らない (13)	
無回答 (1)	

[9-32]女子短 学園紛争 (文科、昭和 36～41 年、昭和 51～54 年)

文36～41

よく知っている (0)	
少し知っている (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・何を訴えているのかなど、関心はあったが行動しなかった
知らない (3)	
無回答 (1)	

文51～54

よく知っている (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・一度授業中に先生が連れ去られ怖い思いをした、怖い感じがした
少し知っている (9)	<ul style="list-style-type: none"> ・暴力があった、とくに影響なし ・入学時、校門にはたくさんのボードが立ち、ヘルメットをかぶった学生もいた、民青などのサークルには気をつけろと言われていた、影響はない ・特になし、思想をもつ人がいて実際行動力もあった、大学らしいと思った ・色々な考え方の人がいると受け止めた、影響はない ・赤っぽい学校だという程度 ・影響なし ・不明、考えたこともなし
知らない (5)	
無回答 (0)	

[9-32]女子短 学園紛争 (文科、昭和 42~50 年)

文42~45

よく知っている (5)	・70年安保闘争は在学中で多くのことを体験し学んだ
	・これも青春かなと思っていた
	・学内の貼り紙などで「何と自由な」と思った、 高校から大学へはカルチャーショックだった
	・学生時代、スピーカーでの演説がうさくて嫌だった
	・学園紛争を目のあたりにした、少し恐かった
少し知っている (10)	・一時学内が封鎖され危機を感じた
	・こわいと感じた
	・学内に看板が立てられたり、講義が中止になったり、不安定な状況だった
	・革マル、民青、ヘルメット、本質が理解できなかった
	・大学は学びの場、学生が学べないことをする人たちは理解できない
	・彼らの意見に同調することができなかった
	・学部の先輩方の愛校精神議論を隅で聞いていた、 就職先の社員の議論が愛大並以上だった
	・詳しくは知らない、ノンポリだったため影響もない
	・詳しいことが分からないため、遠くから眺めていた
	・学園紛争が盛んであった頃はすでに就職、外から見る感じだった
知らない (3)	
無回答 (0)	

文46~50

よく知っている (11)	・70年安保の時に在学、民青・全共闘の友人もいた
	・70年代の学園紛争、ベトナム戦争反対など学内のプラカードや演説を記憶、 男性が参加するものだと思い行動には移さなかった、戦争反対は強く思っていた
	・副門前にいつもプラカードがあり、デモをしていて怖かった
	・当時はバリケードが物々しく、慣れるまで恐々通学していた、 1年生後期試験がすべてレポートのみになった
	・休講ばかりで残念だった
	・授業、試験が中止、学内封鎖もあった、 ヘルメットをかぶり活動している人たちがいた
	・入学式、卒業式ができるか心配だった、バリケード、集会など騒がしい時代
	・卒業が遅れた
	・一部の人という印象だった
	・一度デモに参加したがピンとこなかった、影響なし
少し知っている (16)	・高校の先輩などがアジ演説していたのを見たり
	・頼まれて1、2回デモに参加、余波で下火になっていた時期だった
	・紛争して社会は変わるのか、でもやらなければと思っていた
	・学内に立てたくさんの看板、学生運動は下火になっていたため関心薄
	・時代だと思っていた
	・ほとんどその方面に興味がなかった
	・とくになし
	知らない (1)
無回答 (2)	

[9-32]女子短 学園紛争 (生活科、昭和50年まで)

生36~41

よく知っている (0)	
少し知っている (9)	・自分とは関係ないことのように考えていた、まったく影響がなかった ・なし
知らない (3)	
無回答 (0)	

生42~45

よく知っている (2)	・デモ隊が授業中入ってきて中断した ・大講堂でヘルメットの学生たちの演説も聞いた、勇気があると思った、あまり自分には影響がなかった
少し知っている (10)	・自動車部のあたりに大きな看板があった、革マル派という言葉を知っている ・大きなプラカードが学内にあった ・学内でバリケードやピラ配り、かなり活発だった ・学部では力を入れている人もいた、短大ではあまり活発ではなかった、国際問題研究会には参加している人もいた ・暴力的で怖いと思った、思想は考えられなかった、自分自身に影響なし ・大学祭もごく普通にできた、影響なし ・ほとんど影響はなかった
知らない (6)	
無回答 (0)	

生46~50

よく知っている (11)	・デモに参加した ・同級生が活動していて1年留年、そんなに大事な事かと思った ・同学年の人が紛争に参加、後日亡くなったのは紛争の悩みからの噂が流れた、ショックだったが他人事と受け止める位置にいた ・東大入試がなくなり、ランクを下げなければならず困っていた友人がいた、 ・たびたび休講になり、学生生活を楽しめなかった ・休講が多かった ・学校の入口に大きな看板が何枚もあった、大学生生活に影響なし ・自分自身がどうあるべきか悩んだ、休講が多かった ・少し怖かったが、政治に無関心ではいけないと思った ・興味がなかった、親が心配していた
少し知っている (14)	・集会に参加したことあり、あまり興味をもてず、休講が多くなった ・自分の生き方を決めて行動できるのが羨ましいと思った ・よく休講があったことだけ覚えている ・授業にも影響があったと思うがあまり覚えていない ・はっきり覚えていないが授業が中止になった、自分は絶対しななかった ・どこの大学でも紛争があった、休講になったり ・愛大の門の前や学生会館に大きな看板が立ててあった、紛争を身近に感じた ・入学当初、ヘルメット、角材、バリケードの残骸らしきものを見た、無縁と思っていたものを目の当たりにして少しショックを受けた ・あまり関わりたくなかった ・興味がなかった ・とくに影響なし
知らない (0)	
無回答 (0)	

[9-32]女子短 学園紛争 (生活科、昭和 51 年以降)

生51～54

よく知っている (0)	
少し知っている (10)	・ 年齢的に自分より上の学生の時だった、入試ができるか心配だった
	・ よく分からなかった、「何だかコワイ人たちの思想」だと思っていた
	・ 学生会館は入口に人が立っていたり、貼り紙が貼られていたりで近寄り難い、活動や考え方はよく分からなかった
	・ 通学時に物々しさを感じていた、影響はなかった
	・ 立て看板があった、「そういう時代」だと思った
	・ アジ演説がうるさく感じられた程度、さほど影響はなかった
	・ 当時の世の中の流れ、自分には全く関係のないことだと思っていた
	・ 関わらないようにしていた
知らない (4)	
無回答 (0)	

[9-33]女子短 同窓会への出欠 (文科、昭和 45 年まで)

文36～41

はい (0)	
よく (0)	
時々 (0)	
いいえ (7)	・ 同窓会を通してのつながりはない
	・ 短大で上下の接触がほとんどなかった、2・3回行ったことがある、牧野先生が亡くなる前年にお会いできた
	・ 学部卒ではないから
無回答 (1)	

文42～45

はい (0)	
よく (1)	・ 女子短の方はよく参加、大学の方は10年ほど参加していた
時々 (5)	・ 以前は役もこなし積極的に参加、先輩後輩を大事にしてきた、最近では年をとり出かけるのが苦痛になった
	・ 同窓会開催日が用事と重なり出席できない回があった
	・ お世話になった先輩や親しい友人もいるため参加
	・ 合唱団OB会から連絡をもらう
	・ 部活OG会の集まりに参加する方が多くなり、自然と同窓会参加が減った
いいえ (11)	・ 自由、明るく、元気に別の人間関係で頑張りがたく、辞めた
	・ 随分前に参加したいと思っていたが参加できず
	・ 結婚後十回以上の夫の転勤あり、住所が変わっていたため参加できず
	・ 個人的にはあっても、組織的には必要を感じないから
番号なし (1)	・ 市役所在職中は支部活動に参加
無回答 (0)	

[9-33]女子短 同窓会への出欠 (文科、昭和 46 年以降)

文46～50

はい (2)	・友人に誘われて、結果的にいろいろな支部の人と知り合い、交流を深められた
よく (0)	
時々 (5)	・先輩からの誘いあり、行動を共にした仲間 ・小学校からの先輩とは現在も交流あり、サークル仲間も
いいえ (20)	・会社勤務時に愛大卒業の同僚などが多く親近感があった
	・自宅通学可能で、兄弟が愛大出身のため愛着がある
	・自分の希望する生き方が出来なかったため、つながりなし
	・卒業後、学校を離れたらつながりがなくなる ・つながりはなし
番号なし (1)	・短大の総会に出席したことあり、全国で頑張る同窓生に会い元気が出た
無回答 (2)	

文51～54

はい (0)	
よく (0)	
時々 (1)	・参加は社会生活が一段落してから、いい人ばかりが参加していて嬉しい
いいえ (15)	・サークル仲間とのつながりがある、そのため他の活動はあまり必要を感じない
	・同期がいるわけでもなく、顔も知らない人の中に行く理由がない
無回答 (0)	

[9-33]女子短 同窓会への出欠 (生活科、昭和 45 年まで)

生36～41

はい (1)	
よく (0)	
時々 (2)	
いいえ (9)	・遠方のため
	・遠いし、日程が合わなかった
無回答 (0)	

生42～45

はい (1)	・以前理事を務める、この10年ほどは会合の通知もない
よく (0)	
時々 (3)	・入社後、法人会に入り豊川支部があることを教えてもらう、その後参加
	・以前は時々、現在は全くなし
いいえ (14)	・今でもサークル同窓会を豊橋で開催、今では廃部になっらしい
	・この頃は連絡がない
	・先輩や後輩とほとんどつながりがない
	・最近は通院しながらデイサービスへ行っている
無回答 (0)	

[9-33]女子短 同窓会への出欠 (生活科、昭和46年以降)

生46～50

はい (0)	
よく (0)	
時々 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・OB会での再会が楽しみ ・あまりなし
いいえ (23)	・以前、学部の先輩に誘われて支部活動に参加した
	・在職時は半ばお役目で参加していた
	・短大卒業生が少なく参加しづらい
	・知り合い、同級生がいないため
	・日常の生活におわれて
	・なし
無回答 (0)	

生51～54

はい (0)	
よく (0)	
時々 (0)	
いいえ (14)	・住居が遠方のため
	・自分は短大卒、まわりには愛大卒の人が多い
	・同期なら懐かしいが同窓会だから
	・全くなし
無回答 (0)	

[9-34]女子短 愛大情報の入手先 (複数回答) (文科、昭和41年まで)

文36～41

1 TV・新聞 (0)	
2 大学HP (0)	
3 愛大通信 (2)	
4 会合 (0)	
5 受験雑誌 (0)	
6 同窓生 (1)	・大学創設期の歴史を受け継ぎ、ぶれない大学であってほしい
7 同窓会報 (4)	・会報を読んで、立派に活動している人が沢山いて嬉しい
8 愛大新聞 (0)	
9 その他 (0)	
無回答 (1)	

[9-34]女子短 愛大情報の入手先 (複数回答) (文科、昭和 42 年以降)

文42~45

1 TV・新聞 (7)	
2 大学HP (1)	
3 愛大通信 (9)	・新しい事業、頑張っている同窓生の姿
4 会合 (0)	
5 受験雑誌 (0)	
6 同窓生 (3)	
7 同窓会報 (12)	・在校生・卒業生の現状活躍、部活・サークル現状報告など ・中国滞在5年、ほかに訪問歴あり、中国関係の講座の案内があれば欲しかった、年を重ね中国訪問はやめたが、情報は欲しい
8 愛大新聞 (0)	
9 その他 (0)	
無回答 (0)	
複数回答のコメント	・学生からの声、不満等を扱い上げ、大学としての改善・対策などとして欲しい (1、3、7) ・学部や学科、講義の内容や学ぶ学生の様子 (1、6、7) ・どのような情報でも (1、3)

文46~50

1 TV・新聞 (5)	
2 大学HP (2)	
3 愛大通信 (6)	・同窓会誌を受け取ることで、自分の履歴を確認でき、心の支えになる
4 会合 (1)	
5 受験雑誌 (0)	
6 同窓生 (2)	
7 同窓会報 (17)	・大学祭や講演会の情報 ・頑張っている人の紹介
8 愛大新聞 (0)	
9 その他 (1)	・主人のOB会
無回答 (6)	・とくになし
複数回答のコメント	・豊橋校舎に新しい学部をつくる動き (1、3、4、7) ・最近の母校の変化、卒業して半世紀以上に、名古屋に大きな校舎ができた、たくさんの卒業生がいる、とても嬉しい (1、7) ・同窓生の生活など (2、7)

文51~54

1 TV・新聞 (4)	
2 大学HP (0)	
3 愛大通信 (6)	
4 会合 (0)	
5 受験雑誌 (0)	
6 同窓生 (0)	
7 同窓会報 (10)	
8 愛大新聞 (0)	
9 その他 (0)	
無回答 (2)	
複数回答のコメント	・大学が具体的にどのような活動、情報発信をしているのか知りたい (3、7) ・分からない (1、3)

[9-34]女子短 愛大情報の入手先 (複数回答) (生活科、昭和50年まで)

生36~41

1 TV・新聞 (0)	
2 大学HP (0)	
3 愛大通信 (3)	
4 会合 (0)	
5 受験雑誌 (0)	
6 同窓生 (0)	
7 同窓会報 (7)	・今のままでよい
8 愛大新聞 (0)	
9 その他 (0)	
無回答 (4)	

生42~45

1 TV・新聞 (6)	
2 大学HP (0)	
3 愛大通信 (3)	
4 会合 (0)	
5 受験雑誌 (0)	
6 同窓生 (0)	
7 同窓会報 (11)	・娘も卒業生、やはり懐かしく変わりゆく姿に関心あり ・時代の先を行く情報を知り、学生に教えて欲しい
8 愛大新聞 (0)	
9 その他 (0)	
無回答 (2)	
複数回答コメント	・大学の発展、同窓生の活躍 (1、7)

生46~50

1 TV・新聞 (7)	・映えある学校にして欲しい
2 大学HP (1)	
3 愛大通信 (10)	・卒業生がどのような方面に進んでいるのかを知りたい ・サークルの活躍
4 会合 (0)	
5 受験雑誌 (0)	
6 同窓生 (2)	
7 同窓会報 (14)	
8 愛大新聞 (0)	
9 その他 (0)	
無回答 (1)	・なし
複数回答の コメント	・色々な分野で活躍をしている人の情報 (1、2、7)
	・どのような所でどのように活動している人がいるのか知りたい (1、3)
	・卒業して50年近くになる、現在も会報などが送られてくることに感謝 (3、7)
	・とくになし (6、7)

[9-34]女子短 愛大情報の入手先 (複数回答) (生活科、昭和 51 年以降)

生50～54

1 TV・新聞 (4)	・一般が受けられる講座
2 大学HP (0)	
3 愛大通信 (5)	
4 会合 (1)	
5 受験雑誌 (0)	
6 同窓生 (1)	
7 同窓会報 (7)	・とくに期待していない
8 愛大新聞 (0)	
9 その他 (0)	
無回答 (1)	
複数回答コメント	・質問が漠然としている (1、3)

[9-35]女子短 母校愛大への関心、後輩に伝えたい事 (文科、昭和 45 年まで)

文36～41

大変 (1)	・歴史が長くなり、伝統もでき、大学のレベルがアップしてきたように思う
多少 (2)	・後輩の活躍
普通 (3)	・折にふれ少額だが寄付してきた
あまり (1)	
無回答 (1)	

文42～45

大変 (6)	・伝統を大切にしてほしい
	・母校がさらに歴史を積み重ねていくこと、学生と話し合えるような機会を
	・卒業して半世紀が過ぎるが、当時の校風が懐かしく思い出される
	・多様化の現代、心を閉ざさず自由に、色々な人や状況を受け入れ生きて欲しい
	・これから人口減少で消えてゆく大学があると思う、愛知大学の存続を希望
多少 (5)	・今も多くの学生が行き来している様子を見て、愛大は母校だと思う
	・近隣諸国の言語を学び、争いのない社会を構築する人を育成する場として
普通 (5)	・卒業生ということで
	・数年前、ある事情から愛知大学卒とはスッキリ公表できない
	・なりたいたいものになれない時代かもしれないが、目標をもって頑張っていて欲しい
あまり (1)	
無回答 (1)	

[9-35]女子短 母校愛大への関心、後輩に伝えたい事 (文科、昭和46年以降)

文46～50

大変 (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・豊橋校舎は樹木もあり大学らしい、現在は学部が少なく活気がなくなり残念、新しい学部をつくり活気をとり戻して欲しい ・とことん学び、友達と遊び、社会に出てきてほしい
多少 (8)	<ul style="list-style-type: none"> ・色々な面で貢献できたら嬉しい、「生きる力」が大事 ・(卒業後)時間が空きすぎて
普通 (10)	<ul style="list-style-type: none"> ・資格があれば一生役立つ、在学中にたくさん資格をとっておけばよかった ・詐欺事件でニュースになりとても恥ずかしい、人としてよく考えて行動しろ
あまり (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・甥が愛大に入学、卒業、長く継続している大学 ・人生のうちのたったの2年、充実した日々が送れるとよい ・70代に入り自分たちの生活と孫の世話で毎日過ごしている、あまり関心ない
無回答 (3)	

文51～54

大変 (0)	
多少 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の大学の変遷、卒業生の社会での活躍、未来に希望を持って前進を ・法学関係の合格者比率が高いこと、文科系大学は理系がある大学より人気がない、文系でも学生が受験したいという魅力のある学部を新設してほしい
普通 (8)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の様子がどうなっているか ・全国的にみて愛知大学はどのくらいの知名度があるのか
あまり (1)	
無回答 (1)	

[9-35]女子短 母校愛大への関心、後輩に伝えたい事 (生活科、昭和45年まで)

生36～41

大変 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの発展
多少 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・世間の常識を知り、警察の世話になることがないようにして欲しい
普通 (7)	
あまり (0)	
無回答 (0)	

生42～45

大変 (1)	
多少 (9)	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館をもっと活用すればよかったと後悔している ・学業だけでなく友人関係を大切に有意義な学生生活を送って欲しい ・これからの大変な時代に自分に負けずに頑張りたい
普通 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ・優秀な学生が増えることを祈る
多少・普通 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が増え大学前に電車が止まるように、私たちはスクールバス (10円) か小池から歩いた
あまり (4)	
無回答 (1)	

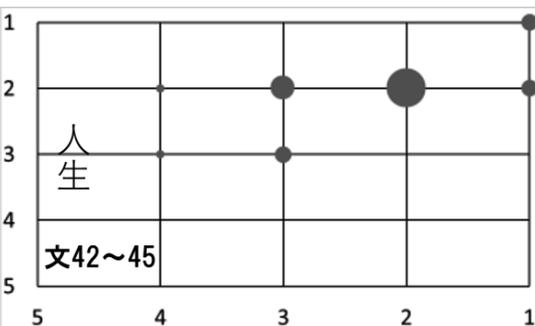
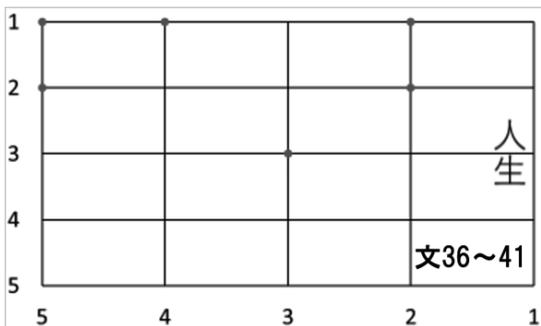
[9-35]女子短 母校愛大への関心、後輩に伝えたい事 (生活科、昭和46年以降)

生46~50

大変 (2)	・オープンカレッジの開設を願っている
多少 (12)	・昭和55年生の長男も愛大社会学科卒、嫌がる息子について久々に愛大訪問 ・豊橋校舎が新しくなり、繁栄することを望む
普通 (8)	・長男が愛知大学を卒業、入学できるように経済面も含め応援した ・楽しい大学生活が送れることが一番 ・よく分からない
あまり (3)	
無回答 (0)	

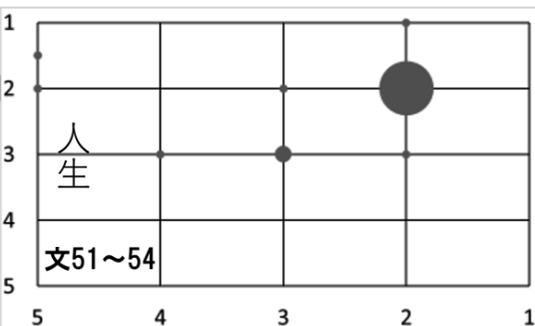
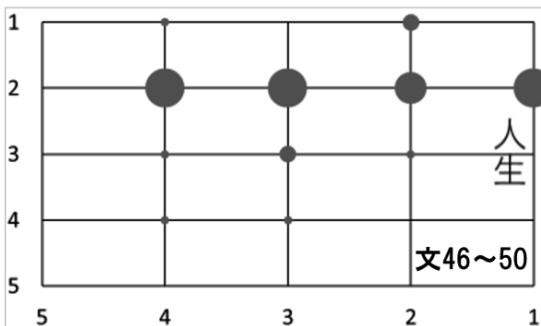
生51~54

大変 (1)	・時代の変化とともに大学がどのように変化していったのか
多少 (5)	・人との出会いは宝、見聞を広めグローバルに活躍することを期待 ・現状
普通 (5)	
あまり (3)	・とくになし
無回答 (0)	

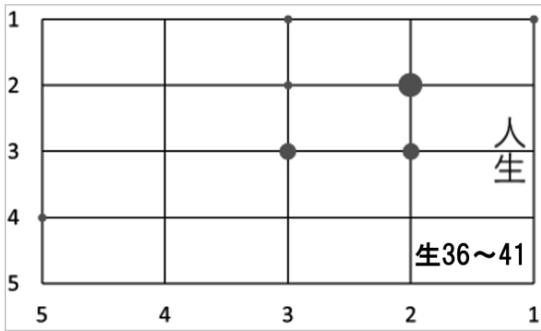


愛大との関係

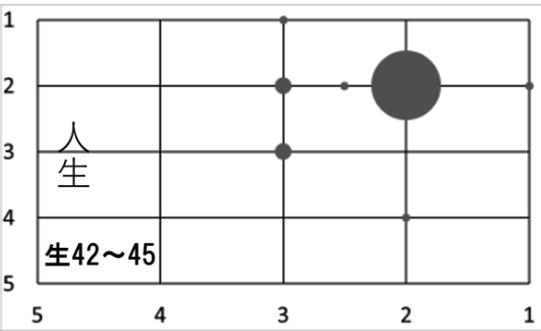
愛大との関係



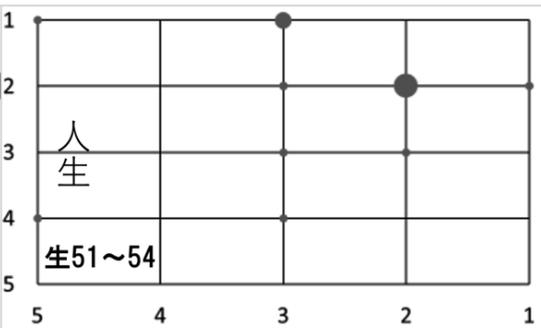
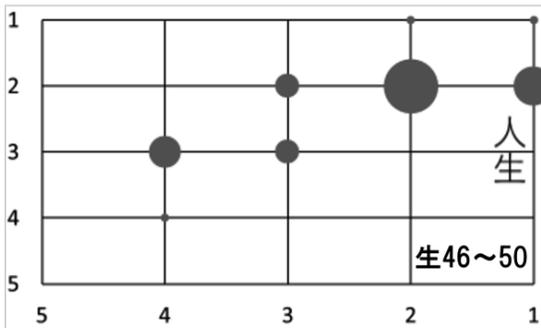
[9-36]人生の満足度と愛大との関係 (文科)



愛大との関係



愛大との関係



[9-36] 人生の満足度と愛大との関係 (生活科)

人生を振り返ると

【1 おおいに満足、2 まずまず満足、3 普通、4 少し不満、5 大変不満】

愛大との関係

【1 おおいに関係、2 多少関係、3 普通、4 あまり関係ない、5 全くない】

【愛知大学卒業生アンケート調査報告特集 (2)

「愛知大学創設期における（夜間）短期大学部二部、（夜間）法経学部二部、
女子短期大学卒業生の在学状況とその後の軌跡】

5. おわりに

愛知大学名誉教授（地理学）、愛知大学東亜同文書院大学記念センター元センター長 藤田 佳久

終章 おわりに

以上、「愛知大学卒業生アンケート調査報告特集 (2)」として、今号では第 2 回目の特集を組んだ。前号、第 1 回目の続きである。前号では、「旧制大学」時代の法経学部と、「新制大学」時代に入ってから法経学部と文学部発足後での昭和 34 年までの卒業生を対象に進め、そのアンケート調査の結果について示し、若干の考察を行った。アンケート調査は、2020 年 3 月の同時期に実施し、第 1 回は新旧の学部単位を中心にその結果を示したが、夜間短大、夜間学部、女子短大については、まとめ時間と紙幅の制約もあって、本号に回せざるをえなかった。アンケート対象は、昼間学部外の夜間短大と夜間学部それぞれの豊橋校舎と名古屋校舎分、そして豊橋の昼間女子短大も加わり多様である。それぞれの開設理由については、本文のそれぞれの関係章で触れたので、繰り返すは避けるが、それぞれに熱いドラマがあったことはおわかりいただけたことと思う。以下はその「むすび」的なまとめを試みる。

1. 勤労学徒に教育の手を差し伸べた愛大創設者たちと卒業生

そのすべては、愛大が、東亜同文書院大学の引揚げにより、外地で学びの場を失った

学生たちに「旧制大学」、次いで「新制大学」として大学の学部教育を開設していくのとはほぼ同時に、終戦直後の焼け野が原の街中に、新しい時代を迎え、新しい文化や教養の学びを求め、帰国してきた元学徒や勤労青年、さらに一般市民の存在を知り、先ずは本校のある豊橋とその一帯、西三河、そして名古屋、遠州で、それにこたえようと開設した「大学の夜間講座」がその始まりであった。

それは正式の学校ではなかったが、大好評で、乾いた大地に水が吸い込まれるように広がり、多くの人々から歓迎され、開催地も拡大し、NHK 浜松放送局からはその講座が定時放送されるほどであった。そのため、これらの講座担当者は新設直後の愛知大学の全教員が担当して、地域とのつながりを深めた。また受講者の希望もあって独自にこの「大学の夜間講座」受講の修了証書を大学側が認定発行するほどにもなった。

名古屋校舎の「夜間講座」についても、すでにこのような経験を持った本間学長の根回しで、小岩井教授とともに愛知県知事の桑原幹根、名鉄社長の土田元夫、中部日本新聞論説委員長清水武夫の有力者たちとの会談が行われ、その強い支持を得て、愛大名古屋事務所と「夜間講座」の発足が打ちだされ

た経緯があった。新天地名古屋での愛大の存在活動と展開が県や財界、メディア界から広く承認支持されることになったのである。

これを契機に愛知県桑原知事が会長になり愛知大学への寄付金募金が立ち上がり、戦災復興中の愛知県下の企業や事業所、県民に募金が呼びかけられ、まさに愛知大学は「知」を「愛」する大学であると同時に、愛知県の大学としても広く認識されることにつながった。

こうした動きがあって、大学は豊橋校舎では次に「(夜間)短期大学部法経科二部」、さらに「(夜間)短期大学部文科」を開設して、勤労学徒たちが学べる短期大学を夜間開設、名古屋校舎にも同じく「(夜間)同法経科」を開設した。その後も本間学長の指導の下、名古屋校舎に夜間学部の「法経学部法学科2部」と「同経済学科2部」を開設した。そしてそれに次いで豊橋校舎にも「法経学部法学科2部と経済学科2部」を開設し4年間の大学教育の機会を広く提供した。これによって元来の4年制昼間学部と夜間学部が両輪のごとく揃うことになった。

いずれにせよ、愛大は昼だけでなく夜間学部を開設し、愛知県全域から遠州、美濃、伊勢にかけての東海地方の主部をカバーした勤労学徒にも広く学べるチャンスを作ったのである。戦後の経済活動がまだ回らない時代に、経済的に恵まれない青年学徒たちに、きちんとした、まともで新しい教養、文化、専門の学びを提供したことは、それを目指した大学側の大変な努力も垣間見え、この時期の愛大がこの地域に与えた影響と刺激は、自前ながら十分に評価に値すると自画自賛してもよいだろう。これが戦後の

この地方を啓蒙し、活性化したともいえるからである。

それは、卒業生の就職面にもすぐ表れた。法学部では、戦後の地方行政の民主化改革もあって、末端の行政担当者までも新しい法律学の素養が要求されるようになった。愛大法学科の卒業生が真っ先にその受け皿として、地元では県、市、町村の公務員になり、2部の卒業生で司法書士になったり、司法試験を受け弁護士の道を選ぶ卒業生も多くを数えた。教員になる卒業生も多かった。一方、経済学科では、まだ経済活動が不十分ではあったが、当時の有名企業、メディア、金融、貿易、交通、商業、教育など、経済学科特有の多分野にわたり、地域経済を広く支えることになった。

このような動きはその後の学部2部への展開の中でも引き継がれた。

2. 地域への思想の近代化と本間学長の貢献、そして卒業生たち

また、愛大の設立趣旨である「世界平和と日本文化の興隆」とそのための「国際人の養成」及び「地域文化への貢献」は、多くの学生たちに共感と勇気を与えたことも伝わってくる。「地域文化への貢献」は、開学直後の東亜同文書院大学からの編入生たちの指導で、「豊橋市民との文化交歓祭」が早くも実践されたが、これがその後の「愛大祭」として継承され、多くの市民が来客し、市民は学生文化を味わうことになった。

そんな当初に、警察官の夜の学内への不法侵入が発端となって生じた「愛大事件」は、マスコミにセンセーショナルに取り上げられ、そのため、せつかく市民との間に生まれた交流の流れを中断し、デマやまだ戦

時中の軍国主義の風潮が残っていた巷に生じた風評を、冷ややかに学生批判に向けさせた。

しかし、愛大の設立を実現し、さらに最高裁事務総長として戦後の最高裁の民主化を進めたあと帰校した本間喜一愛大大学長は、学生が証言する事実認識が警察官の証言よりも正しいと判断して主張し、学生を自分の3等身内の存在として、最後まで責任を持ち弁護した。

本間学長は、戦前の東京帝国大学法学部卒業後、最高裁の裁判官時代の時代(検事、判事)、常に正義とは何かを問い、その研究のために東京商科大学(現在の一橋大学)で再び学究生活に入ったほどで、すでに戦前から女性の権利を弁護、擁護し、被害を受けた漁民たちへの補償も手助けしたほどで、GHQ時代もその姿勢は崩さなかった。

この本間学長の学生弁護の一貫した強い姿勢は、学生たちの共感と支持を呼び、巷の噂や風評の中で、学生たちも、何が正しいかを見極めようとした。そこには学生たちが、戦前までの操られた論理や愛大へ向けられた風評ではなく、事態の道理に何が真実で正義であるかを思考する態度をもたらしたと言えた。今回のアンケートで、愛大生はこの事件をめぐって、その多くが警察の強引な執行を目でも見て、国家権力の乱用だと実感しており、地域に広がったデマや風評とは一線を画した判断をしている。本間学長のこの事件への真実を見極めようとした態度が、学生たちの判断にも影響と自信を与え、アンケートの多くの回答者が本間学長に敬意を表している。こうした本間学長の一貫した学生弁護と愛大指導者への支持、そして愛大生による愛大支持ははっ

きりし、それを通じて生まれた近代化思想の一滴が、戦後の東海地方の中へも広がっていったと言えた。実際、「愛大事件」のあと、警察側のトップも、本間学長はじめ愛大指導者の教授たちの対応に敬意を払い、その後の愛大への協力を惜しまなかった。

なお、今回のアンケートでは触れなかったが、この後、1963年「三八豪雪」となった雪山の登山で発生した山岳部1,2年生、計13人の薬師岳遭難事件では、本間学長は全力での捜索決意を掲げ、「命は地球より重い」と大規模な捜索を展開したことがあった。結局は13人すべての命が大雪の中で失われ、本間学長は、続投を願う関係者の引き留めも振り払って責任を取り、学長を辞任した。しかし、本間学長の捜索活動や名言となった言葉に、捜索中、全国からは捜索費を上回るほどの義援金が集まり、またこういう学長がいる大学へ入学したいと、翌年の愛大志願者は増え、全国区へも広がった。ここでも本間学長の学生への思いが多くの人々の心を打ったといえる。

なお、余った義援金についても、初の大規模な山岳遭難になったことから、富山県と長野県にお世話になったとし、両県に山岳救助隊創設用に寄付し、両県に日本初の山岳救助隊が誕生した。いずれも本間学長の中途半端ではない正義感あふれる対応が、多くの支持を集めたのである。

しかし、この時の本間学長の突然の辞任は、本間学長が折からの大学発展を見通して立案していた、農学部、水産学部、商学部、工学部、医学部、付属高校などの設置計画を夢と化してしまい、山岳遭難事件は愛大のその後の展開の勢いを一時的に止めた面もあった。

3. 地域女子教育の充実へ

もう一つ、愛知大学が果たした役割に、女子教育への展開とその充実化があった。すでに述べたように、愛知大学は、いわゆる旧制大学として誕生し、しそれが新制大学へと編成された経過を持つ。旧制大学は予科3年と学部3年の計6年制であった。1949年の新制からはそれが4年生の学部へと編成された。いずれも学部でほとんどは男子学生で、当初の女子学生はわずかに4人に過ぎなかった。以降も女子学生は少なかった。

一方、学部とは別に夜間講座から発展した夜学2年制の法経科、そして文科は勤労青年のために設けられ、共学ではあったが、女子学生は依然少なかった。学びたい女子学生は遠慮や環境もあってなかなか入学までには至らなかった時代であった。

それが1950年代の半ば過ぎになると、世の中も少し落ち着くようになって、地域から女子教育の要望が次第に高まるようになり、愛大もそれにこたえ、あわせて財政の強化も図ろうとして、愛大に初の女子短大が誕生した。しかし、当時の女子教育は花嫁修業的な時代で、愛大は学部の教員が兼担することから、久曾神昇教授、丸山薫教授など著名教授が担当することになる文科からスタートしたが、需要とはずれがあり、せっかくの女子短大なのに入学者は少なかった。そこで、牧野由朗短大部長は「家政科」ではない「生活科」の名称で増設をはかり、ほかの女子短大の家政科よりも幅の広い領域でカバーし、差別化を図った。

それにより、入学生は増加し、生活科の学生は増え、文科を大きく凌駕し、調理や服飾実習室も設け、他にレクリエーション行事なども組み込まれ、花形時代を迎えた。その

一方、高卒の女性が増えると、花嫁教育的教育から教養的教育を目指す学生もふえ、昭和40年代半ばになるとやがて文科の方に人気が集まるようになった。こうして通称「愛短」は文と生活技術をカバーする女子教育の場へと発展し、学部4年制への進学までは考えないが、優れた女子学生たちが集う学園に発展した。「愛短」は学部と同じキャンパスにあり、クラブ室などは「愛短」の専用室があったが、学部の先生や図書館、学生会館、食堂などの施設は共用でき、ほかの単独の短大とは差別化が進み、「愛短」はこの東海地域でも目立つ存在となっていく。アンケートからも、この時期の女子短大生は、教室や実習室なども整備された中で、学校行事やクラブ活動を通して、充実し、また楽しく学園生活を過ごしていたことが伝わってくる。

それに対応して、就職も優れて有名企業へ採用され、「愛短」入学希望者も遠州から名古屋方面まで広がった。「愛短」の黄金時代は、この後も女生徒の4年制大学指向が本格化していく時期まで全盛期として続くことになった。そして「愛短」は、次の時期にはそれに対応すべく再編成して対応することになっていく。

あとがき

以上、2020年3月に実施したアンケート調査の内、学部以外の夜学短大、学部2部、女子短大の部分を年報の第2回分としてまとめた。夜間法経2部と女子短大については、次年の2021年のアンケートで昭和54

年まで追加的に実施したので、その分も含めてまとめた。そのため、アンケートの終了時が第1回の昭和34年までにはそろっていないパートもある。ご理解いただきたい。

卒業生はすでに高齢化の渦中にあり、亡くなったり、住所不明の方々も多く、回答者は十分多いというわけではなかったが、過去の記憶もたどりながらご協力いただいたことを心より感謝申し上げたい。この調査は今後ももうしばらく続いていくはずである。

今回、アンケートのご回答をいただいた方々の中には、学生時代の教科書やノート、卒論の下書き、研究書、ゼミの記録、アルバム、レコード、写真、新聞、参考書、関連記録など、貴重な資料をお送りいただいたケースも多々ある。詩人で有名な丸山薫教授についても手紙など生資料をご恵贈いただき、展示に厚みができそうである。それにより、過去の生き証人として今後の研究や展示に活用できる価値ある資料としての活用も検討したい。

さらに、生き証人として、現在もご健在の何人もの卒業生が当記念センターへご来訪いただき、貴重な経験のお話をいただいた。そのうちのおひとり、前豊田市長を務められた鈴木公平氏には、そのお話を『大学通信』(本年3月刊)にも掲載いただき、そのままこの年報にもご転載させていただいた。改めてお礼申し上げます。また、中嶋静夫氏には、夜間短大以降の人生史について語っていただき、それをダイジェストとしてご紹介させていただいた。今後も当記念センターの見学を兼ねて、皆様にはご来訪いただけたらと願っている。

なお、今回のアンケート整理とまとめに

ついては、女子短大部分を本学非常勤講師の高木秀和氏に御担当願った。氏は現在、女子短大の非常勤講師も担当しており、お願いした。沢山の回答が寄せられたため、整理に追われたようだが、とりあえずまとめていただいた。次年度以降も特論も含め継続してもらつつもりである。

また、第2報告は当センターの佐原陽子氏にもお手伝いいただいた。佐原氏には回答アンケートの整理に力を注いでいただき、分析、まとめの流れをスムーズにさせていただいたほか、表作成の清書、図の作成をいただき、有能な力を発揮していただいた。表や図が見やすいのは同氏のおかげである。厚くお礼申し上げます。そして、編集段階では同じく、当センターの伊藤綾子氏にもご協力いただいた。

最後に、アンケートの発送などの業務は、多量で多種の発送であったが、岡崎製販会社にお世話になったことを付記し、お礼申し上げます。

また、この報告書の印刷は、豊橋印刷社にお世話になった。いつものことであるが、担当の鈴木氏にはこの原稿入稿などで大変お世話になった。重ねてお礼申し上げます。

(以上)

〈参考文献〉

- ・愛知大学50年史編纂委員会(2000)『愛知大学50年史—一通史編』、愛知大学刊。
- ・愛知大学50年史編纂委員会(1997)『愛知大学50年史—資料編』、愛知大学刊。
- ・愛知大学20年史編纂委員会(1972)『愛知大学—20年の歩み—』、愛知大学刊。

- ・愛知大学10年史編纂委員会(1956)『愛知大学—10年の歩み—』、愛知大学刊。
- ・愛知大学同窓会創立55周年記念誌(2007)『学生たちの証言で綴る創世記の愛知大学—愛知大学同窓会創立55周年記念誌—』、愛知大学同窓会会長安井善宏刊。
- ・平成14年度愛知大学同窓会全国総会実行委員会(2004)『愛知大学小角同窓会50年の歩み』、同実行委員会刊。
- ・愛知大学東亜同文書院大学記念センター(2007)『愛知大学史研究』、創刊号同センター刊。なお同(2008)『愛知大学史研究』、第2号。同センター刊。
- ・和木康光(2012)『知を愛し人を育み—愛知大学物語—』、中部経済新聞社。
- ・愛知大学小史編纂委員会(2006)『愛知大学小史』、梓出版社。
- ・牧野由朗ほか「牧野由朗氏に聞く—短大(女子)創設のころ—」、牧野由朗(2002)『社会学と私の五〇年』所収、スクリーンプレイ刊。
- ・愛知大学山岳部薬師岳遭難誌編集委員会編(1968)『薬師』、愛知大学刊。
- ・藤田佳久(2012)『日中に懸ける—東亜同文書院の群像—』、中日新聞社。